2026年度
ダイバーシティ科目
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧 ［発行日：2026/5/1］最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

凡例　その他属性

〈他〉：他学部公開科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目
〈S〉：サティフィケートプログラム_SDGs
〈ダ〉：サティフィケートプログラム_ダイバーシティ
〈カ〉：サティフィケートプログラム_カーボンニュートラル
〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈ア〉：サティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈未〉：サティフィケートプログラム_未来教室

【A0010】国際社会と憲法Ⅱ［國分　典子］秋学期授業/Fall …… 1
【A0019】生命倫理と人権Ⅰ［鵜澤　和彦］春学期授業/Spring …… 2
【A0020】生命倫理と人権Ⅱ［洪　賢秀］秋学期授業/Fall …… 4
【A0101】教育法Ⅱ［村元　宏行］秋学期授業/Fall …… 5
【A0249】ジェンダー論Ⅰ［浅野　幸子］秋学期授業/Fall …… 6
【A0250】ジェンダー論Ⅱ［佐藤　信］秋学期授業/Fall …… 8
【A0275】福祉政策Ⅰ［荒木　千晴］春学期授業/Spring …… 9
【A0645】国際協力講座［木内　真理子］秋学期授業/Fall …… 11
【A0717】国際協力論Ⅰ［志賀　裕朗］春学期授業/Spring …… 12
【A0718】国際協力論Ⅱ［志賀　裕朗］秋学期授業/Fall …… 14
【A2981】比較文化論（1）［小島　尚人］秋学期授業/Fall …… 16
資格関係科目【A3810】民俗学Ⅱ［室井　康成］秋学期授業/Fall …… 17
【A3810】民俗学Ⅱ［室井　康成］秋学期授業/Fall …… 18
【A3811】イスラム世界論Ⅰ［松本　隆志］春学期授業/Spring …… 19
【A3812】イスラム世界論Ⅱ［松本　隆志］秋学期授業/Fall …… 20
【A6226】Race, Class and Gender I: Concepts &Issues［Daiki Hiramori］秋学期授業/Fall …… 21
【A6325】Race, Class and Gender II: Global Inequalities［Daiki Hiramori］春学期授業/Spring …… 22
【A6600】（GO用）Race, Class and Gender I: Concepts &Issues［Daiki Hiramori］秋学期授業/Fall …… 23
【A6601】（GO用）Race, Class and Gender II: Global Inequalities［Daiki Hiramori］春学期授業/Spring … 24
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2728】インクルーシブデザイン［安積　伸、三浦　秀彦］秋学期前半/Fall(1st half) …… 25
【B3844】インクルーシブデザイン［安積　伸、三浦　秀彦］秋学期前半/Fall(1st half) …… 26
【C0222】社会と美術［平野　真弓］春学期授業/Spring …… 27
【C0233】ジェンダー論［佐々木　一惠］春学期授業/Spring …… 30
【C0235】国際関係学概論Ⅰ［今泉　裕美子］春学期授業/Spring …… 32
【C0236】国際関係学概論Ⅱ［今泉　裕美子］秋学期授業/Fall …… 34
【C0242】国際文化協力［松本　悟］春学期授業/Spring …… 36
【C0244】宗教と社会［佐々木　一惠］春学期授業/Spring …… 37
【C0245】Religion and Society［佐々木　一惠］春学期授業/Spring …… 39
【C0625】フランス語アプリケーション［ル　ルー　清野　ブレンダン］春学期授業/Spring …… 40
【C0626】フランス語アプリケーション［ル　ルー　清野　ブレンダン］秋学期授業/Fall …… 41
【C0627】フランス語アプリケーション［カレンス　フィリップ］春学期授業/Spring …… 42
【C0833】ソーシャル・プラクティス［稲垣　立男］秋学期授業/Fall …… 43
【C0854】現代美術論［平野　真弓］秋学期授業/Fall …… 45
【C0861】フィールドワークと表現［稲垣　立男］春学期授業/Spring …… 48
【C0947】北米文化論（ケベック講座）［廣松　勲］秋学期授業/Fall …… 49
【C0948】フランス語圏の文化Ⅲ（歴史）［ル　ルー　清野　ブレンダン］秋学期授業/Fall …… 50
【C0952】カタルーニャの文化Ⅲ（歴史・社会A）［PLAZA BALAGUE Marta］春学期授業/Spring …… 52
【C0999】フランス語圏の文化Ⅳ（複言語・複文化社会）［廣松　勲］春学期授業/Spring …… 54
【C1031】宗教社会論Ⅱ［佐々木　一惠］秋学期授業/Fall …… 55
【C1032】宗教社会論Ⅲ（イスラーム思想）［久木　正雄］春学期授業/Spring …… 57
【C1044】人の移動と国際関係Ⅱ［髙柳　俊男］秋学期授業/Fall …… 58
【C1046】地域協力・統合［大中　一彌］秋学期授業/Fall …… 59
【C1053】The Global South: History and Politics［佐々木　一惠］秋学期授業/Fall …… 61

【C2120】 途上国経済論Ⅰ ［武貞　稔彦］ 春学期授業/Spring 63
【C2121】 途上国経済論Ⅱ ［武貞　稔彦］ 秋学期授業/Fall 65
【C2200】 現代社会論Ⅰ ［佐伯　英子］ 秋学期授業/Fall 67
【C2201】 現代社会論Ⅱ ［島袋　海理］ 春学期授業/Spring 68
【C2403】 自然環境論Ⅰ ［杉戸　信彦］ 春学期授業/Spring 70
【C2433】 自然環境論Ⅳ ［高田　雅之］ 秋学期授業/Fall 71
【C2559】 現代思想と人間Ⅰ ［竹本　研史］ 春学期授業/Spring 72
【C2560】 現代思想と人間Ⅱ ［竹本　研史］ 秋学期授業/Fall 74
展開科目／Disciplinary &Elective Courses_日本社会とサステイナビリティ／Japan &Sustainability【C3509】 Social Development and Sustainability 2 ［王　川菲］ 春学期授業/Spring 75
展開科目／Disciplinary &Elective Courses_環境総合科目／Environment &Society【C3605】 Global Society 1 ［伊藤　弘太郎］ 秋学期授業/Fall 77
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C5110】 産業・組織心理学Ⅱ ［今城　志保］ 秋学期授業/Fall 79
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C5111】 キャリア開発論［髙崎　美佐］ 秋学期授業/Fall 80
関連科目【C5298】 就業機会とキャリア特講E-働くことと労働組合- ［上西　充子、梅崎　修］ 秋学期授業/Fall . 82
【E1809】 Intercultural Communication D［石原　紀子］ 春学期授業/Spring 84
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群（英語分野）【E1809】 Intercultural Communication D［石原　紀子］ 春学期授業/Spring 86
基礎科目／Liberal Arts Courses_言語教育分野／Language Education_リベラルアーツ科目／Upper Division Liberal Arts Courses【E1809】 Intercultural Communication D［石原　紀子］ 春学期授業/Spring 88
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_4 群（諸外国語分野）【E3603】 Intercultural Communication F ［ル　ルー　清野　ブレンダン］ 春学期授業/Spring 90
【E3603】 Intercultural Communication F ［ル　ルー　清野　ブレンダン］ 春学期授業/Spring 92
【N1116】 国際協力論［佐野　竜平］ 春学期授業/Spring 94
【N1117】 Community Based Inclusive Development ［佐野　竜平］ 秋学期授業/Fall 95
【N1172】 Disability and Development in Asia ［佐野　竜平］ 春学期授業/Spring 96
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6129】 教養ゼミⅠ ［神谷　丹路］ 春学期授業/Spring 97
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6130】 教養ゼミⅡ ［神谷　丹路］ 秋学期授業/Fall 98
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6131】 クィア・スタディーズA ［ＬＥＴＩＺＩＡ　ＧＵＡＲＩＮＩ］ 春学期授業/Spring 99
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6138】 異文化コミュニケーション論B ［鈴木　麻由］ 秋学期授業/Fall 101
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6431】 比較文化A ［D.　ハイデンライヒ］ 春学期授業/Spring 103
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6605】 教養ゼミⅠ ［大中　一彌］ サマーセッション/Summer Session 104
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6606】 教養ゼミⅡ ［大中　一彌］ オータムセッション/Autumn Session 106
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6607】 教養ゼミⅠ ［ル　ルー　清野　ブレンダン］ 春学期授業/Spring 108
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6608】 教養ゼミⅡ ［ル　ルー　清野　ブレンダン］ 秋学期授業/Fall 110
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択］外国語（英語・諸外国語）【R5279】 時事フランス語Ⅰ ［大中　一彌］ 春学期授業/Spring 112
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群［選択］外国語（英語・諸外国語）【R5280】 時事フランス語Ⅱ ［大中　一彌］ 秋学期授業/Fall 115

LAW300AB（法学 / law 300）

国際社会と憲法 II

國分　典子

授業形式：講義　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近代立憲主義は西洋の産物です。アジア諸国はそれを受容しつつ、自らの法文化と融合させて独自の憲法を発展させてきました。本講義は、東アジアの立憲主義が歴史的にどのように形成されたか、また国際社会のなかで東アジア地域の憲法がどのような特徴をもつものと考えられるかを比較法的視点をもって分析、理解するとともに近代立憲主義の意味をアジアの視点から考え直すことを目標とします。なお、この講義は、「行政・公共政策と法コース」および「国際社会と法コース」に属するものです。

【到達目標】
日本の近隣地域である韓国、台湾、中国の憲法を学ぶことによって、それぞれの政治体制の特徴を把握するとともに、それがこの地域の抱える特有の法的および政治的問題とどのように関係しているかを理解することができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
歴史的背景を踏まえつつ、東アジア地域の今日の憲法状況を概観します。近代化や今日のアジア地域の変化に触れると同時に、東アジア地域で日本の憲法がどのような位置づけを有すると考えられるかも考察します。
受講者数によりますが、時々、出席を兼ねて感想やわからなかった点等についての簡単なコメントを書いてもらい、わからなかった点に関しては、次の授業の際にお答えるようにしたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の概要、教科書、成績の基準等について説明する。
第2回	東アジアの近代国家形成と法	日本を含めた東アジア地域の近代化のなかでの立憲主義の発展について考える。
第3回	韓国の近現代史と憲法	日韓関係をも視野に入れつつ、韓国の憲法史を概観する。
第4回	韓国の憲法の特徴	韓国憲法の特徴と特殊性を検討する。
第5回	韓国の統治機構	韓国の統治機構を概観する。
第6回	韓国の司法と憲法裁判	韓国の法院と憲法裁判所の機能を概観する。
第7回	韓国の違憲審査制	韓国の違憲審査システムの特徴と問題点を考察する。
第8回	台湾の歴史と憲法	台湾の憲法の歴史的背景を概観する。
第9回	台湾の憲法状況	台湾の憲法の特徴と特殊性を概観する。
第10回	台湾の統治機構	台湾の統治機構を概観する。
第11回	中国憲法の形成過程	中華人民共和国の形成過程から中国憲法の特徴を考える。
第12回	中国憲法の特徴	中国憲法前文に見られる特徴を検討する。
第13回	中国の統治機構と人権	統治と人権の観点から中国憲法を概観する。
第14回	東アジアにおける日本・日本法	戦後補償問題等を素材に東アジア地域における日本・日本法の位置づけを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から東アジア諸国の政治・社会状況について関心をもつようにします。また日本の憲法についての基礎知識についても復習しつつ授業に参加するようにします。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中国や韓国の憲法条文を参照するために：
初宿正典・辻村みよ子編『新解説　世界憲法集』第５版三省堂2020年などの憲法集を各自用意してください（図書館等で本講義で扱う国の憲法をコピーするのでも結構です）。韓国と台湾の憲法は、ネット上でも見ることができるので、これについては授業の初日に説明します。中国憲法の2018年改正後の最新版の翻訳が出ているのは、おそらく前記の三省堂の憲法集のみではないかと思われます。

【参考書】
尹龍澤ほか編『コリアの法と社会』（日本評論社、2020年）、鮎京正訓編『アジア法ガイドブック』（名古屋大学出版会、2009年）、稲正樹・孝忠延夫・國分典子編『アジアの憲法入門』（日本評論社、2010年）、等。

【成績評価の方法と基準】
時々出してもらうリアクションペーパーをもって平常点とし、平常点30％と学期末の筆記試験70％によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
参加者の問題関心を汲み取って説明する必要があると感じています。

【Outline (in English)】
〈Course Outline〉
This course will focus on the constitutional problems of East Asian country from the comparative point of view.
〈Learning Objectives〉
By studying the constitutions of Korea, Taiwan and China, students are expected to understand the characteristics of each political system and how they relate to the specific legal and political issues facing the region.
〈Learning activities outside of classroom〉
Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
〈Grading Criteria〉
Final grade will be calculated according to the following process: comment papers (30%) and term-end examination (70%).

LAW200AB（法学 / law 200）

生命倫理と人権Ⅰ

鵜澤　和彦

授業形式：講義　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生命倫理は、20世紀中葉の非人道的な人体実験を背景にして、今日の形態へと発展してきました。本授業は、このような歴史的な人権問題を考慮しながら、生命倫理の四原則（自律尊重、仁恵、無危害、正義）、三種類の同意概念（インフォームド・コンセント、インフォームド・アセント、代理同意）そして、関連する法規定（法律、ガイドライン、宣言）を学びます。その際、授業内容に関連する医療ドラマを視聴しながら、生命倫理の諸概念や人権問題の理解を深めていきます。なお、本科目は「文化・社会と法コース」にあげられている法的教養を深めるのに適した科目です。また「行政・公共政策と法」の各コースにも配置されています。

【到達目標】
①生命倫理と人権思想の連関を把握し、日常生活の出来事から倫理的及び法律的問題を見つけることができる。
②具体的な事例に基づいて、生命倫理の土台を成す四原則（自律尊重、仁恵、無危害、正義）を把握することができる。
③インフォームド・コンセント、インフォームド・アセント、代理同意という三種類の同意概念、そして、それらに関連する法規定（法律、ガイドライン、宣言）を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業は、対面の形式で行われます。学習支援システム webclass を通じて、パワーポイント原稿、解説動画、授業資料、課題を提供します。課題は主に医療ドラマから出され、受講生はこの視聴覚教材を視聴し、課題に答えてください。課題の提出並びに教員からのフィードバックは、webclass を通じて行います。出席、質問、感想は、Google Form を通じて提出してもらいます。質問は次回の授業時にお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	教員の自己紹介、到達目標、授業内容、授業の進め方について説明します。また、スピッツの「ホスピタリズム」研究から人間の生命について考えます。
第2回	生命倫理と人権思想の歴史的考察①	生命倫理の成立史（ニュルンベルク綱領、ヘルシンキ宣言、ベルモントレポート）を解説します。
第3回	生命倫理と人権思想の歴史的考察②	ロバート・J・リフトンによるナチズムの研究から、生命倫理と人権、とくに差別、抑圧、暴力の問題について考えます。
第4回	終末期医療と患者の人権①	死の概念、患者の自己決定権、インフォームド・コンセント（IC）、パターナリズム、いのちの「終わり」の選択（①セデーション、②自然死、③安楽死、④延命治療）を解説し、それぞれの問題点とそれに関するモラル・ジレンマを明らかにします。
第5回	終末期医療と患者の人権②	がん告知に関する法整備、がん告知についての統計、がん告知の問題、終末期患者への対応、死の受容に関する五段階説（エリザベス・キューブラーロス）、医療資源の配分などの問題を考えていきます。
第6回	終末期医療と患者の人権③	第4回と第5回の授業及び課題をふまえて、そのテーマに関してグループディスカッションと全体発表を行います。
第7回	小児医療と子供の人権①	ホスピタリズムと幼児の能力（ヤヌシュ・コルチャック、内藤寿七郎）、幼児の精神的な病気（スピッツ）、インフォームド・アセント（IA）の概念、親の許諾、患児の賛同、IA の適用例、日本における ＩAの実施率について考察します。
第8回	小児医療と子供の人権②	拒食症と宗教的理由から輸血を拒否する事例を取り上げ、パターナリズムと治療の拒否権について考えます。
第9回	小児医療と子供の人権③	第7回と第8回の授業及び課題をふまえて、そのテーマに関してグループディスカッションと全体発表を行います。
第10回	コンピテンスと患者の人権①	判断能力のない患者（生まれながらに判断能力を持ちえない患者と事故や病気で判断能力を失った患者）、リビング・ウィル、成年後見、代理同意とその基準（最高利益と代理判断）及び問題点、臓器移植法改正、家族の範囲について考察します。
第11回	コンピテンスと患者の人権②	自律、コンピテンス、人権との関係、及びコンピテンスの臨床基準について説明します。
第12回	コンピテンスと患者の人権③	第11回と第12回の授業及び課題をふまえて、そのテーマに関してグループディスカッションと全体発表を行います。
第13回	生命倫理の四原則と人権	自律尊重、仁恵、無危害、正義の諸原則を整理し、それらの原則と人権思想との関連をまとめます。
第14回	生命倫理における同意概念と人権	人権との関連でインフォームド・コンセント、インフォームド・アセント、代理同意の概念をまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：受講生は授業に関連する教科書の該当箇所を読んでおいてください。また、参考書を使って、専門用語の意味等を理解してください（2 時間）。復習：授業時に配布された資料（講義原稿と参考資料）を読み直してください。そして、授業支援システムを使って、各授業後に出される課題に答えてください。さらに、ディスカッションでの他の受講生の意見を参考にしながら、そのテーマに関する自分の考えをまとめてください（3時間）。

【テキスト（教科書）】
塚田敬義・前田和彦編『生命倫理・医事法 第3版』医療科学社、2023年、3,300円、ISBN-978-4-86003-133-6

【参考書】
①樋口範雄・土屋裕子（編集）『生命倫理と法』、弘文堂、3520 円、ISBN-10:433535343X
②小林亜津子著『はじめて学ぶ生命倫理』、ちくまプリマー新書、780 円、ISBN-10:4480688684
③トム・L・ビーチャム他著『生命医学倫理』、成文堂、7,560 円、ISBN-10:4792360641

【成績評価の方法と基準】
試験方法：定期試験、実施時期：定期試験期間。各課題50%、筆記試験50%の総合評価。筆記試験と毎回の課題は、到達目標に挙げられた以下の基準に従って評価されます。①自分の経験や見聞した知見による例証が、適切に行われているかどうか（40％）。②四原則の内容が、適切に理解され、説明されているかどうか（30％）。③三種類の合意概念が、正しく把握されて、使用されているかどうか（30％）。なお、グループディスカッションで司会（及び「まとめ」の執筆）を担当した受講生には、授業評価点として5点が追加されます。

【学生の意見等からの気づき】
教科書以外の学習教材は、すべて学習支援システム webclass にアップロードされていますので、病気などで欠席した方は、これを活用して各自習してください。

【学生が準備すべき機器他】
授業時そして予習や復習の際にも、学習支援システム webclass を利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【その他の重要事項】
JR 東京総合病院治験及び研究倫理審査委員会委員、NPO 法人ホームケアエクスパーツ協会, 日本生殖医療看護学会（第13回実践セミナー）, 文部省SSH事業。医療や介護の現場の声を生かしながら、現代の医療・介護問題の本質を明らかにし、生命倫理に即した解決策を考えます。

【Outline (in English)】
This course examines the evolution of bioethics from mid-20th-century human experimentation to its modern form, with a focus on human rights issues. Students will explore the four principles of bioethics — respect for autonomy, beneficence, nonmaleficence, and justice — as well as the three types of consent: informed consent, informed assent, and proxy consent. The course also covers relevant legal frameworks, including laws, guidelines, and declarations. To deepen their understanding of ethical dilemmas, students will watch medical dramas related to the course content.

This course is part of the "Culture, Society and Law" and "Administration, Public Policy and Law" tracks. Students are expected to read the assigned textbook sections and reference materials before each class to familiarize themselves with key concepts. After class, they should review the lecture notes and complete assignments using the class support system. Additionally, students are encouraged to summarize their thoughts on the topics discussed, incorporating insights from peer discussions.
Assessment will be based on assignments (50%) and a written exam (50%). Grading criteria include the ability to provide relevant examples (40%), a clear understanding of the four bioethical principles (30%), and the correct application of consent concepts (30%). Students who moderate group discussions and submit a summary will receive an additional five points toward their final grade.

LAW200AB（法学 / law 200）

生命倫理と人権 II

洪　賢秀

授業形式：講義　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生命科学技術の進展により、私たちは、「いのちにどこまで人為的な介入を許すべきか」という難題に直面しています。本授業では、生命倫理をめぐる諸課題について社会的・文化的背景を踏まえながら、各社会が新たに登場した生命科学技術をどのように受容し対応しているのかについて、人権及び法的視点からアプローチしていきます。法律学科のコース制との関係では、「裁判と法」「行政・公共政策と法」及び「文化・社会と法」の各コースに属する科目です。

【到達目標】
本授業では、生殖医療技術、遺伝子関連技術、再生医療、移植医療、終末期医療などについて、各社会がとのような規制をもち、どのような議論をしているのか、具体的な事例を検討し、生命倫理に関する基本的情報を習得します。また、他の人との意見交換をとおして、生命倫理に関する多様な立場や価値観への理解を示すとともに、自分の考えを深めていくことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業内容の理解度を確認し、テーマにおける自分の考えを整理していただくために、ミニレポートを課し提出してもらいます。 提出されたミニレポートに対して、個人への回答やコメントが必要な場合には、個別に回答・コメントをお送りします。また、全体として共有したほうがよいと思われる内容については、次の講義の際に、おさらいと補足をいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	生命倫理とは何か	人間の欲望と歴史的教訓としての倫理
第2回	生殖医療技術と倫理	生殖医療と諸課題
第3回	遺伝子関連技術と倫理①	遺伝情報と差別
第4回	遺伝子関連技術と倫理②	ゲノム研究とゲノム医療
第5回	遺伝子関連技術と倫理③	ゲノム編集と遺伝子関連検査
第6回	再生医療と倫理①	クローン技術
第7回	再生医療と倫理②	人体組織と再生医療
第8回	エンハンスメントと倫理	エンハンスメントの問題と背景
第9回	移植医療をめぐる倫理①	脳死と臓器移植
第10回	移植医療をめぐる倫理②	いのちの贈物の光と影
第11回	移植医療をめぐる倫理③	移植ツーリズムにおける諸課題
第12回	死をめぐる倫理①	終末期医療
第13回	死をめぐる倫理②	安楽死
第14回	死をめぐる倫理③	死体の研究利用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業において適宜指示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
準備学習としては、授業内容と関連するテーマについてテキストや参考文献を読んで、授業に臨んでください。毎回のミニレポートの作成は、授業内容の論点整理や理解を確認するための復習の時間となります。

【テキスト（教科書）】
神里 彩子・武藤 香織 編『医学・生命科学の研究倫理ハンドブック』第２版（東京大学出版会、2023年、税込2,640円
櫛島次郎著、『先端医療と向き合う: 生老病死をめぐる問いかけ』（平凡社新書、2020年、税込880円）

【参考書】
『ジュリスト増刊　ケース・スタディ　生命倫理と法』、松原洋子・伊吹友秀『生命倫理のレポート・論文を書く』（東京大学出版会）、櫛島次郎『先端医療と向き合う：生老病死をめぐる問いかけ』（平凡社新書）
その他、授業において毎回レジュメや資料を配布し、参考文献は随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
評価の配分は、期末レポート50%と、ミニレポートの課題50%とし、総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】
毎回、提出してもらうミニレポートなどから得られた学生さんからのご質問やご意見について必要に応じてクラス全体で共有し、受講者とのコミュニケーションが活性化できるようにしていきます。

【Outline (in English)】
Advances in the life sciences and technologies are forcing us to confront the difficult question of “How much artificial intervention into life should be permitted?” In this class, drawing on the social and cultural background of a variety of issues surrounding bioethics, we adopt a legal and human rights perspective as we approach the question of how each society accepts and responds to newly emerging life sciences and technologies. With reference to the law school’s course system, this class is affiliated with the following courses: “Courts and the Law,” “Administrative and Public Policy and the Law,” and “Culture, Society, and Law.”
【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Instructions will be given in class as appropriate. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
As for preparatory study, please read the textbook and references on the topics related to the class contents before coming to class. The preparation of mini-reports for each class will serve as review time to organize the issues and confirm your understanding of the class content.
【Grading criteria】
Evaluation will be allocated as follows: 50% for the final report and 50% for the mini-report assignment.

LAW200AB（法学 / law 200）

教育法 II

村元　宏行

授業形式：講義　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育法は、「裁判と法コース」「企業・経営と法コース（労働法中心）」「行政・公共政策と法コース」「国際社会と法コース」および「文化・社会と法コース」に位置付けられています。教育法は、憲法26条に規定された「教育人権」を保障するための法体系のあり方について考究することを目的とする現代法学の一領域です。よって、行政による積極的施策が求められる一方で、行政による教育内容統制が教育人権侵害をもたらす危険性も指摘されています。
伝統的に教育法では、国家による教育内容統制から、いかに国民の教育の自由を守るのかといった問題が重点的に研究されてきました。近年ではこのような伝統的な教育法学説に加え、いじめ、体罰やその他の学校災害対策の究明なども求められています。
そのような状況を踏まえて、教育法IIでは、子どもの人権保障の動向と、学校教育における子どもの人権、そして近年の教育政策の動向について取りあげることとします。

【到達目標】
子どもの人権保障の国際的動向や国内の課題について理解を深める。学校内部での子どもの人権保障について、人権侵害事件を具体的に学んで理解を深める。
近年の教育政策の動向と課題について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業はレジュメに沿って講義形式で行います。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取りいれていきます。
この授業は対面を基本とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	子どもの人権保障の国際的動向	子どもの権利条約に至るまでの国際的動向について
第2回	子どもの権利条約の理念	子どもの権利条約の基本原理について
第3回	国内における子どもの権利保障の動向	子どもの権利条約を踏まえた国内での子どもの権利保障について
第4回	学校における子どもの人権：校則（沿革、学説）	校則をめぐる法的論点について、沿革、学説などを通じて考察する
第5回	学校における子どもの人権：校則（判例）	校則をめぐる法的論点について、判例・裁判例などを通じて考察する
第6回	学校における子どもの人権：体罰（沿革、学説）	体罰をめぐる法的論点について、沿革、学説などを通じて考察する
第7回	学校における子どもの人権：体罰（判例）	体罰をめぐる法的論点について、判例・裁判例などを通じて考察する
第8回	学校における子どもの人権：いじめ（沿革、学説）	いじめをめぐる法的論点について、沿革、学説などを通じて考察する
第9回	学校における子どもの人権：いじめ（判例）	いじめをめぐる法的論点について、判例・裁判例などを通じて考察する
第10回	学校における子どもの人権：その他学校災害	その他の学校事故、学校災害の救済法制について
第11回	最近の教育政策の動向（教育政策の形成過程）	教育政策の形成過程と問題点について
第12回	最近の教育政策の動向（最近の教育政策）	最近の教育政策の特色と課題について
第13回	教育改革と学校参加（現状）	子ども・親・住民の学校参加についての現状
第14回	教育改革と学校参加（今後の課題）、まとめと試験	子ども・親・住民の学校参加についての今後の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストや関連文献による予習と復習のほか、授業で取り上げる事柄について新聞や専門誌で最新動向をつかんでおくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ハンディ教育六法　2026年版』北樹出版、2026年

【参考書】
予習・復習用として推奨するテキスト：姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法　新訂版』（三省堂、2015年）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（50％）
・設題に対して、授業内容を踏まえたうえで論理的な解答ができているか評価します。
授業内小レポート（リアクションペーパー）（50％）
・毎回の授業内容を踏まえたうえでの記述になっているかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすい板書と資料の映示を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
レジュメ配布は原則として学習支援システムを用います。

【その他の重要事項】
その他履修にあたっての注意事項は開講時に説明するので、初回の授業には出席してください。出席できない場合は、友人などに内容を確認できるようにしておいてください。

【Outline (in English)】
Course outline
The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the education law and student rights.
Learning Objectives
The goals of this course are to understand the basic principle that supports the education law and student rights.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%、Short reports : 50%

POL200AC（政治学 / Politics 200）

ジェンダー論 I

浅野　幸子

授業形式：講義　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、政治学科科目の中で現代政治科目群に属する科目で、ジェンダーの視点から政治・政策を考察することを目的としています。ジェンダーは、現代社会を読み解くうえで、極めて有効な概念です。今日では、社会科学や人文科学における鍵概念の一つになっています。ジェンダーの概念とは何か？ 一言でいえば、権威化され、硬直化した既成の観念を批判し、新鮮かつ柔軟な見方を提示するための「ものの見方」であり、「考え方」と言うことができます。ジェンダーの概念は、これまで主流派政治学が見過ごしてきた社会の周縁や見捨てられた人びと、あるいは生活世界の問題に光を当て、停滞した既存の学問や固定化し融通性を失った通説への挑戦だといっても過言ではありません。本講義は、このような政治学における新しい領域としてのジェンダーの視点に光を当てます。このジェンダー論 I では、ジェンダーとはどのような考え方なのか、その意味や意義、アプローチなどを学びます。いわばジェンダー論の基礎編になります。

【到達目標】
授業では、この「ジェンダー」を、現代社会を読み解く分析概念として位置づけ、政治や政策を、従来からの固定的な見方とは異なる形で再考することを目指します。すなわち、既存の理論や考え方、あるいは通説を批判的に検討し、それらとは異なった、そして意外性のある見方や考え方を学びます。そして、それがそれがどのような政策につながっているのかを理解してほしいと考えます。このような学びを通して、学生にはこれまでの概念を批判的に問い直し、自分自身の解答に到達する能力を身につけることを目指します。政治や政策は机上の理論ではなく、私たちの政策に密接にかかわっています。だからこそ参画して変えていくことが可能になるのです。そのために、ものごとの本質を見抜く、能力を磨くことを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
ジェンダーの視点から政治、政策の中心的な課題を問い直します。
(1)ジェンダー概念
本講義では、政治、政策の課題をジェンダーの視点から検討し、どのような変化がみられるのか、その要因はどのような政治的、社会的な事象と関わっているのかを理解します。
この作業の前提として、講義ではまずジェンダーとは何か、ジェンダーに基づく見方や考え方、またジェンダー分析の射程について学びます。従来、ジェンダーは男女の役割や関係を表す用語として用いられてきましたが、今にちでは様ざまな社会関係に応用され、また性の多様性を表現する概念に発展しています。
(2)様々な政策からジェンダー問題を理解する
1999年に可決された男女共同参画社会基本法、2000年以降、5年ごとに策定されてきた「男女共同参画基本計画」をもとに様々な分野で推進されている政策を理解することによって. 政策決定過程やあらゆるレベルの政策及びシステムをジェンダー平等にするための政策理念「ジェンダー主流化（Gender Mainstreaming）」概念を明確にします。
(3)ジェンダー平等を進めるために
平等であることに異議を唱える人はあまりいないと思います。また、平等は人権が尊重され、誰もが幸福に生きるため社会的基盤といっても良いでしょう。しかし、いまだに、性別、人種や民族、性的マイノリティ、障がいのある人びとが差別的に取り扱われているという現実があります。
どうすればいいのか、国内の動きや海外の動きを見ることによって考えます。
授業ではパワーポイントの資料や行政で作成されている動画などを随時活用して講義を進めます。課題ごとのレポートを提出していただきます。また、提出していただいた課題ごとのレポートについては授業の初めに，いくつか内容を取り上げ，全体に 対してフィードバックを行います。
レポートの提出は「学習支援システム」通じて行う予定です。
また、対話やグループワークなどを取り入れ、参加型の授業を試みます。
授業は対面で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序：本講義の目的、講義の見取り図 講義の全体像の理解	本講義の概要、全体を通して学ぶべきこと、受講の姿勢。身近なくらしに埋め込まれたジェンダーに関わる社会通念についても考える。
第2回	ジェンダーとは？ ① ジェンダーについての理解を深める	ジェンダーとは「社会的・文化的に形成された性別」のこと。人間には生まれついて の生物学的性別（セックス／sex）とは異なる。どうしてジェンダーについて考える必要があるかを理解する。
第3回	ジェンダーとは？ ② ジェンダーをめぐる最近の動向について考える	現在ジェンダーをめぐる課題が大きく取り上げられるようになっている。 男性性をめぐる議論、多様性をどう考えるか、LGBTQやパートナーシップ制度等に関する法制度の整備も進んでいる。政策の動向についても考察する。また、各地の裁判所で出された判決についても言及する。
第4回	家族とジェンダー	未婚化、少子化が進んでいる。家族を形成する結婚や子育ての状況が変化している。歴史的な動向を説明すると主に現状の問題を考えるとともに。少子化に対応する子育て支援施策(異次元の少子化対策)についてジェンダーの視点から考える。
第5回	教育とジェンダー	一般に教育の場は男女平等だと言われている。問題はないのかを考える。 教育の中に潜むジェンダー問題を明らかにする。 「理系は男子が得意で女子は文系が得意」といった、内在しているアンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）についても理解する。

第6回	労働とジェンダー①	「女性の活躍」が政策課題になっている。女性の継続就労が当たり前になりつつある中の課題について言及する。 女性活躍推進法の改正によって、2022年から条件に該当する企業は「男女の賃金の差異」情報の公表が義務付けられることとなった。また、「年収の壁」を意識せず働くことができる環境づくりも進められている。このような動きの中で男女賃金格差問題を考える。
第7回	労働とジェンダー②	男女ともに働きやすい職場環境を作るために「ワーク・ライフ・バランス」の取組が進んでいる。2022年に男性の育児休業取得促進のための子の出生直後の時期における柔軟な育児休業の枠組みの創設された。男性が育児に関わることの意味と課題を考える。
第8回	メディアとジェンダー	インターネット、テレビ、新聞や雑誌など私たちのまわりは情報にあふれているがジェンダーのステレオタイプを再生産することが少なくない。メディアをジェンダーの視点で分析するとともに「メディア・リテラシー」を理解する。
第9回	ジェンダーにもとづく暴力の根絶	性暴力、DVといったジェンダーに基づく暴力は重大な人権侵害である。その予防と被害からの回復、暴力を根絶するためにのはどうすべきかを考える。 改正された刑法について説明し「性的同意」を考える。
第10回	政治とジェンダー	政策・方針決定過程への女性の参画度合いは国際的に見ても非常に低く、その拡大は現在の日本において大きな課題となっている。特に政治分野における女性の参画拡大を進めるためにはどのような方策がとられているかを理解する。2018年に施行された「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」についても言及する。併せて、戦後の女性主体の各種の社会運動の歴史と、それらが政策形成や女性の政治参画にもつながっていたことも紹介する。
第11回	災害とジェンダー	災害は平等に人を襲うわけではなく、ジェンダー、階級、人種などの要因により平時から不利な状況に置かれているひとは、被害が大きくなる傾向にある。 ジェンダーは医療・福祉・保育の問題とも深く結びついている。 防災対策上、ジェンダーは不可欠であることを、国内災害の実態と、政策動向などを通して理解する。
第12回	国内のジェンダー平等政策	ジェンダー平等を進めるためにどのような方策がとられてきたのかを「男女共同参画基本計画」を中心に理解する。 さらにジェンダー平等に向けた法制度についても概観する。
第13回	国際的に見たジェンダー平等の取組	世界の中でも日本のジェンダー平等のランキングは低い。 SDGs、GGGI等の国際的な動向を踏まえ日本の課題を考える。 ジェンダー平等が達成されていない分野を明確にし、その要因も考える。
第14回	授業内試験	持ち込み不可

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の下調べ、授業後のノート整理は不可欠です。また、理解を深めるために、紹介文献等を読むことを薦めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回レジュメや参考資料を配付する、映像資料も活用する。

【参考書】
・三浦まり『さらば、男性政治』（岩波新書2023年）
・牧野百恵『ジェンダー格差』（中公新書2023年）
・関口洋平『イクメンを疑え！』（集英社新書 2023年）
・神谷悠一『差別は思いやりでは解決しない』（集英社新書 2022年）
・男女共同参画基本計画（シラバス作成時点では5次計画が最新が、今年前半に策定予定の第6次計画を参照のこと）
https://www.gender.go.jp/about_danjo/basic_plans/index.html
・国立女性教育会館　学校教育における男女共同参画推進
https://www.nwec.go.jp/research/teacher.html
・内閣府男女局　理工チャレンジ（リコチャレ）
http://www.gender.go.jp/c-challenge/
・科学技術振興機構　ダイバーシティ推進
http://www.jst.go.jp/diversity/index.html
・内閣府「仕事と生活の調和」推進サイト　ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて
http://wwwa.cao.go.jp/wlb/index.html・内閣府男女共同参画局女性活躍推進法見える化サイト
http://www.gender.go.jp/policy/suishin_law/index.html
・厚生労働省女性活躍推進法特集ページ
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000091025.html
・NWEC実践研究第９号「ジェンダーに基づく暴力」
https://www.nwec.go.jp/about/publish/2018/ecdat60000002jgc.html
・若年層を対象とした性的な暴力の啓発教材
http://www.gender.go.jp/policy/no_violence/index.html
・内閣府男女共同参画局　災害対応のページ
https://www.gender.go.jp/policy/saigai/index.html

【成績評価の方法と基準】
内容ごとの課題レポートの提出（50%）
筆記試験（授業内試験、持ち込み不可）(50%)

【学生の意見等からの気づき】
本年度、授業担当者変更により、フィードバックできません。

【Outline (in English)】
Gender is one of the most important concepts in social science discourse.　In the lecture, I will critically discuss political phenomena, events and institutions through gender lens.
Course outline
This course introduces gender concept, gender policy and gender issues in Japanese society to students taking this course.
Learning Objectives
The goals of this course are to understand Japanese gender issues and develop the ability to think critically about social phenomena.
Lecture/Exercise（two-credits）
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%、Short reports : 50%

POL200AC（政治学 / Politics 200）

ジェンダー論 II

佐藤　信

授業形式：講義　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【概要】
現代日本を事例にジェンダーと政治の関係性を学ぶ。
【目的】
現代社会をよりよく生き抜くために基盤となるジェンダーの視角とジェンダーを取り巻く課題を理解する。

【到達目標】
・基礎的なジェンダーや関係する日本政治の知識を習得する
・さらに深い理解（他のジェンダー課題、政治・政策課題、理論化など）への基盤をつくる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。基本的に対面で行うが、オンデマンドで実施することがある。
出席は採らないが、課題のほか、学期中2-3回程度、レスポンス・ペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに(1)	ガイダンス＋gender/sexの基本
第2回	はじめに(2)	gender/sexと政治―視えていなかったところを埋める
第3回	日本の地域(1)	女性の不在？
第4回	日本の地域(2)	婦人会の系譜
第5回	日本の地域(3)	父兄会とPTA
第6回	日本の議会(1)	女性の不在？
第7回	日本の議会(2)	政治家の女性家族(1)
第8回	日本の議会(3)	政治家の女性家族(2)
第9回	日本の議会(4)	政治家を支えるその他の女性
第10回	日本の政党・支持団体(1)	女性の不在？ ＋政党婦人部
第11回	日本の政党・支持団体(2)	支持団体の婦人部（労働組合・宗教団体）
第12回	日本の政策(1)	天皇制・姓・働き方の戦前と戦後
第13回	日本の政策(2)	gender多様性と生殖技術の時代
第14回	おわりに	試験＋解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
スライドを利用した場合には著作権や個人情報に配慮したうえで授業後に一部を提供する。授業後にはよく咀嚼しておくこと。
講義はあくまで学習の端緒を用意するものに過ぎないから、授業で紹介された参考文献を読んだり、紹介された事例について調べたり、自ら学習を深めることが望まれる。
本授業の授業外学習は課題を除き2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
逐次指示するが、以下のものは全体を通して益する。
【参考書】
加藤秀一（2017）『はじめてのジェンダー論』有斐閣ストゥディア
前田健太郎（2019）『女性のいない民主主義』岩波新書
牧野百恵（2023）『ジェンダー格差』中公新書
（課題に関するもの）
前田拓也ほか（編）（2016）『最強の社会調査入門』ナカニシヤ出版
佐藤信（編）（2025）『オーラル・ヒストリー入門』ちくま新書

【成績評価の方法と基準】
【成績評価の方法】
課題提出30%、期末試験70％。
ただし、単位の可否の判断に際して授業態度やコメントペーパーを反映する。
【課題の方法と基準】
授業中に課題に従って、授業外学習で実施して、電子ファイルでレポートを提出する。
労力と正確性と独創性を評価する。
生成AIの利用について基本的には全学の方針に従うが（自身での課題や計画の検討にあたって利用することは認める）、文章の校正・校閲においてのみ追加でその使用を認める。（生成AI利用の巧拙によって左右される能力は評価対象ではないということである。）
【試験の方法と基準】
対面で期末試験を実施し、その後解説を行う。ノートや資料の持ち込みは不可。
授業で提供した知識と思考力を正しく得られているかをチェックする。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックはない。
ただし、随時レスポンス・ペーパーによる変更を行うほか、授業内でも発言や質問を促すことがある。

【学生が準備すべき機器他】
スライドの提供や課題の提出には学習支援システムを利用する予定であるため、活用できる環境が必要となる。

【その他の重要事項】
質問は授業中を基本とする。
非常勤講師のためオフィスアワーはないので、授業外での問い合わせなどはメール（shinsato@tmu.ac.jp）で行うこと。

【Outline (in English)】
【Couse Outline】
This course explores the relationship between gender and politics focusing on postwar Japan.
【Learning Objectives】
Students will be able to gain the perspective on gender and understand the challenges surrounding gender.
【Learning Activities outside of Classroom】
An essay will be assigned. Preparatory study and review time for this class are two hours each.
【Grading Criteria/Policy】
Grading will be decided based on an essay (30%) and a final exam (70%).

POL200AC（政治学 / Politics 200）

福祉政策 I

荒木　千晴

授業形式：講義　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は政策・都市・行政の分野に属する科目です。
日本の社会福祉制度は、対象者別に発展してきましたが、現在、「地域共生社会の実現」に向けて、社会福祉の各制度を、地域を基盤に包括化する方向で展開されています。
　本授業では福祉政策の展開を理解するとともに、近年の福祉政策を特徴づける包括的支援体制について検討します。また、海外の福祉政策との比較から、日本の福祉政策の特徴の理解を深めます。

【到達目標】
（1）福祉政策が求められる背景にある社会問題を理解する。
（2）現在の日本がおかれている福祉環境と福祉政策の概要と用語を理解する。
（3）近年における福祉政策の展開を理解する。
（4）福祉政策の内容と実際について、複数のテーマにおける事例をもとに理解する。
（5）海外の福祉政策との比較から、日本の福祉政策の特徴を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
福祉政策に関する基礎概念、政策、団体、海外の制度等、毎回中核となる主題をとりあげます。また、テーマに即した具体的な事例等を通じて、多角的・実践的な視点から福祉政策の理解をすすめます。教員による講義のほか、履修人数によっては、学生によるディスカッションの機会を設けることがあります。また、講義の内容について学生の理解を確認するため、リアクション・ペーパーの提出を求めます。これは不定期に合計4回ほど実施する予定で、成績評価の対象となります。授業の初めに，前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ，全体に 対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要、注意事項、評価方法等を説明する。 福祉政策を学ぶ際の視点について考える。
第2回	福祉政策の展開	日本における福祉政策の歴史的な展開を解説する。
第3回	今日の社会問題と福祉政策	現代における社会問題を概括し、福祉政策に何が求められているか考える。
第4回	福祉所得保障に関する福祉政策	所得保障に関する各制度の概要、生活保護、生活困窮者自立支援事業等、政策動向について解説、課題と展望について考える。
第5回	高齢者福祉政策	高齢者福祉に関する福祉政策について、介護保険をはじめ各制度の概要・政策動向を解説、課題と展望について考える。
第6回	障害者福祉政策	障害者福祉政策について、障害者自立支援制度をはじめ制度の概要・地域の支援体制を解説、課題と展望について考える。
第7回	子ども家庭福祉政策	子ども家庭福祉政策について、概要・政策動向を解説、課題と展望について考える。
第8回	権利擁護に関する福祉政策	地域における権利擁護体制の推進の現状、 成年後見制度等権利擁護のための制度について解説し、課題と展望について考える。
第9回	社会的包摂に関する福祉政策	地域共生社会に向け、多文化共生や司法福祉など、社会的包摂の観点が求められる福祉政策の現状について解説し、課題と展望について考える。
第10回	災害と福祉政策	災害時の福祉的支援について、DWAT（災害派遣福祉チーム）による支援活動等の事例に基づき理解を深める。
第11回	地域福祉政策と包括的支援体制	包括的支援体制の構築の基盤となる地域福祉政策の展開、体制について、事例をもとに検討する。
第12回	福祉政策を推進する体制	福祉政策を推進するための各機関や人材等について紹介し、課題や各機関の連携・協働等今後の体制のあり方を考える。
第13回	海外の福祉政策	海外における福祉政策の展開を紹介し、日本の福祉政策の特徴を明らかにする。
第14回	授業のまとめ、到達度確認	授業を振り返り、その内容についてまとめる。また、授業内容に関する筆記試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
多様な複数のメディアを通じて、身近な福祉政策について関心をもつように心がけてください。
授業中は、重要であると思う点等についてノートをとり、不明な点があれば、教員に質問したり、授業中に提供した資料、記録をもとに復習を行うとともに、各回のテーマについて居住する自治体の情報やニュース等、福祉政策の実際に触れ、情報収集を行い、理解を深めることが推奨されます。
学習支援システムを通じて教材を事前配布した場合には、授業前に読んで検討しておくことが準備学習として求められます。
本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキスト（教科書）は使用しません。毎回、学習支援システムを通じて教材の配布
を行います。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（70%）及び授業内リアクション・ペーパー（30%）により評価します。評価の基準については、授業の内容や課題への取り組みを通してみなさんがどのように考えたのかを重視しています。

【学生の意見等からの気づき】
授業内アンケートを受け、各分野の福祉政策概要に加え、自治体等における具体的な福祉政策の展開事例を、映像等を用いて紹介を行います。

【Outline (in English)】
This course belongs to the “policy-related” field within the Political Science Department.
Japan’s social welfare system has developed separately for different beneficiary groups.　However, it is now being expanded toward the realization of a “community-based inclusive society,” aiming to integrate various social welfare systems on a community-based foundation.

This course examines the development of welfare policy and explores the comprehensive support systems that characterize recent welfare policies. Furthermore, by comparing with welfare policies overseas, it deepens understanding of the distinctive features of Japan's welfare policy.
Students will be Assessed by;
Written Exam 70%, Reaction paper 30%

POL200AD（政治学 / Politics 200）

国際協力講座

木内　真理子

授業形式：講義　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講座は、現実の国際協力実務に携わるプロフェッショナルによるオムニバス形式の講義をとおして、国際協力のさまざまな取り組みの現状と課題を学習・理解することを目的とする。これにより、将来、地球共生社会の実現を目指して国際協力の世界で活躍する人材の育成も目的とする。

【到達目標】
・国際協力分野に携わる様々なアクターによる政策や活動について、また、アクター間の連携について知識を深める。
・国際協力分野の実態と課題について知る。
・国際協力分野における課題に気づき、自分なりの意見を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に強く関連。「DP3」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
ゲストスピーカーによる講義と学生からの質疑応答で授業を構成する。授業後には講義への理解度を確認するため、支援システムを通じて毎回課題の提出を求める。
ゲストスピーカーの予定によってシラバスに変更が生じる場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国際協力の形態と種類	国際協力の意義、形態と種類
第2回	国際協力の世界的潮流	開発協力専門家による講義と質疑応答
第3回	持続可能な開発のための2030アジェンダとSustainable Development Goals (SDGs)	開発援助専門家による講義と質疑応答
第4回	日本の国際協力：開発協力大綱と日本の政府開発援助（ODA）	ODAの実務家による講義と質疑応答
第5回	国際協力機構(JICA)の役割、活動と課題	JICA職員による講義と質疑応答
第6回	国際協力機構(JICA)の役割、活動と課題	JICA職員による講義と質疑応答
第7回	国際機関の役割、活動と課題	国際機関職員による講義と質疑応答
第8回	国際協力における開発コンサルタントの役割、活動と課題	開発コンサルタントによる講義と質疑応答
第9回	国際協力における市民社会団体・NGOの役割、活動と課題	NGOの職員による講義と質疑応答
第10回	国際協力における市民社会団体・NGOの役割、活動と課題	NGOの職員による講義と質疑応答
第11回	国際協力における民間企業の役割、活動と課題	民間企業による講義と質疑応答
第12回	国際協力とメディア	報道機関の職員による講義と質疑応答
第13回	国際協力におけるアクター間の連携について	連携推進機関の職員による講義と質疑応答
第14回	まとめ	復習と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。レジュメ、資料を適宜Hoppii上で配布する。

【参考書】
・山田満ほか編著『新しい国際協力論―グローバル・イシューに立ち向かう』（第3版）明石書店、2023年
・紀谷昌彦、山形辰史『私たちが国際協力する理由 人道と国益の向こう側』日本評論社、2019年
・南博、稲場雅紀『SDGs 危機の時代の羅針盤』岩波新書、2020年
・蟹江憲史『SDGs（持続可能な開発目標）』中公新書、2020年
・勝間靖（編）『持続可能な地球社会をめざして わたしのSDGsへの取組み』国際書院、2018年
・下村恭民・辻一人・稲田十一・深川由起子『国際協力 その新しい潮流 第３版』有斐閣選書、2016年
・浅沼信爾・小浜裕久『ODAの終焉』勁草書房、2017年
・Yasutami Shimomura, John Page, Hiroshi Kato (eds.), Japan's Development Assistance: Foreign Aid and the Post-2015 Agenda, Palgrave Macmillan, 2016
・Michael P. Todaro and Stephen C. Smith, Economic Development Thirteenth Edition, Pearson, 2020.

【成績評価の方法と基準】
質疑応答への積極的な参加などの平常点（30%）、課題の提出状況と内容（70%）から総合的に判断する。
＊遅刻は20分まで。それ以降の入室は欠席と見なす。
＊4 回以上課題未提出の場合は単位の授与はない。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
担当教員は、政府開発援助(ODA)とNGOの双方で開発支援事業を、NGOでは組織経営を経験した実務者です。これらの現場経験を踏まえて講義を進めます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞開発経済学、開発社会学、国際協力、NPO/NGOマネジメント

【Outline (in English)】
This course will examine the various approaches, forms, and actors of international cooperation in different fields. Different lecturers who are involved in international cooperation from the Japanese government, international organizations, NGOs, and the private sector will give lectures on the activities that they are undertaking and hold discussions with the students. Through these lectures and discussions, the students will deepen their understanding on the broad range of international cooperation activities and issues involved.

POL100AD（政治学 / Politics 100）

国際協力論 I

志賀　裕朗

授業形式：講義　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国の台頭、ウクライナ戦争やトランプ第二次政権の登場は世界のあり方を大きく変えつつある。国際社会が団結して環境問題や貧困問題、感染症対策等の地球規模課題に取り組む必要性は明白だが、大国の対立や各国の思惑の違いなどのために国際社会は一致団結できておらず、世界の将来はますます不確実となっている。
こうした不安定な世情のなか、「問題の本質がどこにあるのか」を的確に見定めたうえで、健全な猜疑心をもって「定説」を疑い、自らの頭で考え、他人を説得できる自分なりの見解を持つことが、現代社会を生きる上で不可欠のリテラシー（基礎的素養）となっている。
本講義ではまず、途上国問題や開発援助のあり方について建設的な議論と創造的な発想をするうえで不可欠の前提となる基礎知識を習得することを目指す。次いで、「自分なりの考え」を持ち、それを友人や講師と議論することの重要性、難しさと楽しさを体感することを目指す。講師は、政府開発援助（ODA）の実務家であり研究者でもあるので、援助の現場における生の経験と、研究分野における最新の議論とのバランスのとれた講義を行いたい。

【到達目標】
まず、途上国問題および開発援助についての基礎知識を習得することを目指す。途上国問題を理解するとは、開発途上国において、何が、なぜ問題になっているのか、その原因は何か（何と考えられているか）を理解することである。また開発援助を理解するとは、途上国問題に対してどのようなアクターが、どのような問題意識と動機にもとづいて、どのような方法で対処しようとしているか、その試みは上手くいっているのか、成功していないとすればそれは何故かを理解することである。本講義では、こうした論点を、大きな国際政治経済史の流れの中に位置づけて理解することを目指す。
次いで、こうした知識を活用しつつ、様々な論点に関する多様な意見のなかから、自分なりの意見を形成して説得的に提示できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
インターアクティブな授業とする。講師はしつこく「なぜ？」という問いを投げかけ、議論を奨励するので、受講生は積極的に議論に参加してほしい。自分らしい“Something New”を創造して世界に訴えたい、主体性と自律性をもって自分の夢を追いかけたい！ と願う学生の積極的な受講を期待している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の目的と概要、成績評価方法、学生の心構え等の説明を行う。
2	危機に瀕する国際協力	アメリカをはじめとする先進国における自国第一主義的な行動や排外主義の高まり、大国間競争の激化が国際協力をどのように難しくしているかを検討する。
3	危機に瀕する国際協力②	同上。
4	途上国が直面する課題	途上国が長年直面してきた様々な課題を、SDGS（持続可能な開発目標）を参考にしながら広く検討する。
5	開発援助の仕組み	開発援助にはどのようなアクター（援助機関、途上国政府、企業、NGO等）が携わっているのか、援助政策はどのようにして決定されているのか、等を検討する。
6	開発思想の歴史①	貧しい国はなぜ貧しく、豊かな国はなぜ豊かなのか、貧しい国を豊かにするには何が必要なのか。こうした問いにどう答えるかは、途上国の開発戦略・援助機関の援助戦略を立案する上で重要である。こうした開発思想の歴史的展開を振り返る。
7	開発思想の歴史②	開発思想については、アメリカや欧州諸国と日本のあいだで大きな相違がある。それは如何なるものか、そうした違いがなぜ存在するのかを考える。
8	中間振り返り	これまで学習・議論したことを振り返り、ディスカッションを行う。
9	日本の政府開発援助（ODA）①	欧米諸国、世界銀行のような国際機関、または中国の援助と比較して、日本のODA にはどのような特徴があるのか、その長所と欠点を検討する。
10	日本の政府開発援助（ODA）②	日本のODA の代表的な事例（借款によるインフラ整備支援や、法整備を目指した技術援助）を取り上げ、その特徴を、他国による援助と比較しながら検討する。
11	途上国問題と開発援助の新潮流①	近年の国際政治経済情勢の変動のなかで、途上国問題や開発援助のあり方がどのように変化しつつあるかを検討する。
12	途上国問題と開発援助の新潮流②	近年の日本を取り巻く国際政治経済情勢の変化や途上国問題の変動を受けて、日本はどのような援助政策を打ち出そうとしているのかを検討する。
13	ロールプレイング・ゲーム	途上国問題あるいは開発援助に関する具体的なテーマを取り上げ、それに関連するアクター（二国間援助機関、国際機関、途上国政府、NGO等）の役割を各自で分担して実際に戦略立案や交渉を体験するゲームを行う。
14	振り返りと総括	改めて、コロナ危機が我々に突き付けたものを振り返る。それは、途上国だけの問題だろうか？ 日本を含む先進国にもその問題は存在しないだろうか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は、講師からの指示に基づき、参考文献等を使用しながら特定のテーマについてのレポートを作成・提出するほか、グループディスカッションの準備等を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
西垣昭、下村恭民、辻一人、2009年、『開発援助の経済学:「共生の世界」と日本のODA』、 有斐閣。
木村宏恒、近藤久洋、金丸裕志編、2013年、『開発政治学の展開: 途上国開発戦略におけるガバナンス』、勁草書房。
木村宏恒編、2018年、『開発政治学を学ぶための61冊：開発途上国のガバナンス理解のために』、明石書店。

【成績評価の方法と基準】
授業中に提出を求める課題（40 %）と最終試験（60%）で成績を評定する予定であるが、履修学生数によって変更がありうる。

【学生の意見等からの気づき】
授業時間の延長が無いように心がける。また、前回よりも講義（講師からの説明）の比重を減らし、学生自身が参加し議論する時間の割合を高めるつもりである。なお、授業の内容・方法等に関する要望・提案・批判は大歓迎であるので、随時受け付けます。

【学生が準備すべき機器他】
各自PC持参が望ましい。

【その他の重要事項】
■本講義は、国際協力機構、国際協力銀行、財務省等で開発援助の実務に携わってきた講師が、援助の実務と理論の双方を踏まえた講義を行う。
■本講義の履修に先立って履修しておくべき科目は無い。途上国問題、開発援助、国際政治経済に関する前提知識も一切必要としない。
■「国際開発論Ⅱ」を併せて受講することを推奨する。
■本講義は決して「ラクタン」（楽に単位が取れる科目）では無いので、その点を十分に理解して臨むよう希望する。
■提出物において剽窃が認められた場合には、理由の如何を問わずに不合格判定とするので十分に注意すること。受講生は「剽窃」の意味を事前に確認しておくこと。

【Outline (in English)】
How should we eradicate poverty and inequality? How should we achieve peace and justice? How should we guarantee prosperity, health, education, and decent work for all? Japan has been tackling these challenges for over sixty years, by providing aid (Official Development Assistance: ODA) to developing countries with distinctive aid philosophy and unique instruments.
This course firstly introduces a basic knowledge about development issues and Japan’s ODA policy. Then students are encouraged to think critically about the conventional wisdom on global agendas. The course will be interactive, with the combination of lecture, group discussion, and role-playing game. No prior knowledge is required.

POL100AD（政治学 / Politics 100）

国際協力論 II

志賀　裕朗

授業形式：講義　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　世界の政治経済を巡る秩序が大きな転換点を迎え、世界の先行きはますます不透明になっている。こうしたなか、「問題の本質がどこにあるのか」を的確に見定めたうえで、健全な猜疑心をもって「定説」を疑い、自らの頭で考え、他人を説得できる自分なりの見解を持つことが、現代国際社会を生きる上で不可欠のリテラシー（基礎的素養）となっている。
　本講義では、途上国や開発援助に関する様々な問題を、ひとつひとつ時間をかけて深く掘り下げて検討することを通じて、正解の無い難問について「自分なりの考え」を持ち、それを友人や講師と議論することの重要性、難しさと楽しさを体感することを目指す。講師は、政府開発援助（ODA）の実務家であり研究者でもあるので、援助の現場における生の経験と、研究分野における最新の議論とのバランスのとれた講義を行いたい。

【到達目標】
　本講義では、ひとつのテーマについて徹底的に議論することを通じて、「国際協力論Ⅰ」で学んだ幅広い知識を深めることを目指す。同時に、様々な論点に関する多様な意見のなかから、自分なりの意見を形成して説得的に提示するためのスキルを獲得することも目指す。
　なお、国際情勢の変動や受講生の希望により議論するテーマを変更する可能性が高い（そのため、シラバスに提示したテーマはあくまでも暫定的なものである）。議論したいテーマ、疑問に思うテーマの提案を大いに歓迎する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本講義では、各テーマについて講師が導入の説明を行ったのち、受講生からの発表およびディスカッションを行う。重点は後者にあり、その意味で本講義は「講義」よりも「ゼミ」に近い形態となる。講師はしつこく「なぜ？」という問いを投げかけ、議論を奨励するので、受講生は事前に十分な準備を行ったうえで積極的に議論に参加することが求められる。主体性と自律性をもって自分の夢を追いかけたいと願う学生の受講を期待している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の目的と概要の説明を行う。
2	途上国が直面する多様な課題①	サブサハラ・アフリカには、世界のHIV-AIDS患者の7割が集中すると言われ、特に南アフリカ共和国では30代前半の女性の罹患率が36％という深刻さである。なぜこうした事態が起きているのか、これに効果的に対処するにはどうすればよいかを議論する。
3	途上国が直面する多様な課題②	「戦後最悪の人道危機」と言われ、国民の実に半数が難民となっているシリア紛争と難民問題に国際社会はどう対処すべきかを、近年欧米を中心とする先進国で台頭する排外主義的な動きと関連づけながら議論する。
4	途上国が直面する多様な課題③	「なぜ異なる民族は殺し合うのか、殺し合った民族を共存・和解させるにはどうすればよいのか」を、1990年代に発生したボスニア・ヘルツェゴヴィナ紛争とその後の同国の状況、日本の援助（平和構築支援）の実例を題材に議論する。
5	途上国が直面する多様な課題④	1970年代の東京の深刻な交通渋滞を見たタイの政府関係者は「バンコクは東京のようにはならない」と言ったが、バンコクは世界有数の交通渋滞都市になってしまった。これを見たベトナムの政府関係者は「ハノイはバンコクのようにはならない」と言ったが、ハノイもまた深刻な交通渋滞に悩まされている。他の国の教訓から学ぶことはなぜ難しいのだろうか？ アジアの都市交通問題を例に、考えてみたい。
6	開発思想と援助手法①	「東・東南アジア諸国の多くが高度経済成長を達成したのに対して、アフリカ諸国の多くはなぜ長期にわたる経済停滞を経験し、今なお貧しいままなのか？」という問いを検討する。
7	開発思想と援助手法②	「汚職腐敗がひどい権威主義体制国に対しては援助すべきではない」という主張の是非を検討する。
8	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序①	これまで国際開発援助を主導してきた欧米先進国において、異なる文化や価値観に対する軽蔑や不寛容が台頭しているほか、客観的な事実が重視されない「ポスト真実（post-truth）の時代」が来たと言われる。こうした動きは、今後の開発援助や途上国問題の解決にどう影響するのかを議論する。
9	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序②	2015年に採択されたSDGs（持続可能な開発目標）を読み、2000年に策定されたMDGs（ミレニアム開発目標）と比較しながら、その特徴と問題点を議論する。
10	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序③	「2000年代以降、中国は援助を急増させ、人権侵害を行っている独裁国家を支援したり環境を破壊したりしているほか、アジアインフラ投資銀行（AIIB）等の援助機関を設置して開発援助に関する既存の国際秩序を混乱させている」という見解について議論する。

11	日本の政府開発援助（ODA）の特徴①	第二次大戦における敗北から10年も経っていない1954年、日本はアメリカや世界銀行から多額の援助を受けながら、途上国に対する援助を開始した。それは何故だったか、そうした経験が日本のその後の援助のあり方にどのように影響したかを検討する。
12	日本の政府開発援助（ODA）の特徴②	日本のODAは借款を多用するという特徴を持っている。このことは、「援助は豊かな国が貧しい国に対して行う慈善なのだから無償であるべきだ」と考える欧州諸国からの強い批判にさらされてきた。「金利を取ってカネを貸す」援助方式の是非を議論する。
13	日本の政府開発援助（ODA）の特徴③	2015年に日本政府が発表し23年に改訂された「開発協力大綱」を読み、日本がODAを通じてどのように国際貢献をしようとしているか、過去の「ODA大綱（1992年制定、2003年改訂）」と比較しながら読み解く。
14	授業内容の振り返りと総括	これまで学習した内容を振り返り、これから学習すべきことを展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は、講義で取り上げる問題について事前に調べ、自分の意見とその根拠を簡潔に記載したペーパー（A4サイズで2枚以内）を作成して講義に臨むこと。事前の調査に際しては、英語のソースにアクセスすることを推奨する。なお、講義のトピックは学生の興味も勘案して決定する（シラバス通りとは限らない）。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しないが、第一回講義に際しては、事前に講読文献を指定し、その感想を当日講師に直接提出することを求める。これを提出しない学生は、それ以降の受講を一切認めないので留意すること。

【参考書】
近藤康太郎、2020年、『三行で撃つー< 善く、生きる> ための文章塾』、CCCメディアハウス。
小坂井敏晶、2017年、『答えのない世界を生きる』、祥伝社。

【成績評価の方法と基準】
授業で提出を求める課題（70％）およびディスカッションへの積極的参加の度合い（30％）によって成績を評定する予定（最終試験は行わない）であるが、履修学生の数によって変更がありうる。

【学生の意見等からの気づき】
授業時間の延長が無いように心がける。なお、授業の内容・方法等に関する要望・提案・批判は大歓迎であるので、随時受け付けます。

【学生が準備すべき機器他】
各自PC持参が望ましい。

【その他の重要事項】
■本講義は、国際協力機構、国際協力銀行、財務省等で開発援助の実務に携わってきた講師が、援助の実務と理論の双方を踏まえた講義を行う。
■途上国問題や開発援助に関する前提知識があることが望ましい。本講義の履修に先立って履修しておくべき科目は無いが、「国際協力論Ⅰ」を併せて受講することを推奨する。
■本講義は決して「ラクタン」（楽に単位が取れる科目）ではない。特に、全く発言しないような消極的姿勢の場合には単位を与えないので、その点を十分に理解したうえで履修に臨むよう希望する。
■提出物において剽窃が認められた場合には、理由の如何を問わず不合格判定とするので十分に注意すること。受講生は「剽窃」の意味を事前に確認しておくこと。

【Outline (in English)】
How should we eradicate poverty and inequality? How should we achieve peace and justice? How should we guarantee prosperity, health, education, and decent work for all? Students are encouraged to think critically about the conventional wisdom on the global agendas mentioned above. The course will be interactive, with the combination of lecture, group discussion, and role-playing game. No prior knowledge is required.

ARS200BD

比較文化論（１）

小島　尚人

授業コード：A2981　｜　曜日・時限：水1/Wed.1
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界中からの多種多様な移民によって形成された移民国家アメリカの文化は、異文化交流の歴史と課題の縮図である。本科目では、アメリカ合衆国の暮らしのなかでも、特に「音楽（歌）」に注目し、日本の音楽文化と比較しながら学ぶ。教員による講義と学生間の交流を通して、文化の多様性を学ぶとともに、広いコンテクストから現在の社会を問い直す視座を探る。

【到達目標】
１）英語圏の国々の代表的な伝統文化について比較しながら説明できる。
２）アメリカ合衆国の文化が、他国からの移民の多様な異文化を吸収・改変・保持しながら発展してきた過程を具体的に説明できる。
３）英語圏の国々の現代文化が、伝統文化をどのように生かしつつも変容させているかを具体的な事例を通して説明できる。
４）多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的な理解を得る。
５）以上の知識と体験に基づいて、文化の多様性および異文化コミュニケーションの現状と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
アメリカ合衆国との比較を念頭に置きながら、「音楽（歌）」を中心とした様々な文化的事象を学ぶ。また、授業全体を通して、近現代日本の話題も随時取り上げる。授業では、英語圏の国々の最新の動向を伝える文化や社会に関するニュース記事や映像・音声資料を題材に、留学生を含めた多様な背景、異なる価値観を持つ学生同士で議論・交流を行うことで、学生参加型の体験的な理解を促進する。実施されたプレゼンテーションについては、授業参加者全体でフィードバックを行い、最後に担当教員から総評を伝える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションおよび授業の導入	履修者の自己紹介、日米の音楽文化史を学ぶ上での見取り図を提示する
第2回	ワークショップ①「身近なアメリカ音楽の発見」	比較文化を学ぶ前提として、自分たちのこれまでの音楽体験の中の「アメリカ」を振り返る
第3回	留学生を迎えてのアクティブ・ラーニング①	第2回の授業内容を英語のプレゼンテーション資料にまとめ、アクティビティを実施しながら発表を行う
第4回	アメリカの「戦争」と歌	愛国歌、行進曲、そしてアメリカ国歌の誕生
第5回	アメリカの「労働」と歌	西部開拓、鉄道敷設、奴隷労働
第6回	アメリカの「宗教」と歌	讃美歌、黒人霊歌、ゴスペル・ソング
第7回	ワークショップ②「日本の歌謡曲・ポップスとアメリカ」	グループワークを通じてプレゼンテーションの準備をする
第8回	留学生を迎えてのアクティブ・ラーニング②	第7回の授業内容を英語のプレゼンテーション資料にまとめ、アクティビティを実施しながら発表を行う
第9回	アメリカの「スポーツ」と歌	草競馬、野球、バスケット、アメフト
第10回	アメリカの「舞台」と歌	ミンストレル・ショウからブロードウェイ・ミュージカルまで
第11回	アメリカの「映画」と歌	ハリウッド映画史を「歌」の側面から考察する
第12回	ワークショップ③「音楽と異文化交流・異文化理解」	グループワークを通じてプレゼンテーションの準備をする
第13回	留学生を迎えてのアクティブ・ラーニング③	第12回の授業内容を英語のプレゼンテーション資料にまとめ、アクティビティを実施しながら発表を行う
第14回	まとめと期末試験	音楽・歌を用いた教授法を考える／授業内で期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業で紹介した参考文献を読み、動画や映画を積極的に視聴する。（2時間）
・自分の日常生活の中から「異文化理解」に関係する事象を探し出し、授業と関連づけて考えたり、友人や家族と話し合ったりする。（1時間）
・プレゼンテーションおよび期末試験の準備を計画的に進める。（1時間）

【テキスト（教科書）】
教員が作成したプリントを授業開始時に配付します。

【参考書】
ウェルズ恵子『アメリカを歌で知る』（祥伝社新書、2016年）
大和田俊之『アメリカ音楽史――ミンストレル・ショウ、ブルースからヒップホップまで』（講談社選書メチエ、2011年）
輪島裕介・永冨真梨（編）『入門ポピュラー音楽の文化史――〈戦後日本〉を読み直す』（ミネルヴァ書房、2024年）

【成績評価の方法と基準】
授業内ワークショップ・プレゼンテーション：50％
授業内期末試験：50％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできませんが、他の担当科目同様、発言しやすい環境をつくれるように努めます。

【その他の重要事項】
定員を30名とし、それを超える場合は選抜をおこなう（文学部生の教職科目履修者を優先とする）。
履修希望者は必ず初回授業に出席してください。

【Outline (in English)】
This course examines everyday forms of culture that exist in people's lives. Focusing primarily on American music, students will learn cultural diversity and ways of discussing cultural issues in a critical and comparative perspective.
Classes will consist of lectures, in-class tasks, and group discussions. In particular, students participate in many group discussions on various topics introduced in the lectures. Students will also give a group presentation toward the end of the semester.
Learning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.
Grades will be determined based on the following:
1) Participation and in-class assignments (50%)
2) Final exam (50%)

民俗学 II

室井　康成

配当年次／単位：2〜4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本列島（北海道から鹿児島まで）の各地には、近代以前の戦争で死亡した人々の亡骸を埋葬したとされる古跡（戦死塚）が、管見の限り約２０００ヶ所近く存在する。場合によっては１０００年以上前に行なわれた戦争の記憶が、現在なお伝承の中に生き続けている。これらの戦死塚は、しばしば怪異譚と結びつけられ、好奇の対象ともなっているが、付帯する伝承を微細にみてゆくと、日本文化の特質が浮かび上がってくる。本講義では、これらの塚の伝承を手掛かりとして、日本人の死生観のかたちを探求する。

【到達目標】
過去に起きた戦争の死者をめぐる霊的処遇のあり方は、時に国際間の政治問題へと発展する。そうした場合、直近の戦争の事例（日本の場合はアジア・太平洋戦争）がクローズアップされるが、事の本質を理解するためには、戦死者の処遇をめぐる通史的な理解が必要となってくる。本講義で扱う戦死塚は、極めて日本的な性格を有する事例であり、これらにまつわる知識を身に着けることで、日本文化のより正確な把握を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
指定教科書を講読する形式で進めます。講義内で受講生に対し発問することはありますが、リアクションペーパーなどは求めません。また、質問等へのフィードバックは、講義終了後に教室内で受け付けます。また、講義内で講師へのアクセス方法を通知しますので、講義時間外でも質問等は受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義計画と成績評価の方法を説明します。履修予定者は必ず参加のこと。
第2回	民俗学の基礎知識	「民俗」とは何かを理解し、本講義のテーマの基礎的事項を説明します。
第3回	壬申の乱をめぐる戦死塚	古代の戦乱「壬申の乱」にまつわる戦死塚の伝承を講じます。
第4回	平将門の反乱の歴史的意義	平将門の乱の概要と、後世に与えたインパクトについて講じます。
第5回	「空飛ぶ首」の伝承	平将門の首塚にまつわる伝承の生成過程について検討します。
第6回	一ノ谷の戦いにまつわる戦死塚（１）	源平合戦のうち最大級の合戦「一ノ谷の戦い」にまつわる戦死塚を確認します。
第7回	一ノ谷の戦いにまつわる戦死塚（２）	一ノ谷の戦いで戦死した武将たちの戦死塚伝承の特徴を検討します。
第8回	楠木正成・新田義貞の戦死塚（１）	南北朝時代の南朝側のキーパーソンである楠木正成・新田義貞にまつわる戦死塚を確認します。
第9回	楠木正成・新田義貞の戦死塚（２）	楠木正成・新田義貞の戦死塚伝承の特徴を検討します。
第10回	関ヶ原の戦いの戦死塚（１）	前近代で最大級の戦争「関ヶ原の戦い」の推移を押さえ、関連する戦死塚を確認します。
第11回	関ヶ原の戦いの戦死塚（２）	関ヶ原の戦いで戦死・処刑された武将の戦死塚伝承の特徴を検討します。
第12回	幕末・維新期の戦死塚	戦死塚伝承の趣きが転換した戊辰戦争（とくに鳥羽伏見の戦い）の事例を検討します。
第13回	彼我の分明－戦死塚をめぐる伝承の「近代」	戦死者に対する感情の近代的位相はどのように成立したのかを検討します。
第14回	試験と総括	本講義を総括し、受講生諸氏の理解度を机上試験で測ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義で使用するテキストの巻末に、日本全国の当該事例および参考文献が記されているので、気になったものがあれば、自身で積極的に調べてください。また授業時間外の学習は、テキストの通読（2時間程度）および主体的な文献調査となります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『日本の戦死塚－増補版首塚・胴塚・千人塚』、室井康成著、角川ソフィア文庫、2022年、1,540円（税別）

【参考書】
テキストの巻末に掲載された「参考文献一覧」を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
・最終授業時に実施する試験の回答内容のみで成績を判定します（試験100％）。ただし、終講の３〜４回前の授業時に、どのような内容が出題されるのかをお知らせします。
・試験は実質的には机上リポートとなります。そのため講義内容の理解度が成績判定の基準になります。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
特にありませんが、日本史全体への興味がないと、講義中は退屈な時間を過ごすことになります。ただし、上記の興味・知識がなくても、これを機会に本講義のテーマについて学んでみたいと考える履修生に対しては、丁寧に指導します。また、春学期の「民俗学Ｉ」を履修しておくと、より理解が深まります。

【Outline (in English)】
・Course outline
in japan, there are about 2,000 tombs of people who died in pre-modern wars. In this lecture, we will examine the characteristics of Japanese culture through the tradition of these tombs.
・Learning Objectives
Accurate understanding about Japanese folklore and view of life and death.
・Learning activities outside of classroom
Review resumes and read references.
・Grading Criteria /Policy
Written exam (100%) on the last day of the lecture

CUA200BA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200）

民俗学 II

室井　康成

授業コード：A3810　｜　曜日・時限：木5/Thu.5
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3860）で履修する。

その他属性：〈他〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本列島（北海道から鹿児島まで）の各地には、近代以前の戦争で死亡した人々の亡骸を埋葬したとされる古跡（戦死塚）が、管見の限り約２０００ヶ所近く存在する。場合によっては１０００年以上前に行なわれた戦争の記憶が、現在なお伝承の中に生き続けている。これらの戦死塚は、しばしば怪異譚と結びつけられ、好奇の対象ともなっているが、付帯する伝承を微細にみてゆくと、日本文化の特質が浮かび上がってくる。本講義では、これらの塚の伝承を手掛かりとして、日本人の死生観のかたちを探求する。

【到達目標】
過去に起きた戦争の死者をめぐる霊的処遇のあり方は、時に国際間の政治問題へと発展する。そうした場合、直近の戦争の事例（日本の場合はアジア・太平洋戦争）がクローズアップされるが、事の本質を理解するためには、戦死者の処遇をめぐる通史的な理解が必要となってくる。本講義で扱う戦死塚は、極めて日本的な性格を有する事例であり、これらにまつわる知識を身に着けることで、日本文化のより正確な把握を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
指定教科書を講読する形式で進めます。講義内で受講生に対し発問することはありますが、リアクションペーパーなどは求めません。また、質問等へのフィードバックは、講義終了後に教室内で受け付けます。また、講義内で講師へのアクセス方法を通知しますので、講義時間外でも質問等は受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義計画と成績評価の方法を説明します。履修予定者は必ず参加のこと。
第2回	民俗学の基礎知識	「民俗」とは何かを理解し、本講義のテーマの基礎的事項を説明します。
第3回	壬申の乱をめぐる戦死塚	古代の戦乱「壬申の乱」にまつわる戦死塚の伝承を講じます。
第4回	平将門の反乱の歴史的意義	平将門の乱の概要と、後世に与えたインパクトについて講じます。
第5回	「空飛ぶ首」の伝承	平将門の首塚にまつわる伝承の生成過程について検討します。
第6回	一ノ谷の戦いにまつわる戦死塚（１）	源平合戦のうち最大級の合戦「一ノ谷の戦い」にまつわる戦死塚を確認します。
第7回	一ノ谷の戦いにまつわる戦死塚（２）	一ノ谷の戦いで戦死した武将たちの戦死塚伝承の特徴を検討します。
第8回	楠木正成・新田義貞の戦死塚（１）	南北朝時代の南朝側のキーパーソンである楠木正成・新田義貞にまつわる戦死塚を確認します。
第9回	楠木正成・新田義貞の戦死塚（２）	楠木正成・新田義貞の戦死塚伝承の特徴を検討します。
第10回	関ヶ原の戦いの戦死塚（１）	前近代で最大級の戦争「関ヶ原の戦い」の推移を押さえ、関連する戦死塚を確認します。
第11回	関ヶ原の戦いの戦死塚（２）	関ヶ原の戦いで戦死・処刑された武将の戦死塚伝承の特徴を検討します。
第12回	幕末・維新期の戦死塚	戦死塚伝承の趣きが転換した戊辰戦争（とくに鳥羽伏見の戦い）の事例を検討します。
第13回	彼我の分明－戦死塚をめぐる伝承の「近代」	戦死者に対する感情の近代的位相はどのように成立したのかを検討します。
第14回	試験と総括	本講義を総括し、受講生諸氏の理解度を机上試験で測ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義で使用するテキストの巻末に、日本全国の当該事例および参考文献が記されているので、気になったものがあれば、自身で積極的に調べてください。また授業時間外の学習は、テキストの通読（2時間程度）および主体的な文献調査となります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『日本の戦死塚－増補版首塚・胴塚・千人塚』、室井康成著、角川ソフィア文庫、2022年、1,540円（税別）

【参考書】
テキストの巻末に掲載された「参考文献一覧」を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
・最終授業時に実施する試験の回答内容のみで成績を判定します（試験100％）。ただし、終講の３〜４回前の授業時に、どのような内容が出題されるのかをお知らせします。
・試験は実質的には机上リポートとなります。そのため講義内容の理解度が成績判定の基準になります。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
特にありませんが、日本史全体への興味がないと、講義中は退屈な時間を過ごすことになります。ただし、上記の興味・知識がなくても、これを機会に本講義のテーマについて学んでみたいと考える履修生に対しては、丁寧に指導します。また、春学期の「民俗学Ｉ」を履修しておくと、より理解が深まります。

【Outline (in English)】
・Course outline
in japan, there are about 2,000 tombs of people who died in pre-modern wars. In this lecture, we will examine the characteristics of Japanese culture through the tradition of these tombs.
・Learning Objectives
Accurate understanding about Japanese folklore and view of life and death.
・Learning activities outside of classroom
Review resumes and read references.
・Grading Criteria /Policy
Written exam (100%) on the last day of the lecture

HIS200BA（史学 / History 200）

イスラム世界論Ⅰ

松本　隆志

授業コード：A3811　｜　曜日・時限：金2/Fri.2
春学期授業/Spring・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在、世界のムスリムの人口は、アジアやアフリカだけではなく、ヨーロッパにおいても増え続け、国際社会におけるそのプレゼンスは、日に日に高まりを見せている。その一方で、イスラーム原理主義者やアメリカを中心とする西欧諸国から発信された、ムスリムに対する偏った理解や偏見が広まっているのも事実である。この授業では、既存の偏見に惑わされず、受講生一人一人が、イスラーム世界の多様な在り方を理解できるよう、イスラームという宗教に関する基礎的知識の習得を目指す。

【到達目標】
この授業は、イスラームという宗教に関する基礎的な知識を提供し、それらの知識に基づきイスラームという宗教、そしてムスリム（イスラーム教徒）の多様性を理解することを目的とする。学生には、広い偏りのない視野で、現代の複雑なイスラーム世界に関する諸問題を歴史的見地から主体的に考えるための基礎的な知見を獲得してもらう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業では、現代のイスラーム世界を理解する上で欠かせない、イスラーム世界の歴史を扱う。授業の前半部では、教義を中心としたイスラームの基礎的知識について、後半部では、そのイスラームが各地域でどのように信徒を獲得し、受容されていったのかについて解説していく。
この授業は、講師による講義と、講義内容を踏まえた学生の課題の作成・提出から成る。毎回の課題については講義内で設問が出されるので、学生はその設問に対して論述を作成してもらう。課題の作成には講義後半の20〜30分程度を予定している。講義内容をきちんと理解しているか、講義内容を踏まえて自身の見解を論理的に提示できているか、といった点を評価する。そして次の回の講義において、前回提出の課題についてフィードバックすることを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	「イスラーム世界」とは何か？
第2回	聖典『クルアーン』の世界	イスラームにおける『クルアーン』の内容とその重要性について
第3回	イスラームの教義	六信五行などイスラームの基本的な教義について
第4回	イスラームの世界観	一神教に共通する世界観とイスラーム固有の世界観について
第5回	イスラームの誕生と共同体の成立	ムハンマド、正統カリフ時代におけるイスラーム共同体の拡大過程について
第6回	イスラーム共同体の分裂	第一次内乱から世襲王朝ウマイヤ朝成立に至る過程と歴史的意義について
第7回	第二次内乱と神のカリフ	ウマイヤ朝半ばに生じたカリフのあり方をめぐる争いについて
第8回	アッバース朝とカリフ権力	アッバース朝初期におけるカリフ権力確立の模索について
第9回	イスラーム法とスーフィズム	アッバース朝半ばにおけるイスラーム法とスーフィズムの確立・展開について
第10回	西方のイスラーム王朝	北アフリカ・イベリア半島におけるイスラーム諸王朝について
第11回	イスラーム世界とキリスト教世界	地中海を介した交易や十字軍における中東・ヨーロッパ世界の接触について
第12回	モンゴルとイスラーム	アッバース朝滅亡後の歴史的展開について
第13回	イスラーム世界と第一次世界大戦	オスマン帝国と第1次世界大戦後の国際社会について
第14回	総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業では西アジアだけではなく、ヨーロッパや、時に中央アジア・南アジアにかけての広い地域の歴史を対象とするため、聞きなれないカタカナの固有名詞が色々と出てくる。次回授業に関するキーワードを示すので、それについて調べて理解を深めることが予習となる。また、毎回のペーパーについて振り返り再検討を試みることが復習となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しない。

【参考書】
菊地達也編著『図説イスラム教の歴史』河出書房新社、2017
佐藤次高『イスラーム世界の興隆』中公文庫、2008
佐藤次高・鈴木董編『都市の文明イスラーム』講談社現代新書、1993
鈴木董編『パクス・イスラミカの世紀』講談社現代新書、1993
その他、授業資料にて随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
レポート（50%）と毎回の授業終了後に提出する課題（50％）で評価する。
授業で学習した知識を材料に、論理的に私見を述べられているか、という点を基準に評価する。
レポート作成要領を5月中に配布するので、そちらに基づいて計画的にレポート作成に取り組むこと。
毎回提出される課題に素点を付し、学期終了時に課題合計点を成績評価の50％に換算する。
また、学期末のレポートの点数を成績評価の50％に換算する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
毎回の授業資料は学習支援システムから配布し、授業は配布資料をモニターに映しておこなう予定です。手元で授業資料を見ながら受講したい場合は、各自で配布資料を印刷して持ち込むか、あるいはPDFファイルを閲覧できるPCやスマホ等を用意してください。なお、配布資料はノート代わりに書き込めるよう、余白を多めにして作成します。

【その他の重要事項】
上記の内容は状況の変化等によって変更される可能性があります。その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知します。受講予定者は正式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておくこと。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, we aim to acquire basic knowledge about the religion of Islam so that each student can understand the various ways of the Islamic world without being confused by existing prejudices.
【Learning Objectives】
Students are expected to acquire a basic knowledge of the religion of Islam and, based on that knowledge, to understand the religion of Islam and the diversity of Muslims. By the end of course, students are expected to acquire the basic knowledge necessary to think independently about the complex issues related to the Islamic world today from a broad and unbiased perspective.
【Learning activities outside of classroom】
The key words related to the next class will be presented in class, so researching and deepening your understanding of them will serve as preparation. Reviewing and re-examining each paper will also serve as a review. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Written exam at the end of the semester (60%), paper to be submitted in each class (40%)
Students are allowed to look at the materials in the exam.
The evaluation will be based on whether the students are able to express their personal opinions logically using the knowledge learned in the class.

HIS200BA（史学 / History 200）

イスラム世界論 II

松本　隆志

授業コード：A3812　｜　曜日・時限：金2/Fri.2
秋学期授業/Fall・2単位　｜　配当年次：2〜4年

その他属性：〈他〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期の「イスラム世界論I」では、イスラーム世界の信仰と歴史を中心に解説するが、この授業では、現代のイスラーム世界の諸側面に焦点を当てる。18世紀以降、イスラーム世界では近代化（＝西洋化）の波にさらされる中で、近代社会とイスラームをいかに接続させるか試行錯誤してきた。その営みは21世紀の現在もなお進行中である。この授業では、メディア等で取り上げられるイスラームの諸トピックについて、その歴史背景も含めた理解を促し、一般的なイスラーム認識を相対化する視座を提供することを目指す。

【到達目標】
この授業は、イスラーム世界の歴史や文化、そして宗教に関する基礎的知識を提供し、それらの知識に基づきイスラーム、そしてムスリム（イスラーム教徒）の多様性を理解することを目的とする。学生には、広い偏りのない視野で、現代の複雑なイスラーム世界に関する諸問題を自分の頭で主体的に考える能力を獲得してもらうことを目指してもらう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業では、現代のイスラーム世界を理解する上で欠かせないイスラーム世界の諸側面について、毎回テーマを定めて解説をおこなっていく。各テーマについて、特に歴史的背景を重視した解説をおこなう予定である。
授業は、講師による講義と、講義内容を踏まえた課題の作成・提出から成る。毎回の課題については講義内で設問が出されるので、学生はその設問に対して論述を作成してもらう。課題の作成には講義後半の20〜30分程度を予定している。そして次の回の講義において、前回提出の課題についてフィードバックすることを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業のテーマ、および授業への取り組み方について
第2回	イスラームの基本概念	唯一神、預言者、クルアーンについて
第3回	イスラームの儀礼・行事	巡礼や祭、およびライフサイクルにおけるイスラーム的な慣習について
第4回	食をめぐる規定	ハラールとハラーム、そしてハラール認証ビジネスについて
第5回	イスラームにおける女性	イスラームにおける女性の位置付けと西洋的ジェンダー観との関係について
第6回	日本におけるイスラーム	在日・滞日ムスリムコミュニティの歴史と現状について
第7回	イスラーム法学	イスラーム法学の歴史的背景と現代での役割について
第8回	スーフィズム	スーフィズム（イスラーム神秘主義）の歴史的背景と現代での役割について
第9回	スンナ派とシーア派	イスラームの二大派閥の概要と歴史的背景について
第10回	イスラームにおける奴隷	前近代イスラーム社会における「奴隷」のあり方について
第11回	イスラームの経済倫理	「リバー」の概念を中心としたイスラーム特有の経済倫理について
第12回	イスラーム原理主義	「原理主義」の歴史的背景と現状について
第13回	現代の中東情勢	近現代中東史の文脈における「イスラム国」の経緯について
第14回	総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業では、西アジアだけではなく、ヨーロッパから東アジア・東南アジアにかけての広い地域を対象とするため、聞きなれないカタカナの固有名詞が色々と出てくる。これらの固有名詞についての理解を深めるために、参考書・工具書（各テーマごとに紹介する）を参照しながら、各回の授業の予習・復習に努めてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。毎回授業資料をHoppiiにて配布します。

【参考書】
小杉泰, 江川ひかり編,『イスラーム：社会生活・思想・歴史』, 新曜社, 2006年.
小杉泰ほか編,『大学生・社会人のためのイスラーム講座』, ナカニシヤ出版, 2018年.
菊地達也編著,『図説イスラム教の歴史』, 河出書房新社, 2017年.
その他、授業中に各テーマに適した参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
レポート（60%）と毎回の授業終了後に提出する課題（40 %）で評価します。毎回提出の課題に素点を付け、学期終了時に合計点を成績評価の４０%に換算します。
レポートについては、詳細を記した作成要領を10月中にHoppiiで配布予定です。授業で学習した内容を出発点とし、参考文献等の情報を加え、論理的に私見を述べられていることを評価します。レポートの点数を成績評価の６０%に換算します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
毎回の授業資料は学習支援システムから配布し、授業は配布資料をモニターに映しておこなう予定です。手元で授業資料を見ながら受講したい場合は、各自で配布資料を印刷して持ち込むか、あるいはPDFファイルを閲覧できるPCやスマホ等を用意してください。なお、配布資料はノート代わりに書き込めるよう、余白を多めにして作成します。

【その他の重要事項】
上記の内容は状況の変化等によって変更される可能性があります。その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知します。受講予定者は正式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておくこと。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course will focus on aspects of the modern Islamic world. Since the 18th century, the Islamic world has been exposed to the wave of modernization (=westernization), and trials and errors have been carried out on how to connect modern society with Islam. This activity is still in progress in the 21st century. In this course, we aim to promote understanding of various Islamic topics taken up in the media, including their historical background, and to provide a perspective that relativizes general Islamic perceptions.
【Learning Objectives】
This course provides students with basic knowledge of the history, culture, and religion of the Islamic world. Based on this knowledge, students are expected to understand Islamic society and the diversity of Muslims. By the end of the course, students should acquire the ability to think independently about issues related to the complex Islamic world of today from a broad and unbiased perspective.
【Learning activities outside of classroom】
The key words related to the next class will be presented in class, so researching and deepening your understanding of them will serve as preparation. Reviewing and re-examining each paper will also serve as a review. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Termend examination: 60%、 Short reports : 40%

SOC200ZA（社会学 / Sociology 200）

Race, Class and Gender I: Concepts &Issues

Daiki Hiramori

Credit(s)：2 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：2〜4
Day/Period：火3/Tue.3

その他属性：〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【Outline and objectives】
This class sees our society through the lens of race, class and gender to understand how privilege and inequality are produced, maintained, naturalized and challenged. The course will look at how various inequalities are connected to one another through examining global, national and local issues. Students will learn to analyze how race, class and gender are connected to each other as intersecting inequalities in a society and the world, and on that basis, consider the possibility of an equal but diverse world.

【Goal】
By the end of this course, students will be able to: (1) identify and describe the key concepts and main themes in the field of social inequality (remembering/understanding), (2) apply key concepts from the field of social inequality to contemporary social issues in Japan and abroad (applying), (3) compare and contrast various dimensions of social inequality (analyzing), and (4) develop and present their own ideas and perspectives on social inequality (evaluating/creating).

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method 】
S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】
This course will be based on a combination of short lectures by the instructor and student-led class discussions. Verbal and written feedback on assignments is given during class discussions and through using other tools as appropriate. Students are encouraged to visit the instructor during office hours for more personalized feedback.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】 Class form：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Foundation: "Academic Reading"	What reading strategies can help us understand academic texts in the social sciences accurately and systematically?
3	Foundation: "Inequality"	What do we mean by inequality?
4	Foundation: "Class"	How do major social scientists conceptualize social class?
5	Social Stratification in Japan	What does social stratification in Japan look like?
6	Foundation: "Race"	What are the main theoretical approaches to race?
7	Critical Race Theory	What are the key premises of Critical Race Theory?
8	Foundation: "Gender"	What are the main theoretical approaches to gender?
9	Gender Inequality in Japan	What does gender inequality in Japan look like?
10	Foundation: "Sexuality"	What are the main theoretical approaches to sexuality?
11	Sexual Orientation and Gender Identity in Japan	How to measure sexual orientation and gender identity on surveys in Japan?
12	Foundation: “Disability”	What is the social model of disability?
13	Foundation: “Intersectionality”	What is intersectionality?
14	Review &Final Exam	What have we learned in this course? Final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students are expected to complete the weekly readings and prepare for class discussion. Please note that the assigned readings for this course tend to be dense. As such, I recommend giving yourself ample time to complete them, even if the number of pages assigned at any given time appears small. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
No textbook will be used. All readings will be provided by the instructor.

【References】
Further references may be provided based on students’ areas of interest.

【Grading criteria】
Participation: 20%
Discussion facilitation: 20%
Weekly reading quizzes: 30%
Final exam: 30%

【Changes following student comments】
Students have generally evaluated the class positively. The instructor will be attentive to student feedback and adjust workload and class material, when necessary.

【Equipment student needs to prepare】
Many of our in-class activities will require access to the Internet, so please bring a laptop/tablet to every class meeting. Laptops and other devices should be used for purposes directly related to class activities; use of computers for other activities (e.g., checking emails) is non-conducive to a productive learning environment for you as well as the students sitting around you and therefore not allowed.

【Others】
Students are strongly encouraged to take "Race, Class and Gender II" after completing "Race, Class and Gender I." Students who have passed "Race, Class and Gender I" will be given admission priority to the seminar "Intersectionality: Multiple Inequalities."

【Prerequisite】
To take this class, students are expected to have passed “Introduction to Sociology" and "Introduction to Social Research Methods."

SOC300ZA（社会学 / Sociology 300）

Race, Class and Gender II: Global Inequalities

Daiki Hiramori

Credit(s)：2 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：3〜4
Day/Period：木1/Thu.1
その他属性：〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【Outline and objectives】
This class builds on what students have learned in Race, Class and Gender I to look at how inequalities are inter-connected through examining various global issues. Students will learn to analyze how race, class and gender are connected to each other as intersecting inequalities in a society and the world, and on that basis, consider the possibility of an equal but diverse world.

【Goal】
By the end of this course, students will be able to: (1) identify and describe the key concepts and main themes in the field of social demography (remembering/understanding), (2) apply key concepts from the field of social demography to contemporary social issues in Japan and abroad (applying), (3) compare and contrast various population processes and population structures (analyzing), and (4) develop and present their own ideas and perspectives on population issues (evaluating/creating).

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method 】
S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】
This course will be based on a combination of short lectures by the instructor and student-led class discussions. Verbal and written feedback on assignments is given during class discussions and through using other tools as appropriate. Students are encouraged to visit the instructor during office hours for more personalized feedback.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】Class form：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Intersectionality as an Integrative Framework for Race, Class and Gender	Reviewing what was covered in Race, Class and Gender I
3	Population Processes	What is demography? How do demographers study population processes?
4	Population Structures	What is demography? How do demographers study population structures?
5	Theories of Population	How do populations grow and shrink?
6	Fertility	What determines how many children people have?
7	Mortality	Why do people die, and how does mortality vary across populations?
8	Migration	What drives people to move from one place to another?
9	Demography of Race and Ethnicity	How do race and ethnicity shape population patterns and inequalities?
10	Demography of Gender	How do gender shape population patterns and inequalities?
11	Demography of Sexuality	How do sexuality shape population patterns and inequalities?
12	Population Issues in Japan I	Why is Japan experiencing declining fertility?
13	Population Issues in Japan II	Why is Japan experiencing rising anti-immigrant sentiment?
14	Review &Final Exam	What have we learned in this course? Final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students are expected to complete the weekly readings and prepare for class discussion. Please note that the assigned readings for this course tend to be dense. As such, I recommend giving yourself ample time to complete them, even if the number of pages assigned at any given time appears small. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
No textbook will be used. All readings will be provided by the instructor.

【References】
Further reference may be provided based on students’ areas of interest.

【Grading criteria】
Participation: 20%
Discussion facilitation: 20%
Weekly reading quizzes: 30%
Final exam: 30%

【Changes following student comments】
Students have generally evaluated the class positively. The instructor will be attentive to student feedback and adjust workload and class material, when necessary.

【Equipment student needs to prepare】
Many of our in-class activities will require access to the Internet, so please bring a laptop/tablet to every class meeting. Laptops and other devices should be used for purposes directly related to class activities; use of computers for other activities (e.g., checking emails) is non-conducive to a productive learning environment for you as well as the students sitting around you and therefore not allowed.

【Prerequisite】
To take this class, students are expected to have passed "Race, Class and Gender I."

SOC200ZA（社会学 / Sociology 200）

（GO用）Race, Class and Gender I: Concepts & Issues

Daiki Hiramori

Credit(s)：2 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：2〜4
Day/Period：火3/Tue.3
Notes：Not Available for ESOP Students. / TOEFL iBT 80以上、IELTS (Academic Module)band 6.0以上、TOEIC860以上、英検：準1級以上合格かつCSEスコアが2500点以上 ※配当年次によって前述以上のスコアが必要な場合があります。

その他属性：〈グ〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【Outline and objectives】
This class sees our society through the lens of race, class and gender to understand how privilege and inequality are produced, maintained, naturalized and challenged. The course will look at how various inequalities are connected to one another through examining global, national and local issues. Students will learn to analyze how race, class and gender are connected to each other as intersecting inequalities in a society and the world, and on that basis, consider the possibility of an equal but diverse world.

【Goal】
By the end of this course, students will be able to: (1) identify and describe the key concepts and main themes in the field of social inequality (remembering/understanding), (2) apply key concepts from the field of social inequality to contemporary social issues in Japan and abroad (applying), (3) compare and contrast various dimensions of social inequality (analyzing), and (4) develop and present their own ideas and perspectives on social inequality (evaluating/creating).

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method 】
S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】
This course will be based on a combination of short lectures by the instructor and student-led class discussions. Verbal and written feedback on assignments is given during class discussions and through using other tools as appropriate. Students are encouraged to visit the instructor during office hours for more personalized feedback.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】Class form：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Foundation: "Academic Reading"	What reading strategies can help us understand academic texts in the social sciences accurately and systematically?
3	Foundation: "Inequality"	What do we mean by inequality?
4	Foundation: "Class"	How do major social scientists conceptualize social class?
5	Social Stratification in Japan	What does social stratification in Japan look like?
6	Foundation: "Race"	What are the main theoretical approaches to race?
7	Critical Race Theory	What are the key premises of Critical Race Theory?
8	Foundation: "Gender"	What are the main theoretical approaches to gender?
9	Gender Inequality in Japan	What does gender inequality in Japan look like?
10	Foundation: "Sexuality"	What are the main theoretical approaches to sexuality?
11	Sexual Orientation and Gender Identity in Japan	How to measure sexual orientation and gender identity on surveys in Japan?
12	Foundation: “Disability”	What is the social model of disability?
13	Foundation: “Intersectionality”	What is intersectionality?
14	Review &Final Exam	What have we learned in this course? Final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students are expected to complete the weekly readings and prepare for class discussion. Please note that the assigned readings for this course tend to be dense. As such, I recommend giving yourself ample time to complete them, even if the number of pages assigned at any given time appears small. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
No textbook will be used. All readings will be provided by the instructor.

【References】
Further references may be provided based on students’ areas of interest.

【Grading criteria】
Participation: 20%
Discussion facilitation: 20%
Weekly reading quizzes: 30%
Final exam: 30%

【Changes following student comments】
Students have generally evaluated the class positively. The instructor will be attentive to student feedback and adjust workload and class material, when necessary.

【Equipment student needs to prepare】
Many of our in-class activities will require access to the Internet, so please bring a laptop/tablet to every class meeting. Laptops and other devices should be used for purposes directly related to class activities; use of computers for other activities (e.g., checking emails) is non-conducive to a productive learning environment for you as well as the students sitting around you and therefore not allowed.

【Others】
Students are strongly encouraged to take "Race, Class and Gender II" after completing "Race, Class and Gender I." Students who have passed "Race, Class and Gender I" will be given admission priority to the seminar "Intersectionality: Multiple Inequalities."

【Prerequisite】
To take this class, students are expected to have passed “Introduction to Sociology" and "Introduction to Social Research Methods."

SOC300ZA（社会学 / Sociology 300）

（GO 用）Race, Class and Gender II: Global Inequalities

Daiki Hiramori

Credit(s)：2 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：3〜4
Day/Period：木1/Thu.1
Notes：Not Available for ESOP Students. / TOEFL iBT 80以上、IELTS (Academic Module)band 6.0以上、TOEIC860以上、英検：準1級以上合格かつCSEスコアが2500点以上 ※配当年次によって前述以上のスコアが必要な場合があります。

その他属性：〈グ〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【Outline and objectives】
This class builds on what students have learned in Race, Class and Gender I to look at how inequalities are inter-connected through examining various global issues. Students will learn to analyze how race, class and gender are connected to each other as intersecting inequalities in a society and the world, and on that basis, consider the possibility of an equal but diverse world.

【Goal】
By the end of this course, students will be able to: (1) identify and describe the key concepts and main themes in the field of social demography (remembering/understanding), (2) apply key concepts from the field of social demography to contemporary social issues in Japan and abroad (applying), (3) compare and contrast various population processes and population structures (analyzing), and (4) develop and present their own ideas and perspectives on population issues (evaluating/creating).

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method 】
S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】
This course will be based on a combination of short lectures by the instructor and student-led class discussions. Verbal and written feedback on assignments is given during class discussions and through using other tools as appropriate. Students are encouraged to visit the instructor during office hours for more personalized feedback.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】Class form：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Intersectionality as an Integrative Framework for Race, Class and Gender	Reviewing what was covered in Race, Class and Gender I
3	Population Processes	What is demography? How do demographers study population processes?
4	Population Structures	What is demography? How do demographers study population structures?
5	Theories of Population	How do populations grow and shrink?
6	Fertility	What determines how many children people have?
7	Mortality	Why do people die, and how does mortality vary across populations?
8	Migration	What drives people to move from one place to another?
9	Demography of Race and Ethnicity	How do race and ethnicity shape population patterns and inequalities?
10	Demography of Gender	How do gender shape population patterns and inequalities?
11	Demography of Sexuality	How do sexuality shape population patterns and inequalities?
12	Population Issues in Japan I	Why is Japan experiencing declining fertility?
13	Population Issues in Japan II	Why is Japan experiencing rising anti-immigrant sentiment?
14	Review &Final Exam	What have we learned in this course? Final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students are expected to complete the weekly readings and prepare for class discussion. Please note that the assigned readings for this course tend to be dense. As such, I recommend giving yourself ample time to complete them, even if the number of pages assigned at any given time appears small. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
No textbook will be used. All readings will be provided by the instructor.

【References】
Further reference may be provided based on students’ areas of interest.

【Grading criteria】
Participation: 20%
Discussion facilitation: 20%
Weekly reading quizzes: 30%
Final exam: 30%

【Changes following student comments】
Students have generally evaluated the class positively. The instructor will be attentive to student feedback and adjust workload and class material, when necessary.

【Equipment student needs to prepare】
Many of our in-class activities will require access to the Internet, so please bring a laptop/tablet to every class meeting. Laptops and other devices should be used for purposes directly related to class activities; use of computers for other activities (e.g., checking emails) is non-conducive to a productive learning environment for you as well as the students sitting around you and therefore not allowed.

【Prerequisite】
To take this class, students are expected to have passed "Race, Class and Gender I."

DES300ND（デザイン学 / Design science 300）

インクルーシブデザイン

安積　伸、三浦　秀彦

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half)　｜　選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈実〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、インクルーシブデザインの考え方と手法について、実践演習を通して学びます。
世の中に流通する量産品は、健常者青年男女といった最大ボリュームゾーンのユーザーをターゲットとすることが多く、それ以外の人々は「少数ユーザー」あるいは「極端なユーザー」として、量産品のターゲットから排除される傾向にあります。しかし、排除されるユーザーの中には、障がいを持つ人、高齢者、外国人、妊婦、乳幼児とその親なども含まれています。そういった人々の抱える生きづらさは、人生の上で誰の身にも起こりえる、普遍的な問題といえるでしょう。
これまで極端なユーザーとして切り離されていた人々をリード・ユーザーとしてプロジェクトに招き、エスノグラフィカルな手法によって生活の中で直面する不具合を観察し、考察、提案、試作、改良といった全プロセスに協力を得ながら、そのユーザーにとって最適な道具を開発します。
インクルーシブなデザイン・プロセスを実践的に経験し、デザインによって人々の生活をより快適にすることを目指します。

【到達目標】
本授業では、日常生活に何らかの支障を抱える人物をパートナーとして迎え、当事者との協働を通じてインクルーシブなデザインプロセスを実践する。学生は、対話・観察・試作・検証といった一連のプロセスを通して、その人に最適化された日常生活支援機器の開発に取り組む。
またプロジェクトの始動から完成に至るまでの開発過程をビデオで記録し、ドキュメント映像作品としてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」に関連。

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
本授業は、3〜4 人によるグループワーク形式で実施する。
各班は、取材対象（協力者）となる具体的な人物を1名、プロジェクトのパートナー（リードユーザー）として招き、その人が日常生活の中で抱えている課題を観察および調査を通して分析する。
学生は、課題の精査と問題定義を行ったうえで、解決に向けたデザイン提案を試作し、パートナーからのフィードバックを反映させながら改良を重ね、最終的なプロダクトを制作する。
あわせて、こうした一連のプロセスを映像として記録し、調査―問題定義―解決案の考案―試作―フィードバック―改良―完成という流れをもつドキュメント形式のビデオ作品としてまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	課題説明 チーム分け パートナー検討
2	パートナー調査報告発表 問題抽出	生活観察・インタビュー等 アイデア検討 チュートリアル
3	問題定義	初期アイデア発表 ビデオレポート アイデア・コンセプトスケッチ制作 チュートリアル
4	第一試作テスト結果発表 問題定義の強化 改良案検討	第一試作　テスト・ビデオレポート 発表 改良案検討 チュートリアル
5	第二試作テスト結果発表 改良案検討	第二試作　テスト・ビデオレポート 発表 最終試作検討・制作 チュートリアル
6	最終試作テスト結果発表 改良案検討	最終試作　テスト・フィードバック ビデオレポート　発表 最終発表のための映像検討 チュートリアル
7	最終作品発表	ビデオ上映とデモンストレーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修生には、時間外での積極的な制作を期待します。
授業時間外に調査・試作・検証等を行い、翌週その様子を映像で発表してもらいます。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「インクルーシブデザイン」という発想　ジュリア・カセム (著), 平井康之 (監修) ホートン・秋穂 (翻訳) フィルムアート社

【参考書】
授業内で適宜指示。

【成績評価の方法と基準】
課題提出作品５０点、制作プロセスの評価を２５点、出席を２５点とします。
総合点が９０点以上をSとし、
89〜87点をA+、86〜83点をA、82〜80点をA-
79〜77点をB+、76〜73点をB、72〜70点をB-
69〜67点をC+、66〜63点をC、62〜60点をC-
60点未満をDとする。
最終作品が未提出な者は評価外とします。

【学生の意見等からの気づき】
進行・制作に関する要求があれば、随時考慮してゆきます。

【学生が準備すべき機器他】
履修学生は、パワーポイントやビデオ編集ソフトなど、事前に必要なソフトを各自のPCに入れ、習熟しておくこと。
また、ビデオ映像を撮りためておく大容量のストレージを準備する事が望ましい。

【その他の重要事項】
この授業は主に対面形式で行う。
プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で必要な知識・経験・考え方に関する指導を行う。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this class, students will learn about the concepts and methods of inclusive design through practical exercises, and aim to make people's lives more comfortable through design.
【Learning Objectives】
In this class, we invite people who have some type of difficulty in their daily lives as partners, and through the inclusive design process, we develop devices that support daily life that are optimized for that person.
In addition, we will create a documentary video of the development process of the work.
【Learning activities outside of classroom】
We expect students to actively create work outside of working hours.
We will conduct research, prototype production, verification, etc. outside of class hours, and have you present your findings on video the following week.
The standard time for preparation and review for this class is two hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on the final work (60%), process of development (20%), and attendance (20%).
The students who have not submitted their final work will not be evaluated.

DES300ND（デザイン学 / Design science 300）

インクルーシブデザイン

安積　伸、三浦　秀彦

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half)　｜　選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈実〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、インクルーシブデザインの考え方と手法について実践演習を通して学びます。
世の中に流通する量産品は、健常者青年男女といった、最大ボリュームゾーンのユーザーをターゲットとすることが多く、それ以外は少数ユーザーあるいは極端なユーザーとして量産品のターゲットから排除される傾向がありました。しかし、排除されるユーザーの中には、障がいを持つ人、高齢者、外国人、妊婦、乳幼児とその親なども含まれ、そういった人々の抱える生きづらさは、人生の上で誰の身にも起こりえる普遍的な問題といえるでしょう。
これまで極端なユーザーとして切り離されていた人々をリード・ユーザーとしてプロジェクトに招き、エスノグラフィカルな手法で生活で直面する不具合を観察し、考察、提案、試作、改良、の全プロセスに協力を得ながら、そのユーザーにとって最適な道具を開発します。
インクルーシブなデザイン・プロセスを実践的に経験し、デザインによって人々の生活をより快適にすることを目指します。

【到達目標】
本授業では、日常生活に何らかの支障を抱える人をパートナーに招き、インクルーシブなデザインプロセスを行いながら、その人に最適化された日常生活を支える機器を開発する。
また、開発プロセスをビデオ撮影し、プロジェクトの始動から完成までのドキュメント映像作品を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業は、３～４人のグループワークで行う。
各班、デザインを行う対象として具体的な人物を一名、プロジェクトのパートナー（リードユーザー）として招待し、そのパートナーの抱える日常的な問題を観察・調査の中から精査し、問題解決を図るためのデザイン提案を試作、パートナーにフィードバックをもらいながら改良を重ね、最終的なプロダクトを制作する。
また一方で、この一連のプロセスをビデオに収め、調査 - 問題定義 - 解決方の考案 - 試作 - フィードバック - 改良 - 完成、という流れをもったビデオ作品として仕上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	課題説明 チーム分け パートナー検討
2	パートナー調査報告発表1	生活観察・インタビュー等
3	パートナー調査報告発表2	生活観察・インタビュー等
4	問題抽出	アイデア検討 チュートリアル
5	問題定義1	初期アイデア発表 ビデオレポート アイデア・コンセプトスケッチ制作 チュートリアル
6	問題定義2	初期アイデア発表 ビデオレポート アイデア・コンセプトスケッチ制作 チュートリアル
7	第一試作テスト結果発表	第一試作　テスト・ビデオレポート発表
8	問題定義の強化 改良案検討	改良案検討 チュートリアル
9	第二試作テスト結果発表	第二試作　テスト・ビデオレポート発表
10	改良案検討	最終試作検討・制作 チュートリアル
11	最終試作テスト結果発表	最終試作　テスト・フィードバック ビデオレポート　発表
12	改良案検討	最終発表のための映像検討 チュートリアル
13	最終作品発表1	前半チームのビデオ上映とデモンストレーション
14	最終作品発表2	後半チームのビデオ上映とデモンストレーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修生には、時間外での積極的な制作を期待します。
授業時間外に調査・試作・検証等を行い、翌週その様子を映像で発表してもらいます。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「インクルーシブデザイン」という発想　ジュリア・カセム (著), 平井康之 (監修) ホートン・秋穂 (翻訳) フィルムアート社

【参考書】
授業内で適宜指示。

【成績評価の方法と基準】
課題提出作品70点、制作プロセスの評価を20点、出席を10点とします。
ただし、全体で4コマ以上の欠席および連続3コマ欠席の受講生は成績評価対象外とし、遅刻は2回で1回の欠席扱いとします。欠席一回につき－4点、遅刻-2点（ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない。）加えて、最終作品が未提出な者も評価対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】
進行・制作に関する要求があれば、随時考慮してゆきます。

【学生が準備すべき機器他】
履修学生は、パワーポイントやビデオ編集ソフトなど、事前に必要なソフトを各自のPCに入れ、習熟しておくこと。
また、ビデオ映像を撮りためておく大容量のデータストレージを準備する事が望ましい。

【その他の重要事項】
この授業は主に対面形式で行う。
プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で必要な知識・経験・考え方に関する指導を行う。

【Outline (in English)】
This project-based learning program focuses on the theme of Inclusive Design.　Most mass-produced products are designed to focus on non-handicapped adults to maximize economic efficiency, however the experience of other users such as the older generation, young children and people with disabilities are often not considered enough.　In this project, actual users of these categories are invited to help us find the difficulties they face, and students will develop problem-solving concepts through an ethnographic approach and design actual products for optimal results.

ART200GA（芸術学 / Art studies 200）

社会と美術

平野　真弓

配当年次／単位：1〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：受講希望者が1000人を超えた場合、抽選を行います。抽選方法については学習支援システムを通じて連絡しますので、よく確認をしておいてください。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際文化学部基幹科目「社会と美術」は、普段接する機会の少ない、先進的な表現領域に対する理解を深めるための入門的な授業です。この講義では、特に21世紀以降に関心を集めている社会と芸術との関係に焦点を当て、パフォーミング・アーツ、音楽、建築などの表象の世界の様々な事例を参照し、社会と芸術の接点や関係性について探求します。
本授業は、「近現代美術の歴史と理論」と「現代社会の課題と美術」という2つのテーマで構成されており、各領域のキーワードからそれぞれの課題や問題を検討、議論します。
第一部　「近現代の芸術史と理論」では、18世紀以降から21世紀までの美術史と理論を包括的に学び、芸術表現の変遷とその背後にある思想や理論を探求します。
第二部　「現代社会の課題と美術」では、社会や時代を映す鏡としての芸術表現と現代社会との関係について具体例を交えながら学びます。21世紀以降に注目されている社会と芸術との関係を扱ったアートの世界に焦点を当てていきます。

【到達目標】
近現代の美術史と現代社会と美術に関する課題の事例を紹介していきます。近現代美術史の基本を理解すること、各時代の社会的課題と芸術との関連を見いだすことがこの講義の目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
オンデマンド方式により授業を行います。
授業当日の流れ（重要）
1.　指定された公開日に、Google Classroomにその日の学習内容を掲載した資料（Google sites）のリンクを掲載する。
2.　資料を見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
3.　サイト内に小テストや授業内レポートのリンク（Google Forms）が掲載されているので、回答して提出する。
4.　授業内容に関する質問については、Google Formsに書き込んでおくと回答します。
授業の方法
　授業時間になるとGoogle Classroomを通じて受講に必要なリンク先や課題の提出について公開します。公開したウェブサイトに授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、40‐ 60分程度）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは年度末まで公開しておきます。
課題
　受講後、Google Formsで課題（小テストと簡単なレポート）を提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。
質問・相談
　一般的な質問や相談についてはGoogle Classroomのチャット機能を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容について、進め方と方法、評価方法と基準
第2回	近代美術の誕生 古典主義、ロマン派、写実主義、印象派	近代の始まりと芸術運動に関する講義を行います。近代は、市民革命と産業革命によってその幕が開けられました。この時期の重要な出来事や社会の変遷が、芸術にも深い影響を与えました。市民革命によって生まれた新しい社会秩序や価値観、そして産業革命による技術の進化が、芸術家たちに新たな表現の手段を提供しました。古典主義、ロマン主義、写実主義、印象派などの芸術運動は、単なる美的表現にとどまらず、社会の変動や文化の転換を反映し、近代というコンセプトを徐々に体現していきます。授業では、これらの芸術運動を通して、近代社会の多様性や複雑性に迫り、芸術が社会と相互の作用について学んでいきます。
第3回	アバンギャルドの時代Ⅰ フォービズム、表現主義、キュビズム	印象派以降のフォービズム、表現主義、キュビズムを中心に、第一次世界大戦前の芸術運動の流れについて学びます。画家たちはより自由な表現を求めて様々な実験を始めます。フォービズムは色彩や筆触を強調し、視覚的な効果を追求しました。表現主義は主観的な感情の表現に力点を置きました。また、キュビズムは立体的視点から物体を捉える手法についての実験をしました。ポスト印象派と呼ばれた画家のゴーギャン、ゴッホ、セザンヌは、印象派以降のこれらの20世紀の前衛芸術運動に大きな影響を与え、新しい視点やアプローチを提示しました。授業ではこれらの芸術運動に関する理解を深め、背後に潜むアイディアや文化的な文脈にも焦点を当てて学んでいきます。
第4回	アバンギャルドの時代Ⅱ 未来派、ダダイズム シュルレアリズム、ロシア構成主義、バウハウス	第一次世界大戦前後のアバンギャルド芸術運動（前衛芸術）である未来派、ダダイズム、シュルレアリズムについて、またロシア革命前後のロシア構成主義とシュプレマティズムについて学びます。この時代登場した芸術運動は、現代アートの基となるコンセプチュアルな発想や、パフォーマンスやインスタレーションの原型となるような新しいアイディアが登場します。
第5回	ワークショップ1 単元の復習とワークショップ	近代美術の誕生、アバンギャルドの時代Ⅰ、アバンギャルドの時代Ⅱの復習及びワークショップを行います。

第6回	第二次世界大戦と戦後アメリカ美術 抽象表現主義、ネオダダ、ポップアート	第二次世界大戦により、ヨーロッパ各地は大きなダメージを受け、芸術の中心地としての地位をアメリカに譲ることとなりました。アメリカではその経済力を背景に、現代芸術の躍動的な拠点となり、さまざまな芸術運動が登場します。抽象表現主義、ネオダダ、ポップアート、ミニマル、コンセプチュアルアートなど、アメリカを中心として登場した芸術運動に加え、アンフォルメル、ヌーボー・レアリズム、アルテ・ポーヴェラなどヨーロッパの動向についても学びます。
第7回	1960年代の市民運動と新しい動向 フルクサス、パプニング、ビデオアートミニマリズム、コンセプチュアルアート、ランド・アート、アルテ・ポーヴェラ	1960年代になるとアフリカ系アメリカ人公民権運動、ベトナム反戦運動、女性解放運動、LSDを使った平和を訴えるフラワーパワージェネレーションなどの市民運動が盛んになります。1960年代の芸術シーンでは、伝統的な絵画や彫刻に留まらず、さまざまな新しい表現手法が登場しました。物質生よりも思想や概念に焦点を当てたミニマルアートやコンセプチュアルアート、ハプニングやパフォーマンスアートは身体や行為を介して会への関与をするなど、新しい芸術の動向が登場します。
第8回	多文化の時代 ポストミニマリズム、新表現主義、関係性の美術 、ソーシャリー・エンゲージドアート	1989年にベルリンの壁が崩壊して東西ドイツの境界線がなくなり、さらに東ヨーロッパ全体が消滅、冷戦構造が終焉を迎えます。東西対立の時代からアフリカやアジア、南米などを含んだ多文化の時代に移行します。アートの世界でも、1980年代以降アメリカやヨーロッパ中心からグローバルな考え方が一般的になります。アメリカのコマーシャリズムにより生まれた新表現主義の時代を経て、ミレニアム前夜にイギリスとヨーロッパで発生した二つのムーブメント、ヤング・ブリティッシュ・アーティスト」（YBA）とリレーショナルアートについての理解を深めます。21世紀に入り、芸術はますます社会に関与する方向へと進化しています。ソーシャリー・エンゲージド・アートやソーシャル・プラクティスといった社会に関与する芸術運動が盛んになっています。
第9回	ワークショップ2 ・単元の復習とワークショップ	戦後アメリカ美術、1960年代／市民運動と新しい動向、多文化の時代の講義内容に関する確認をします。
第10回	政治とアート 退廃芸術展と大ドイツ展、戦争画、東日本大震災とアート、表現の不自由展	第二次世界大戦前には社会主義国のソビエト連邦が国家となり、ドイツにはナチス党が台頭しました。戦争に至る思想統制の中、これらの国々の自由な芸術の精神は、弾圧を受けることになります。ベルリンの壁崩壊以降のアートの動きや近年の表現の自由をめぐる論争、文化政策の変化など、政治とアートについてプロパガンダ、社会主義リアリズム、ヨーゼフ・ボイスの社会彫刻、表現の不自由展などの具体的な事例を通じて、アートが政治的な状況にどのように対応し、影響を与えてきたのかについて理解します。
第11回	ジェンダーとアート	社会的・文化的な性区別を指す「ジェンダー」、性的マイノリティ（性的少数者）を表す総称である「LGBTQ」についての言及は一般的になってきていますが、現在でもジェンダーフリーや性的マイノリティの自由は十分に実現されていません。こうした課題に芸術が関与し、社会的な枠組みを拡大し、偏見や差別に対抗するための意識を喚起する役割を担い、社会が自由を獲得するためのプロセスについて考えます。
第12回	環境とアート	私たちは古くから自然を観察し、芸術作品の主題としてきました。自然が提供する様々な風景や生態系は、画家や彫刻家などのアーティストにとって永遠のインスピレーション源となっています。また、19世紀の自然主義の考え方や、近年のランドアートの試みなど、自然は芸術において重要な役割を果たしてきました。しかし、近年では地球規模での環境問題が深刻化し、私たちは自然との関係性を再評価せざるを得なくなっています。地球の温暖化、生態系の破壊、資源の枯渇など、環境問題は私たちの生活に直接関わるものとして認識されるようになりました。地球温暖と関連するエネルギー問題は、世界の大きな課題となっており、日本においては東日本大震災をきっかけとした自然災害と原発問題が今でも続いています。 アートの世界では環境問題への関心を高め、作品を通じて社会に対話を呼びかけます。アートを通じた環境問題へのアプローチは、単なる美的な観点だけでなく、社会的な意識を喚起し、持続可能な社会を喚起します。
第13回	感染症の時代	2020年以降、私たちは新型コロナウィルス感染症の拡大という未曾有の状況に直面しました。現在では、私たちにとってパンデミックはすでに少し以前にあった出来事のように感じています。過去にも天然痘、ペスト、スペイン風邪、エイズなどが世界中に大きな打撃を与えました。感染症が引き起こす社会的課題は、その時代背景や科学技術の進歩によって異なる側面を持ちます。アートはその時代の複雑な感情や社会的な変化を反映してきました。感染症の起こす社会的課題と各時代のアートが感染症をどのように表してきたのかを関連づけて学びます。
第14回	ワークショップ3 単元の復習、ワークショップ	14回の講義について振り返り、芸術と社会の問題についてディスカッションをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google sitesで配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。

本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google sitesを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】
山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019年
デイヴィッド・コッティントン（著者）、松井 裕美（翻訳）『現代アート入門』名古屋大学出版会、2020年
『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定1・2・3級公式テキスト』美術出版社、2014年
『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、2016年
『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2022年

【成績評価の方法と基準】
成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。
1.　平常点（50%）
2.　課題とレポート（50%）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のためにGoogle classroomを使いますが、履修に関する情報については学習支援システムを併用しますので、よく確認しておいてください。

【その他の重要事項】
受講希望者が1000人を超えた場合、抽選を行います。抽選方法については学習支援システムを通じて連絡しますので、よく確認をしておいてください。
実務経験のある教員による授業
平野真弓はフィリピン・マニラ在住のキュレーター・リサーチャーです。フィリピンを中心に東南アジアの展覧会史やキュレーションにまつわる思想や実践方法を研究しています。実践と研究活動で得た知識と経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】
Course outline
"Society and Art" is an introductory lecture that will allow you to see and think about the new world of expression that you rarely come into contact with. In particular, we will focus on the world of art, which deals with the relationship between society and art, which has been attracting attention since the 21st century. You will also learn about the points of contact between society and art and their relationships by referring to various examples of performing arts such as theatre, music, and the world of representations such as architecture. Focusing on the two themes of "art history and theory" (first half) and "society and art" (second half), we will examine and discuss each issue and problem from the keywords of each area.
1. Art history and theory Learn about the history and theory of modern and contemporary art from the 18th to 21st centuries, which is the basis for learning about society and art.
2. Society and art Learn about the relationship between media as a mirror that reflects society and the times and artistic expression, with concrete examples.
Learning Objectives
Introducing familiar examples of art history, contemporary society and art from the past to the present. This lecture aims to understand the workings of art history and to find universal and social issues from familiar problems.
Learning activities outside of the classroom
The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy
Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.
1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)
See rubrics for specific assessment guidelines.
Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

GDR200GA（ジェンダー / Gender 200）

ジェンダー論

佐々木　一惠

配当年次／単位：1〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多様性に富むグローバルな文化・社会を理解する上で、ジェンダーは重要な視点の一つです。この授業では、文化的・社会的な性の有り様としてのジェンダーが、歴史的にどのように構築されまた変化してきたかを、言説という概念を軸に考えていきます。そこから、自文化ならびに異文化について、ジェンダーの視点を通じて、より多角的な分析と理解ができるようになることを目指します。

【到達目標】
１．ジェンダー研究における基礎的概念を理解できるようになる。
２．言説分析の基本的な方法論を習得し、ジェンダーに関連する諸問題について、基礎的な言説分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
【重要なお知らせ】初回の授業はオンデマンドで実施し、2週目以降は対面で授業を行います。受講を希望する人は4月9日（木）までに学習支援システムでこの授業を登録してください。受講希望者が100名を超える場合は抽選を行います。受講を希望される方は、4月9日（木）に学習支援システムでアップロードされる登録希望票を記入してください。締切は4月11日（土）の午前10時です。4月12日（日）に抽選結果を学習支援システムでお知らせします。第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。
●ジェンダー研究において重要な諸概念（母性・身体・家族・セクシュアリティ・恋愛・マスキュリニティなど）を、歴史的な視点と現代日本の日常生活における視点の双方から検討していきます。
●一次資料の簡単な分析を行ってもらいます。そこから、概念・方法論の理解と実践方法を学んでいきます。
●毎回の授業の最後に出される問いに対する分析を、リアクションペーパーの形で提出してもらいます。
●提出されたリアクション・ペーパーについては、翌週の授業で複数紹介しながら講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要について
2	「男らしさ」と男性学の視点	①役割理論から、「男らしさ」を一つの「役割モデル（role model）」として考察する。 ②1980年代以降の男性学の系譜について理解する。
3	「男らしさ」と相互行為論	①＜男らしさ＞を相互行為論（アーヴィング・ゴフマンのドラマトゥルギーならびにイブ・セジウィックのホモソーシャリティ）の概念から考察する。 ②ホモソーシャリティ（男同士の絆）と国民国家・近代スポーツ・軍隊について検討する。
4	「母性」イデオロギー	①日本における国民国家形成と「母親」への役割期待の関係性、並びにその変遷について検討する。 ②高度成長期における母性イデオロギーの形成について議論する。 ③今日の日本社会における母親・母性に関する問題と、その背景について検討する。
5	性役割と「母性」	母親や母性に関する言説が、法律や政策にどのような形で影響を与えているのかを、親権並びに代理出産を事例として検討する。
6	異性愛規範とゲイ・スタディーズの視点	①近現代日本における同性愛の系譜を辿りながら、異性愛規範について考察する。 ②セクシュアリティをアイデンティティ概念から捉え、クイア・スタディーズの新たな視点について検討する。
7	性の商品化と消費	①フェミニズムにおける重要なテーマである、「性と生殖に関する自己決定権」の背景としての、近代における性規範について考察する。 ②ポルノグラフィと買売春を事例に、セクシュアリティの問題を検討する。
8	ジェンダーと身体規範	①美容整形の系譜をたどり、近現代におけるジェンダー化された身体規範と整形美容の関係について検討する。 ②「改造」できる身体という概念にもとづく美容整形をめぐる議論とその論点について検討する。
9	身体と自己アイデンティティー	「消費」という視点から、身体とアイデンティティの問題について検討する。
10	「ロマンティック・ラブ」イデオロギーと恋愛の物語性	①「恋愛」という概念がどのように日本に定着していったのかを議論する。 ②ロマンティック・ラブ・イデオロギーについて検討する。 ③「恋愛」の物語性について、ドラマなどの事例から検討する。
11	近代家族と「家庭」イデオロギー	①「近代家族」と国民国家形成との関係性について検討する。 ②「近代家族」の規範となった３つのイデオロギー（ロマンティック・ラブ、母性、家庭）について検討する。 ③「近代家族」の変容とその背景について議論する。
12	フェミニズムとジェンダー論	フェミニズムの思想的背景や展開の概略を理解し、今日におけるジェンダー論の視座を議論する。
13	今学期の授業に関する質疑応答	質問やコメントに答える。
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次週の授業に関連する基礎概念について調べておくこと。授業内容の復習を行い、課題を作成すること。なお、本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
伊藤公雄『男性学入門』（作品社、1996年）。

伊藤公雄、牟田和恵編『ジェンダーで学ぶ社会学』（世界思想社、2025年）。
千田有紀、中西祐子、青山薫『ジェンダー論をつかむ』（有斐閣、2013年）。
江原由美子、山崎敬一編『ジェンダーと社会理論』（有斐閣、2006年）。
高橋幸、永田夏来『恋愛社会学：多様化する親密な関係に接近する』（ナカニシヤ出版、2024年）。
木村涼子、伊田久美子、熊安貴美江『よくわかるジェンダー・スタディーズ』（ミネルヴァ書房、2013年）。
伊藤 公雄、樹村 みのり、國信 潤子『女性学・男性学 - ジェンダー論入門』（有斐閣、2019年）。

【成績評価の方法と基準】
リアクション・ペーパー　40　%
期末試験　　60　%
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォンやパソコン等情報機器が必要です。

【その他の重要事項】
●初回の授業はオンデマンドで実施し、2週目以降は対面で授業を行います。
●受講を希望する人は4月9日（木）までに学習支援システムでこの授業を登録してください。受講希望者が100名を超える場合は抽選を行います。受講を希望される方は、4月9日（木）に学習支援システムでアップロードされる登録希望票を記入してください。締切は4月11日（土）の午前10時です。4月12日（日）に抽選結果を学習支援システムでお知らせします。
●第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。

【Outline (in English)】
The course is designed to facilitate an understanding of culture and society from the perspective of gender and sexuality. It introduces various issues related to gender and sexuality so that students become better able to analyze their own culture as well as other cultures in a multifaceted way from the standpoint of gender.
By the end of the course, students are expected to be able to: 1) understand the basic concepts in gender studies, and 2) acquire basic methods of discourse analysis and conduct basic discourse analysis on various gender-related issues.
Students will be expected to 1) check the basic concepts related to the next class lecture, and 2) review the content of the class and work on the assignments.
The final grade will be decided by the reaction paper (40%) and the final assignment (60%).

SOS200GA（その他の社会科学 / Social science 200）

国際関係学概論Ⅰ

今泉　裕美子

配当年次／単位：1〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：教室定員を超えた場合には抽選・選抜
その他属性：〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際文化学とは国際・文化学？、国際文化・学？、それとも…？ また、「国際」とは何でしょうか。これらの問いを念頭におきながら、「国際関係」に文化からアプローチするための前提となる学びとして、「国際関係」が人（及びその集団）のいかなる“つながり”によって形成、展開してきた／いるか、またその時代ごとの特徴、そして現代世界とその諸課題の所在、分析方法について学びます。
対象時期は近代国際関係の成立から第一次世界大戦までとし、「国際関係学概論Ⅱ」の前提となる内容となります。

【到達目標】
１．国際関係の構造と動態、これを分析するうえで用いられる概念や理論について基礎的な知識をもつことができる。
２．現代国際関係の事象、問題が、複雑に絡み合った要素からできていることを認識し、しかし複雑だと等閑視するのではなく、それらが生み出された歴史的過程（通時的な視点）、同時代に起きているほかの問題や事象との関係性（共時的な視点。学際的な捉え方）から分析できる。
３．上記を踏まえ、国際関係学及び国際関係に関する諸情報の収集や批判的考察の仕方を習得し、今日生起する事象、問題について自身の意見、解決への手がかりや手立てを示すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
１．初回授業はオンラインライブで実施する予定である。受講を希望する学生には、初回授業（欠席する場合は、配布資料を読んで）のリアクションペーパーを定められた方法と期限（初回授業時及びHoppiiで通知）までに提出してもらう。受講者数を調整する必要が生じた場合は、初回授業のリアクションペーパー提出者から抽選する。
２．授業計画はテキストの目次通りの構成ではないが、授業で言及する関連個所、それ以外の部分も読んでいることを前提に進める。
３．授業ではレジュメや資料を配布することを原則とする。
４．毎回リアクションペーパーを提出してもらう。授業内でクイズやテスト、意見を聞く機会を設けることがある。授業の予習、復習のために課題を出すことがある。
５．提出物に注目すべき意見や質問があれば紹介、フィードバックし、受講生のさらなる学びにつなげる。学生の関心、理解度、国際情勢の変化に応じて、授業計画を変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の目的、授業の進め方、注意事項の説明。
2	「国際関係」とは	近代国際関係の成立、Western State Systemの特徴を理解し、現代国際関係との異同を学ぶ。
3	市民革命、国民国家の登場と国際関係①	国民国家（nation state)の成立をもたらした市民革命、「市民」、「階級」の登場による国際関係の変化と特徴を学ぶ。
4	市民革命、国民国家の登場と国際関係②	国民国家（nation state)及びnationというactorの登場による国際関係の変化と特徴を学ぶ。
5	帝国主義と国際関係①「つながる/つなげられる」	ヨーロッパの資本主義発展を原動力とする世界分割、植民地支配、人の移動がもたらした世界の一体化の特徴を学ふ。
6	帝国主義と国際関係②「へだてる/へだてられる」	世界の一体化が進んだゆえの「分断」を学び、現代世界のグローバリゼーションとの関係を理解する。
7	帝国主義と国際関係③国際関係研究への視座	当時行われた「植民地」、「帝国主義」を対象とする研究やから、国際関係認識や分析の特徴を学び、現代世界でのそれらとの関係を考える。
8	帝国主義と「民族」-実態と概念①	主権国家形成との関わりから「民族」の実態と概念を学ぶ。
9	帝国主義と「民族」-実態と概念②	帝国主義時代を基点とする国際関係の変化のなかで「民族」の実態と概念を学ぶ。
10	帝国主義と「民族」-実態と概念③	現代世界の「民族」をめぐる諸問題を踏まえて、実態と概念を整理する。
11	第一次世界大戦と国際関係①近代国際関係の再編	人類初の「総力戦」がもたらした国際関係の変化を、民族運動、社会主義運動、社会の変化を中心に学ぶ。
12	第一次世界大戦と国際関係②国際組織と安全保障	国際連盟の成立、戦争の違法化、安全保障を中心に学ぶ。
13	第一次世界大戦と国際関係③植民地支配体制の再編	委任統治制度を中心に学ぶ。
14	春学期の授業の総括	授業の要点と国際関係学の視点と方法の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
１．配布するレジュメや資料を読み、テキストや参考文献で予習、復習を行うこと。
２．関心があることを1つ持って授業に準備をする（SA先や卒業研究に関連すること、ゼミの専門分野など）。
３．予習、復習それぞれ2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】
百瀬宏『国際関係学』東京大学出版会、1993年。

【参考書】
百瀬宏『国際関係学原論』岩波書店、2003年。
岩田一政他編『国際関係研究入門【増補版】』東京大学出版会、2003年。
梅棹忠夫監修、松原正毅他編『世界民族問題事典　新訂増補版』平凡社、2002年。
川田侃他編『国際政治経済辞典　改定版』東京書籍㈱、2003年。
その他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】
１．毎回提出を求めるリアクションペーパー、授業内で適宜実施するクイズ、課題への提出物の内容を総合して50%。セメスター末の試験50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とする。
２．提出物について指示した期限、提出先を守らない場合、また、やむを得ない事情（対象となる事情や証明資料の提出は定期試験のルールに則る。ただし証明資料を提出しない場合は認めない。）によらない理由で提出しない場合は、未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーに出された質問、その時々の国際情勢を反映させた授業が好評であったため、これを継続する。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインライブで授業を行う場合は、パソコンやタブレットなどの通信機器、安定的な接続、通信容量に制限がない環境を各自で準備する。

【その他の重要事項】
１．テキストは常に手元に置き、予習・復習以外にも読み進めること。
２．授業の２回目以後は対面授業を行うが、予告したうえでオンライン授業の回を設ける可能性もある。
３．Hoppiiの授業情報、通知などを随時、確認すること。教員と連絡をとる場合はTAを通じて行う。
４．リアクションペーパーを含む提出物において、他人や生成系AIが作成した文章をあたかも自分が作成したかのようにみせかけたりして用いることは認めない。

【Outline (in English)】
This is an introductory course to understand and analyze the issues and problems of international relations. This course deals with major concepts, theoretical frameworks, dynamics, and structure of international relations in historical context. This course also introduce how International Study has been conducted based on people's perspectives on international relations. The focus is on from the Peace of Westphalia to World War I.
It is strongly recommended that this course be taken before taking "Introduction to International Study II".
【Learning Objectives】
Students will be able to
１．Understand the origins and evolution of the international relations with key concepts and theories of International Studies.
２．Develop a critical thinking about some issues in contemporary world and analyzing them thorough understanding of International Studies as an academic discipline.
【Learning activities outside of classroom】
The standard time required for preparatory study and review for this class are 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
1. Reaction Papers, Quizzes and Small Assignments during the semester:50%
2.Term-end Examination or Report（The details will be informed later）:50%

SOS200GA（その他の社会科学 / Social science 200）

国際関係学概論 II

今泉　裕美子

配当年次／単位：1〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：教室定員を超えた場合には抽選・選抜
その他属性：〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際文化学とは国際・文化学？、国際文化・学？、それとも…？ また、「国際」とは何でしょうか。これらの問いを念頭におきながら、「国際関係」に文化からアプローチするための前提となる学びとして、「国際関係」が人（及びその集団）のいかなる“つながり”によって形成、展開してきた／いるか、またその時代ごとの特徴、そして現代世界とその諸課題の所在、分析方法について学びます。
対象時期は第二次世界大戦から現在までとし、「国際関係学概論Ⅰ」の内容を前提に進めます。

【到達目標】
１．国際関係の構造と動態、これを分析するうえで用いられる概念や理論について基礎的な知識をもつことができる。
２．現代国際関係の事象、問題が、複雑に絡み合った要素からできていることを認識し、しかし複雑だと等閑視するのではなく、それらが生み出された歴史的過程（通時的な視点、学際的な捉え方）、同時代に起きているほかの問題や事象との関係性（共時的な視点。学際的な捉え方）から分析できる。
３．上記を踏まえ、国際関係学及び国際関係に関する諸情報の収集や批判的考察の仕方を習得し、今日生起する事象、問題について自身の意見、解決への手がかりや手立てを示すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
１．授業計画はテキストの目次通りの構成ではないが、授業で言及する関連個所、それ以外の部分も読んでいることを前提に進める。
３．授業ではレジュメや資料を配布することを原則とする。
４．毎回リアクションペーパーを提出してもらう。授業内でクイズやテスト、意見を聞く機会を設けることがある。授業の予習、復習のために課題を出すことがある。
５．提出物に注目すべき意見や質問があれば紹介、フィードバックし、受講生のさらなる学びにつなげる。学生の関心、理解度、国際情勢の変化に応じて、授業計画を変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の目的、授業の進め方、注意事項の説明。「国際関係学概論Ⅰ」との関連を説明。
2	第二次世界大戦と国際関係	ヴェルサイユ・ワシントン体制の崩壊から第二次世界大戦に至る過程、第二次世界大戦の特徴を学ぶ。
3	第二次世界大戦の終結と国際関係①	国際連合、人権を重視する諸政策、戦争責任をめぐる国際法の変化を中心に、国際関係の特徴を学ぶ。
4	第二次世界大戦の終結と国際関係②	信託統治制度の創設、新植民地主義につながる国際関係の特徴を学ぶ。
5	冷戦と国際関係①―冷戦の始まり	冷戦の定義、IMF・GATT体制、冷戦的思考など冷戦体制の特徴、これらを対象とする戦後国際関係研究の特徴を学ぶ。
6	冷戦と国際関係②―核開発と管理	核管理をめぐる東西両陣営の対応、核抑止力を機能させえた核実験の実態を学び、現在に続く核と「平和」の関係を考える。
7	冷戦と国際関係③－植民地独立への介入と「熱戦」	中華人民共和国の成立、植民地独立の動きに米ソが介入した「熱戦」を中心に、国際関係の特徴を学ぶ。
8	冷戦体制の浸蝕と国際関係①―第三世界の台頭と南北問題	A・A会議、非同盟運動、新国際経済秩序など第三世界の動き、南北問題をめぐる「開発」と「発展」の問い直しを中心に、国際関係の特徴を学ぶ。
9	冷戦体制の浸蝕と国際関係②―南北問題の”解決”をめぐって	「南」から提起された「開発」、「発展」の問い直しと「平和」概念の変化を学び、現代国際関係にて多用されるようになった「グローバルサウス」概念との関係を学ぶ。
10	冷戦体制の浸蝕と国際関係③―米ソ関係及び東西両陣営内の変化	キューバ危機を契機とする核軍縮への動き、東西両陣営内の亀裂を中心に国際関係の特徴を学ぶ。
11	冷戦体制の崩壊と国際関係	新冷戦から冷戦体制の崩壊過程を崩壊後に持ち越された問題を中心に学ぶ。
12	ポスト冷戦体制とグローバリゼーション	ポスト冷戦体制の国際関係を、新自由主義に基づく市場経済の拡大、世界各地で激化したかにみえる「紛争」、「9.11」と以後続くいくつもの「戦争」、安全保障体制の変化を事例に、現代国際関係の特徴を学ぶ。
13	受講生の関心に基づくトピックス	受講生の関心に基づくトピックスを取り上げ現代国際関係への理解を深める。
14	秋学期の授業の総括	授業の要点と国際関係学の視点と方法の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
１．配布するレジュメや資料を読み込み、テキストや参考文献で予習、復習を行うこと。
２．関心があることを1つ持って授業に臨む（SA先や卒業研究に関連すること、ゼミの専門分野など）。
３．予習、復習それぞれ2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】
百瀬宏『国際関係学』東京大学出版会、1993年。

【参考書】
百瀬宏『国際関係学原論』岩波書店、2003年。
岩田一政他編『国際関係研究入門【増補版】』東京大学出版会、2003年。
梅棹忠夫監修、松原正毅他編『世界民族問題事典　新訂増補版』平凡社、2002年。
川田侃他編『国際政治経済辞典　改定版』東京書籍㈱、2003年。
その他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】
１．毎回提出を求めるリアクションペーパー、授業内で適宜実施するクイズ、課題への提出物の内容を総合して50%。セメスター末の試験50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とする。
２．提出物について指示した期限、提出先を守らない場合、また、やむを得ない事情（対象となる事情や証明資料の提出は定期試験のルールに則る）によらない理由で提出しない場合は、未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーに出された質問、その時々の国際情勢を反映させた授業が好評であったため、これを継続する。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインライブで授業を行う場合は、パソコンやタブレットなどの通信機器、安定的な接続、通信容量に制限がない環境を各自で準備する。

【その他の重要事項】
１．テキストは常に手元に置き、予習・復習以外にも読み進めること。
２．予告したうえでオンライン授業の回を設ける可能性もある。
３．Hoppiiの授業情報、通知などを随時、確認すること。教員と連絡をとる場合はTAを通じて行う。
４．リアクションペーパーを含む提出物において、他人や生成系AIが作成した文章をあたかも自分が作成したかのようにみせかけたり、あるいは、前後関係や語句を若干変更して用いたりすることは認めない。
５．「国際関係学概論Ⅰ」未受講者も受講可能であるが、「国際関係学概論Ⅰ」既習を前提に進める。未受講者はⅠのシラバスを参照し、テキストや参考書の関係個所を読んで受講することを強く推奨する。

【Outline (in English)】
This is an introductory course to understand and analyze the issues and problems of international relations. This course deals with major concepts, theoretical frameworks, dynamics, and structure of international relations in historical context. This course also introduce how International Studies has been conducted based on people's perspectives on international relations. The focus is on from World War II to today. "Introduction to International Studies I" is highly recommended for those who take this course.
【Learning Objectives】
Students will be able to
１．Understand the origins and evolution of the international relations with key concepts and theories of International Studies.
２．Develop a critical thinking about some issues in contemporary world and analyzing them thorough understanding of International Studies as an academic discipline.
【Learning activities outside of classroom】
The standard time required for preparatory study and review for this class are 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
1. Reaction Papers, Quizzes and Small Assignments during the semester:50%
2.Term-end Examination or Report（The details will be informed later）:50%

HUM200GA（その他の人文学 / humanities 200）

国際文化協力

松本　悟

配当年次／単位：1〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：100名前後が望ましい

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では国際文化論の観点から国際協力の基礎を学ぶものである。具体的には国際協力の歴史や仕組み、国際協力が文化に及ぼす影響、文化面の国際協力のあり方について知識を習得するとともに、それらを用いて論理的に考える力を養うことを目的とする。基幹科目なので、１、２年生には、専攻科目や演習で更に深めたい学問領域やテーマを見つける機会にして欲しい。

【到達目標】
（1）国際文化論および国際協力についての基礎的な知識を身につける。
（2）国際協力と文化を結びつけて論理的に事象を分析できる。
（3）「技術と文化」「開発コミュニケーション」「文化遺産保護」「難民」「パブリックディプロマシー」などに授業で扱うテーマついて説明できる。
（4）基幹科目としてアカデミックスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
■基本方針：対面で実施するが、学内業務の関係でオンデマンドを使用することもある。
■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。
■授業後課題：2回に1回程度課す。基幹科目なのでアカデミックスキルを高めることを目的とし、200字〜800字程度で書いてもらう。提出期限は授業日から3日以内。授業冒頭で課題への全体コメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション―国際文化協力とは―	この授業の狙い、進め方、国際文化協力の概論。リアルタイムオンライン授業で行い、履修希望者数を確認する。
2	技術と文化	川の水を煮沸せずに飲む行為を通して技術と文化について考える
3	普及とコミュニケーション	受け入れ「させる」ことをどう考えるか
4	協力される側だった日本	明治時代のお雇い外国人と「抵抗」を考える
5	日本への技術移転	贈与・交換・支配・互酬と国際協力
6	文化の受容と抵抗	文化接触（アカルチュレーション）から文化の受容を考える
7	文化財を守るとは	明治時代の日本で文化財をなぜ守るようになったのかを考える
8	国際的な文化財保護までの道のり	戦利品としての略奪と返還運動から文化財の国際的な捉え方の変化を考える
9	人類の遺産	世界遺産という発想はどこからきたのかを考える
10	政府開発援助（ODA）と文化協力	パブリックディプロマシーやソフトパワーについて考える
11	国際協力と想像力―期末レポートに向けて	期末レポートの課題文献とこの授業の繋がりを講義する
12	国際人権	文化要素としての人権について難民を例に「民権」との違いから考える
13	市民としての国際文化協力	日本の地域での難民受け入れを通して同化と社会的統合について考える
14	私と国際文化協力	担当教員の実務経験を踏まえて国際文化協力の授業での学びを再構成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業後課題は、法政大学の図書館HPのデーターベース等から文献を検索して論じるなど、大学生に必要な調査と思考を促すものである。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
以下の本は、複数回の授業の参考文献であるとともに、期末レポートの課題文献となる。到達目標４に関係している。各自入手すること。
松本悟・佐藤仁編著（2021）『国際協力と想像力―イメージと「現場」のせめぎ合い』日本評論社。

【参考書】
毎回の講義に関連する参考文献はその都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・授業後課題への回答などの平常点50%、期末レポート50%。
・授業後課題は設問に200字〜800字程度で答えるもので、カッコ内の場合は減点となる（例：設問や指示に的確に答えていない、極端に短い、文章として辻褄が合わない）。
・期末レポートは、授業で学んだ内容を踏まえて、課題文献を分析するもので、知識を問うものではない。
・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
・短い文章や期末レポートの書き方の説明が役に立ったという声が多いので継続する。
・学生から提出された授業後課題の答案に対して、個々人へのフィードバックを求める声があるが、履修者が多いためそれは不可能。また、労力の割に、それを活かそうと考えている学生が多いわけではない。したがって、提出された答案をもとに次の授業の冒頭でフィードバックし、それを各自が自分の答案に当てはめて自己分析してもらっている。自己採点能力も重要な力である。
・学習支援システムの「掲示板」を使って常時質問を受け付けている。
・授業後課題はコロナ禍では毎回出していたが、負担の大きさに鑑みて、現在では学期中に5〜6回にしている。受講者からは、大学でのレポートの書き方やデータベースの使い方が身についたと好評である。
・毎回グループ討議と発表を取り入れ、教員がフィードバックをする。単に学生が意見を言うだけでなく、それをもとに教員とやり取りを行うことで考えが深まると、学生から好評。

【学生が準備すべき機器他】
・教科書は春学期の前半（5月末頃）までには入手しておくこと

【その他の重要事項】
NHK記者や、開発協力分野のNGOとして実務に関わってきた教員が、その経験を事例として取り上げながら講義やコメントをする。

【Outline (in English)】
【Course outline】
What is international cooperation from the perspectives of intercultural studies? It should covers impacts of inter-national cooperation on cultures, inter-cultural cooperation or inter-national cooperation in cultural fields. By the end of this course, students will understand those aspects of cooperation beyond the national borders and will be able to analyze them logically.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students are expected to;
1) acquire the basic knowledge on intercultural studies and international cooperation.
2) be able to analyze the issues in associating international cooperation and culture.
3) understand the key concepts of "technology and culture", "development communication", "protection of cultural heritage", "refugees" or "public diplomacy".
4) acquire and be able to apply the academic skills to write a short or term paper.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (50%) and a term-end report (50%).

SOC200GA（社会学 / Sociology 200）

宗教と社会

佐々木　一惠

配当年次／単位：1〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：150名（超えた場合は、選抜の可能性あり）
その他属性：〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
異文化理解において、宗教は重要な要素の一つです。この授業では、宗教というレンズを通して、過去そして現在における社会の諸問題を検討していきます。宗教と社会の関係を、格差・開発・ジェンダー・ナショナリズム・国民国家・消費・紛争などの問題から捉えることで、グローバル化の進む現代社会における多様な価値観との共生のあり方について考えていきます。

【到達目標】
１．宗教と社会の関係を考えるために必要な、基本的な概念や理論を理解できるようになる。
２．宗教と社会の関係について、基本的な分析概念や理論を用いて、基礎的な事例分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
【重要なお知らせ】初回の授業はオンデマンドで実施し、２週目以降は対面で授業を行います。受講を希望する人は4月10日（金）までに学習支援システムに登録してください。受講希望者が100名を超える場合は抽選を行います。受講を希望される方は、4月10日（金）に学習支援システムからアップロードされ登録希望票を記入してください。締切は4月12日（日）の午前10時です。4月13日（月）に抽選結果を学習支援システムでお知らせします。第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。
●歴史学・人類学・社会学・政治学において、宗教がどのように分析されてきたかを概観するとともに、具体的な諸事例から、宗教と社会の関係性とその多元性について議論していきます。
●毎回、授業の最後に出される問いに対する分析を、リアクションペーパーの形にまとめて提出してもらいます。
●提出されたリアクション・ペーパーについては、翌週の授業で複数紹介しながら講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	宗教とはなにか	この授業の目的や概略について説明する。
2	宗教を考えるためのアプローチ	近代宗教学の成立と歴史意識について概観した後、宗教を捉えるための学問が、何を問題とし、どのような過程で体系化されていったかを検討する。
3	医療技術の進歩と死生観	昨今の臓器移植・延命治療・尊厳死法案・iPS細胞をめぐる議論から、死生観と宗教・医療・国家の間の問題を、公的領域・私的領域の視点を交えながら考察する。
4	所有・貧困と宗教	宗教において、格差や貧困の問題はどのように考えられてきたのか、また格差や貧困の問題の是正を目的として、近代に出現した公的な福祉制度は、宗教における所有や貧困に対する考えや対応と、どのように関連していているのかを議論する。
5	ジェンダー・セクシュアリティと宗教	ジェンダーの視点から宗教を捉えなおすことで、宗教によって維持され権威づけられてきた男女の性差に関する規範・慣習・観念について再検討する。
6	ジェンダー・フェミニズムと宗教	慣習や伝統文化とジェンダーの問題を、宗教に関する事例から考える。そこから、近代の人間観の基盤ともなっていた合理的思考と慣習・伝統文化の規範との間の問題が、単純に近代／伝統あるいは普遍主義／相対主義の二分法で片付けられないことをみていく。
7	政治・国家と宗教	政治や国家と宗教の問題を、宗教のもつ社会的統合機能を切り口に、いわゆる「世俗主義」国家におけるナショナリズムと市民宗教について議論する。
8	紛争・暴力と宗教	社会の安寧と平和の維持を願う宗教の名の下に、なぜ暴力を行使し、紛争が発生するのか。宗教と暴力・ 紛争の問題を、宗教儀礼（供犠）、ケガレと差別、世俗化とグローバリゼーションの視点から理解を試みる。
9	消費社会と宗教	スピリチュアル（霊的なもの）と宗教との関連を、歴史的に考察すると同時に、昨今のスピリチュアル・ブームを現代の消費社会との関連から検討する。
10	グローバル化と宗教	グローバル化する世界における宗教の動態について、公的領域と私的領域の双方の視点から検討する。
11	科学・世俗化と宗教	科学と宗教の関係を、キリスト教と科学の歴史から考えるとともに、昨今の科学と宗教の間の問題を、進化論と生殖医療に関する問題から検討する。
12	社会思想と宗教	ポスト・コロニアリズムの視点から宗教についてのアプローチを考える。
13	今学期の授業に関する質疑応答	質問やコメントに答える。
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業の復習を行い、リアクション・ペーパーで書いた問題点や疑問点などについて各自掘り下げて検討して下さい。
なお、本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
○井上順孝『宗教社会学を学ぶ人のために』（ミネルヴァ書房、2016年）。
○伊藤雅之『現代スピリチュアリティ文化論：ヨーガ、マインドフルネスからポジティブ心理学まで 』（明石書店、2021年）。
○櫻井義秀、三木英『よくわかる宗教社会学』（ミネルヴァ書房、2007年）。
○ロバート・D.・パットナム、デイヴィッド・E.・キャンベル『アメリカの恩寵ー宗教はいかに社会を分かち、むすびつけるか』（柏書房、2019年）。
○石井研士『メディアと宗教』（弘文堂、2024年）。

○望月哲也『社会理論としての宗教社会学』（北樹出版、2009年）。
○諸岡了介『世俗化論の生成：宗教という問いのゆくえ』（ミネルヴァ書房、2023年）。
○棚次正和、山中弘編著『宗教学入門』（ミネルヴァ書房、2005年）。
○島薗進、葛西賢太、福嶋信吉、藤原聖子編著『宗教学キーワード』（有斐閣、2006年）。
○田中雅一、川橋範子編著『ジェンダーで学ぶ宗教学』（世界思想社、2007年）。
○タラル・アサド『世俗の形成：キリスト教、イスラム、近代』（みすず書房、2006年）。
○ユルゲン・ハーバマス『ポスト世俗化時代の哲学と宗教』（岩波書店、2007年）。
○ニコラス・ルーマン『宗教論：現代社会における宗教の可能性』（法政大学出版局、2009年）。
○中野毅『宗教の復権：グローバリゼーション・カルト論争・ナショナリズム』（東京堂出版、2002年）。
○磯前順一、タラル・アサド編『宗教を語りなおす：近代的カテゴリーの再考』（みすず書房、2006年）。
○ポール・シーブライト（黒輪篤嗣訳）『ビジネスとしての宗教』東洋経済新報社、2025年。
○『岩波講座 宗教（全10巻)』（岩波書店、2004年）。
○『諸宗教の倫理学（全5巻)』（九州大学出版会、1992～2006年）。

【成績評価の方法と基準】
リアクション・ペーパー　40　%
期末試験　60 %
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォンやパソコンなどの情報通信機器。

【その他の重要事項】
●初回の授業はオンデマンドで実施し、2週目以降は対面で授業を行います。
●受講を希望する人は4月10日（金）までに学習支援システムに登録してください。受講希望者が100名を超える場合は抽選を行います。受講を希望される方は、4月10日（金）に学習支援システムからアップロードされ登録希望票を記入してください。締切は4月12日（日）の午前10時です。4月13日（月）に抽選結果を学習支援システムでお知らせします。
●第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。

【Outline (in English)】
The course explores the relationship between religion and society by taking up issues ranging from gender, nationalism, nation-states, consumer culture, to war and conflicts. It will discuss the possibilities of mutual understanding and coexistence of different religious values and practices in an era of global competition and interdependence.
By the end of the course, students are expected to be able to: 1) understand the basic concepts and theories that are important to examine the relationship between religion and society, and 2) use analytical concepts and theories to analyze case studies of the relationship between religion and society.
Students will be expected to review each class and explore the problems and questions that they wrote in their reaction papers.
The final grade will be decided by reaction paper (40%) and the final assignment (60%).

SOC200GA（社会学 / Sociology 200）

Religion and Society

佐々木　一惠

配当年次／単位：1〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：25人程度。希望者多数の場合には，入学時以降のTOEFLやTOEICなど標準的なテストの結果と初回授業へのコメントを総合的に評価して選考します。
備考（履修条件等）：国際文化学部主催科目に必要とされる英語能力基準は、TOEFL iBT 61-75、TOEFL ITP Level1 500-539、TOEFL ITP Level 2500、TOEIC675-819、ＩＥＬＴＳ6.0、英検準1級程度。基準スコアに満たない、あるいはスコアを持っていない学生は、担当教員に相談すること。
Courses in Intercultural Communication need the higher English proficiency mentioned below: TOEFL® iBT 61-75, TOEFL® ITP Level 1 500-539, TOEFL® ITP Level 2500, TOEIC® 675-819, IELTS 6.0, and EIKEN Grade Pre-1st. If you don't have any score mentioned above, contact the instructors directly.

その他属性：〈グ〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to provide students with a comprehensive exploration of the complex intersections between society and religion in the context of a globalizing world. As globalization continues to shape and redefine human interactions, this course seeks to critically analyze the multifaceted roles that religion plays in influencing and responding to global dynamics. Students will explore issues such as immigration, nationalism, conflict, gender, sexuality, tourism, consumerism, and citizenship, all within the broader context of contemporary global society.

【到達目標】
By the end of this course,
① Students will have gained a nuanced understanding of the intricate connections between society and religion in the age of globalization, enabling them to critically engage with the complex issues that arise in our increasingly interconnected world.
② Through a multidisciplinary approach, students will be equipped with the knowledge and analytical tools to address the challenges and opportunities presented by the dynamic interplay of society, religion, and globalization.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
The first part of class focuses on providing students with a broad understanding of the background of the topic covered in the assigned readings. The class then engages in a discussion that allows students to share their insights and interpretations of the reading assignment. In the second half of the class, the focus shifts to a broader examination of the issues raised in the reading assignment. The class expands its scope to explore the implications, connections, and applications of the issues in a broader context.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	The outline of the course
2	Religion and Tourism	Modern Pilgrimage in Japan
3	Religion and Sport	Affinities in Religion and Sport
4	Religion and Gender	Anti-Hijab Protests in Iran
5	Religion and Diplomacy	Russian Orthodox Church and Soft Power
6	Religion and Sexuality	LGBTQ and Post-Colonialism in Africa
7	Religion and Nationalism	Yoga and Indian National Identity
8	Religion and Globalization	Mid-term examination
9	Religion and Global Capitalism	Consumer Jihad in Turkey
10	Religion and Immigration	Anti-Muslim Sentiments in Europe
11	Presentation ①	Oral presentation of final papers (Group 1 students)
12	Presentation ②	Oral presentation of final papers (Group 2 students)
13	Presentation ③	Oral presentation of final papers (Group 3 students)
14	Presentation ④	Oral presentation of final papers (Group 4 students)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are required to read the assignments and be ready for class discussions. Students are expected to spend about 4 hours a week on coursework outside the class.

【テキスト（教科書）】
There is no textbook for this course. All course materials are available online through the course web site.

【参考書】
Jayeel Cornelio, François Gauthier, Tuomas Martikainen and Linda Woodhead, eds., Routledge International Handbook of Religion in Global Society (Routledge, 2022).

【成績評価の方法と基準】
① Class participation 20%
② Mid-term examination (approximately one page in length) 20%
③ Final paper presentation 20%
④ Final paper (2-3 pages in length) 40%
Based on the grading criteria set by the instructor, students who successfully achieve 60% or more of the course goals will earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

LANf300GA（フランス語 / French language education 300）

フランス語アプリケーション

ル　ルー　清野　ブレンダン

配当年次／単位：3〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること
その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français déjà confirmé (A2/B1). Les étudiants travailleront les compétences de compréhension et de production à l'oral et à l'écrit afin d'améliorer leur niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir leurs connaissances sur les cultures francophones.

【到達目標】
Ce cours permet à des étudiants déjà assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage : enrichissement du vocabulaire, développement des capacités de lecture et d'expression orales et écrites. Il permet la préparation des examens du DELF (préparation directe au niveau B1, voire B2) et du 仏検 (2級 voire 準1級), ainsi que le concours pour partir en tant qu'étudiant en échange (派遣留学).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】
Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
A l'aide d'une grande variété de documents (textes, images, vidéos, chansons...), les étudiants travailleront la compréhension et la communication orales, sans oublier l'écrit avec une révision systématique des points de grammaire qu'ils ont déjà étudiés.
Les contenus proposés seront très variés et permettront de découvrir de nombreux aspects culturels de la francophonie tout en voyageant autour du monde.
この授業では，作文やリーディングマラソン(フランス語多読)のような課題も課せられますので，そのつもりで参加して下さい。
課題等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが, Hoppii を通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Faisons connaissance !	Présentation des participants Organisation et calendrier des activités
2	La famille	Famille recomposée, vie de famille
3	DELF B1	Entraînement (et correction): - compréhension orale et écrite - expression écrite (=rédaction n°1)
4	Caricatures ① Images du jour	Analyse de caricatures sur l'actualité
5	Question de génération	Participe passé Générations et éducation
6	Des amis pour toujours	Discours indirect au présent Différentes définitions de l'amitié
7	Vidéo ① Contenu informatif	Compréhension orale Traduction et sous-titrage ①
8	Se retrouver et se séparer	Rencontres, désaccords, disputes
9	DELF B1	Entraînement (et correction): - compréhension orale et écrite - expression écrite (=rédaction n°2)
10	Vidéo ② Contenu humoristique	Compréhension orale Traduction et sous-titrage ②
11	Caricatures ② Images du jour	Analyse de caricatures sur l'actualité
12	La famille: bilan	Révisions: passé composé, plus-que-parfait, participe passé, pronoms personnels...
13	Projet	Présentons nos proches
14	Caricatures ③ Images du jour	Analyse de caricatures sur l'actualité

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Une participation active en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours ou presque, pour le cours suivant (réviser le vocabulaire, revoir un point de grammaire, écrire un petit texte, préparer un exposé, etc.).
予習・復習は当然ながら必須。この授業は2単位科目なので，法政大学学則（「1回の授業につき4時間以上」）に従い，本授業の準備学習・復習時間は4時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Les documents utilisés seront distribués en classe ou téléversés sur Hoppii ou Google Classroom.

【参考書】
Dictionnaire français-français ou français-japonais recommandé.
Attention: pas de "faux" dictionnaire en ligne!!!

【成績評価の方法と基準】
・宿題，ミニ発表，クラス内業務、その他の小テスト：約 25 %
・リーディングマラソン(フランス語多読)：約 25 %
・作文：約 25 %
・平常点（授業への参加状況）：約25%。尚，平常点に関しては減点方式をとり，4 回目の欠席で不合格となります。10分以上の遅刻は2回で欠席扱いとなり，遅延証明は2 回まで認めます。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見等を読み，特に工夫する必要のある点がないように思いました。改善を全くしない，という意味ではないのですが！

【その他の重要事項】
Ce cours est particulièrement adapté aux étudiants ayant déjà effectué un séjour en France ou qui visent le concours des étudiants d'échanges (派遣留学).
En fonction du nombre et du niveau des étudiants, le programme ci-dessus est susceptible d'être modifié au cours du semestre.

【Prerequisite】
Un niveau de français A2, au minimum, est nécessaire pour participer à ce cours.

【Outline (in English)】
This course is for intermediate students with A2/B1 level in French. The participants will improve their level of communication and expression, through activities using oral and written communication. Through the selected themes, students will also be able to develop their knowledge about francophone cultures.
Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).
Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.
Grading criteria are as follows:
・Homework, short tests and presentations: app.25 %
・"Reading marathon" (Extensive reading): app.25 %
・Essays: app.25 %
・Class participation: app.25%。

LANf300GA（フランス語 / French language education 300）

フランス語アプリケーション

ル　ルー　清野　ブレンダン

配当年次／単位：3〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français déjà confirmé (A2/B1). Les étudiants travailleront les compétences de compréhension et de production à l'oral et à l'écrit afin d'améliorer leur niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir leurs connaissances sur les cultures francophones.

【到達目標】
Ce cours permet à des étudiants déjà assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage : enrichissement du vocabulaire, développement des capacités de lecture et d'expression orales et écrites. Il permet la préparation des examens du DELF (préparation directe au niveau B1, voire B2) et du 仏検 (2 級 voire 準 1 級), ainsi que du concours pour partir en tant qu'étudiant en échange (派遣留学).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】
Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
A l'aide d'une grande variété de documents (textes, images, vidéos, chansons...), les étudiants travailleront la compréhension et la communication orales, sans oublier l'écrit avec une révision systématique des points de grammaire qu'ils ont déjà étudiés.
Les contenus proposés seront très variés et permettront de découvrir de nombreux aspects culturels de la francophonie tout en voyageant autour du monde.
この授業では、作文やリーディングマラソン (フランス語多読) のような 課題も課せられますので、そのつもりで参加して下さい。
課題等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが，Hoppii を通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Faisons connaissance !	Quoi de neuf? (vacances) Présentation des participants, organisation et calendrier des activités
2	Les clés du bonheur	Se changer les idées, se divertir: loisirs créatifs
3	DELF B1 (ou B2) ①	Entraînement (et correction): - compréhension orale et écrite - expression écrite (=rédaction n°1)
4	Caricatures ① Images du jour	Analyse de caricatures sur l'actualité
5	Art de vivre	Conditionnel présent et expression du souhait
6	Action!	Sports extrêmes Il faut / il ne faut pas + subjonctif
7	Vidéo ① Contenu informatif	Compréhension orale Traduction et sous-titrage ①
8	Activité physique	Donner des conseils, demander des informations
9	DELF B1 (ou B2) ②	Entraînement (et correction): - compréhension orale et écrite - expression écrite (=rédaction n°2)
10	Vidéo ② Contenu humoristique	Compréhension orale Traduction et sous-titrage ②
11	Caricatures ② Images du jour	Analyse de caricatures sur l'actualité
12	Les clés du bonheur: bilan	Verbes prépositionnels, souhait, conditionnel...
13	Projet	Organisons une activité de plein air
14	CBC/Radio Canada	Compréhensions orale et écrite

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Une participation active en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours ou presque, pour le cours suivant (réviser le vocabulaire, revoir un point de grammaire, écrire un petit texte, préparer un exposé, etc.).
予習・復習は当然ながら必須。この授業は 2 単位科目なので，法政大学学則（「1 回の授業につき 4 時間以上」）に従い，本授業の準備学習・復習時間は 4 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Les documents utilisés seront distribués en classe ou téléversés sur Hoppii ou Google Classroom.

【参考書】
Dictionnaire français-français ou français-japonais recommandé.
Attention: pas de "faux" dictionnaire en ligne!!!

【成績評価の方法と基準】
・宿題，ミニ発表，クラス内業務、その他の小テスト：約 25 %
・リーディングマラソン(フランス語多読)：約 25 %
・作文：約 25 %
・平常点（授業への参加状況）:約 25%。 尚、平常点に関しては減点方式をとり、4 回目の欠席で不合格となります。遅刻は2回で欠席扱いとなり、遅延証明は2回まで認めます。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見等を読み、工夫する必要のある点は特にないように思いました。改善は全くしない、という意味ではないのですが！

【その他の重要事項】
Ce cours est particulièrement adapté aux étudiants ayant déjà effectué un séjour en France ou qui visent le concours des étudiants d'échanges (派遣留学).
En fonction du nombre et du niveau des étudiants, le programme ci-dessus est susceptible d'être modifié au cours du semestre.

【Prerequisite】
Un niveau de français A2, au minimum, est nécessaire pour participer à ce cours.

【Outline (in English)】
This course is for intermediate students with A2/B1 level in French. The participants will improve their level of communication and expression, through activities using oral and written communication.
Through the selected themes, students will also be able to develop their knowledge about francophone cultures.
Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).
Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.
Grading criteria are as follows:
・Homework, short tests and presentations: app.25 %
・"Reading marathon" (Extensive reading): app.25 %
・Essays: app.25 %
・Class participation: app.25%

LANf300GA（フランス語 / French language education 300）

フランス語アプリケーション

カレンス　フィリップ

配当年次／単位：3〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2年間学んだフランス語の知識（語彙や文法など）を生かして、フランス語のコミュニケーション能力を高める授業です。日常の場面に応じて、フランス語で様々な練習問題を行い、フランス語を話す力を強めます。文法を復習しながら、新しい語彙や表現を覚えながら、フランスとフランスの文化についてももっと詳しく学びます。

【到達目標】
授業の目標はコミュニケーションの力を上げることです。
次の三つのポイントに重点を置きます。
1．フランス語の日常会話をもっと聞き取れるようにする。
2．フランス語の文法の知識を高め、色々な練習に通じて強化する。
3．フランス語の語彙や言い方を増やして、使えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業は基本的には対面で進めることを想定していますが、状況に応じてオンライン授業へと移行することがあったら、お知らせします。学生からの質問には授業時間内、または授業支援システムを通じてフィードバックしていきます。
授業の内容に関しては、まず、テキストを見ずに対話を聞き、理解し、少しずつ繰り返し音読します。その後、テキストを見ながら再び音読します。さらに、内容と関連がある練習問題を行います。最後に学んだものをもう一度使い、ロールプレーをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Prise de contact Explications du programme L1 p10 Chez le traiteur la quantité encore/ne … plus) pronom “en”	自己紹介 プログラムの説明 1課　素材屋で 部分冠詞 量の表現 “en”代名詞
②	L2 p14,15 Commander un repas souhait conditionnel	2課 食事の注文 願う
③	L3 p18 A la boutique de bijoux pronoms démonstratifs	3課 宝石のブチックで 指示代名詞
④	L5 p22 Modifier une réservation (table ou chambre) verbe conjugués +verbe infinitif	5課 予約の変更 レストラン／ホテル 動詞＋不定詞
⑤	L6 p24 A la banque Complément de nom: ”de”	6課 銀行で 名詞補語　”de”
⑥	L7 p26 Echanger, se faire rembourser Expressions de temps + passé composé	7課 交換する 返済してもらう 時間の表現＋複合過去
⑦	Révisions Test de mi-trimestre	復習 中間テスト
⑧	L9 p32 Faire des comparaisons verbes construits sur des adjectifs, comparatif superlatif	9課 比較する 比較法 最上級
⑨	L10 p38 Se renseigner Interrogation indirecte	10課 問い合わせする 間接法
⑩	L11 p40 Localiser prépositions/adverbes de lieu	11課 位置、 場所を突き止める 場所の前置詞と副詞
⑪	L12 p44 A l’agence immobilière Subjonctif/indicatif	12課 不動産屋で 接続法か直接法
⑫	L15 p58 Déclarer un vol, un accident Forme passive	15課 窃盗の被害届 される　　受動態
⑬	Révisions Test final	復習 期末テスト
⑭	Correction du test Culture française	テストの返却 フランスの文化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回課題（宿題）を出すので、よく復習してください。
本授業の宿題・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Communication Progressive du Francais - A2 B1 Intermédiaire 2eme Edition: Livre de l’élève + Cd-audio,
Editions Clé International, Claire MIQUEL
(ISBN 978-209-038447-5)

【参考書】
辞書に関しては、電子辞書、紙の辞書どちらでも良いですが、手元に用意しておくと便利です。授業の予習・復習にぜひ活用してください。

【成績評価の方法と基準】
1. 中間テスト・期末試験:60 %
2. 課題:30%
3. 積極性:5 %
4. 平常点:5 %

【学生の意見等からの気づき】
より実践的に使えるフランス語を身につけさせる。
さらに、フランスの暮らしや文化についても取り入れていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
Hoppiにある教材にアクセスするには、スマートフォンかパソコンが必要です。

【その他の重要事項】
On aura un exemple du manuel et de son organisation en cliquant sur le lien suivant http://extranet.editis.com/it-yonixweb/images/330/art/doc/f/fbb51c54d7c6363531333636353638383434343935.pdf

【Outline (in English)】
The purpose of this course is the development of a communication skill in French at intermediate level (A2/B1). At first, we will strengthen comprehension and oral capacity. Additional drills and a lot of panels of exercises will be proposed to reinforce the grammar level and the vocabulary. The different topics taken from every-day life situations will give opportunities to learn more about French culture.
Students will be expected to prepare the next class and to have complete the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.
Your overall grade in the class will be decided on the following:
Mid-term and Term end examination: 60 %, Assignments: 30 %, and in class contribution 10 %.

SES300GA（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 300）

ソーシャル・プラクティス

稲垣　立男

配当年次／単位：3〜4年／2単位
旧科目名：情報デザイン
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：選抜

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ソーシャル・プラクティス」では、ソーシャル・プラクティス、あるいはソーシャリー・エンゲージド・アートと呼ばれる、環境や政治、コミュニティ、ジェンダーなど、さまざまな社会的問題に直接働きかけるアートの分野について学びます。社会と直接関わる現代アートのアプローチに関する理論と実践を扱い、ワークショップ形式の実習授業を行います。

【到達目標】
この授業では、下記の3つのテーマで実習を行います。
1. 環境と社会
2. 共生社会
3. 政治課題
自分たちを取り巻くさまざまな社会的課題を捉え直し、調査を基に各自が課題を設定し、それを作品として表現する力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
いくつかの社会的問題をテーマとして仮想のアート・プロジェクトを実施し、グループワークによる調査やディスカッションを経て、さまざまな発表形式による作品制作を行います。
ワークショップの冒頭では、課題と関連した社会的課題に関する解説を行うとともに、美術史や美術理論に関する基本的な知識を確認します。
次に、資料調査や大学内外でのフィールドワークを通じて問題を探ります。
最後に、各自が資料調査やフィールドワーク、ディスカッションを経て、作品制作（プレゼンテーション）に取り組みます。
○ 授業を円滑に進めるために、以下のオンラインツールを使用します。
Google Sites（授業の基礎となるコンテンツの配信）
Google Classroom、Google Form（課題提出、そのフィードバック、質問など）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要 ソーシャル・プラクティスについて
第2回	ワークショップ（1） 環境と社会 / 言語による表現 講義と対話	地球温暖化、原発問題、海洋汚染など環境問題に関する対話
第3回	ワークショップ（1） 環境と社会 / 言語による表現 グループワーク	言語による表現を通じて環境に関するテーマについて考える
第4回	ワークショップ（1） 環境と社会 / 言語による表現 プレゼンテーション1	言語による表現によるプレゼンテーションと対話（1）
第5回	ワークショップ（1） 環境と社会 / 言語による表現 プレゼンテーション2	言語による表現によるプレゼンテーションと対話（2）
第6回	ワークショップ（2） 共生社会 / 映像・写真・絵画 講義と対話	コミュニティの崩壊、移民、難民問題など共生と社会に関する対話
第7回	ワークショップ（2） 共生社会 / 映像・写真・絵画 グループワーク	視覚表現を通じて共生社会について考える
第8回	ワークショップ（2） 共生社会 / 映像・写真・絵画 制作1	映像による作品制作と対話（1）
第9回	ワークショップ（2） 共生社会 / 映像・写真・絵画 制作2	映像による作品制作と対話（2）
第10回	ワークショップ（3） 政治問題 / インスタレーション・パフォーマンス 講義と対話	ジェンダー、貧困問題、表現の自由などに関するテーマについて考える
第11回	ワークショップ（3） 政治問題 / インスタレーション・パフォーマンス グループワーク	インスタレーション・パフォーマンスによるプレゼンテーションと対話
第12回	ワークショップ（3） 政治問題 / インスタレーション・パフォーマンス アクション1	インスタレーション・パフォーマンスによる行為と対話（1）
第13回	ワークショップ（3） 政治問題 / インスタレーション・パフォーマンス アクション2	インスタレーション・パフォーマンスによる行為と対話（2）
第14回	フィードバック	授業全体を俯瞰し、各課題の意義について、参考例を見ながら振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Google Sitesで配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くありますので、企画展、常設展などの展覧会を多く鑑賞してください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Google Sitesを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】
Between Art and Anthropology: Contemporary Ethnographic Practice（Berg Pub Ltd）
パブロ・エルゲラ『ソーシャリー・エンゲイジド・アート入門 アートが社会と深く関わるための10のポイント』フィルムアート社、2015年
アート&ソサイエティ研究センター SEA研究会『ソーシャリー・エンゲイジド・アートの系譜・理論・実践 芸術の社会的転回をめぐって 』 フィルムアート社、2018年

【成績評価の方法と基準】
成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。
1.　平常点（50%）
2.　課題とレポート（50%）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
作品のアイデアから制作までのプロセスを丁寧に学んでいきましょう。

【その他の重要事項】
実務経験のある教員による授業
稲垣立男はコンテンポラリーアーティスト。フィールドワークによる作品制作と美術教育に関する実践と研究を国内外で実施しており、これらの現場での経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】
Course outline
We learn a field of art that works directly on various social issues, such as social practice or environment and politics, called socially engaged art in this course. We will engage in the theory and practice of contemporary art on such an approach. In practical training, we will carry out virtual art projects with the theme of some social problems, work through group work surveys and discussions, and produce works in various presentation formats.
Learning Objectives
In this course, we will practice the following three themes.
1. Environmental problems and society
2. A symbiotic society
3. Political issues
We will re-examine the various social issues surrounding us and develop the ability to set problems and express them as works based on research.
Learning activities outside of the classroom
The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy
Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.
1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)
See rubrics for specific assessment guidelines.
Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART300GA（芸術学 / Art studies 300）

現代美術論

平野　真弓

配当年次／単位：2〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：受講希望者が1000人を超えた場合、抽選を行います。抽選方法については学習支援システムを通じて連絡しますので、よく確認をしておいてください。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日の現代美術の世界は、様々な分野の最先端の芸術の分野（美術、建築、音楽、パフォーミングアーツ、映像、詩など）が複雑に交差しながら形成されています。この講義では、現代美術の多様性に焦点を当て、理論と実践の両面から探求します。現代美術のコンテクストを社会学、人類学や科学など他の領域かと対比しながら分析し、その中で多文化主義・関係性・コミュニケーションなどのテーマを読み解いていきます。こうしたアプローチを通じて、現代美術がどのように社会的、文化的な変化と相互作用しているかを深く理解するための基盤について学びます。学と比較参照し、多文化・関係性・コミュニケーションなどをキーワードに読み解いていきます。

【到達目標】
講義では、現代美術と関連のある芸術分野についても扱い、様々な芸術の分野における実験的なアプローチを検証し俯瞰することで、それらの考え方、アイディアについての理解を深めます。
みなさんには馴染みの薄い分野であると思いますので、最初に美術史や美術理論の基本的な知識を確認します。また、講義の間にワークショップ（感覚的、体験的に学ぶこと）を行い、より理解を深めていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義映像や資料などの授業コンテンツをGoogle sites全て掲載して一定期間公開し、それをみながら授業を受講してもらうオンデマンド方式にします。
授業当日の流れ（重要）
1.指定された公開日に、Google Classroomにその日の学習内容を掲載した資料（Google sites）のリンクを掲載する。
2.資料を見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
3.Google Classroomに授業に関連した小テストや授業内レポートのリンク（Google Forms）が掲載されているので、回答して提出する。
4.授業内容に関する質問については、Google Formsに書き込んでおくと回答します。
授業の方法
授業時間になるとGoogle Classroomを通じて必要なリンク先や課題の提出について公開します。公開したウェブサイトに授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、40- 60分程度）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは年度末まで公開しておきます。
課題
受講後、Google Formで小テスト、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。
評価
実習課題とレポートの提出をもって出席とし、採点を行います。
質問・相談
一般的な質問や相談についてはGoogle Classroomを使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 授業計画について	講義内容について 授業の進め方と方法について 評価方法と基準
第2回	メディアとアート 絵画・彫刻・ドローイング、写真・映像・インスタレーション	美術における様々な技法やメディアの探究について、その発展と変遷を詳細に考察します。この授業ではメディアの歴史的変遷と共に、アバンギャルドの時代から現代までの現代美術について学んでいきます。美術の歴史的なコンテクストの中で、異なる技法やメディアがどのように位置付けられ、進化してきたのかについて、探究していきます。
第3回	20世紀の美術 未来派・ダダ、シュルレアリスム 、アクション、ハプニング、ポップアート、 コンセプチュアル・ミニマルアート	第一次世界大戦前後のアバンギャルド芸術運動（前衛芸術）である未来派、ダダイズム、シュルレアリズムについて学びます。第二次世界大戦で壊滅的なダメージを受けたヨーロッパに代わり、経済力を背景にアメリカが現代芸術の中心地となりました。60年代以降には、概念的なアートや、ハプニング、ランドアートのような従来の絵画や彫刻にとらわれない表現様式が多く登場します。これらの表現は、芸術の領域に現代的な多様性をもたらしました。
第4回	21世紀の美術 新表現主義、YBA、関係性の美術 、ソーシャリー・エンゲージドアート	1980年代に、アメリカのコマーシャル・ギャラリーから生まれたムーブメント、「新表現主義」について学びます。新表現主義は、表現主義的なスタイルを追求し、絵画における感情的な表現と物質的な豊かさを再評価しました。また、ミレニアム前夜には、イギリスやフランスを中心に、二つの重要な芸術運動が登場しました。「ヤング・ブリティッシュ・アーティスト（YBA）」と呼ばれる運動で、若手アーティストの作品が国際的な注目を集めました。「リレーショナル・アート」は観客との関係性や環境との対話を重視することで、芸術の社会的な役割を再考しました。2010年代には「ソーシャリー・エンゲージド・アート」と「ソーシャル・プラクティス」という、社会的な関与をテーマにした芸術運動が注目を集めています。これらは芸術を社会問題に関与させ、社会的な変化を促すことに焦点を当てています。
第5回	ワークショップ1 単元のまとめ・ワークショップ	メディアとアート、20世紀の美術、21世紀の美術 の講義内容の確認をします。

第6回	現代アートとパフォーマンス1 パフォーマンス・アートの始まり／アクション、ハプニング、インスターション	パフォーマンス・アートは身体を用いて時間的な経過と共に行われる表現行為です。1960年代にアラン・カプローが「ハプニング」、また前衛音楽家のジョン・ケージは「イベント」という言葉を使って芸術の常識を破ろうとしました。70年代からは主にパフォーマンスアートと呼ばれるようになります。
第7回	現代アートとパフォーマンス2 社会と関わるアート／ビデオパフォーマンス、エンデュランスアート、テクノロジーとパフォーマンス、芸術と社会、委託されたパフォーマンス	ソーシャリー・エンゲージド・アートのような社会に対する直接的なアプローチのみならず、どのような時代の芸術作品もその作品が作られた社会と深く結びついています。各時代の社会と関わるアートに関する事例について学んでいきます。
第8回	身体とパフォーマンス パフォーミング・アーツ、バレエ、モダンバレエ、モダンダンス、コンテンポラリーダンス、舞踏	パフォーミング・アーツは視覚芸術であるファインアーツに対して演劇やダンスなどの舞台芸術、行為・アクションによって成立する芸術という意味で使われています。バレエに始まる近代ダンスの変遷、また現代演劇についても触れます。
第9回	音とパフォーマンス 現代音楽 ミュージック・コンクレート、フルクサス、ミニマル・ミュージック	シェーンベルクに始まり、ミュージック・コンクレート、ジョン・ケージの偶然性の音楽、ミニマルミュージックを経て現代に至る現代音楽の流れを美術の世界と比較しながら学んで行きます。
第10回	言葉とパフォーマンス ビート・ゼネレーション、スポークン・ワード、ラップ・ミュージック	シュルレアリスムやコンセプチュアルアートなどのテキストによる美術表現や言葉を使ったパフォーマンスアートと、ポエトリーリーディング/スポークンワードなどの現代詩の世界を比較します。
第11回	ワークショップ2 単元のまとめ・ワークショップ	現代美術とパフォーマンス1、現代美術とパフォーマンス2、身体とパフォーマンス、音とパフォーマンス、言葉とパフォーマンスの講義内容の確認をします。 ワークショップ・パフォーマンス
第12回	アートのある場所 美術館、国際展、アーティスト・イン・レジデンス、アート（アーティスト）・コレクティヴ、オルタナティブスペース	アートの生まれる場所について、美術館・国際展のような公的な場所、そしてアーティスト・イン・レジデンス、アーティスト・コレクティヴやオルタナティブスペースなど。それぞれの場所とそれに関わる人々について学びます。
第13回	批評/キュレーション 批評、モダンアートとコンテンポラリーアート、キュレーション	キュレーターは学術的な専門知識によって美術資料の収集や保管、展覧会の企画や構成、運営などを担当します。また、作品の理解や価値判断に関する美術批評のあり方について学びます。
第14回	ワークショップ3 単元のまとめ・ワークショップ	美術のある場所、批評/キュレーションの授業内容の確認をします。 ワークショップ・スライス・オブ・ライフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Google sitesで配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Google sitesを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】
山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019年
デイヴィッド・コッティントン（著者）、松井 裕美（翻訳）『現代アート入門』名古屋大学出版会、2020
小崎哲哉『現代アートとは何か』河出書房新社、2018年
『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定1・2・3級公式テキスト』美術出版社、2014年
『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、2016年
『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2022年

【成績評価の方法と基準】
成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。
1.　平常点（50%）
2.　課題とレポート（50%）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
普段触れることの少ない現代芸術に関する専門的な内容の講義やワークショップになりますので、とてもやりがいがあると思います。ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のためにGoogle classroomを使いますが、履修に関する情報については学習支援システムを併用しますので、よく確認しておいてください。

【その他の重要事項】
受講希望者が1000人を超えた場合、抽選を行います。抽選方法については学習支援システムを通じて連絡しますので、よく確認をしておいてください。
実務経験のある教員による授業
平野真弓はフィリピン・マニラ在住のキュレーター・リサーチャーです。フィリピンを中心に東南アジアの展覧会史やキュレーションにまつわる思想や実践方法を研究しています。実践と研究活動で得た知識と経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】
Course outline
This course is about contemporary art theory and practice.
Today’s contemporary art world is formed by the complex intersection of state-of-the-art (e.g. art, architecture, music, performing arts, images, poetry,) in various fields.
The context of contemporary art will be interpreted using keywords such as multiculturalism, relationships and communication as keywords.
Learning Objectives
The lecture will also deal with art fields related to contemporary art, and by examining and taking a bird’s-eye view of experimental approaches in various art fields, we will deepen our understanding of those ideas.
It seems unfamiliar to everyone, so check the introductory art history and art theory knowledge. In addition, we will hold workshops (learning sensuously and experientially) between lectures to deepen understanding.

Learning activities outside of the classroom
The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy
Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.
1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)
See rubrics for specific assessment guidelines.
Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART300GA（芸術学 / Art studies 300）

フィールドワークと表現

稲垣　立男

配当年次／単位：2〜4年／2単位
旧科目名：メディア表現ワークショップ１
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：隔年開講　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：選抜

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、表現活動へとつながるフィールドワークを中心とした実習科目です。各回の実習はワークショップ形式で行います。
教室および大学構内外をフィールドとし、「カメラを持って旅に出よう」「スケッチブックに記録しよう」「動きや音を拾うことから」という3つのテーマに基づいたフィールドワークを行い、その成果をプレゼンテーションとして発表します。

【到達目標】
みなさんは各課題を通じて、さまざまな表現活動に通じる取材・調査の方法や、複数のメディアを用いた表現方法を学びます。
課題に取り組むにあたっては、自由な発想と臨機応変な対応が求められます。柔軟な姿勢をもって、積極的に（楽しみながら）課題に取り組んでください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
下記の３つの内容に基づいて、制作実習をします。
第1課題　カメラを持って旅に出よう。
記録としての写真について、多様なテーマを通じて体験的に学びます。
第2課題　スケッチブックに記録しよう。
スケッチブックに、様々な現象や感情などを記録していきます。
第3課題　動きや音を拾うことから。
拾った動きや音をきっかけとして、何かを始めてみます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションと選抜試験	授業内容の説明 教科書・参考資料 評価基準など
第2回	カメラを持って旅に出よう。(1)	課題説明と講義 記録としての写真
第3回	カメラを持って旅に出よう。(2)	ワークショップ 私の決定的瞬間
第4回	カメラを持って旅に出よう。(3)	ワークショップ 写真による「組曲」
第5回	カメラを持って旅に出よう。(4)	ワークショップ 私の原風景
第6回	スケッチブックに記録しよう。(1)	講義 スケッチの技法
第7回	スケッチブックに記録しよう。(2)	ワークショップ シュルレアリスムの実験
第8回	スケッチブックに記録しよう。(3)	ワークショップ 架空の研究
第9回	スケッチブックに記録しよう。(4)	ワークショップ 就職するためのスケッチ
第10回	動きや音を拾うことから。(1)	課題説明と講義 音や映像による記録
第11回	動きや音を拾うことから。　(2)	ワークショップ 日常の音に注目してみよう
第12回	動きや音を拾うことから。(3)	ワークショップ 反復する音
第13回	動きや音を拾うことから。(4)	ワークショップ 社会人になるための音
第14回	講評会	課題作品の発表と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
これまでにあまり経験してこなかった表現の基となる取材活動に取り組みます。また、調べることに積極的な人、面白いことを知ることが好きな人は受講してみてください。
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Google Sitesを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】
山本浩貴『現代美術史―欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019
藤田 結子『現代エスノグラフィー: 新しいフィールドワークの理論と実践 (ワードマップ) 』新曜社、2013年

【成績評価の方法と基準】
成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。
1.　平常点（50%）
2.　課題とレポート（50%）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
みなさんにとってわかりやすく、取り組みやすい課題とします。
楽しい授業にしましょう。

【学生が準備すべき機器他】
スケッチブック及びスマートフォンが必要となります。

【その他の重要事項】
実務経験のある教員による授業
稲垣立男はコンテンポラリーアーティスト。フィールドワークによる作品制作と美術教育に関する実践と研究を国内外で実施しており、これらの現場での経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】
This course is a practical training course centred on fieldwork that leads to expressive activities. Each session is conducted in a workshop format.
Using classrooms and locations both on and off campus as fields of practice, students carry out fieldwork based on three themes:
Going on a journey with a camera
Recording in a sketchbook
Starting from capturing movement and sound
The outcomes of this fieldwork are presented in the form of presentations.
Through the course, students engage in research and investigative activities that form the basis of creative expression, including approaches they may not have previously experienced. Students who are proactive in research and enjoy discovering new and interesting perspectives are encouraged to enrol.
The standard amount of preparation and review time for this course is two hours per session.
Grades are determined by a combination of class participation and assignments/reports, with particular emphasis placed on experimental approaches and active engagement. The grading breakdown is as follows:
1.Class participation (50%)
2.Assignments and reports (50%)
Students who achieve 60% or more of the course learning objectives, based on this evaluation method, will receive a passing grade.

HUMc200GA

北米文化論（ケベック講座）

廣松　勲

配当年次／単位：1〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ア〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、ケベック州政府の寄付講座である。
本授業は、北米のフランス語圏の一つである「カナダのケベック州」をフィールドとして、オムニバス形式で、各分野の専門家や招聘作家・研究者が担当する授業である。言語・文化・歴史・社会・政治といった包括的な側面から、現代のケベック社会を学ぶことによって、一つの地域において複数の価値観（言語、文化、歴史、政治、経済、社会など）が共生する方法を解説・検討することを主たる目的とする。
なお、具体的な授業内容や講演者については、初回授業において改めて通知するため、以下の「授業計画」は予定であることをご理解いただきたい。

【到達目標】
本授業の到達目標は、以下の通りである。
①フランス語圏の一例として、ケベック州の社会文化的状況を概説できる。
②多文化・多言語共生の一例として、ケベック州の社会文化的状況を概説できる。
③一つのフィールドを複数の観点から理解するという方法を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
オムニバス形式の授業によって、できるだけ包括的に「現代のケベック社会」に関する紹介・説明・分析を行う。
具体的な授業の進め方は、以下の通りである。最初と最後の数回の授業（3回程度）では、一人の教科担当者が「導入」や「総括」などを行う。それ以外の授業（11回程度）については、各分野の専門家の先生方などが授業を行うことになる。その内、少なくとも一度は、ケベック州からの招聘研究者による授業内の講演会を実施する（通訳付き）。
なお、毎回授業ではコメントシートを作成・提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	・イントロダクション：フランコフォニーとは何か？	・授業の進め方や最終課題について説明 ・フランス語圏（フランコフォニー）の歴史・社会・言語状況などについて概説
第2回	ケベック州の歴史① ・北米大陸のフランス語圏（フランコフォニー）の広がり ・ケベック州とはどのような地域なのか？	・ケベック州の歴史に注目しつつ、社会状況を概説する
第3回	ケベック州の歴史②	・ケベック州の歴史をより詳しく学ぶ
第4回	ケベック州の地理	・ケベック州の地理を学ぶ
第5回	授業内の講演会	・ケベック州の政治・歴状況を当事者から学ぶ
第6回	ケベック州の言語	・ケベック州の言語状況を包括的に学ぶ
第7回	ケベック州の政治①	・ケベック州の政治状況を具体例に基づいて学ぶ。
第8回	ケベック州の政治②	・ケベック州の政治状況を理論的に学ぶ。
第9回	ケベック州の社会問題①	・ケベック州の社会問題を具体例に基づいて学ぶ（主権獲得を巡る問題など）。
第10回	ケベック州の社会問題②	・ケベック州の社会問題を具体例に基づいて学ぶ（移民や宗教に関わる問題など）。
第11回	ケベック州の文化①	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（舞台芸術など）。
第12回	ケベック州の文化②	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（文学・映画など）。
第13回	ケベック州の文化③	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（音楽・ダンスなど）。
第14回	総括	・本授業の全体のまとめ ・映像資料などを用いて、現代ケベック州の社会を知る。 ・期末レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回の授業をより深く理解するために、日頃からできるだけ広く・複合的な視点からケベック州（やカナダ）に関する情報を集めてほしい。
・期末レポート執筆のために、配布資料についても熟読してほしい。本授業の準備学習・復習時間は合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・テキストは指定しない。各授業において資料などを配布する。

【参考書】
・各分野の参考書は、各授業において提示する。
・全体的な導入となる書籍としては、以下がある。
小畑精和・竹中豊編著『ケベックを知るための56章【第2版】』エリアスタディーズ・72巻，明石書店，2023年.

【成績評価の方法と基準】
・平常点と期末レポートに基づき、総合的に評価する。
①平常点（コメントシートなど）：40％
②期末レポート：60％
・期末レポートでは、本授業で扱われたいずれかの専門分野・側面を参照しつつ、自ら選択したテーマについて論じてもらう。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
・14回という少ない回数だが、授業内容について、可能な限り多様になるよう心がける。
・質疑応答の時間を、可能な限り長く設けるようにする。

【その他の重要事項】
・第一回授業において、各授業の担当者・内容などを記載した資料を配布するため、必ず出席してほしいです。
・毎年度秋学期に開講予定の授業ですが、ケベック州政府寄付講座であるため、事情によって「閉講」となる年度もありえます。

【Outline (in English)】
This course introduces the key themes for a deeper understanding of the socio-cultural situation of the province of Québec (Canada). In 14 courses, we will deal with a variety of themes or problematics of the contemporary Québec (politics, social problems, economics, music, cinema, literature, etc). Each course will be given by the specialists of each research domain.
The goals of this course are to understand and explain the socio-cultural situation of Quebec. Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours reading the relevant documents. Your overall grade in the class will be decided based on the following: In-class contributions (discussion, reaction paper, etc): 40%, term-end report: 60%.

LIT200GA（文学 / Literature 200）

フランス語圏の文化III（歴史）

ル　ルー　清野　ブレンダン

配当年次／単位：1〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：隔年開講　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業ではフランス語圏の歴史を，フランスの植民地帝国という導きの糸に沿って，様々なテーマについて考えながら勉強していきます。現在の「フランス語圏」（pays / régions francophones）のほとんどがフランスの植民地帝国にその由来をたどることができますので，フランスの植民地帝国を勉強することにより世界各地に広がるフランス語圏の諸地域との関係性が明らかになるはずです。

【到達目標】
この授業では，学生達はフランスの植民地帝国を導きの糸にフランス語圏の歴史に関する様々な側面を探求したり，論じたりします。 授業終了時には，それらのトピックに関する様々な概念や問題点を深く理解し，以下のことができるようになるでしょう。
①フランスの植民地帝国について基本的知識を獲得し，説明できる。
②植民地の概念を概ね理解できる。
③世の中の動きを歴史的に考えるための視点を獲得する。
(④フランス語圏への留学に備える。)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業では，学生達は様々な資料(歴史的文章，論文，図や絵画など)を分析し，それについて議論したり，質問に答えたりします。教員は重要な事実や概念を説明するためにスライドを使用し，できるだけ双方向的かつ参加型にする予定です。学生達はグループワーク等を通じて学生同士で協力して資料を理解し，質問に答えることで，フランスの植民地帝国を導きの糸にフランス語圏の歴史に関する共通の知識を築いていくことを目指します。
この授業では，学生同士そして学生と教員とのやりとりは基本的に日本語で行われます。従って，履修者は大学レベルの日本語の基礎知識を持っていることが期待されます。しかしこの授業を受講するのに完璧な日本語力が必要ではありません。必要に応じて，難しい用語などを英語で補足説明をします。歴史や資料，特にフランスの植民地帝国及びフランス語圏の歴史に興味があることはこの授業を履修する大きな同期付けと言えましょう。
また，「フランス語圏の文化」という授業題名ですので使用する資料の多くはフランス語になりますが，必ずしもそれらを完璧に読解する必要はありません（並行して訳文を使う場合もあります）ので，フランス語の能力というよりはフランス語（圏）への興味が重要です。
この授業で成功する鍵は，毎週の予習と復習，そしてクラスでのグループワーク等のアクティビティに積極的に参加することです。
課題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが，Hoppii を通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	授業紹介 植民地とは何か①	シラバスの確認 授業運営の紹介 植民地の定義，概要
②	植民地とは何か②	植民地の類型①
③	植民地とは何か③	植民地の類型②
④	植民地とは何か④	植民地（化）は過去の現象なのか？
⑤	フランス植民地帝国の名残①	オランジーナ
⑥	フランス植民地帝国の名残②	バナニア，ビスケット，遊園地
⑦	フランス植民地帝国の名残③	北米の地名
⑧	まとめと中間テスト	「植民地とは何か」及び「フランス植民地帝国の名残」（前半）
⑨	フランス植民地帝国の名残④	言語状況について①北米①
⑩	フランス植民地帝国の名残⑤	言語状況について②北米②
⑪	フランス植民地帝国の名残⑥	言語状況について③アフリカ
⑫	Nouvelle-France開拓への道①	「新」大陸への探検
⑬	Nouvelle-France開拓への道②	「新」大陸の探検と開拓
⑭	まとめと期末テスト	「フランス植民地帝国の名残」（後半）及び「Nouvelle-France開拓への道」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習，復習，課題や発表の準備が毎回求められます。
大学設置基準によれば，２単位の講義及び演習の準備・復習時間は１回につき４時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】
授業中に配布しますので，教科書を購入する必要はありません。

【参考書】
Pierre Singaravélou (dir.), "Colonisations. Notre histoire", éditions du Seuil, 2023
それ以外の参考書については必要に応じて授業中に指摘します。

【成績評価の方法と基準】
・中間テスト：30％
・期末テスト：30％
・発表やリフレクションシートなどの課題：20 ％
・平常点（授業への参加状況）：20 ％
※ 尚，平常点に関しては減点方式をとり，4回目の欠席で不合格となります。10分以上の遅刻は2回で欠席扱いとなり，遅延証明は2回まで認めます。何らかの理由で欠席した・する場合は，直ちに教員にメール等で連絡して説明すること。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見等を読み，工夫する必要のある点は特に明記されていないように思いました。改善は全くしない，という意味ではないのですが！

【学生が準備すべき機器他】
前もって合意した特別な状況以外は，授業中の電子機器（スマホ，パソコン等）の使用を認めません。ただし，資料を解読するための電子辞書の使用は認めます。

【Outline (in English)】
The main purpose of this course is for students to acquire knowledge and think about the history of the French colonial empire. One other purpose is for the students to learn about and use methods to read and analyse diverse categories of documents, written mainly in French.
It is not a goal of this course to acquire proficiency in Japanese, or any other language, therefore students are welcome whatever their language proficiency is.
Students will deal with reading (or watching...) various documents, study the vocabulary, and will discuss these and try to answer questions about them.
The format of the course will be as interactive and participatory as possible, with the help of screened slides in order to explain important facts and/or concepts. Classes will focus on group work, cooperation between students to understand the texts and answer questions, in order to build a common knowledge about the the history of the French colonial empire and its links to the "francophone" world.
The key to success in this course is weekly preparation and review of the class content, and active participation during class discussion.
The grading criteria shall be as follows:
・Mid-term exam: 30%
・Final exam: 30%

・Presentations, reflection papers, and/or other activities: 20 %
・Class participation: 20%

HIS300GA（史学 / History 300）

カタルーニャの文化III（歴史・社会A）

PLAZA BALAGUE Marta

配当年次／単位：2〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本コースは、歴史的・社会的・文化的観点からカタルーニャ文化を総合的に紹介することを目的としています。学生は、言語、伝統、芸術、現代社会に特に焦点を当てながら、カタルーニャのアイデンティティを形作る主要な要素について学びます。
最後に、この授業の続きとして「カタルーニャの文化IV（歴史・社会B）」もあるので、関心を持った人はぜひ、最後まで付き合ってください。なお、カタルーニャの世界に本格的に触れるために、カタルーニャ語の知識も欠かせないので、並行して「カタルーニャの文化Ⅰ（言語A）」および「カタルーニャの文化Ⅱ（言語B）」を履修することを強く推薦します。

【到達目標】
本コース修了時に、学生は以下のことができるようになります。
- カタルーニャ文化の主な特徴を理解する。
- 社会におけるカタルーニャ語の役割を理解する。
- カタルーニャの主要な歴史的出来事を把握する。
- 伝統、芸術表現、社会的慣習を解釈する。
- 現代のカタルーニャ社会を分析する。
- 特に日本との比較を通して、自身の文化的背景と照らし合わせながら異文化理解を深める。

本コース修了時には、学生はグローバルかつ異文化的な視点のもとで、現代社会におけるカタルーニャ文化について基礎的かつ体系的な理解を示すことができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
- 視聴覚資料を用いた参加型の講義。
- 文化的テキストやメディア資料の分析。
- 指導付きディスカッションおよび異文化理解を促す振り返り活動。
- 言語能力の習得を目的としない、文化理解に重点を置いたアプローチ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	コース導入＋カタルーニャと言語（1）	コースの目的と進め方の説明。カタルーニャの地理的位置、社会的多様性、使用されている言語の概要。
2.	カタルーニャと言語（2）	現代のカタルーニャ語。多言語社会としてのカタルーニャと言語・アイデンティティの関係。
3.	カタルーニャの歴史（1）	起源から18世紀までの歴史の流れ。主要な歴史的出来事の整理。
4.	カタルーニャの歴史（2）	19世紀以降の歴史：産業化、内戦、フランコ独裁政権、民主化、現代社会。
5.	伝統と祝祭（1）	年間行事と祝祭のカレンダー。宗教行事と市民的祝祭の役割。
6.	伝統と祝祭（2）	昔から続いている民俗文化：カスタイェース（人間の塔）、火祭り、地域協会の文化。
7.	芸術と文学（1）	カタルーニャ文学の概要と文化的背景。代表的な作家と作品。
8.	芸術と文学（2）	音楽、映画、視覚芸術など現代カタルーニャ文化の表現。
9.	現代のカタルーニャ社会（1）	日常生活、家族観、教育、労働、社会的価値観。
10.	現代のカタルーニャ社会（2）	現在の社会的課題と議論（若者、ジェンダー、多文化共生など）。
11.	カタルーニャと日本	歴史的接点、文化交流、相互イメージと比較の視点。
12.	世界の中のカタルーニャ	国際的な発信、文化外交、カタルーニャのイメージとブランド。
13.	映画鑑賞＆ディスカッション	カタルーニャの映画を観てから、グループでディスカッションを行います。
14.	口頭発表	コース全体で学習した中で、事前に教師とトピックを決め、口頭発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
少なくとも60分の予習と180分の復習を必要とします。ただし、時間の「長さ」はもちろん、時間の「質」も非常に大事です。そのため、集中の妨害や先延ばしを引き起こしやすい要素をなるべく避けることが肝心です。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
教場では細かい参考書リストを提供します。
田澤耕（2013）『カタルーニャを知る事典』平凡社。
――（2019）『物語　カタルーニャの歴史――知られざる地中海帝国の興亡』増補版、中央公論新社。
立石博高／奥野良知編（2013）『カタルーニャを知るための50章』明石書店。
Dominic Keown (ed.), 2011, *A Companion to Catalan Culture*, Boydell &Brewer.
Dowling, Andrew, 2022, *Catalonia: A New History*, Routledge.

【成績評価の方法と基準】
1)授業への参加と授業内活動：30%
2)小課題／振り返り：30%
3)ミニテスト：10%
4)最終プレゼンテーション：30%
成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
本シラバスは、授業の進度および学生の関心に応じて変更される場合があります。

【助成機関】
本科目はラモン・リュイ院（Institut Ramon Llull）の助成を受けて開講されています。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course provides a general introduction to Catalan culture from a historical, social and cultural perspective. Students will explore the key elements that shape Catalan identity, with particular attention to language, traditions, the arts and contemporary society. The course adopts an intercultural and comparative approach, especially suited to an international university context.

Finally, this class is followed by “Catalan Culture IV (History and Society B)”, so those who have interest in it, please do not hesitate to take them both. Besides, in order to have a genuine approach to the Catalan world, Catalan language becomes necessary, so I would highly recommend you to take “Catalan Culture I (Language A)” and “Catalan Culture II (Language B)” as well.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students will be able to:
- Understand the main features of Catalan culture.
- Identify the role of the Catalan language in society.
- Recognise key historical milestones in Catalonia.
- Interpret traditions, artistic expressions and social practices.
- Analyse contemporary Catalan society.
- Develop intercultural awareness through comparison between Catalonia and their own cultural background, with particular reference to Japan.
Upon completion of the course, students will demonstrate a solid introductory understanding of Catalan culture and its contemporary context within a global and intercultural framework.
【Learning activities outside of classroom】
It is necessary at least 180 minutes for preparing and 60 minutes for reviewing each class. However, it is very important to pay heed not only to the “amount” of time, but also to its “quality”. Thus, it is essential to avoid distractions and factors that may cause procrastination.
【Grading Criteria / Policy】
- Participation and in-class activities: 30%
- Short assignments / reflections: 30%
- Minitests: 10%
- Final presentation: 30%
The maximum score is 100 points. A minimum score of 60 points is required to pass the course.

ARSa200GA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 200）

フランス語圏の文化Ⅳ（複言語・複文化社会）

廣松　勲

配当年次／単位：1〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：隔年開講　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ア〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界5大陸に広がるフランス語圏（フランコフォニー）社会を「複言語・複文化社会」と捉えた上で、それぞれの社会において複数の言語文化が、どのように共存しているのか、またはどのように軋轢が解消されているのかを論じる。
具体的には、カリブ海域諸島、カナダのケベック州、北アフリカ・マグレブ、サハラ以南アフリカ、フランス語圏ヨーロッパなどにおける言語・社会状況を解説することで、フランス語圏社会の普遍性と差異を提示する。

【到達目標】
(1) フランス語圏社会が複言語・複文化が共存する社会であることを具体的に知ること。
(2) 言及する各社会において、言語・文化の多様性がどのようにして維持されているのかを知ること。
(3) 言及する各社会において、「現地言語・文化」と「フランス語・文化」とが、どのような関係にあるのかを述べられるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
日本語で行われる講義形式の授業である。フランス語の予備知識は特に必要としない。
2〜3コマごとに言及する地域を変更しながら、それぞれの地域特性（歴史・政治・社会・言語状況など）を解説する。紙媒体の配布資料の他に、映画や音楽も参照しながら、具体的に各地域のフランス系文化について説明を行う。
毎回の授業においてコメントシートを執筆・提出してもらい、できるだけ次回以降の授業に反映させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・授業の概要や評価の説明 ・「フランス語圏（フランコフォニー）」とは、いかなる概念なのか？ ・具体的なフランス語圏地域の解説
2	Ⅰ．カリブ海域諸島①	・カリブ海域諸島の歴史、社会および言語状況の説明 【マルチニック島】 ・フランス語とクレオール語の関係
3	Ⅰ．カリブ海域諸島②	【グアドループ島】 ・クレオール語の地位復権運動
4	Ⅰ．カリブ海域諸島③	【クレオール文学運動】 ・クレオール語表現文学の可能性 ・その他の島々とのつながり
5	Ⅱ．カナダ・ケベック州①	・北米大陸の歴史、社会および言語状況の説明 【ケベック】フランス系カナダ人からケベック人へ ・フランスのフランス語とケベックのフランス語の関係
6	Ⅱ．カナダ・ケベック州②	【ケベック】：インターカルチャーとトランスカルチャー ・母語とフランス語の関係
7	Ⅱ．カナダ・ケベック州③	【移動するエクリチュール】 ・その他の北米フランス語圏とのつながり
8	Ⅲ．マグレブ（北アフリカ諸国）①	・マグレブの歴史、社会および言語状況の説明 【アルジェリア】 ・アラビア語、ベルベル語、フランス語の関係
9	Ⅲ．マグレブ（北アフリカ諸国）②	【モロッコ】 ・アラビア語、ベルベル語、フランス語の関係
10	Ⅲ．マグレブ（北アフリカ諸国）③	【チュニジア】 ・アラビア語、ベルベル語、フランス語の関係
11	Ⅳ．サハラ以南のアフリカ①	・サハラ以南のアフリカの歴史、社会および言語状況の説明 【セネガル】 ・アフリカ諸語とフランス語との関係
12	Ⅳ．サハラ以南のアフリカ②	【ルワンダ、コンゴ民主共和国】 ・アフリカ諸語とフランス語との関係
13	Ⅴ．ヨーロッパのフランス語圏①	・ヨーロッパのフランス語圏の歴史、社会および言語状況の説明 【ベルギー】 ・フランス語、フラマン語、ドイツ語の関係
14	Ⅴ．ヨーロッパのフランス語圏② 総括	【スイス】 ・フランス語、ドイツ語、イタリア語、ロマンシュ語の関係 【総括】 全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
期末レポート作成のためでもあるが、日頃から文学・映画・音楽・言語政策など、できるだけ多くフランス語圏の情報を収集すること。
授業で言及・提示する資料の邦訳（可能であれば原典）などにも当たり、できるだけ理解を深めること。
本授業の準備学習・復習時間は合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・特になし。
・毎回、関連資料を配布する。

【参考書】
授業内容の理解やレポート作成の際に参考となる書籍や図書館の蔵書を、以下に挙げる。希望者には、さらに詳しく参考書などを提示する。
・鳥羽美鈴著,『多様性の中のフランス語：フランコフォニーについて考える』関西学院大学出版会，2012年.
・平野千香子著,『フランス植民地主義の歴史』人文書院，2002年.
・中村隆之著,『カリブ－世界論』人文書院，2013年.
・小畑精和著,『ケベック文学研究』御茶の水書房，2003年.
・明治大学中央図書館所蔵の「ケベック文庫」
・鵜戸聡著,「アラブ・フランコフォニーと越境の文学」『反響する文学』（土屋勝彦編，名古屋市立大学『人間文化研究叢書』創刊号），風媒社，2011年.
・梶茂樹・砂野幸稔編著,『アフリカのことばと社会：多言語状況を生きるということ』三元社，2009年.
・岩本和子著,『周縁の文学：ベルギーのフランス語文学にみるナショナリズムの変遷』松籟社，2007年.
・法政大学多摩図書館所蔵の「スイスロマンド文学コレクション」

【成績評価の方法と基準】
・評価配分は、以下の通り
①平常点（コメントシートなど）：30％
②期末レポート：70％
・評価は、主に平常点と期末レポートによって行う。レポート作成については、各自がいずれかの地域（または国）における資料や作品を一つ選んだ上で、複数の言語や文化がどのような方策によって共存しているのかを論じてもらう。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
配布資料に基づいた説明が緩慢にならないように、できる限り映像・音声資料なども盛り込むことでメリハリをつけるようにする。

【その他の重要事項】
フランス語の知識は前提としません。

【Outline (in English)】
This course aims to enhance understanding of the situation of the French-speaking world (la francophonie) in focusing on the social problems concerned with French language. For this purpose, we will learn from a global perspective about the history and social situation of each countries or regions around the world.
The goals of this course are to understanding and explaining the socio-cultural situation of each French speaking regions.
Before and after each class meeting,students will be expected to spend four hours to read the relevant documents.
Your overall grade in the class will be decided based on th folloing:
in class contributions: 30%, term-end reports: 70%.

HIS300GA（史学 / History 300）

宗教社会論 II

佐々木　一惠

配当年次／単位：3〜4年／2単位
旧科目名：宗教社会論 II （キリスト教と社会運動）
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キリスト教は様々な社会思想と結びつきながら、近現代社会における諸問題に対する改革運動を、世界各地で展開してきました。この授業を通じて、学生は１９世紀以降におけるキリスト教を基盤とする社会運動が、どのように近現代社会における諸問題（労働問題・人種差別・貧困・ジェンダー問題・植民地主義など）を捉えたのか、また新たな社会思想（進化論、社会主義、フェミニズム、など）とどのように関わりをもっていったのかを、社会思想史・社会運動史の立場から分析し議論していきます。

【到達目標】
１．近現代のキリスト教に基づく社会運動を考える上で、重要な基本概念や理論について理解できるようになる。
２．宗教と社会運動の関係を、社会思想や歴史意識の視点から分析できるようになる。
３．キリスト教に基づく社会運動に関する簡単な史料分析を行えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
●各回ごとに、取り上げる運動と関連する聖書の箇所、運動を理解するための社会理論や分析概念、運動の具体的な内容を主に講義形式で説明していきます。
●各回ごとに、関連する一次史料の分析を、リアクション・ペーパーにまとめて提出してもらいます。
●提出されたリアクション・ペーパーについては、翌週の授業で複数紹介しながら講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	キリスト教という宗教の成り立ち、そして世界史の中におけるキリスト教を概観する。
2	千年王国論と救済・終末・ユートピアニズム	キリスト教の終末思想を概観する。千年王国論や救済史について議論し、それが近現代の思想と運動にどのように結びついていったかを考える。
3	信仰復興運動と奴隷制廃止運動	19世紀初頭の信仰復興（リバイバル）運動が、どのように奴隷制廃止運動および女性解放運動と関連していたかを議論する。
4	海外宣教運動と帝国主義	キリスト教の海外宣教の歴史を概観するとともに、19世紀半ばから20世紀初頭にかけてのキリスト教海外宣教運動と、欧米帝国主義との関係を、社会進化論や文化帝国主義の議論を交えながら検討する。
5	世界キリスト教婦人矯風会の理念と活動	アルコール中毒を、家庭と社会を滅ぼす罪悪とみなし、活動を展開したキリスト教婦人矯風会の運動を、キリスト教思想と当時の「家庭の領域」の議論を踏まえながら議論する。
6	社会的福音運動とリベラル神学	19世紀末から20世紀の初頭にかけて、スラム街などにおける貧困・労働・公衆衛生・教育などの問題に取り組んだ、社会的ゴスペル運動の理念と活動とその影響について考える。また、1920年代におけるリベラル神学と根本主義（ファンダメンタリズム）の対立についても議論する。
7	日本におけるキリスト教の思想と運動	明治・大正期における日本におけるキリスト教の展開とその神学的特徴を概観する。また、救世軍運動や日本キリスト教婦人矯風会の活動や、日本におけるキリスト教社会主義の運動の展開について議論する。
8	アジアにおけるエキュメニカル運動	エキュメニカル運動が出てきた歴史的背景とアジアにおける展開を概観する。また、それぞれの地域における民衆神学の展開について議論する。
9	アメリカにおける黒人運動と出エジプト記	出エジプト記・ヨシュア記が、被抑圧者に与えた解放に向かう想像力について理解する。そこから、19世紀半ば以降のアメリカにおける黒人の社会運動の展開について議論する。
10	ラテン・アメリカにおける解放の神学	ラテン・アメリカにおいて、解放の神学が興隆してきた歴史的背景を概観するとともに、その思想と活動実践について議論する。
11	キリスト教とファンダメンタリズム	アメリカにおけるファンダメンタリズムの思想を概観するとともに、その教義・運動がアメリカ社会に与えている政治的・文化的インパクトについて議論する。
12	キリスト教とジェンダー	キリスト教思想における女性観を概観するとともに、現代社会における性・ジェンダー問題とキリスト教の関係について議論する。
13	キリスト教とセクシュアリティ	キリスト教とセクシュアリティの 係を歴史的に概 したのち、昨今のクィア神学の取り組みについて議 する。
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業の復習をしっかり行い、重要な概念や理論、また社会運動の特徴について把握しておいて下さい。毎回のリアクション・ペーパーでは、別の回の授業で取り上げた運動やそれに関連する概念や理論を結び付けて議論することもあります。復習を通じて、概念・理論・用語を分析のツールとして使えるようにしておいて下さい。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
○岩井淳『千年王国を夢見た革命』講談社、1995年。

○田村秀夫『千年王国論―イギリス革命思想の源流』研究社、2000年。
○森本あんり『アメリカ・キリスト教史：理念によって建てられた国の軌跡』新教出版社、2006年。
○小檜山ルイ『帝国の福音ールーシー・ピーボディとアメリカの海外伝道』東京大学出版会、2019年。
○グスタボ・グティエレス『解放の神学』岩波書店、2000年。
○土肥昭夫『日本プロテスタント教史』新教出版社、2004年。
○アリスター・E・マクダラス『プロテスタント思想文化史』新教出版社、2009年。
○ Motoe Sasaki, Redemption and Revolution: American and Chinese New Women in the Early Twentieth Century (Cornell University Press, 2016).
○ミラ・ゾンターク『＜グローバル・ヒストリー＞の中のキリスト教―近代アジアの出版メディアとネットワーク形成』新教出版社、2019年。
○パトリック・S・チェン（工藤万里江訳）『ラディカル・ラブークィア神学入門』新教出版社、2014年。

【成績評価の方法と基準】
1. リアクションペーパー（30％）
2. 期末試験（70％）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォンやパソコン等情報機器が必要です。

【Outline (in English)】
The course provides historical background on the relationship between religion and social movements by paying special attention to the Christian religion. It explores the ways that Christianity, along with the other modern ideas and practices such as the Enlightenment, romanticism, social Darwinism, utopianism, socialism, and nationalism, influenced the development of abolitionism, feminism, colonialism/imperialism, labor movements, decolonization movements, and civil rights movements.
By the end of the course, students are expected to be able to: 1) understand the basic concepts and theories that are important in examining the relationship between social movements and Christianity, 2) analyze the relationship between religion and social movements from the perspective of historical consciousness, and 3) conduct a basic historical analysis of social movements based on the ideas of Christianity.
Students will be expected to review each class to: 1) understand the important concepts, theories, and characteristics of social movements, and 2) be able to use the concepts and theories as tools for analysis. In each reaction paper, students may be required to analyze the connection between the movements and the theories that were covered in previous classes.
Students are expected to spend 4 hours per week working on homework, revision, and assignments.
The final grade will be decided by reaction paper (30%) and the final assignment (70%).

HIS300GA（史学 / History 300）

宗教社会論III（イスラーム思想）

久木　正雄

配当年次／単位：2〜4年／2単位
旧科目名：宗教社会論III（イスラーム思想）
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：隔年開講　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
イスラーム学に初めて触れる学生が、イスラームの教義と思想およびムスリムの歴史、社会、文化に関する基本的な知識を得るとともに、他の宗教や宗派・教派といった「異文化」との関係性について考える。

【到達目標】
イスラームとムスリムへの理解と関心を深めるとともに間文化的な視点を養い、各自の考えをリアクションペーパーと学期末レポートにおいて精確に言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。毎回の授業の最後に学生からリアクションペーパーを提出してもらい、次の回の授業の中でそれに対するフィードバックを行う。リアクションペーパーの提出とフィードバックに関しては、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方を確認した上で、受講生と教員との間で問題関心を共有する。
2	世界の諸宗教とイスラーム	世界のさまざまな宗教の中でイスラームが占める位置と、それらの関係性について学ぶ。
3	イスラームの成立	ムハンマドの人物史を主軸に据えて、イスラームの成立過程について歴史的な観点から学ぶ。
4	六信五行	イスラームの世界観と価値観、そしてそれらに基づいたムスリムの生活について知る。
5	ウンマ／ハラール	イスラームにおける共同体をめぐる思想と、「合法」と「非合法」の概念について学ぶ。
6	クルアーン／ハディース	イスラームの二大聖典であるクルアーンとハディースについて、それぞれの成立過程、形態、概略的な内容を知る。
7	シャリーア	シャリーア（イスラーム法）と法学者および諸学派について学ぶ。
8	イスラーム諸宗派	イスラームの諸宗派について、二大宗派であるスンナ派とシーア派を中心に、それぞれの成立過程と特徴を学ぶ。
9	スーフィズム	スーフィズム（イスラーム神秘主義）について、成立過程と文化的・社会的な広がりを知る。
10	「イスラーム世界」と「西洋世界」	「イスラーム世界」と「西洋世界」の関係について、これらの用語を批判的に定義した上で考察する。
11	日本におけるイスラーム	日本におけるイスラームの受容について、歴史と現在の姿を知る。
12	イスラームと女性	イスラームにおけるジェンダーについて、イスラーム世界の内外双方からの女性表象を中心に考察する。
13	イスラームと現代世界	現代におけるイスラームの姿について、他の宗教や文化圏との関係の中で考察する。
14	まとめ	今学期の学習内容を総括的に振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、事前に配布した資料や指示した参考書を熟読しておくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直し、学期末レポートに備えること。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。

【参考書】
- 東長靖『イスラームのとらえ方』山川出版社（世界史リブレット）、1996年、ISBN9784634341500、本体価格729円。
- 『クルアーン　日本語読解』東京ジャーミイ出版会、2022年 、ISBN9784910474007（https://tokyocamii.org/wp-content/uploads/2024/07/QuranNihongoDokkai_edition01_03.pdf）。
その他、教場で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーに基づく平常点：40％、学期末レポート：60％。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の多様な問題関心を、リアクションペーパーなどを通じて恒常的にすくい上げ、授業に反映させることに努める。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
- この授業は、偶数年度の春学期にのみ開講する隔年開講の授業である。奇数年度となる来年度は開講されないため、履修計画を立てる上で注意すること。
- この授業では、イスラームに関してもその他の宗教に関しても宗教教育を目的とせず、宗教とその信仰集団を専ら学問の対象としてのみ扱う。
- アラビア語などの外国語の運用能力の有無は問わない。

【Outline (in English)】
《Course outline》
This course is designed to provide students with a basic understanding of Islam and Muslims, and intercultural perspectives to other religions and denominations.
《Learning Objectives》
Students will gain basic knowledge of the religion, history, society and culture of Islam and Muslims, and the intercultural perspectives between different religions and denominations, as well as the ability to express their ideas accurately in reaction papers, and an end-of-term report.
《Learning activities outside of classroom》
Students are expected to complete the required assignments before and after each class meeting. Each class will require more than four hours of study time.
《Grading Criteria / Policy》
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Reaction papers (40%), and end-of-term report (40%).

ARSk300GA（地域研究（地域間比較）/ Area studies(Interregional comparison) 300）

人の移動と国際関係 II

髙柳　俊男

配当年次／単位：2〜4年／2単位
旧科目名：人の移動と国際関係 II（朝鮮民族のディアスポラ）
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：隔年開講　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮民族のディアスポラ（離散）について考察する。
私たちの暮らす日本社会には、「在日韓国人」「在日朝鮮人」「在日コリアン」などと呼ばれる韓国・朝鮮系の人々が大勢住んでいるが、同様の現象は中国・旧ソ連・アメリカなど、世界各地で見られる。これらの人々が朝鮮半島を離れ、各地に移住した歴史やその後の変化、とくに現地社会での他民族との衝突や共生の営みを、各種の研究成果や教員自身の見聞をもとに、ともに考える。
朝鮮民族の移動と定着という個別のテーマを探求することを通して、移民過程や移住地での多文化共生・文化の変容という、世界に普遍的にみられる現象への理解につながるようにする。

【到達目標】
・各地に暮らす朝鮮民族について、その形成の歴史や現状の概略を理解する。
・それらをもとに、朝鮮民族のディアスポラ（離散）全体について考察する。
・朝鮮民族の事例を普遍化し、移民や多民族共生全般について考えを深める契機をつかむ。
・とりわけ私たちの住む日本における移民や多民族共生について、具体性を伴いつつ考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
世界各地に散らばっている朝鮮民族について、中国・旧ソ連・日本・アメリカを中心に、各数回ずつ取り上げて講義する。関連する映像資料を随時使用し、条件が許せばゲストをお招きした授業を実施したこともある。
毎回、授業の最後に、感想や疑問・質問などをリアクションペーパーに書いてもらい、それを次回の授業冒頭で活用するなど、限定的ながら双方向的な授業になるよう心がけたい。
また、ネット上の学習支援システムを、もう１つの授業の場として活用し、授業の補足や発展に資したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業計画の解説、参考書紹介、受講理由書の記入など。導入として、日本の各界で活躍する外国ゆかりの人物について触れる。
第2回	概況	ディアスポラ概念および朝鮮民族のディアスポラの概要について、まず学ぶ。
第3回	朝鮮内ディアスポラ	朝鮮内における歴史的な人口移動の典型として、火田民・土幕民の存在とその実態を知る。
第4回	中国の朝鮮族①	多民族国家中国の少数民族の一つに位置づけられる朝鮮族について、その概要を知る。
第5回	中国の朝鮮族②	前回学んだ中国の朝鮮族について、映像視聴を通してさらに深く探る。
第6回	旧ソ連の高麗人①	旧ソ連の高麗人（朝鮮系の人々）について、その概要を知る。とくに1937年、スターリンによる極東から中央アジアへの強制移住について学ぶ。
第7回	旧ソ連の高麗人②	前回学んだ旧ソ連の高麗人について、映像視聴を通してさらに深く探る。
第8回	在日韓国・朝鮮人①	私たちにとって一番身近であるはずの在日韓国・朝鮮人については、回数をかけて重点的に学ぶ。今回はまず、その概要として、形成史を知る。
第9回	在日韓国・朝鮮人②	在日韓国・朝鮮人史に関して、とくに海峡を越えた人の移動の観点から再整理する。
第10回	在日韓国・朝鮮人③	海峡を越えた人の移動の一つで、現在にも大きな影響を及ぼしている1959年からの北朝鮮帰国事業について、詳しく学ぶ。
第11回	在日韓国・朝鮮人④	在日韓国・朝鮮人についてここまで学んできた内容を、映像視聴を通してまとめる。
第12回	在日韓国・朝鮮人⑤	在日韓国・朝鮮人についての最終回として、若い世代の複合的なアイデンティティについて考察する。
第13回	在米コリアン	在米コリアンについて、ごく大まかな概要と、とくに1992年のロス暴動に関して学ぶ。
第14回	海外養子問題	韓国から戦後、孤児や私生児などが多数、養子として欧米に送られた。近年、当事者自らによってつくられた映画も紹介しながら、この問題を重点的に考察してまとめとする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回配付するプリントに「自習課題」を設定し、同じものを学習支援システム上にも載せる。これは「自習」なので必ずしも提出を要しないが、認識を深化させるためにもやってみることをお勧めする。提出した学生には、たとえば就職活動による授業の欠席などを補う要素として加味する。
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定の書籍をテキストとしては使用せず、毎回、Ａ３で表裏１枚のプリントを作成して配付する。

【参考書】
参考文献はそのつど指示するが、事典として『韓国朝鮮を知る事典〔新版〕』（平凡社）、『岩波小辞典　現代韓国・朝鮮』（岩波書店）、『世界民族問題事典』（平凡社）、『世界民族事典』（弘文堂）、『人の移動事典：日本からアジアへ・アジアから日本へ』（丸善出版）などを適宜参照すること。

【成績評価の方法と基準】
毎回提出するリアクションペーパーに反映された授業に取り組む姿勢40％、学習支援システムを利用した中間での小課題20％、学期末のレポート40％を基準とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
過去のアンケートでは、以下のような好評をいただいた。
今回も、そうした授業になるよう努力したい。
・リアクションペーパーに毎回フィードバックしてくれたので、他の学生がどのように考えたのかを知れてよかった。
・映像資料が普段では見れないものが見れて良かった。
・ゲストを招いた講義が面白かった。
・学部の中でもすばらしい授業の一つ。

【その他の重要事項】
朝鮮半島の歴史や文化についての一定の知識を前提に話を進める、やや応用篇の授業である。事前に、毎年開講の「朝鮮語圏の文化Ⅰ 朝鮮半島の文化史」を受講しておくことが望ましい。未受講の場合は、そうした前提知識を自分で補うよう努めながら授業に臨むこと。
また、中華系や日系の移民を扱う「人の移動と国際関係Ⅰ」「人の移動と国際関係Ⅲ」（ともに隔年開講）も用意されているので、あわせて受講することをお勧めする。

【Outline (in English)】
This class examines the history and present condition of Korean residents living in various countries around the world.
Through the case of Koreans, students are expected to think universally about the migration, settlement, ethnic conflicts, and integration.
Final grade will be calculated according to the following process. Reaction papers for each class 40%, mid-semester report 20%, and term-end report 40%.

ARSa400GA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 400）

地域協力・統合

大中　一彌

配当年次／単位：2〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ア〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ヨーロッパとは何か」という問いに、自分なりの答えを言えるようになるのがこの授業の目的です。
授業を紹介する動画を２つ用意しました。ぜひご覧ください：
《なぜ国は買えないのか》　https://x.gd/aZ8no　※学内者限定
《西ヨーロッパと自由》　https://x.gd/6bP6e　※学外からも閲覧できます。
学内には他にもヨーロッパ関連の科目があります。これらの授業と比較した時の、本授業「地域協力・統合」の特色は、高校までの世界史の知識を確かめながら、思想史や文化史に軸足をおきつつ、これからの国際社会で活躍する人材が身に付けておくべき基礎教養として、「ヨーロッパとは何か」について学ぶ点にあります。過去と現在を往復しながら、とくにヨーロッパと、その外部とされるものの境界（ボーダー）に焦点をあてつつ、認識をほりさげていきます。

【到達目標】
①「ヨーロッパ」の地理的広がりについて、みずからの考えを述べることができる。
②古代ギリシア、ヘレニズム、古代ローマの文化的・政治的・哲学的遺産と「ヨーロッパ」を関連付けて（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
③西ローマ帝国崩壊前後以降、10世紀にいたるゲルマン人、ノルマン人、スラブ人の民族大移動と「ヨーロッパ」の形成を、各国史との関係で（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
④カトリシズムを軸として形成される中世の西ヨーロッパと、正教を軸として形成される東ヨーロッパや、イスラームの拡大を関係づけつつ（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
⑤ルネサンス期を特徴づけるユマニスムの人間論上の意義、大航海時代における非ヨーロッパ地域への影響、宗教改革がもたらした信仰と政治の関係性について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
⑥中央集権化やヨーロッパ外における植民地をめぐる争い、「文芸の共和国」の出現など、一連の政治的文化的な変化を背景としつつ、商業の発展をつうじて発生した「ヨーロッパ中心主義」的な意識に関し、肯定・否定の両面から論じることができる。
⑦イギリス、アメリカ、フランスや他のヨーロッパ諸国にみられる市民的権利にもとづく思想・制度の発達について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・この科目「地域協力・統合」は、2025年度にひきつづき、2026年度も、リアルタイム・オンラインで実施します。
・授業時間（100分）の前半65分程度は、受講者全体へのフィードバック（15-20分）と講義（45-50分）にあてています。
・授業時間（100分）の後半35分程度を、グループディスカッションにあてています。
・毎回の授業資料はGoogle Classroomをつうじて事前に配布しています。
・学習支援システム-Hoppiiを利用し、小テストを受験してもらう場合があります。
・基本的にリアルタイム・オンラインですが、授業内容の録画を、受講者の個人情報の保護に留意しつつ、受講者のみが視聴できる形で共有する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	受講上の約束事	授業内容の紹介、注意事項の説明
2	ヨーロッパの地理的定義	ユーラシア大陸から突き出た「半島」としてのヨーロッパ：東の境界は？
3	人の移動と石器・青銅器・鉄器時代	ヨーロッパ各地に広がるケルトの文化
4	考古学的定義	ギリシア世界
5	神話と政治	「ヨーロッパ」の語源とされる諸神話や、「アジア」と対比した際のギリシア世界の特質とされるものについて学ぶ
6	ヘレニズムと地中海世界	「ギリシア文明」の地理的拡大
7	古代ローマ	ローマの盛衰と遺産としての法制度や建築
8	西ローマの崩壊と民族大移動	統一的な地中海世界の終わり＝「文明」の崩壊のイメージ及びアジア諸民族の侵入
9	「周縁」としてのヨーロッパ	いわゆるノルマン人の全ヨーロッパへの進出、スラブ人の中東欧への進出
10	フランク王国と「12世紀のルネサンス」	西ヨーロッパにおけるカトリシズムを軸とした中世的秩序の形成
11	大航海時代とルネサンス、宗教改革	ポルトガルによるアフリカ大陸西岸の航海、ユマニスム的な「人間の尊厳」の観念、プロテスタンティズムの発生によるカトリック圏としての西ヨーロッパの分裂
12	16世紀-17世紀のヨーロッパ政治史	ハプスブルク家、オスマン・トルコ、テューダー朝のイギリス、ユグノー戦争、三十年戦争。西ヨーロッパ諸国間の紛争の新大陸やアジアにおける展開
13	「主権」の発動たる戦争、その悲惨を目の当たりにした人々による平和の希求	ジャック・カロ「戦争の悲惨」。クリュセ、コメニウス、ペンらに芽生えた統合の思想
14	啓蒙思想と革命	君主を含めた主権者同士の連合から、民主主義、ナショナリズムの時代への移行

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 小テストが宿題として出されます（ネット上で受験）
2. グループ・ディスカッションの課題の提出（授業時間内に提出まで至らなかった場合のみ）
2. 本学学則基準によると、講義や演習で２単位を得るのに必要な予習・復習の時間は１回につき４時間以上とされているそうです。

【テキスト（教科書）】
教科書を買う必要はありません。Google Classroom上で資料を配布します。

【参考書】
授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
●１．期末テストは行いません　0%
●２．期末レポートは出題しません　0%
●３．小テストの受験【インターネット上において授業時間外に受験するため、体育会や就職活動中の学生、所属キャンパスを問わずすべての学生がオンラインで受験できます（※１）】60%
（※１）小テストは授業の復習であり、授業で配る資料をみれば、簡単に答えられるやさしい内容です。
●４．オンライン授業への参加【リアルタイム・オンライン授業＝月４限のZoomミーティングへの各学生による接続（※２）】20%
（※２）ただし、第１回、第２回、第14回のリアルタイム・オンライン授業（Zoomミーティング）の活動についてのみ、この項目●４．ではなく、●６．における評価対象といたします。
●５．グループ・ディスカッション＆学生間の共働【グループ・ディスカッションにおける意見交換への積極的参加や、グループ・ディスカッションにおける学生間のやりとりのとりまとめ、所定のGoogleフォームを用い、とりまとめた成果物を教員に提出（送信）する、等（※３）】20%
（※３）グループ・ディスカッションは、３〜６人程度の学生グループをZoomのブレイクアウト・ルーム機能を用いて毎回新たに作り、複数人の共同作業として行っています。Zoomに接続し、他の学生と共に議論に参加していたことがグループとして提出した成果物に記載されていれば、加点されます。
●６．その他【１．〜５．の合計100%には含めず、その外枠で10%程度まで加算します。】
（ア）運営への協力（協力してくれた方に加点しています；たとえば配布資料の誤字や、WebClassやGoogle Classroom等のLMSの設定の誤りの指摘。授業参加者間の連絡や情報共有に積極的に取り組んでくれたといった形の運営協力が加点の対象）
（イ）第１回、第２回、第14回のリアルタイム・オンライン授業（Zoomミーティング）と関連する活動への参加
（ウ）小テスト以外の提出物（アンケート等）で加点対象とするものが提出された場合

【学生の意見等からの気づき】
・ヨーロッパの文化史や政治史、経済史についての学びは、大人の教養として経験しておいたほうが良さそうではあるけれど、わかりづらそうで敬遠したくなるという方もいるようです。
・この科目「地域協力・統合」は、高校までの学習内容を確認しながら、大学の学部レベル以上の内容に深めていくという組み立てとすることで参加のハードルを下げ、そうした方（かた）が必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】
資料の共有などに、Google ClassroomやWebClassを使いますので、必要な機器や情報環境はお持ちであったほうが良いでしょう。

【その他の重要事項】
・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。

・留学や大学院進学、就職などの相談もOKです。
・問い合わせ先や、授業内容のイメージについては、次のリンク先をご覧ください（Wordファイル）https://x.gd/1W2Mf

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
What is Europe? This question, which many present-day Europeans ask themselves, is the main theme of this course. In this class, students will examine the question with an emphasis on the history of ideas and culture. Starting with the geographical notion of Europe as a “continent", students will familiarize themselves with its basic archaeological, ethnic, religious, philosophical, and historical aspects. Students will be encouraged to explore these areas to reflect on the modern idea of Europe as a haven of peace and the possibility or impossibility of a single European identity. She or he will move back and forth between the past and the present, focusing in particular on the ambivalence of the boundaries between Europe and its "others", in order to deepen her or his understanding of the question.
【到達目標（Learning Objectives）】
By the end of the course, students should be able to do the following:
1) Expressing her or his own views about the geographical spread of "Europe".
2) Relating the notion of "Europe" to the cultural, political, and philosophical legacies of ancient Greece, Hellenism, and Rome, and making an argument at a level appropriate for an undergraduate student.
3) Discussing, at a level appropriate for undergraduate students, the Great Migration of Germanic, Norman, and Slavic peoples and the formation of "Europe", in relation to the history of each country from the time of the collapse of the Western Roman Empire to the 10th century.
4) Explaining the relationship between Western Europe in the Middle Ages, which was formed around Catholicism, and Eastern Europe, which was formed around Orthodoxy, and the expansion of Islam, at a level appropriate for undergraduate students.
5) Describing, at a level appropriate for undergraduate students, the significance of humanism, which characterized the Renaissance, the impact of the so-called "Age of Discovery" on non-European countries, and the redefinition of the relationship between faith and politics resulting from the Reformation.
6) Argueing, both positively and negatively, about the "Eurocentric" consciousness that emerged through the development of commerce under a series of political and cultural changes, including the centralization of power, wars in colonies outside Europe, and the emergence of the "Republic of Letters".
7) Illustrating the significance for modern societies of the development of civil rights-based ideas and institutions with historical events in the United Kingdom, the United States, France, and other European countries at a level appropriate for undergraduate students.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
1) A simple quiz will be given almost every week as homework. Participation in this quiz is mandatory for all students taking the course. In order to answer this quiz, students need to use the learning support system - Hoppii (on the Internet).
2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the minimum time of preparation and review required to earn two credits for a lecture or seminar is four hours per session.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Based on the following grading methods, students who have achieved at least 60% of the achievement objectives for this class will be considered to have passed the class (C minus or better on a letter grade basis).
1. No final exam will be given. 0%.
2. Attendance will not be taken 0%.
3. Quiz Examination [All students, regardless of their campus affiliation, including athletics and job-seeking students, can take the quiz online because of the use of Hoppii] 61%.
4. Group discussion and collaboration among students [Participation in group discussions, group discussion on Google Classroom, and sending the results to instructors, etc.] 25%.
5. End-of-term report (to be submitted only by those who wish to do so): 14%.

HIS300GA（史学 / History 300）

The Global South: History and Politics

佐々木　一惠

配当年次／単位：1〜4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：
備考（履修条件等）：国際文化学部主催科目に必要とされる英語能力基準は、TOEFL iBT 61-75、TOEFL ITP Level1 500-539、TOEFL ITP Level 2500、TOEIC675-819、ＩＥＬＴＳ6.0、英検準1級程度。基準スコアに満たない、あるいはスコアを持っていない学生は、担当教員に相談すること。
Courses in Intercultural Communication need the higher English proficiency mentioned below: TOEFL® iBT 61-75, TOEFL® ITP Level 1 500-539, TOEFL® ITP Level 2500, TOEIC® 675-819, IELTS 6.0, and EIKEN Grade Pre-1st. If you don't have any score mentioned above, contact the instructors directly.

その他属性：〈グ〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The course takes up current social, economic, and political issues related to "the Global South," such as climate change, immigration, tourism, pandemics, repatriation of art and cultural artifacts, and Black Lives Matter, from a transnational and cross-cultural perspective, incorporating the historical past.
By discussing various topics associated with the Global South, students will gain knowledge of important contemporary phenomena, acquire concepts and theories for analyzing these phenomena, and be able to research issues related to the Global South.

【到達目標】
At the end of this course, students will be able to:
・Understand the issues surrounding the Global South and their historical background.
・Analyze issues related to the Global South using concepts and theories from the framework of global and transnational history.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
The first part of the class focuses on providing students with a broad understanding of the background of the topic covered in the assigned readings and important concepts and theories related to the topic. The class then engages in a discussion that allows students to share their insights and interpretations of the reading assignment. In the second half of the class, the focus shifts to a broader examination of the issues raised in the reading assignment. The class expands its scope to explore the implications, connections, and applications of the issues in a broader context.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week1	Introduction	An overview of the course.
Week2	Climate Change	Explores the impact of climate change on the Global South and discusses the conflict between the Global South and developed countries over environmental issues.
Week3	Tourism	Traces the images of Africa as a tourist destination created by the West in the past and discusses how such images are currently being renovated and/or reframed.
Week4	Pandemics	Explores the pandemics that have historically plagued Latin America and discusses the problems caused by Covid-19.
Week5	Representation	Analyzes exotic advertising using Edward Said's notion of Orientalism and discusses how such images are now being appropriated by the Global South.
Week6	The midterm	The Practice of Analyzing Primary Sources and a Quiz
Week7	Immigration and Citizenship	Takes up the case of past migrants from India to East Africa and discusses their current situation as citizens in African countries.
Week8	Repatriation of Cultural Heritage	Using the case of museums in Germany that own artifacts confiscated from colonies, discusses the repatriation of cultural heritage.
Week9	Black Lives Matter Movement	Explores the current controversy over public history and monuments in the wake of the Black Lives Matter movement.
Week10	Final Paper Presentation 1	10-minute presentation on an issue related to the Global South, including a historical perspective.
Week11	Final Paper Presentation 2	10-minute presentation on an issue related to the Global South, including a historical perspective.
Week12	Final Paper Presentation 3	10-minute presentation on an issue related to the Global South, including a historical perspective.
Week13	Final Paper Presentation 4	10-minute presentation on an issue related to the Global South, including a historical perspective.
Class14	Wrap up	Summary of the course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are required to read all the assignments and be ready for class discussions, and also write a paper analyzing assigned primary sources.
Students are expected to spend about 4 hours a week on coursework outside the class.

【テキスト（教科書）】
There is no textbook for this course. All course materials are available online through the course site.

【参考書】
○Carina Schmitt, eds. From Colonialism to International Aid

External Actors and Social Protection in the Global South (Palgrave Macmillan, 2020).
◯Danielle Watson, et al. Policing the Global South: Colonial Legacies, Pluralities, Partnerships, and Reform (Routledge, 2023).

【成績評価の方法と基準】
① Class participation 30%
② Primary document analysis quiz 20%
③ Presentation 20%
④ Final Paper 30%
Based on the grading criteria, students who successfully achieve 60% or more of course goals will earn a passing grade.

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【学生が準備すべき機器他】
ICT devices such as laptops and tablets.

ECN300HA（経済学 / Economics 300）

途上国経済論Ⅰ

武貞　稔彦

配当年次／単位：1〜4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火5/Tue.5
備考（履修条件等）：環ｺｱ：経, グ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、固有の歴史／文化的背景も含め日本とのかかわりを念頭におきながら基礎的な知識の習得をめざす。またそれらの基礎的な知識は、持続可能な開発目標（SDGs）に掲げられた各種課題／目標の理解の基礎となるものでもある。

【到達目標】
本講義においては、ア）途上国経済の分析枠組み、特徴、イ）主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、ウ）日本社会や経済の世界における位置づけをよりよく理解し、エ）将来社会に出た際に諸外国の人々と基礎的な知識に基づいた意味あるコミュニケーションができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
途上国経済論Ⅰにおいては、途上国の社会と経済を見る際に使われる分析枠組み、主要地域ごとの歴史と社会の概要、日本と特に関係が深いアジア諸国の経済と社会を中心に学ぶ。
学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。
また学習支援システムを通じたコメント／質問の提出も可能とする。フィードバックは学習支援システムを通じて個別に行うが、必要に応じて授業内でも内容を紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：開発途上国とは。途上国経済を見る目	開発途上国とよばれる国や地域はどのようなところか、概念を整理する。同時に、途上国を見る際に頻繁に使われる分析枠組み（評価軸）を再考する。
第2回	経済成長の理論と途上国経済の位置づけ	経済学の世界では経済成長はどのようなものだと考えられているかを紹介し、途上国経済を扱う「開発経済学」の発展を概観する。
第3回	日本は途上国だったのか？ ：戦後日本の経済成長と現在の開発途上国経済	戦後日本は急速な経済成長をとげたが、現在の開発途上国にとって日本はどのような点で手本足り得るかを考える。
第4回	途上国社会・経済の概況（1）：アジア地域	アジア地域の「途上国」と呼ばれる国や地域が「キャッチアップ」を果たす過程で、政府・国家がどのような役割を果たしたのか、東アジアと南アジアをとりあげ、歴史的な視点から概観する。特に、分析の視点として「植民地」について考える。
第5回	途上国社会・経済の概況（2）：ラテンアメリカ地域	アジアと異なる「植民地」経験を持つラテンアメリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第6回	途上国社会・経済の概況（3）：アフリカ	アジアと異なる「植民地」経験を持つアフリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第7回	途上国社会・経済の概況（4）：映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第8回	主要国／地域の社会と経済（1）：韓国－危機とその克服	韓国は、目覚しい経済成長を遂げたNIESの代表である。一旦は先進国の仲間入りを果たした韓国の歩んだ道筋と1997年のIMF危機以降の経済・社会の状況について理解する。
第9回	主要国／地域の社会と経済（2）：台湾－その生い立ちと国際社会における立場	台湾も、韓国とならび目覚しい経済成長を遂げたNIESの一つである。現在の台湾の国際社会・国際経済における地位はその特殊な生い立ちに影響されていることを理解する。
第10回	主要国／地域の社会と経済（3）：香港およびシンガポール－小さな街の大きな経済	アジアNIESの一つである香港とシンガポールをとりあげ、資源のない国（都市）の経済成長について考える。
第11回	主要国／地域の社会と経済（4）：インドネシア－多様性の中の権威主義的開発体制	アセアン（Association of South East Asian Nations）の一員としてNIESに続き経済成長を遂げたインドネシアをとりあげ、政治体制と経済成長（経済発展）の関係について考える。
第12回	主要国／地域の社会と経済（5）：マレーシア－カリスマと経済成長	強力なリーダーによる経済成長戦略を通じて発展したマレーシア経済・社会を概観する。
第13回	民主主義と経済成長	アジア的価値がアジア諸国の経済成長をもたらしたのか。民主主義と経済成長の関係を、アジア諸国を例に考える。
第14回	経済成長、進歩、貧困	先進国、途上国いずれもが経済成長を通じた社会の進歩、貧困の克服を目指してきた。現代の途上国は経済成長によって貧困をなくすことができるのか、という問いを概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
各回に指定される参考文献および参考図書の該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】
グラボウスキー他（2008年）『経済発展の政治経済学』（日本評論社）
渡辺利夫編（2007年）『アジア経済読本（第4版）』（東洋経済新報社）

大塚啓二郎（2020年）『なぜ貧しい国はなくならないのか（第２版）正しい開発戦略を考える』(日本経済新聞出版)

【成績評価の方法と基準】
成績評価は中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート20%、期末試験
80%を予定する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内で学生の発言を促す工夫を行う。

【学生が準備すべき機器他】
講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものやスライドなどは、学習支援システム上に掲示する。

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は、途上国への経済協力の実務に携わっていた経験がある。本講義に関しては途上国での駐在も含めた業務経験で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
This is a first part of the course on the economy and society of developing countries. Students will be able to obtain a reference framework and to understand basic structure of developing countries' economy including particular historical, cultural, and geographical settings. Those basic knowledge are also the basis for understanding the various issues/goals set forth in the Sustainable Development Goals (SDGs).
[Learning Objectives]
The objectives of this lecture are to a) learn about the analytical framework and characteristics of developing economies, b) learn about the characteristics of the economies and societies of major regions and major countries, c) better understand the position of Japanese society and economy in the world, and d) be able to communicate meaningfully with people in other countries based on basic knowledge in the future.
[Learning Activities outside of classroom]
Students are required to prepare for and review the materials introduced in each lecture.
It is necessary to refer to the relevant parts of the reference literature and reference books specified for each lecture before and after the lecture to deepen understanding of the lecture contents. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
Grading will be based on mid-term report and final exam. Grading will be based on mid-term report 20%, final exam 80%.

ECN300HA（経済学 / Economics 300）

途上国経済論 II

武貞　稔彦

配当年次／単位：1〜4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：火5/Tue.5
備考（履修条件等）：環ｺｱ：経, グ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、固有の歴史／文化的背景も含め日本とのかかわりを念頭におきながら基礎的な知識の習得をめざす。それらの基礎的な知識は、持続可能な開発目標（SDGs）に掲げられた課題／目標の理解の基礎となるものでもある。

【到達目標】
本講義においては、途上国経済論Ⅰに引き続き、ア）主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、イ）日本社会や経済の世界における位置づけをよりよく理解し　ウ）南北問題や世界貿易など、個々の国や地域が置かれている「構造」への理解を深めることで、エ）将来社会に出た際に諸外国の人々と基礎的な知識に基づいた意味あるコミュニケーションができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
途上国経済論Ⅱにおいては、新興国と呼ばれる経済成長著しい国、今後の経済発展が見込まれる国などの歴史と社会の概要、国際経済の成り立ちなどを講義形式で学ぶ。
学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。
また学習支援システムを通じたコメント／質問の提出も可能とする。フィードバックは学習支援システムを通じて個別に行うが、必要に応じて授業内でも内容を紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：途上国経済を見る目	途上国経済論Ⅰの概要の復習とⅡの主題についての概観。
第2回	世界経済の歴史	「経済」と呼ばれるものの誕生も含め,「世界経済」の成り立ち、発展について概観する。
第3回	世界貿易の構造をめぐる議論	国際経済の主要な活動である貿易について、その理論、構造、課題を概観する。
第4回	途上国社会・経済の概況（1）：中国（1）社会主義と資本主義	中国は世界有数の大国であり、計画経済から市場経済へと緩やかに転換しつつ経済成長を続けている。議論の前提として社会主義／共産主義の考え方についての理解を深める。
第5回	途上国社会・経済の概況（2）：中国（2）持続的経済成長と大国としての復活	世界経済にインパクトを与える存在となった中国の社会と経済について概観する。
第6回	途上国社会・経済の概況（3）：インド－目覚めた大国	インドは、近年、経済成長著しいBRICsの一つ。イギリス植民地から独立した後のインドの長い経済停滞、1990年代以降の目覚しい経済発展という大きな流れを理解する。
第7回	途上国社会・経済の概況（4）：映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第8回	主要国／地域の社会と経済（5）：タイ－東南アジアの「先進国」	東南アジア諸国のなかでもNIESに続く目覚ましい経済発展を遂げたタイ。アジア通貨危機の発端となるなど途上国の中の「先進国」の経済社会を概観する。
第9回	主要国／地域の社会と経済（6）：ベトナム－戦場から市場へ	1960年代にベトナム戦争で大きな傷を受けたベトナムが新興経済国の一角として名乗りを挙げる過程を概観する。
第10回	主要国／地域の社会と経済（7）：ブラジル－南米の大国	ブラジルはインドや中国とならび21世紀に入って新興国として台頭著しい。豊かな自然を抱える大国の姿を概観する。
第11回	主要国／地域の社会と経済（8）：南アフリカ－アパルトヘイト	アパルトヘイトという大きな問題を克服して以降の南アフリカ経済の新興国としての経済成長を概観する。
第12回	主要国／地域の社会と経済（9）：ボツワナ－資源の呪いを越えて	アフリカ大陸にありながら世界でも有数の高経済成長を続けたボツワナの経済社会を概観する。
第13回	国際経済の中の域内協力	ASEAN（東南アジア諸国連合）を例に、グローバル化がすすむ国際社会における域内協力の重要性を概観する。
第14回	まとめ：途上国経済および世界経済の未来	講義全般の復習を行うとともに、今後の世界経済、途上国経済の姿について想像する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
各回に指定される参考文献および参考図書の該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】
グラボウスキー他（2008年）『経済発展の政治経済学』（日本評論社）
渡辺利夫編（2007年）『アジア経済読本（第4版）』（東洋経済新報社）
大塚啓二郎（2020年）『なぜ貧しい国はなくならないのか（第２版）正しい開発戦略を考える』(日本経済新聞出版)

【成績評価の方法と基準】
成績評価は中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート20%、期末試験
80%を予定する。

【学生の意見等からの気づき】
学生が記入したリアクションペーパーに対する、教員からのコメントなどを充実することを目指す。

【学生が準備すべき機器他】
講義内容にメリハリをつけるとともに、学生からの質問コメントへのフィードバックを充実する予定です。

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は、途上国への経済協力の実務に携わっていた経験がある。本講義に関しては途上国での駐在も含めた業務経験で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】
[Course Outline]

This is a second part of the course on the economy and society of developing countries. Students will be able to obtain a reference framework and to understand basic structure of developing countries' economy including particular historical, cultural, and geographical settings. Those basic knowledge are also the basis for understanding the various issues/goals set forth in the Sustainable Development Goals (SDGs).
[Learning Objectives]
The objectives of this lecture are to a) learn about the analytical framework and characteristics of developing economies, b) learn about the characteristics of the economies and societies of major regions and major countries, c) better understand the position of Japanese society and economy in the world, and d) be able to communicate meaningfully with people in other countries based on basic knowledge in the future.
[Learning Activities outside of classroom]
Students are required to prepare for and review the materials introduced in each lecture.
It is necessary to refer to the relevant parts of the reference literature and reference books specified for each lecture before and after the lecture to deepen understanding of the lecture contents. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
Grading will be based on mid-term report and final exam. Grading will be based on mid-term report 20%, final exam 80%.

SOC200HA（社会学 / Sociology 200）

現代社会論 I

佐伯　英子

配当年次／単位：1〜4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：木5/Thu.5
その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会学理論は、社会を分析し理解するための重要な道具です。本科目では理論とその使い方を学び、「社会学的に社会を見る」面白さを体験します。まずは現代社会がどのように形作られてきたかを理解するために近代化についての理論を学び、その後は個人と社会の関係、労働と経済的格差、教育、多様性、人権等に関するの課題とそれに関連する理論を、具体的な事例や日常生活と関連づけながら多面的・多角的に検討します。

【到達目標】
本科目は現代社会が直面している諸問題を社会学の概念や理論を使って分析することによって、それぞれの学生が自分で考え、それを言語化する力をつけることを目標とします。新たな視点を得ることで「当たり前」を疑い、主体的に調べ、議論する力を涵養することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本科目は講義形式で行いますが、双方向的な学びを促進するため、授業中にオンラインツールを用いたクイズやアンケート等を適宜実施します。また、毎回の授業の最後に、その回の内容に関する小課題を課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	理論と概念の重要性、社会学と持続可能な社会の構築、授業の進め方
第2回	「社会を社会学的に考える」とは	社会学的想像力
第3回	近代化と社会	分業、連帯、アノミー、社会的事実
第4回	個人と社会	社会的存在としての人間、アイデンティティ、社会化
第5回	資本主義と労働、格差の再生産	労働、階級、ハビトゥス、文化資本
第6回	管理社会	「従順な身体」、権力とまなざし
第7回	前半のまとめ、試験1	前半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う
第8回	フェミニズム理論	知識とジェンダー、労働としての家事、感情労働、インターセクショナリティー
第9回	セクシュアリティとジェンダーアイデンティティ	異性愛規範、シスノーマティビティ
第10回	ポストコロニアリズム	オリエンタリズム、サバルタン、人種、多様性
第11回	人種と民族	歴史的背景、マイクロアグレッション、日本におけるレイシズム
第12回	インターセクショナリティ	権力、アイデンティティ、個人の経験
第13回	社会変化	構造機能主義と紛争理論、社会運動論、人権、民主主義を考える
第14回	後半のまとめ、試験2	後半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは用いない。

【参考書】
奥村隆 2014『社会学の歴史Ⅰ』有斐閣
クリストファー・ソープ他、沢田博訳 2015『社会学大図鑑』三省堂
クリス・ユール・クリストファー・ソープ、田中真知訳 2017『10代からの社会学大図鑑』三省堂

【成績評価の方法と基準】
平常点（毎週の小課題を含む）50%、 試験 50%

【学生の意見等からの気づき】
課題に書かれた考えや質問を共有しコメントする。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用します。

【Outline (in English)】
【Learning Objectives】
In this course, students are expected to gain foundational knowledge of sociological theory and the ability to apply such knowledge to issues we face in contemporary society.
【Course outline】
Specific topics to be covered include modernization, inequality, identity, education, and diversity. Each class consists of lectures and activities to apply theories to social issues we have today.
【Learning activities outside of classroom】
Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Participation (including small weekly assignments) 50%; Exams 50%

SOC200HA（社会学 / Sociology 200）

現代社会論 II

島袋　海理

配当年次／単位：1〜4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火1/Tue.1
その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、現代社会における重要なトピックである、ジェンダー／セクシュアリティに関する問題を扱う。ジェンダー／セクシュアリティの視点は、現代社会における日常生活の出来事からマクロな社会問題まで、幅広い課題を考えるツールとなる。本授業では、ジェンダーのみならずセクシュアリティ（第4回）、また性的マイノリティ（第3-5回）についても紹介する。また、生物学（第6回）や教育社会学（第8-10回）、家族社会学（第13回）など、ジェンダー／セクシュアリティをめぐる問題が多様な学問領域を背景にして成立し、時には学問の垣根を越えて展開されてきたことを紹介する。さらに、ジェンダーの関わる問題は日常生活の様々な場面において現れることを示すために、（学校）教育（第8-9回）、大学（第10回）、労働（第11-12回）、結婚・出産（第13回）といった、多くの人々の人生に関わる問題について、ジェンダー／セクシュアリティの観点から考えていく。

【到達目標】
①現代社会をジェンダー／セクシュアリティの観点から捉えることができる
②現代社会におけるジェンダー／セクシュアリティ問題の射程の広さや議論・立場の多様さを理解する
③ジェンダー／セクシュアリティが関わる問題を自分事として考えることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式（対面またはオンライン）を採用する。
第1回目はオリエンテーションとして、授業の目標と内容、計画等を詳述する。
第2回目以降は、以下のように進める。
(1)前回の授業のコメントシートの内容を取り上げ、前回の復習を行う（10-20分）
(2)担当教員から、当該授業回のテーマについてレクチャーを行う（60-70分）
(3)当該授業の内容に関する小課題を提示し、提出する（20分）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の概要、講義の進め方
第2回	ジェンダーの定義①	< 分類> としてのジェンダー、フェミニズム【教科書はじめに・1章】
第3回	ジェンダーの定義②	インターセックス／性分化疾患、アイデンティティ【教科書2章】
第4回	ジェンダーとセクシュアリティ①	トランスジェンダー、ジェンダー・マイノリティ【教科書3章】
第5回	ジェンダーとセクシュアリティ②	同性愛者・両性愛者、セクシュアル・マイノリティ【教科書4章】
第6回	生物学とジェンダー／セクシュアリティ	性差と性役割、生物学のジェンダー的偏見【教科書5・6章】
第7回	前半のまとめ、中間試験	前半で扱った内容について問う試験と解説
第8回	教育学とジェンダー	進路の性差、学校文化とジェンダー【教科書7章】
第9回	教育学とセクシュアリティ	青少年の性行動、性教育と家族・国家【教科書8章】
第10回	性暴力／ハラスメントと大学	被害者と加害者の視点、セクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント【教科書9・10章】
第11回	仕事とジェンダー	「女性優遇」、男女間の賃金格差【教科書11章】
第12回	仕事とセクシュアリティ	性別役割分業、マタニティ・ハラスメント【教科書12章】
第13回	結婚・出産とジェンダー／セクシュアリティ	母性愛神話、リプロダクティブ・ヘルス&ライツ【教科書13章】
第14回	後半のまとめ、期末試験	後半で扱った内容を中心に問う試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習としては、次回授業のテーマが扱われている教科書の章を事前に講読し、授業テーマについて予習することが求められる（1時間）。本講義は教科書の予習を必須としているため、教科書の事前講読がない場合、授業についていけなくなる可能性がある。また、担当教員が指定するテーマやキーワードについて調べたり、近年起こった事件について調べてもらったりすることが求められる（1時間）。復習としては、授業で取り上げた内容についての振り返りが必要である（1時間）。さらに、教科書や授業内で紹介した参考書を講読することを通じて、当該テーマについて考える時間が必要である（1時間）。参考書に関するレポートの提出が成績評価にも含まれる。

【テキスト（教科書）】
加藤秀一『はじめてのジェンダー論　改訂版』有斐閣、2025年 [ISBN: 9784641151413]
※2017年に出ている初版 [ISBN: 9784641150393]ではなく、2025年の改訂版を使用する。
※本講義は予習必須である。受講生は第2回目以降の授業に臨むにあたって、事前に教科書の指定された範囲を講読する必要がある。講義では教科書の内容についても触れるが、教科書を講読したことを前提に発展的な内容を扱うため、予習をしなければ授業についていけなくなる可能性がある。

【参考書】
＜新書＞
大越愛子『フェミニズム入門』筑摩書房、1996年 [ISBN: 4480056629]
若桑みどり『お姫様とジェンダー：アニメで学ぶ男と女のジェンダー学入門』筑摩書房、2003年 [ISBN: 9784480061157]
荻野美穂『女のからだ：フェミニズム以後』岩波書店、2014年 [ISBN: 9784004314769]
森山至貴『LGBTを読みとく：クィア・スタディーズ入門』筑摩書房、2017年 [ISBN: 9784480069436]
清水晶子『フェミニズムって何ですか？』文藝春秋、2022年 [ISBN: 9784166613618]
周司あきら・高井ゆと里『トランスジェンダー入門』集英社、2023 [ISBN: 9784087212747]
デボラ・キャメロン『はじめてのフェミニズム』筑摩書房、2023年 [ISBN: 9784480684622]
＜入門書・教科書＞
加藤秀一『知らないと恥ずかしいジェンダー入門』朝日新聞出版、2006年 [ISBN: 9784023303737]
千田有紀・中西祐子・青山薫『ジェンダー論をつかむ』有斐閣、2013年 [ISBN: 9784641177161]
風間孝・河口和也・守如子・赤枝香奈子『教養のためのセクシュアリティ・スタディーズ』法律文化社、2018年 [ISBN: 9784589039705]
石田仁『はじめて学ぶLGBT：基礎からトレンドまで』ナツメ社、2019年 [ISBN: 9784816365829]
新ヶ江章友『クィア・アクティビズム：はじめて学ぶ< クィア・スタディーズ> 』花伝社、2022年 [ISBN: 9784763420022]
三橋順子『これからの時代を生き抜くためのジェンダー& セクシュアリティ論入門』辰巳出版、2023年 [ISBN: 9784777829484]
池田緑『ジェンダーの考え方：権力とポジショナリティから考える入門書』青弓社、2024年 [ISBN: 9784787235497]

守如子・前川直哉編著『基礎ゼミ　ジェンダー・スタディーズ』世界思想社、2025年[ISBN: 9784790717997]
上掲以外の参考文献については、適宜授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
コメントペーパー・小課題の内容：30%
＊コメントペーパーは、毎回の授業内容に関する小課題が含まれる。
＊①小課題の内容を理解した上で記述できているか、②授業で紹介した基本概念や語句を援用して説明できているか、③自分と身近な問題と関連して記述できているか、という3つの観点から評価する。
レポート課題：20％
＊教科書で紹介されている参考文献、あるいは授業中で紹介される参考文献を講読したうえで、その文献に関するレポートを課す。
＊レポートでは、①授業で学んだ内容と選定した文献の関連、②文献から学んだ重要なポイント、③文献から得られた知識や視点を応用して、現代社会における問題に対する論評、の3つの内容が含まれる必要がある。
筆記試験：中間20%、期末30%
＊概念や語句を問う問題と、論述問題で構成される。
＊①授業で紹介した基本概念や語句の意味を理解しているか、②設問の意図を理解したうえで論述できているか、③ジェンダー／セクシュアリティの観点を援用して論述できているか、という3つの観点から評価する。

【学生の意見等からの気づき】
2回目以降の授業の冒頭にて、前回の授業で提出されたコメントシートへのフィードバックを行い、受講生との対話の機会を確保する。上掲機会とは別に、受講生から授業に対する肯定的・否定的フィードバックを定期的に求める。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインに接続可能なデバイス（パソコン、スマートフォン、タブレット端末等）：出欠をオンラインで確認するため（ただし、やむを得ない事情に応じて、紙による提出も認める）。

【その他の重要事項】
・本授業では、教科書の予習を求める。授業は教科書を読んでいることを前提に発展的な内容を取り扱うため、読まずに参加した場合、授業についていけなくなる可能性が高い。
・授業ではからかいやいじめ、差別や暴力、性的な描写や話題について扱うことがある。そうした際は事前に告知するが、授業の途中で居心地が悪くなったりいたたまれなくなった場合、また気分が悪くなった場合には、担当教員の許可なしに離席しても構わない。その他、配慮を求める場合は遠慮なく申し出て欲しい。

【Outline (in English)】
Course Outline: This course will address issues related to gender/sexuality, an important topic in contemporary society. By acquiring a perspective on gender/sexuality, students will acquire the tools to think about a wide range of issues in contemporary society, from everyday life events to macro social problems.
Learning Objectivities: (1) View contemporary society from the perspective of gender/sexuality, (2) understand the wide scope of gender/sexuality issues in contemporary society, and (3) consider issues related to gender/sexuality as one's own personal matter
Learning Activities outside of Classroom: Students are required to read the relevant textbook chapter before class. After class, they are expected to read suggested references and explore articles related to the class theme.
Grading Criteria/Policy: Comment Papers and Short Assignments (30%), Short Report (20%), Written Exams (50%): Midterm (20%) and Final (30%)

GEO200HA（地理学 / Geography 200）

自然環境論 I

杉戸　信彦

配当年次／単位：1〜4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：月3/Mon.3
その他属性：〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
われわれをとりまく自然環境（地形や気候、植生、水循環ほか）は、地域ごとに個性と必然性を有し、変化を繰り返して現在に至っている。「水や空気のように」あたりまえの存在では決してない。本授業では、日本列島の現在の自然環境を、人間社会（暮らしや産業、文化ほか）との関わりのなかで時空間を行き来しつつ見つめなおす。

【到達目標】
自然環境の地域的差異・メカニズム・歴史的変遷を説明できる。
人間社会が自然環境の影響を受ける側面を具体的に記述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
自然地理学のアプローチを通じ、強く連関しあう自然界の諸要素について理解を深める。講義形式。身近な自然環境の具体像を含む資料も活用する。
課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	自然環境と人間社会	自然地理学、環境決定論、環境可能論
第2回	大気大循環	風の時空間スケール、地球のエネルギー収支、3つの循環、偏西風
第3回	海洋大循環	表層循環、深層循環
第4回	気候の要素・因子・区分	緯度、海流、地形、ケッペンの区分、アリソフの区分
第5回	日本列島の気候（1）	気団、海流、四季
第6回	日本列島の気候（2）	偏西風蛇行、エルニーニョ・南方振動、都市気候
第7回	編年法・古環境復元法	第四紀、年輪、考古、放射性炭素年代、火山灰、珪藻、花粉
第8回	気候変動と海水準変動（1）	気候と生活、氷期と間氷期、酸素同位体比、海水準変動
第9回	気候変動と海水準変動（2）	気候変動の要因、昨今の温暖化
第10回	プレートテクトニクス	地球のしくみ、プレートテクトニクス、標高分布、変動帯と安定地塊
第11回	日本列島の地形環境	島弧海溝系、地形のスケールと種類、地形形成営力、日本列島の現在の地形形成環境、日本列島の地形と地質
第12回	日本列島の地震発生環境	プレート境界の地震、活断層の地震
第13回	土壌・水文	さまざまな土壌、風化土壌と堆積土壌、地球上の水、水循環・水収支・滞留時間、地下水
第14回	植生・動物相	暖かさの指数、日本列島の植生、自然植生とその衰退、植生遷移、日本列島の動物相、気候変動と植生・動物相

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習を行う。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】
平常点（30%）・期末試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】
知識と基礎力に加え、応用力や思考力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がける。

【Outline (in English)】
The natural environment (topography, climate, vegetation, water circulation, and so on) around human society varies in each place worldwide. Their origins are reasonable in terms of science, and they have reached the present status through various global, regional, and local changes in the history of the earth. We examine spatial variation, mechanism, and history of the present-day natural environment in the Japanese island, with in mind the relationship between the natural environment and human society (life, industry, culture, and so on).
Students should be able to do the followings by the end of the course: (1) to explain spatial variation, mechanism, and history of the natural environment, and (2) to explain influence of the natural environment on human society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on short reports (30%) and a final exam (70%).

DES300HA（デザイン学 / Design science 300）

自然環境論Ⅳ

高田　雅之

配当年次／単位：1〜4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：木3/Thu.3
備考（履修条件等）：環ｺｱ：グ, サ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然環境と人間活動との持続的な調和を探求するためには、地球規模から私たちの身近なところまでズームの効いた視点で自然環境を理解することが欠かせません。本講義では、地理的視点と生態系の違いの視点から、地球上の各地の自然環境及び野生生物について理解を深めるとともに、人間活動による影響とツーリズムなどを通した共生の可能性について学び、今後の人と自然との望ましい関係を考究することを目的とします。

【到達目標】
以下の4点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。
①生物地理とバイオーム（生物群の違い）の理解
②世界の各地域ごとの野生生物と生態系の特徴
③世界の各地域ごとの野生生物と生態系を取り巻く問題と人間との軋轢・共生
④生物や自然を対象としたツーリズムとその課題

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
「生物地理とバイオーム」、「世界の各地域における生物多様性」、「世界の各地域における自然と人間との軋轢と共生」、「自然を対象としたツーリズムの可能性」などについて学びます。最近の話題やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、科学的な理解とそれに基づく生物多様性保全のあり方を考える能力を高めていきます。
また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義のねらいと進め方、地球視点でみる自然、生物地理とバイオーム
第2回	南米の自然	南米の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第3回	中米の自然	中米の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第4回	北米の自然1	北米の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第5回	北米の自然2	北米の国立公園と生態系
第6回	ニュージーランドの自然	ニュージーランドの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第7回	オーストラリアの自然	オーストラリアの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第8回	アフリカの自然	アフリカの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第9回	ヨーロッパの自然	ヨーロッパの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第10回	ロシア・中国・朝鮮半島の自然	ロシア・中国・朝鮮半島の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第11回	南〜東南アジアの自然	南〜東南アジアの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第12回	極地の自然	極地の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第13回	海洋島の自然	海洋島の生物と生態系の特徴、人間活動との関わりなど
第14回	世界の自然とツーリズム	生物や自然を対象としたツーリズムの可能性と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアでの自然環境に関する話題や、身の回りで目にする生き物に関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】
講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎回提出するリアクションペーパー（50%）と期末試験（50%）により評価します。詳しくは学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】
知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】
基礎的な知識や理解としてサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）を受講しておくことが望ましいです。人間との関わりや保全のための政策について学習したい人には自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）を受講することを勧めます。

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】
The purpose of this lecture is to understand the wildlife and ecosystems on the earth from the viewpoint of geography and biome, and to learn about the impact to nature by human activities and the harmonization between human and nature in future.
The goals of this lecture are to deepen the understanding and acquire knowledge of the above-mentioned matters.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.
Grading will be decided based on every time reaction paper:50%, term-end examination:50%.

PHL200HA（哲学 / Philosophy 200）

現代思想と人間 I

竹本　研史

配当年次／単位：1〜4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
備考（履修条件等）：環コア：文

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：現代社会哲学・思想（個人の自由と反差別）
　私たちが共生している現代社会で基本的かつ不可欠だとされている諸概念（自由、人権、民主主義、平等、所有、市民、公共性、他者、反差別…）は、自明のものとして存在しているのではなく、長い思想的伝統のなかで多くの議論を積み重ね、培われてきたものです。
　そこで本講義では、現代社会思想の文献や各種作品などを分析しながら、現代社会を構成しているさまざまな社会概念について、広い視野に立って、それら諸概念に関する歴史的議論の内容と背景を検討します。
　今学期は、「個人の自由と反差別」をテーマに20世紀の思想を扱います。

【到達目標】
　さまざまな学問領域において持続可能でインクルーシヴな社会の実現のためにマイノリティと不平等の問題を考察していくうえで、現代社会思想を中心に、基本的かつ不可欠な諸概念に関する思想的営為の系譜をたどり、それら諸概念にかけられている負荷を把握します。
　そこで得た知見を基に、それらの現代社会における意義を主体的に考察し、見解を示せるようになることで、広い視野に立ちながら、平和で民主的な社会を形成していく市民として必要な知識と思考力を涵養します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　講義形式でおこなうが、リアクションペーパー提出による質疑＋次回授業での応答など、インタラクティヴな授業になるように心がけます。
　単に思想内容の解説だけではなく、当該文献の抜粋を配布したり、映像や写真などの視聴覚教材も用いたりする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、目的、進め方の説明
第2回	個人の自由と反植民地主義（1）	実存と自由の問題――ジャン=ポール・サルトルの思想（1）：『存在と無』と『嘔吐』を中心に（i）
第3回	個人の自由と反植民地主義（2）	実存と自由の問題――ジャン=ポール・サルトルの思想（1）：『存在と無』と『嘔吐』を中心に（ii）
第4回	個人の自由と反植民地主義（3）	ライシテとフランス現代社会（i）
第5回	個人の自由と反植民地主義（4）	ライシテとフランス現代社会（ii）
第6回	個人の自由と反植民地主義（5）	実存と人種差別・植民地主義の問題（I）――ジャン=ポール・サルトルの思想（2）：『ユダヤ人問題』、「黒いオルフェ」、「植民地主義は一つの体制である」を中心に（a）
第7回	個人の自由と反植民地主義（6）	実存と人種差別・植民地主義の問題（I）――ジャン=ポール・サルトルの思想（2）：『ユダヤ人問題』、「黒いオルフェ」、「植民地主義は一つの体制である」を中心に（b）
第8回	個人の自由と反植民地主義（7）	実存と人種差別・植民地主義の問題（I）――ジャン=ポール・サルトルの思想（2）：『ユダヤ人問題』、「黒いオルフェ」、「植民地主義は一つの体制である」を中心に（b）
第9回	個人の自由と反植民地主義（8）	実存と人種差別・植民地主義の問題（I）――ジャン=ポール・サルトルの思想（2）：『ユダヤ人問題』、「黒いオルフェ」、「植民地主義は一つの体制である」を中心に（c）
第10回	個人の自由と反植民地主義（9）	実存と人種差別・植民地主義の問題（II）――フランツ・ファノン『地に呪われたる者』、『黒い皮膚・白い仮面』を中心に（a）
第11回	個人の自由と反植民地主義（10）	実存と人種差別・植民地主義の問題（II）――フランツ・ファノン『地に呪われたる者』、『黒い皮膚・白い仮面』を中心に（b）
第12回	実存とフェミニズム（1）	実存・フェミニズム・老い――シモーヌ・ド・ボーヴォワールの思想（1）：『第二の性』、『おだやかな死』、『老い』を中心に（a）
第13回	実存とフェミニズム（2）	実存・フェミニズム・老い――シモーヌ・ド・ボーヴォワールの思想（1）：『第二の性』、『おだやかな死』、『老い』を中心に（b）
第14回	春学期のまとめ	春学期の授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業で取り上げた思想家の著作とそのつど時間をかけて格闘すること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教場でプリントを配布します。

【参考書】
参考文献については教場で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100％）

【学生の意見等からの気づき】
とくになし

【その他の重要事項】
2016年度に「人間環境特論（西洋社会思想史I）」の単位を取得済みの学生は履修不可。

【関連の深いコース】
履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】
本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】
【Course outline】

We examine historical understandings of the basic and essential concepts for the contemporary society, by the analyses of the philosophical texts, the movies, the arts and etc.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to understand of the basic and essential concepts for the contemporary society.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read philosophical texts and to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 100 %

PHL300HA（哲学 / Philosophy 300）

現代思想と人間 II

竹本　研史

配当年次／単位：1〜4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
備考（履修条件等）：環コア：文

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：近現代社会哲学・思想（「規律と権力」、「記憶のエチカ、歴史のエチカ」）
　私たちが共生している現代社会で基本的かつ不可欠だとされている諸概念（自由、人権、民主主義、平等、所有、市民、公共性、他者、反差別…）は、自明のものとして存在しているのではなく、長い思想的伝統のなかで多くの議論を積み重ね、培われてきたものです。
　そこで本講義では、現代社会思想の文献や各種作品などを分析しながら、現代社会を構成しているさまざまな社会概念について、広い視野に立って、それら諸概念に関する歴史的議論の内容と背景を検討します。
　今学期については、前半はミシェル・フーコーの思想を中心に、規律と権力の関係について考察します。後半は、私たちが、「記憶」と「歴史」をめぐって、過去の出来事を語るときにどのようなかたちで語るのか？、また、無数ある出来事と記憶とのどのような関係をもつのか？ などについて討究します。

【到達目標】
　さまざまな学問領域において持続可能でインクルーシヴな社会の実現のためにマイノリティと不平等の問題を考察していくうえで、現代社会思想を中心に、基本的かつ不可欠な諸概念に関する思想的営為の系譜をたどり、それら諸概念にかけられている負荷を把握します。
　そこで得た知見を基に、それらの現代社会における意義を主体的に考察し、見解を示せるようになることで、広い視野に立ちながら、平和で民主的な社会を形成していく市民として必要な知識と思考力を涵養します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　講義形式でおこないますが、ご提出いただいたコメントシート提出による質疑＋次回授業での応答形式を用いることで、インタラクティヴな授業になるようにいたします。
　思想系の授業ということで難しくはあるのですが、なるべく関連するような映像や写真などの視聴覚教材も積極的に活用していく予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、目的、進め方の説明
第2回	権力と規律社会（1）	ミシェル・フーコー『狂気の歴史』、『監視と処罰』、『性の歴史』を中心に
第3回	権力と規律社会（2）	ミシェル・フーコーの講義録を中心に（1）
第4回	権力と規律社会（3）	ミシェル・フーコーの講義録を中心に（2）
第6回	境界の内と外	エティエンヌ・バリバールの市民権論
第7回	記憶と語り	長崎原爆の言説の変遷
第7回	全体主義批判と人間性の問題（1）	フランク・パブロフ『茶色の朝』、フロリアン・ヘンケル・フォン・ドナースマルク『善き人のためのソナタ』などを中心に
第8回	全体主義批判と人間性の問題（2）	語りえぬものを語る――『ショアー』と表象の限界（I）
第9回	全体主義批判と人間性の問題（3）	語りえぬものを語る――『ショアー』と表象の限界（II）
第10回	全体主義批判と人間性の問題（4）	語りえぬものを語る――『ショアー』と表象の限界（III）
第11回	全体主義批判と人間性の問題（5）	ハンナ・アーレント『全体主義の起源』、『エルサレムのアイヒマン』
第12回	全体主義批判と人間性の問題（6）	ハンナ・アーレント『人間の条件』、『革命について』
第13回	歴史的建造物の修復	ヴィオレ=ル=デュクの仕事
第14回	秋学期のまとめ	秋学期の授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で取り上げた思想家の著作とそのつど時間をかけて格闘すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教場でプリントを配布します。

【参考書】
参考文献については教場で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100％）

【学生の意見等からの気づき】
進度と学生の理解度、双方を勘案して、シラバスの授業計画通りに進められるようにする。

【その他の重要事項】
2016年度に「人間環境特論（西洋社会思想史II）」の単位を取得済みの学生は履修不可。

【関連の深いコース】
人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

【実務経験のある教員による授業】
本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】
【Course outline】
We examine historical understandings of the basic and essential concepts for the contemporary society, by the analyses of the philosophical texts, the movies, the arts and etc.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to understand of the basic and essential concepts for the contemporary society.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read philosophical texts and to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 100 %

SOC300HA（社会学 / Sociology 300）

Social Development and Sustainability 2

王　川菲

Term：春学期授業/Spring ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：集中・その他/intensive・other courses ｜ Campus：市ヶ谷 / Ichigaya ｜ Grade：1〜4
Notes：

その他属性：〈グ〉〈ダ〉

【Outline and objectives】
This course explores social issues with sociological approaches. It introduces students to some major social theories and concepts in sociology. Topics include a review of sociology as a discipline, socialization, social interaction, social stratification, networks, work, and economic life. It is theory-oriented but helps address empirical questions such as (1) What is society? (2) How is society organized and structured? (3) Who are individuals and their roles in society? (4) How do individuals and society affect each other? and (5) What does sustainability mean to our contemporary and future human society? The goal of this course is to provide students with conceptual tools for understanding society, thereby providing inspiration on how individuals can live a happy and meaningful life and contribute to a sustainable world.

【Goal】
By emphasizing reading, discussing, and critical thinking skills, this course helps students build the foundation for a deeper understanding of theory and methods in the social sciences. Upon completion of this course, students will be empowered an eye to consider what happens in daily life with evidence-based reasoning. This course is designed to inspire students to think with their talents, interests, and passion.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Among diploma policies,"DP3" is related

【Main Teaching Method 】
L 講義 /Lecture

【Method(s)】
This course is run online. Details of class information, such as the ZOOM classroom URL, are available on Hoppii. Feedback on assignments will be provided through Hoppii. Students can also find online individual advice through email appointments.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】Class form：オンライン/online

No.	Theme	Contents
Week 1	Course Orientation and Kick-off	Orientation: Welcome students! Review Syllabus. Kick-off: What is sociology? I Learn what sociology covers as a field and how everyday topics are shaped by social and historical forces.
Week 2	What is sociology? II	Recognize that sociology involves not only acquiring knowledge but also developing a sociological imagination.
Week 3	Socialization and the Life Course I	Understand how the four main agents of socialization contribute to social reproduction.
Week 4	Socialization and the Life Course II	Learn the stages of the life course and see the similarities and differences among cultures.
Week 5	Social Interaction and Everyday Life in the Age of the Internet I	Understand the core concepts of the “impression management” perspective.
Week 6	Social Interaction and Everyday Life in the Age of the Internet II	Recognize how we use impression management techniques in everyday life.
Week 7	Groups Networks and Organizations I	Learn the variety and characteristics of groups, as well as the effect groups have on individual behavior.
Week 8	Groups Networks and Organizations II	Know how to define an organization and understand how organizations developed over the last two centuries.
Week 9	Work and Economic Life I	Understand that modern economies are based on the division of labor and economic interdependence.
Week 10	Work and Economic Life II	Consider the different forms that capitalism has taken, and understand on a shift in the predominant form of industrial organization in modern society has shaped the kinds of jobs people are likely to find.
Week 11	Stratification, Class and Inequality I	Learn about social stratification and the importance of social background in an individual’s chances for material success.
Week 12	Stratification, Class and Inequality II	Know the most influential theories of stratification, including those of Karl Marx, Max Weber, and Erik Olin Wright.
Week 13	Course conclusion and reflection I	Students submit individual research presentation.
Week 14	Course conclusion and reflection II	Students conduct peer review.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will spend 4-5 hours on class related work including read before class as well as review textbook and complete study log after class each week. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
Provided by the instructor.
"Deborah Carr, Anthony Giddens, Mitchell Duneier, Richard P. Appelbaum. (2018).
Introduction to Sociology. Seagull Eleventh Edition. W. W. Norton &Company."

【References】
None.

【Grading criteria】
Students will complete the following assignments to earn credits.
1. Study logs (6 pieces x 10) 60%
2. Final research presentation 35%
3. Peer-review final presentation 5%

【Changes following student comments】
I have not received comments from students.

【Others】
If the number of students attending the first class significantly exceeds expectations, in order for the instructor to effectively manage the class, the number of students who are allowed to register for the course may be limited.

POL200HA（政治学 / Politics 200）

Global Society 1

伊藤　弘太郎

Term：秋学期授業/Fall ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：火3/Tue.3 ｜ Campus：市ヶ谷 / Ichigaya ｜ Grade：1〜4
Notes：

その他属性：〈グ〉〈ダ〉

【Outline and objectives】
This course examines "peace," which is one of the "Sustainable Development Goals (SDGs)" listed in the "2030 Agenda for Sustainable Development" adopted at the United Nations Summit in 2015. The SDGs are the goal of realizing a sustainable and better society where no one is left behind, and in order to achieve that goal, the realization of "human security" is required.
Understand the concepts of “peace and security” and learn about the "threats" that impede them.
The feature of this lecture is how to maintain peace based on the "fictitious scenario" of peace by utilizing the active learning method and actually becoming a political leader or policymaker. Incorporate a policy simulation that discusses and presents the best method with other students on whether to foster it.
In addition, we will deepen our understanding of the work of achieving peace and conduct off-campus training to interview practitioners engaged in peacebuilding.

【Goal】
(1) What is "peace"? Organize what kind of state is called ‘peace’.
(2) Understand the concept of “security” and learn examples of what threatens ‘peace’.
(3) Learn the problems that must be overcome in creating peace through policy simulation.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Among diploma policies,"DP3"is related

【Main Teaching Method 】
L 講義 /Lecture

【Method(s)】
This course consist of lectures, discussions, group research, presentations, policy simulation, and various activities including final exam.
Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the learning management system.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
あり / Yes

【Schedule】Class form：対面/face to face

No.	Theme	Contents
Week 1	Introduction	Overview of this lecture
Week 2	What is ‘Peace’?	About the concept of peace
Week 3	What is ‘Security’?	Organize the concept of the difference between human security and national security.
Week 4	International Relations Theory (1) Realism and Liberalism	Introduce the theory as a tool for understanding international relations.
Week 5	International Relations Theory (2) Neorealism and Neoliberalism	Introduce the theory as a tool for understanding international relations.
Week 6	Globalization	What is the impact of globalization on international affairs?
Week 7	Terrorism and Religion	Understand terrorism, which has become a global threat after the collapse of the Cold War, including its relationship with religion.
Week 8	Nuclear and International Relations	Think about the impact of nuclear weapons on international affairs and will deal with the issue of nuclear proliferation.
Week 9	United Nations and the international community	Think about the role and significance of the United Nations in building peace.
Week 10	What is ‘Peacebuilding’? (Fieldwork)	Interview with practitioners who are actually doing the work of “creating peace”.
Week 11	Discussion	In order to organize the knowledge gained through the lectures and fieldwork so far, the instructor will give various issues and the students will discuss with each other.
Week 12	Experience “what peace is”. (Policy Simulation 1)	Experience what it takes to maintain or build peace based on fictitious scenarios.
Week 13	Experience “what peace is”. (Policy Simulation 2)	Make final policy decisions and evaluate the results together.
Week 14	Summary / Overall Feedback	Reflections and final remarks

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
(1) Pick up news related to each lecture theme by the next lecture, and summarize where the problem is and (2) possible solutions.
(2) Reviewing is also important. Summarize the points learned in the lecture and review the advice from the lecturer.
Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
Materials will be distributed in this lecture.
Use news search on the Internet for your pre-learning.

【References】
References will be introduced in this lecture.

【Grading criteria】
Participation (30%), Presentation and Discussion (30%), Final Exam (40%)
Please note if students miss three classes, they cannot receive credit without a justifiable reason. Even with a justifiable reason, if students miss three classes, their grading may be adjusted.

【Changes following student comments】
N/A

【Equipment student needs to prepare】
No equipment is needed in this class.

【Others】
Please note that if the number of students attending the first class significantly exceeds expectations, in order for the instructor to effectively manage the class, the number of students who are allowed to register for the course may be limited.
I have working experiences in the Executive and the Legislative bodies of Japan to deal with international relations, especially national security affairs. I will introduce actual examples from a practical point of view.
You can use Generation AI services but sentences produced by the generation AI cannot be copied verbatim.You can just utilize the idea.

PSY300MA（心理学 / Psychology 300）

産業・組織心理学 II

今城　志保

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：金1/Fri.1　｜　配当年次：2025年度以降入学者：3〜4
2024年度以前入学者：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5110
科目名：産業・組織心理学II
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5110
科目名：産業・組織心理学II
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
産業・組織心理学Ⅰに続き、産業・組織心理学の主要なトピックスについて学んでいきます。産業・組織心理学Ⅱでは、特にキャリアに関連する領域、ならびに産業・組織心理学と隣接する人材マネジメントにフォーカスをあてます。組織は働き手の思いと雇用側の思いが時には調和し、時には対立するフィールドです。そこではどのようなことが問題となるのか見ていきます。

【到達目標】
本授業の到達目標は以下の３点です。
（1）産業・組織心理学の主要的な概念を理解し、それらを用いて組織の諸問題を考えられるようになること
（2）組織の様々な取り組みが、個人に対して与える影響について理解できるようになること
（3）自らのキャリアを考える上で、学んだ概念を用いることができるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で行われます。授業の中で、オンラインのアンケートフォームを用いて、概念の確認や自分の考えを深めるために、数項目の質問に回答していただきます。回答内容については、適宜次回の授業の中で、フィードバックを行います。また、アンケートフォームでは任意の質問を記入できますので、そこに質問が記入された場合は、翌授業回の冒頭に、全体に対して回答を行います。
7回目か8回目の授業で、グループ課題をおしらせします。グループ課題は、原則授業外の時間を使って進めていただきます。最終日に、グループ課題をまとめたレポートを提出していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業オリエンテーション	授業の概要ならびに進め方について紹介します。
第2回	キャリアを理解する①	キャリアに関する主な理論を学びます
第3回	キャリアを理解する②	日本企業のホワイトカラーのこれまでの典型的なキャリアと今後の可能性について考えます
第4回	組織風土を理解する①	組織風土と組織文化について紹介します
第5回	組織風土を理解する②	昨今関心が高まる心理的安全性について紹介します
第6回	ダイバーシティ①	ダイバーシティに関する理論や研究知見を紹介します
第7回	ダイバーシティ②	比較文化心理学の知見を用いて、文化の異なる人とともに働くことについて考えます
第8回	ダイバーシティ③	女性のキャリアについて考えます
第9回	ダイバーシティ④	高齢者就労について考えます
第10回	職場の学習・職場以外の学習①	大人の学びについて考えます
第11回	職場の学習・職場以外の学習②	企業における研修や能力開発について、紹介します
第12回	職場の学習・職場以外の学習③	経験学習について考えます
第13回	予備	上記の授業での積み残しや遅れを回収するための時間にあてます
第14回	グループ課題の発表	各グループから口頭で、グループ課題について、報告していただきます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
私達のキャリアを取り巻く環境に興味を持ちましょう。キャリアや「働く」こと、「人事管理」「人材マネジメント」に関する新聞記事・雑誌記事等に広く目を通して下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません

【参考書】
金井壽宏　働くひとのためのキャリア・デザイン　2002年 PHP新書
守島基博　人材マネジメント入門　2004年　日経文庫
外島　裕・田中　堅一郎　産業・組織心理学エッセンシャルズ　2019　ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業中のアンケートで60％，グループ課題で作成したレポートとその発表の評価を40％とします。なお，グループ課題については，自身と他のメンバーの課題への貢献度合いを申告してもらい，それを加味したうえで、グループ課題の評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【Outline (in English)】
Students will study major topics in industrial/organizational psychology. Psychology II will focus specifically on career-related areas and human resource management.
The three objectives of this class are as follows.
(1) To understand the main concepts of industrial/organizational psychology and to be able to think about various organizational problems using these concepts.
(2) To be able to understand the impact of various HR practices on employees.
(3) To be able to use the concepts learned in considering one's own career.
Take an interest in the environment surrounding our careers. Read widely newspaper and magazine articles on careers,"working,"and"human resource management."Standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
The evaluation will be based on a questionnaire given in each class (60%) and a report and presentation on a group assignment (40%). For group assignments, I will ask each student to report the degree of their own and
other members' contribution to the assignment, which will be taken into account in the evaluation of the group assignment.

MAN300MA（経営学 / Management 300）

キャリア開発論

髙崎　美佐

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月1/Mon.1　｜　配当年次：2025年度以降入学者：3〜4 2024年度以前入学者：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5111
科目名：キャリア開発論
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5111
科目名：キャリア開発論
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、キャリアに関する理論の基礎を学びつつ、企業側の人材開発（HRD）や人事管理のメカニズムの中で、個人のキャリアがどのように開発・形成されるのかを考えます。「会社に入れば一生安泰」という時代は終わり、「人生100年」となり、働く期間は長期化しています。
そういった環境の変化の中で、従来のように組織にキャリアをゆだねるだけでなく、自律的にキャリアを形成していくことが求められるようになってきています。
本講義では、個人のキャリアという視点だけでなく、社会や雇用の仕組みとともに学ぶことで、より実態に即したキャリア開発の視点を身に付けることを目指します 。

【到達目標】
本授業の到達目標は以下の3点です。
①キャリアに関する基礎的な理論や知識の習得し、働くことと関連させて考えられる
②個人のキャリア開発においての日本型雇用システムのメリットとデメリットを説明できる
③個人のキャリア開発に関する課題を発見し、それをマネジメントし解決する方法がわかる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は、ビジネスキャリア開発関連した理論等の概説や講義を中心に進めますが、ディスカッションや発表も取り入れることがあります。
授業中にミニレポートを書いていただく等によって出席確認をします。ミニレポートの内容は、授業中などに全体に対してフィードバックすることがあります。
使用する資料等は、「学習支援システム」において事前に提供します。
授業に出席する際には、事前に目を通し、必要に応じてご自身で準備をお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、オリエンテーション。キャリア開発と人材開発	講義の進め方と評価方法を理解する。キャリア開発と人材開発の違いを学ぶ。（テキスト第1章）
第2回	キャリア開発に関する理論	主要なキャリア理論を学ぶ。（テキスト第1章）
第3回	日本型雇用と個人のキャリア	日本型雇用の特徴を把握し、個人のキャリア開発への影響を考える。キャリア開発の主体についての考え方を整理する。（テキスト第2・3章）
第4回	キャリア自律	キャリア自律の考え方について学び、支える仕組みについて知る。（テキスト第4章）
第5回	大学から社会への移行	大学までの学びと就職後のキャリア形成について学ぶ
第6回	ライフイベントとキャリア	結婚・出産等の転機と、キャリア継続の課題を整理する（テキスト第8章）
第7回	仕事と生活の両立とキャリア	仕事と生活の両立によってキャリア継続を支える法制度や、企業の具体的な支援策を理解する。（テキスト第9・10章）
第8回	ワーク・ライフ・バランスと働き方改革	ワークキャリアとライフキャリアの調和の問題、働き方改革の現状や課題について考える。（テキスト第7章）
第9回	多様な人材を活かす	多様な人材を活かす、ダイバーシティ経営について学ぶ。（テキスト第5章）
第10回	正社員の多元化とそのキャリア	正社員の働き方の現状、限定正社員等多元化の動向、勤務地政策の現状について学ぶ。（テキスト第9章）
第11回	非正規労働者のキャリア開発	パート、派遣などの非正規労働者のキャリア開発の現状と課題を知る。（テキスト第11章）
第12回	管理職と専門職	組織内での昇進や、専門性を追求するキャリアの存在とその違いを理解する。
第13回	職場の問題への対処	ブラック企業、ハラスメントなど職場の問題への対処について知る（テキスト第12章）
第14回	総括	講義の総括、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
事前にテキスト（教科書）や資料に目を通して授業に臨んでください。
また、キャリア開発に関する企業事例やトピックスの収集も行ってください。

【テキスト（教科書）】
教科書は、武石恵美子『キャリア開発論－自律性と多様性に向き合う（第2版）』（中央経済社）です。テキストを参照しながら授業を進めます。

【参考書】
それぞれの授業で取り上げるテーマに関連して、適宜参考文献を紹介します。関心のあるテーマがあれば、是非読んでください。

【成績評価の方法と基準】
評価は、期末試験結果60％と、平常点（授業への主体的な参加、ミニレポート等の提出やその内容）40％で行います。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
各回の内容は、進捗状況などに応じて、変更・調整する可能性があります。

【Outline (in English)】
【Course outline】 This course is intended that students understand how a personal business carrier is developed under the structural change of the economic society and the employment system. Students will learn how the circumstances surrounding careers are changing amid changes in the economy and society. This course covers such topics as career self-reliance, the diversity management, and work/life balance.
【Learning Objectives】 The learning objectives for this course are as follows:
① Acquire fundamental theories and knowledge about careers and be able to relate them to working life
② Explain the advantages and disadvantages of the Japanese employment system in the context of individual career development
③ Identify challenges in individual career development and understand methods to manage and resolve them
【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process
Term-end examination(60%) and in-class contribution(40%).

MAN200MA（経営学 / Management 200）

就業機会とキャリア特講E-働くことと労働組合-

上西　充子、梅崎　修

単位数：2単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火4/Tue.4　｜　配当年次：2〜4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5298
科目名：就業機会とキャリア特講E-働くことと労働組合-
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5298
科目名：就業機会とキャリア特講E-働くことと労働組合-
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、連合（日本労働組合総連合会）と教育文化協会が主催する寄付講座です。毎回、職場の最前線で活躍するユニオン(労働組合）リーダーをゲスト講師としてお招きし、働くことに伴う様々な課題や課題解決のための労働組合の活動などについて、働く側の目線で事例を交えながら講義していただき、受講者からの質疑により理解を深めます。
講義は、働く意味を見つけること、働く環境や労働条件をより良くすること、職場の仲間を作っていくことなど、具体的な企業情報や業界情報を交えながら行います。変動する職場環境の中で、働く人たちのキャリアデザインも揺らいでいます。その中で働く人々はどのような困難を抱え、労働組合はどのような役割を果たしているのでしょうか。様々な立場にある労働組合関係者のお話を聞きながら、一緒に考えていきます。
学生の間に、働く現場のリアルで最新の情報を聞けるのはとても貴重な機会です。

【到達目標】
働く現場の変化や、安心して働く上での問題について、深く理解している。
企業や業界の実務知識や労働法制、社会的支援などの知識を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業は、ゲスト講師に自らの経験に基づいて講義していただき、その後質疑応答を行います。質疑にあたっては、適宜、グループワークを取り入れる予定です。
授業の進め方やレポートに関する説明は第1回目の授業で行いますので、受講を考えている学生は、第1回目授業を必ず受講をしてください。
ゲスト講師からは、労働組合の活動について説明していただくだけでなく、様々な業界や企業の最新の情報についても講義してもらいます。学生からの主体的な参加により理解が深まりますので、積極的に質問などをしてください。なお、ゲスト講師との調整により、計画に変更が生じる可能性がありますので、定期的に学習支援システムで予定を確認してください。
授業で使用する資料等は、学習支援システムにおいて、受講登録者に当該授業の前に提供します。資料内容を確認し、資料を準備して授業を受講してください。各回の授業では質問の時間を多めに確保しますので、積極的に質問をおこなってください。そのことが、皆さんの疑問や問題意識に対するフィードバックとなり、また、毎回のゲスト講師の方の論点の深掘りにも寄与することとなります。なお、若手組合員とのグループディスカッションも可能な範囲で組み込む予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	【オリエンテーション】 労働組合とは何か	担当教員から授業の導入を行い、「労働組合とは何か」を理解する
第2回	【開講の辞】 連合寄付講座で法政大学の皆さんに学んでほしいこと 【課題提起】 「働くこと」について考える〜労働組合の役割と意義〜	【開講の辞】 連合寄付講座の開講の趣旨を伝えることで、本講座を通じて学んでほしいことは何かを理解してもらう。 【課題提起】 「働くこと」について考えてもらうとともに、労働者を取り巻く現状と課題を明確化する。また、労働組合の役割や意義について学び、労働組合がめざす社会のイメージを掴んでもらう。 （2025年度ゲストは教育文化協会）
第3回	【ケーススタディ①】 労働時間の短縮に向けた取り組み	働く者が健康で安心して暮らすために、労働組合はどのように取り組んでいるのか。長時間労働の是正や休暇取得の促進など、労働時間の短縮に向けた取り組み事例を聴き、理解してもらう。近年導入の進んでいるテレワークに関する事例にも触れてもらう。（2025年度ゲストは生保労連）
第4回	【ケーススタディ②】 公務労働の現状と公共サービスの役割	「安定した職場」と言われる公務員の働き方の現状はどうなっているのか。公務職場の現状・課題と良質な公共サービス（新しい公共）の実現に向けた公務労組の取り組み事例を聴き、理解してもらう。（2025度ゲストは伊藤ハム米久労働組合）
第5回	【ケーススタディ③】 非正規雇用労働者の組織化と処遇改善に向けた取り組み	なぜ、非正規雇用労働者の組織化や処遇改善が必要なのか。企業別労組における非正規雇用労働者の労働組合加入および正規雇用労働者との処遇格差是正に向けた取り組み事例を聴き、考えてもらう。 （2025度ゲストは自治労）
第6回	【ケーススタディ④】 デジタル化の進展に伴う課題と労働組合の役割	AI技術やDXの進展に伴う働き者への影響と、それに対して労働組合ではどのような対応が行われているのかを聞き、デジタル化が進展する中で働くということについて考えてもらう。 （2025年度ゲストはKDDI労働組合）
第7回	【ケーススタディ⑤】 男女がともに働きやすい職場づくりに向けた取り組み	男女がともに活き活きと働き続けるための課題や具体策とは何か。職場の環境改善や当該課題の解決に取り組む労働組合役員から話を聴き、考えてもらう。 （2025年度ゲストは全労金）

第8回	【ケーススタディ⑥】 雇用と生活を守る取り組み	技術革新やグローバル化が進む中、労働組合はどのように働く者の雇用と生活を守るのか。サプライヤーを多く抱える中小企業労組が働く者の労働条件改善に向けてどのような取り組みを実施しているのか、実例を聞き、理解してもらう。 またＪＡＭで働く若手職員とのグループディスカッションを通じて、現場の実態について理解を深める。（2025年度ゲストはJAM。若手職員を含めたグループディスカッションあり）。
第9回	【課題への対応①】 いま働く現場で何が起きているのか ～労働相談からみた若者雇用の現状～	若者に関わる労働相談事例等からいま職場で起きている問題を身近なものとして捉えてもらうとともに、それらの解決に向けた労働組合の役割とワークルールの重要性について理解してもらう。（2025年度ゲストは連合　総合組織局）
第10回	【課題への対応②】 働諸条件の維持・向上に向けた取り組み	労働組合は、働く者の労働条件の維持・向上に向けて、どのように取り組んでいるのか。なかでも代表的な取り組みとして挙げられる「春闘」は、なぜ同時期に全国一斉に行うのか。連合の取り組みを聴き、学生に理解してもらう。（2025年度ゲストは連合　労働条件・中小地域対策局）
第11回	【課題への対応③】 あらゆるハラスメントの根絶に向けた労働組合の取り組み	セクハラ・パワハラをはじめとするあらゆるハラスメントは人権をも脅かす重大な問題であり、誰もがいきいきと働き続けられる社会の実現に向けてはあらゆるハラスメントの根絶が必要不可欠である。あらゆるハラスメントの根絶に向けて労働組合がどのような取り組みを実施しているのか、連合もしくは産別の取り組みを聞き、その重要性を理解してもらう。（2025年度ゲストは連合　ジェンダー平等・多様性推進局）
第12回	【課題への対応④】 国際労働運動の役割 ～グローバリゼーションへの対応～	進行するグローバリゼーションに労働組合はどのように対応しているのか。国際労働機関の役割や、多国籍企業問題に対する取り組み、国内だけでは解決できない課題に対する労働組合の国際的な役割・取り組みについて考えてもらう。（2025年度ゲストはITUC）
第13回	【修了講義】 連合運動の現在と未来 ～これから社会へ出る皆さんへ～	すべての働く者が安心してくらすことができる社会の実現に向けて、連合・労働組合は何をすべきか。連合の課題認識を聴いて、これからの社会や働き方、連合運動の役割について具体的に考えてもらう。（2025年度ゲストは連合事務局）
第14回	【論点整理】 「働くということ」と労働組合	担当教員が、ケーススタディーを振り返り、それぞれの課題と労働組合の役割の確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
初回授業時に全14回分の講義概要を配布します。それをもとに、会社、業界、労働組合について下調べをしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
授業内で随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（コメント内容含む）が50％、レポートが50％。
毎回の授業への積極的な参加を重視する。

【学生の意見等からの気づき】
労働用語、組合関連用語も随時説明していきます。

【その他の重要事項】
授業の予定はゲスト講師との調整により、テーマ内容の変更や順番の入れ替え等が発生する可能性があります。大きな変更は予定していませんが、最初の授業で詳細な予定を提示しますのでご了承ください。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class is a donation course sponsored by the Union (Japan Trade Union Confederation) and the Education and Culture Association.
Each time, we invite labor union officials who are active on the front lines of the workplace as guest lecturers to give lectures on the activities of the labor union with examples.
Lectures will be given with company information and industry information, such as finding the meaning of work, improving the working environment and working conditions, and making colleagues in the workplace.
In the changing work environment, the career design of workers is also shaking. What difficulties do the people working in it have, and what role does the union play? We will think together while listening to the stories of labor union officials from various positions.
【Learning Objectives】
Students are expected to understand deeply the changes in the workplace and the issues involved in working in a safe and secure environment.
They are also expected to acquire practical knowledge of companies and industries, labor laws, and social support.
【Learning activities outside of classroom】
A total of 14 lecture outlines will be distributed at the time of the first class. Use it to do some preliminary research on companies, industries, and trade unions.
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
In-class contributions (including comments): 50%
Term-end report: 50%.

LIN200LA（言語学 / Linguistics 200）

Intercultural Communication D

石原　紀子

Subtitle：Arts-Based Learning of Diversity, Equity, and Social Activism
Term：春学期授業/Spring ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：木3/Thu.3 ｜ Campus：市ヶ谷 / Ichigaya ｜ Grade：GBP/SCOPE/IGESS 1〜4年
Notes：定員制
グローバル・オープン科目として履修する場合、TOEFL iBT® 81 以上　TOEFL iBT® 81 or equivalent is required as the Global Open Course.
その他属性：〈グ〉〈ダ〉

【Outline and objectives】
In this course, we start by discussing how arts facilitate learning, especially of current social issues related to equity, diversity, and social inclusion in the globalized world today. You are invited to become part of this learning community sharing your cultural and social knowledge and experience while learning from others of all majors enrolled in this course. You will experience various forms of art incorporated into social activism calling for social and ecological justice. Through this experience, you will understand social, political, and historical backgrounds associated with the given activism. Your learning will be facilitated through the modeling by the instructor as well as through peer teaching. We will also collaboratively research, discuss, and learn about non-violent peace activists from various cultures and ethnic groups in the world. This will provide you with an opportunity to consider a method and option of acting and relating to others with respect, empathy, and compassion within and across cultural borders.

【Goal】
In this course, you will: 1) understand and appreciate artistic expressions of equity, diversity, and inclusion, 2) understand social activism behind artistic expressions, and 3) participate in an arts-based approach to social justice issues. You will also reflect on your own reactions to issues of equity and diversity and consider how this learning may influence your values, identities, and worldview in relation to your major field of study and career choice.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Main Teaching Method 】
L 講義 /Lecture

【Method(s)】
Before class you are required to work on some reading assignments. In class we study new material, complete relevant tasks individually and in pairs or small groups, and share your discussion with the class. You are encouraged to actively participate in group work and problem-based learning (PBL). Feedback will be given orally in interaction throughout the course. Written feedback will also be provided for your writing and oral presentations within a week of your assignment submissions.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】Class form：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course information, ice-breaking, What is social activism?
2	Understanding equity and diversity through arts	Considering relationship between art and social activism, Marshall Rosenberg
3	Poetry for social activism	Learning about social activism through poetry, Mother Teresa
4	Poetry for multicultural identities	Developing multicultural identities through poetry writing, Mahatoma & Katurabai Gandhi
5	Film for art and social activism	Understanding film for art and social justice, Nelson Mandela
6	Stories/Story-telling for equity, diversity, and inclusion	Analyzing narratives for DEI, Mairead Corrigan McGuire & Betty Williams
7	Painting or photography as social activism	Considering peace and activism through paintings and photographs, H. H. The Dalai Lama
8	Music for art and social activism	Understanding social activism through music, Mothers of the Plaza de Mayo
9	Music for diversity, equity, and inclusion	Understanding DEI through music, Peter Benenson
10	Children's literature for social justice	Analyzing picture books for social justice education, Sister Chan Khong
11	Folk tales or cartoons for understanding social justice themes	Understanding social justice through folk tales or cartoons, social activist (TBA)
12	Novels for social and ecological justice	Understanding social/ecological justice through literature, Meena Keshwar Kamal
13	Documentaries for diversity, equity, and inclusion	Understanding DEI through documentary films, social activist (TBA)
14	Wrap-up and reflection	Reflection and your artistic expression

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
You should complete assigned reading and/or homework ahead of time and come to class ready for discussion. Review your lesson after class and complete reflective writing when assigned.
For your presentations, develop a peer teaching session on artistic expressions of diversity, equity, or inclusion issues (Micro Teaching) and creative multi-media talk on a social activist of your choice (Mini-Research presentation). Prepare a presentation and discussion appealing and engaging for your peers and rehearse it to be effective.

University guidelines suggest the preparation and review time of around four hours a week for a two-credit course.

【Textbooks】
Censor, Meera. (2011). Humanitarians for justice, nonviolence, and peace. San Bernadino, California.

【References】
Other readings will be distributed through the course website, Google Classroom. Handouts and resources related to the course content are to be provided in class or made available in Google Classroom as well.

【Grading criteria】
You will receive a formal assessment of your work at the end of the term. The grade on a late assignment may be lowered. You will be graded on:
1) Attendance and participation (20%)
2) Micro teaching and mini research presentations (50%)
4) Online reactive writing (16%)
5) Final reflection (14%)
Regular attendance is essential in order to benefit from the interactive nature of this course. You will not be able to pass this course if you miss more than three class periods a semester except in extreme circumstances.

【Changes following student comments】
Message to the course participants:
This is a course that requires you to share your ideas, knowledge, and experiences. You will meet interesting peers from various cultures and learn from working with them as well as the instructor. Be ready to interact with different peers each time.
This course is conducted in English. Students must be competent speakers of English (native or proficient with TOEFL® iBT 81+ or equivalent). If your scores are TOEFL® iBT 81 - 100, you can take this course but be ready to make a little more thorough preparation each week.
I expect international and Japanese students of all majors to work collaboratively despite their different cultural and linguistic backgrounds. Come with an open mind and learn from each other!

【Equipment student needs to prepare】
Become familiar with the course website to download readings and post your work. You are also expected to check your university email on a daily basis to keep up with course announcements.

LIN200LA（言語学 / Linguistics 200）

Intercultural Communication D　2017年度以降入学者

サブタイトル：Arts-Based Learning of Diversity, Equity, and Social Activism

石原　紀子

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：木3/Thu.3
単位数：2単位
定員制
グローバル・オープン科目として履修する場合、TOEFL iBT® 81以上　TOEFL iBT® 81 or equivalent is required as the Global Open Course.
その他属性：〈グ〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
In this course, we start by discussing how arts facilitate learning, especially of current social issues related to equity, diversity, and social inclusion in the globalized world today. You are invited to become part of this learning community sharing your cultural and social knowledge and experience while learning from others of all majors enrolled in this course. You will experience various forms of art incorporated into social activism calling for social and ecological justice. Through this experience, you will understand social, political, and historical backgrounds associated with the given activism. Your learning will be facilitated through the modeling by the instructor as well as through peer teaching. We will also collaboratively research, discuss, and learn about non-violent peace activists from various cultures and ethnic groups in the world. This will provide you with an opportunity to consider a method and option of acting and relating to others with respect, empathy, and compassion within and across cultural borders.

【到達目標】
In this course, you will: 1) understand and appreciate artistic expressions of equity, diversity, and inclusion, 2) understand social activism behind artistic expressions, and 3) participate in an arts-based approach to social justice issues. You will also reflect on your own reactions to issues of equity and diversity and consider how this learning may influence your values, identities, and worldview in relation to your major field of study and career choice.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
Before class you are required to work on some reading assignments. In class we study new material, complete relevant tasks individually and in pairs or small groups, and share your discussion with the class. You are encouraged to actively participate in group work and problem-based learning (PBL). Feedback will be given orally in interaction throughout the course. Written feedback will also be provided for your writing and oral presentations within a week of your assignment submissions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Course information, ice-breaking, What is social activism?
2	Understanding equity and diversity through arts	Considering relationship between art and social activism, Marshall Rosenberg
3	Poetry for social activism	Learning about social activism through poetry, Mother Teresa
4	Poetry for multicultural identities	Developing multicultural identities through poetry writing, Mahatoma & Katurabai Gandhi
5	Film for art and social activism	Understanding film for art and social justice, Nelson Mandela
6	Stories/Story-telling for equity, diversity, and inclusion	Analyzing narratives for DEI, Mairead Corrigan McGuire & Betty Williams
7	Painting or photography as social activism	Considering peace and activism through paintings and photographs, H. H. The Dalai Lama
8	Music for art and social activism	Understanding social activism through music, Mothers of the Plaza de Mayo
9	Music for diversity, equity, and inclusion	Understanding DEI through music, Peter Benenson
10	Children's literature for social justice	Analyzing picture books for social justice education, Sister Chan Khong
11	Folk tales or cartoons for understanding social justice themes	Understanding social justice through folk tales or cartoons, social activist (TBA)
12	Novels for social and ecological justice	Understanding social/ecological justice through literature, Meena Keshwar Kamal
13	Documentaries for diversity, equity, and inclusion	Understanding DEI through documentary films, social activist (TBA)
14	Wrap-up and reflection	Reflection and your artistic expression

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You should complete assigned reading and/or homework ahead of time and come to class ready for discussion. Review your lesson after class and complete reflective writing when assigned.
For your presentations, develop a peer teaching session on artistic expressions of diversity, equity, or inclusion issues (Micro Teaching) and creative multi-media talk on a social activist of your choice (Mini-Research presentation). Prepare a presentation and discussion appealing and engaging for your peers and rehearse it to be effective.
University guidelines suggest the preparation and review time of around four hours a week for a two-credit course.

【テキスト（教科書）】
Censor, Meera. (2011). Humanitarians for justice, nonviolence, and peace. San Bernadino, California.

【参考書】
Other readings will be distributed through the course website, Google Classroom. Handouts and resources related to the course content are to be provided in class or made available in Google Classroom as well.

【成績評価の方法と基準】
You will receive a formal assessment of your work at the end of the term. The grade on a late assignment may be lowered. You will be graded on:
1) Attendance and participation (20%)
2) Micro teaching and mini research presentations (50%)
4) Online reactive writing (16%)
5) Final reflection (14%)
Regular attendance is essential in order to benefit from the interactive nature of this course. You will not be able to pass this course if you miss more than three class periods a semester except in extreme circumstances.

【学生の意見等からの気づき】
Message to the course participants:
This is a course that requires you to share your ideas, knowledge, and experiences. You will meet interesting peers from various cultures and learn from working with them as well as the instructor. Be ready to interact with different peers each time.
This course is conducted in English. Students must be competent speakers of English (native or proficient with TOEFL® iBT 81+ or equivalent). If your scores are TOEFL® iBT 81 - 100, you can take this course but be ready to make a little more thorough preparation each week.
I expect international and Japanese students of all majors to work collaboratively despite their different cultural and linguistic backgrounds. Come with an open mind and learn from each other!

【学生が準備すべき機器他】
Become familiar with the course website to download readings and post your work. You are also expected to check your university email on a daily basis to keep up with course announcements.

LIN200LA（言語学 / Linguistics 200）

Intercultural Communication D

石原　紀子

Subtitle：Arts-Based Learning of Diversity, Equity, and Social Activism
Term：春学期授業/Spring ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：木3/Thu.3 ｜ Campus：市ヶ谷 / Ichigaya ｜ Grade：GBP/SCOPE/IGESS 1〜4年
Notes：※Only a certain number of students
その他属性：〈ダ〉

【Outline and objectives】
In this course, we start by discussing how arts facilitate learning, especially of current social issues related to equity, diversity, and social inclusion in the globalized world today. You are invited to become part of this learning community sharing your cultural and social knowledge and experience while learning from others of all majors enrolled in this course. You will experience various forms of art incorporated into social activism calling for social and ecological justice. Through this experience, you will understand social, political, and historical backgrounds associated with the given activism. Your learning will be facilitated through the modeling by the instructor as well as through peer teaching. We will also collaboratively research, discuss, and learn about non-violent peace activists from various cultures and ethnic groups in the world. This will provide you with an opportunity to consider a method and option of acting and relating to others with respect, empathy, and compassion within and across cultural borders.

【Goal】
In this course, you will: 1) understand and appreciate artistic expressions of equity, diversity, and inclusion, 2) understand social activism behind artistic expressions, and 3) participate in an arts-based approach to social justice issues. You will also reflect on your own reactions to issues of equity and diversity and consider how this learning may influence your values, identities, and worldview in relation to your major field of study and career choice.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Main Teaching Method 】
L 講義 /Lecture

【Method(s)】
Before class you are required to work on some reading assignments. In class we study new material, complete relevant tasks individually and in pairs or small groups, and share your discussion with the class. You are encouraged to actively participate in group work and problem-based learning (PBL). Feedback will be given orally in interaction throughout the course. Written feedback will also be provided for your writing and oral presentations within a week of your assignment submissions.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】Class form：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course information, ice-breaking, What is social activism?
2	Understanding equity and diversity through arts	Considering relationship between art and social activism, Marshall Rosenberg
3	Poetry for social activism	Learning about social activism through poetry, Mother Teresa
4	Poetry for multicultural identities	Developing multicultural identities through poetry writing, Mahatoma & Katurabai Gandhi
5	Film for art and social activism	Understanding film for art and social justice, Nelson Mandela
6	Stories/Story-telling for equity, diversity, and inclusion	Analyzing narratives for DEI, Mairead Corrigan McGuire & Betty Williams
7	Painting or photography as social activism	Considering peace and activism through paintings and photographs, H. H. The Dalai Lama
8	Music for art and social activism	Understanding social activism through music, Mothers of the Plaza de Mayo
9	Music for diversity, equity, and inclusion	Understanding DEI through music, Peter Benenson
10	Children's literature for social justice	Analyzing picture books for social justice education, Sister Chan Khong
11	Folk tales or cartoons for understanding social justice themes	Understanding social justice through folk tales or cartoons, social activist (TBA)
12	Novels for social and ecological justice	Understanding social/ecological justice through literature, Meena Keshwar Kamal
13	Documentaries for diversity, equity, and inclusion	Understanding DEI through documentary films, social activist (TBA)
14	Wrap-up and reflection	Reflection and your artistic expression

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
You should complete assigned reading and/or homework ahead of time and come to class ready for discussion. Review your lesson after class and complete reflective writing when assigned.
For your presentations, develop a peer teaching session on artistic expressions of diversity, equity, or inclusion issues (Micro Teaching) and creative multi-media talk on a social activist of your choice (Mini-Research presentation). Prepare a presentation and discussion appealing and engaging for your peers and rehearse it to be effective.
University guidelines suggest the preparation and review time of around four hours a week for a two-credit course.

【Textbooks】
Censor, Meera. (2011). Humanitarians for justice, nonviolence, and peace. San Bernadino, California.

【References】
Other readings will be distributed through the course website, Google Classroom. Handouts and resources related to the course content are to be provided in class or made available in Google Classroom as well.

【Grading criteria】
You will receive a formal assessment of your work at the end of the term. The grade on a late assignment may be lowered. You will be graded on:
1) Attendance and participation (20%)
2) Micro teaching and mini research presentations (50%)
4) Online reactive writing (16%)
5) Final reflection (14%)
Regular attendance is essential in order to benefit from the interactive nature of this course. You will not be able to pass this course if you miss more than three class periods a semester except in extreme circumstances.

【Changes following student comments】
Message to the course participants:
This is a course that requires you to share your ideas, knowledge, and experiences. You will meet interesting peers from various cultures and learn from working with them as well as the instructor. Be ready to interact with different peers each time.
This course is conducted in English. Students must be competent speakers of English (native or proficient with TOEFL® iBT 81+ or equivalent). If your scores are TOEFL® iBT 81 - 100, you can take this course but be ready to make a little more thorough preparation each week.
I expect international and Japanese students of all majors to work collaboratively despite their different cultural and linguistic backgrounds. Come with an open mind and learn from each other!

【Equipment student needs to prepare】
Become familiar with the course website to download readings and post your work. You are also expected to check your university email on a daily basis to keep up with course announcements.

ARSa200LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 200）

Intercultural Communication F　2017年度以降入学者

サブタイトル：The Creation of National Identities in Europe

ル　ルー　清野　ブレンダン

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火3/Tue.3
単位数：2単位
定員制

その他属性：〈グ〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will mainly explore the issue of national identity in modern and contemporary Europe. The aim of this course is to study modern and contemporary history of Europe not in a general historical way, but through the prism of questions such as "What can define a people or a nation?" and "How were these peoples or nations created?" Particular emphasis will be placed on the relationship between the nation-state and language (i.e. "national language") in modern and contemporary Europe, and on France as a good example to answer the above questions.

【到達目標】
By the end of this course, students should be able to:
- understand and explain key concepts and ideas about national identity in modern and contemporary Europe;
- understand and explain key concepts and ideas about the creation of such identities;
- critically read and analyse academic readings on history;
- discuss their ideas on national identity in modern and contemporary Europe with others;
- deploy appropriate analytical tools to critically examine various historical or general materials.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
The course consists of lectures, class discussions, group activities, and student presentations (depending on the number of enrolled students).
All work is carried out in English in class and that includes interaction between students and from students to the lecturer. Students will deal with reading various historical and academic texts as well as documents written in different languages, looking at visual documents such as pictures and diagrams, watching videos, then they will discuss these, try to answer questions, and apply strategies to solve problems.
The format of the course will be as interactive and participatory as possible, with the help of screened slides in order to explain important facts and/or concepts.
The key to success in this course is weekly preparation and review of the class content, and active participation during class discussion and group works, in order to build a common knowledge about national identity in modern and contemporary Europe.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	- Self-introductions - Overview of the syllabus - What is Europe? Where is Europe?
2	What is Europe?	Image of and stereotypes about Europe
3	Catalonia ①	The Catalan "problem"
4	Catalonia ②	The process of forming Catalonia
5	Catalonia ③	Languages in Catalonia and Spain
6	Catalonia ④	Catalonia and the "nation-state" / "nation-state" and the "imagined community"
7	18th century "Germany"	Herder and the "national language"
8	In search of a "national language"	Language situation in Europe
9	"One nation, one language"? ①	The process of formation of the French language ①: "When Languages Did Not Make Kingdoms"
10	"One nation, one language"? ②	The process of formation of the French language ②: Revolution and "national language"
11	Diffusion of the "national language" ①	France
12	Diffusion of the "national language" ②	England
13	Identifying the Ancestors ①	"Our ancestors the Gauls"
14	Identifying the Ancestors ②	France as a "melting pot"

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are required to read all the assignments (given in advance) and be ready for class discussions, group activities and presentations in class.
University guidelines suggest preparation and review should be around four hours a week for a two-credit course like this one.

【テキスト（教科書）】
There is no textbook to be bought for this class.
However, reading and viewing assignments will be made available in the reserve section of the library and/or uploaded to the course website on Hoppii (student information management system), and/or handed out in class.

【参考書】
"The Creation of National Identities, Europe, 18th — 20th Centuries"
Author: Anne-Marie Thiesse, Brill, 2022 (should be available as an e-book from Hosei Library)

【成績評価の方法と基準】
60% - Attendance, class participation, short tests (in class)
30% - Group and/or individual presentation (depending on the number of enrolled students)
10% - Homework, "preparation sheets", etc. (at home)
Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

* Regular attendance is essential in order to benefit from the interactive nature of this course. Therefore, you will not be able to pass this course if you miss more than three classes. Moreover, full score for regular attendance is only given to those students attending all classes. Each absence will result in a 10% lowering of your final grade. If you are absent for any reason, you must contact the lecturer through e-mail and explain.

【学生の意見等からの気づき】
n/a (No particular comments made last year.)

【学生が準備すべき機器他】
Smartphones and other distracting devices are banned from this class, and no use of internet will be required in the classroom.

【その他の重要事項】
- The course will be given in English, therefore students are expected to have a basic knowledge of English at university level. However perfect English is NOT required to take this class (the lecturer does not use himself a perfect English). The will to develop your English skills and an interest in languages, history and historical texts is expected. When necessary, additional explanations (e.g. difficult terms) may be given in Japanese or other languages.
- Students being late more than 15 minutes for no valid reason will see their attendance grade lowered by 5% (i.e. 2 times late =1 absence).
- Depending on the number of enrolled students and on the rhythm of the class, the above schedule is subject to change.
- Please refrain from private conversations during class, but feel free to ask any questions you may have.
- Using automatic translation or AI to prepare for this class is not in your interest as you will not be able to use any device for group works, tests and presentations... Please rather try to read and understand the documents directly in their original language (mainly English).

ARSa200LA（地域研究（ヨーロッパ） / Area studies(Europe) 200）

Intercultural Communication F

ル　ルー　清野　ブレンダン

Subtitle：The Creation of National Identities in Europe
Term：春学期授業/Spring ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：火3/Tue.3 ｜ Campus：市ヶ谷 / Ichigaya ｜ Grade：GBP/SCOPE/IGESS 1〜4年
Notes：定員制
その他属性：〈グ〉〈ダ〉

【Outline and objectives】
This course will mainly explore the issue of national identity in modern and contemporary Europe. The aim of this course is to study modern and contemporary history of Europe not in a general historical way, but through the prism of questions such as "What can define a people or a nation?" and "How were these peoples or nations created?" Particular emphasis will be placed on the relationship between the nation-state and language (i.e. "national language") in modern and contemporary Europe, and on France as a good example to answer the above questions.

【Goal】
By the end of this course, students should be able to:
- understand and explain key concepts and ideas about national identity in modern and contemporary Europe;
- understand and explain key concepts and ideas about the creation of such identities;
- critically read and analyse academic readings on history;
- discuss their ideas on national identity in modern and contemporary Europe with others;
- deploy appropriate analytical tools to critically examine various historical or general materials.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Main Teaching Method 】
L 講義 /Lecture

【Method(s)】
The course consists of lectures, class discussions, group activities, and student presentations (depending on the number of enrolled students).
All work is carried out in English in class and that includes interaction between students and from students to the lecturer. Students will deal with reading various historical and academic texts as well as documents written in different languages, looking at visual documents such as pictures and diagrams, watching videos, then they will discuss these, try to answer questions, and apply strategies to solve problems.
The format of the course will be as interactive and participatory as possible, with the help of screened slides in order to explain important facts and/or concepts.
The key to success in this course is weekly preparation and review of the class content, and active participation during class discussion and group works, in order to build a common knowledge about national identity in modern and contemporary Europe.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】Class form：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	- Self-introductions - Overview of the syllabus - What is Europe? Where is Europe?
2	What is Europe?	Image of and stereotypes about Europe
3	Catalonia ①	The Catalan "problem"
4	Catalonia ②	The process of forming Catalonia
5	Catalonia ③	Languages in Catalonia and Spain
6	Catalonia ④	Catalonia and the "nation-state" / "nation-state" and the "imagined community"
7	18th century "Germany"	Herder and the "national language"
8	In search of a "national language"	Language situation in Europe
9	"One nation, one language"? ①	The process of formation of the French language ①: "When Languages Did Not Make Kingdoms"
10	"One nation, one language"? ②	The process of formation of the French language ②: Revolution and "national language"
11	Diffusion of the "national language" ①	France
12	Diffusion of the "national language" ②	England
13	Identifying the Ancestors ①	"Our ancestors the Gauls"
14	Identifying the Ancestors ②	France as a "melting pot"

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students are required to read all the assignments (given in advance) and be ready for class discussions, group activities and presentations in class.
University guidelines suggest preparation and review should be around four hours a week for a two-credit course like this one.

【Textbooks】
There is no textbook to be bought for this class.
However, reading and viewing assignments will be made available in the reserve section of the library and/or uploaded to the course website on Hoppii (student information management system), and/or handed out in class.

【References】
"The Creation of National Identities, Europe, 18th — 20th Centuries"
Author: Anne-Marie Thiesse, Brill, 2022 (should be available as an e-book from Hosei Library)

【Grading criteria】
60% - Attendance, class participation, short tests (in class)
30% - Group and/or individual presentation (depending on the number of enrolled students)
10% - Homework, "preparation sheets", etc. (at home)

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.
* Regular attendance is essential in order to benefit from the interactive nature of this course. Therefore, you will not be able to pass this course if you miss more than three classes. Moreover, full score for regular attendance is only given to those students attending all classes. Each absence will result in a 10% lowering of your final grade. If you are absent for any reason, you must contact the lecturer through e-mail and explain.

【Changes following student comments】
n/a (No particular comments made last year.)

【Equipment student needs to prepare】
Smartphones and other distracting devices are banned from this class, and no use of internet will be required in the classroom.

【Others】
- The course will be given in English, therefore students are expected to have a basic knowledge of English at university level. However perfect English is NOT required to take this class (the lecturer does not use himself a perfect English). The will to develop your English skills and an interest in languages, history and historical texts is expected. When necessary, additional explanations (e.g. difficult terms) may be given in Japanese or other languages.
- Students being late more than 15 minutes for no valid reason will see their attendance grade lowered by 5% (i.e. 2 times late =1 absence).
- Depending on the number of enrolled students and on the rhythm of the class, the above schedule is subject to change.
- Please refrain from private conversations during class, but feel free to ask any questions you may have.
- Using automatic translation or AI to prepare for this class is not in your interest as you will not be able to use any device for group works, tests and presentations... Please rather try to read and understand the documents directly in their original language (mainly English).

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

国際協力論

佐野　竜平

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代福祉に関連したインクルーシブな国際協力・開発の理論および実践の基礎を学ぶ。

【到達目標】
学生が将来何らかの形で国際社会に関わることを前提に、現代福祉とインクルーシブ開発に関する基礎知識とスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
現代福祉と国際協力について、インプットとアウトプットを繰り返しつつ触れていく。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム(Web Class)等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第2回	SDGsと現代福祉①	SDGsと国際社会に関する学び①
第3回	SDGsと現代福祉②	SDGsと国際社会に関する学び②
第4回	SDGsと現代福祉③	SDGsと国際社会に関する学び③
第5回	国際機関と国際協力	国連による現代福祉に関する学び
第6回	日本政府と国際協力①	日本政府による国際協力に関する学び①
第7回	国際協力の現場から①	海外の現場から実際を学ぶ①
第8回	日本政府と国際協力②	日本政府による国際協力に関する学び②
第9回	NGO/民間企業と国際協力①	NGO/民間企業による現代福祉に関する実践①
第10回	NGO/民間企業と国際協力②	NGO/民間企業による現代福祉に関する実践②
第11回	NGO/民間企業と国際協力③	NGO/民間企業による現代福祉に関する実践③
第12回	国際協力の現場から②	海外の現場から実際を学ぶ②
第13回	課題発表	課題発表と質疑応答
第14回	講義の振り返り	各講義のレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回講義で配布した資料等の復習。本講義の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。

【参考書】
外務省　開発協力白書。必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】
学習支援システム(Web Class)によるリアクションペーパーの提出（平常点）：50％
課題提出：50%（課題ファイル40%、発表10%）

【学生の意見等からの気づき】
講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】
講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野 / Expertise】
障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

【Outline (in English)】
【Course Outline】This course introduces fundamental theories, best practices, and significant findings in international cooperation and development within the developing world, with a specific focus on inclusive development.
【Learning Objectives】 By the end of the course, students are expected to acquire a foundational understanding of international cooperation within the framework of social policy and administration.
【Learning Activities Outside of Classroom】 Students are expected to dedicate two hours to preparatory study and two hours to review for each session (four hours total) to ensure a thorough understanding of the course material.
【Grading Criteria/Policy】 The final grade will be determined based on the following:
Reaction papers: 50%
Reports and presentations: 50%

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

Community Based Inclusive Development

佐野　竜平

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位

その他属性：〈グ〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course explores the intersection between inclusive development and well-being studies.

【到達目標】
This course is specifically designed to equip students with a set of practical and actionable competencies. Beyond theoretical understanding, students will develop hands-on skills that are directly applicable to the complex challenges within the context of community based inclusive development.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
This course is conducted entirely online via live Zoom sessions. All announcements, course materials, assignments, and feedback will be managed through the Learning Management System (Web Class). Furthermore, guest speakers will be featured to facilitate dynamic and practical discussions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
No.1	Introduction	Overview the planned sessions
No.2	Diversity and Well-being(1)	Concept of inclusive development and different culture (1)
No.3	Diversity and Well-being(2)	Concept of inclusive development and different culture (2)
No.4	Inclusive communication(1)	Initiatives on sign languages in a community(1)
No.5	Inclusive communication(2)	Initiatives on sign languages in a community(2)
No.6	Inclusive communication(3)	Initiatives on sign languages in a community(3)
No.7	Inclusive communication(4)	Initiatives on sign languages in a community(4)
No.8	Human rights issues and community(1)	Challenges in inclusive community settings (1)
No.9	Human rights issues and community(2)	Challenges in inclusive community settings (2)
No.10	Human rights issues and community(3)	Challenges in inclusive community settings (3)
No.11	Going into the unknown(1)	Exploring the world by learning uniqueness(1)
No.12	Going into the unknown(2)	Exploring the world by learning uniqueness(2)
No.13	Going into the unknown(3)	Exploring the world by learning uniqueness(3)
No.14	Review	Reviewing the past lectures and feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to review the materials distributed in each lecture. The standard time required for preparation and review in this course is approximately 2 hours each per session.

【テキスト（教科書）】
Provided as needed based on the content

【参考書】
Sustainable Development Goals https://sdgs.un.org/
World Health Orgzniation https://www.who.int/health-topics/disability

【成績評価の方法と基準】
In-class participation:40%, Reaction paper through Web Class:60%

【学生の意見等からの気づき】
To the greatest extent possible, student suggestions regarding lecture content and planning will be incorporated.

【学生が準備すべき機器他】
Hardware and software for online class (PC, Zoom, etc)

【その他の重要事項】
The above plan is subject to minor changes. The lectures will incorporate insights from the professor's extensive professional experience with international organizations and projects, as well as ongoing domestic and international activities.

【担当教員の専門分野 / Expertise】
Disability-Inclusive and Sustainable Development, International Cooperation, Regional Development in Asia (Southeast Asia and other Asia)

【Outline (in English)】
This course explores the intersection between inclusive development and well-being studies.

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

Disability and Development in Asia

佐野　竜平

配当年次／単位数：2〜4年次／2単位

その他属性：〈グ〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Aligned with the principles of the United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities (CRPD) and the Sustainable Development Goals (SDGs), this course provides a comprehensive overview of the theory and practice of disability and development in Asia.

【到達目標】
By the end of this course, students will have gained fundamental knowledge and skills concerning disability and development in Asia, drawing on perspectives from local contexts.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
This course is conducted entirely online via live Zoom sessions. All announcements, course materials, assignments, and feedback will be managed through the Learning Management System (Web Class). Furthermore, guest speakers will be featured occasionally to facilitate dynamic and practical discussions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
No.1	Introduction	Overview of the planned sessions
No.2	Comparative Study(1)	Persons with disabilities in Pakistan
No.3	Comparative Study(2)	Persons with disabilities in Nepal
No.4	Comparative Study(3)	Persons with disabilities in Afghanistan
No.5	Comparative Study(4)	Persons with disabilities in India
No.6	Comparative Study(5)	Persons with disabilities in Bangladesh
No.7	Comparative Study(6)	Persons with disabilities in Vietnam
No.8	Comparative Study(7)	Persons with disabilities in Cambodia
No.9	Comparative Study(8)	Persons with disabilities in Malaysia
No.10	Comparative Study(9)	Persons with disabilities in Thailand
No.11	Comparative Study(10)	Persons with disabilities in Myanmar
No.12	Comparative Study(11)	Persons with disabilities in the Philippines
No.13	Comparative Study(12)	Persons with disabilities in Indonesia
No.14	Review	Reviewing the past lectures and feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to review the materials distributed in each lecture. The standard time required for preparation and review in this course is approximately 2 hours each per session.

【テキスト（教科書）】
Provided as needed based on the content.

【参考書】
United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities
https://www.ohchr.org/EN/HRBodies/CRPD/Pages/ConventionRightsPersonsWithDisabilities.aspx
States Parties Reports of the Convention on the Rights of Persons with Disabilities
https://www.ohchr.org/EN/HRBodies/CRPD/Pages/CRPDIndex.aspx

【成績評価の方法と基準】
In-class participation:40%, Reaction paper through Web Class:60%

【学生の意見等からの気づき】
To the greatest extent possible, student suggestions regarding lecture content and planning will be incorporated.

【学生が準備すべき機器他】
Hardware and software for online class (PC, Zoom, etc)

【その他の重要事項】
The above plan is subject to minor changes. The lectures will incorporate insights from the professor's extensive professional experience with international organizations and projects, as well as ongoing domestic and international activities.

【担当教員の専門分野 / Expertise】
Disability-Inclusive and Sustainable Development, International Cooperation, Regional Development in Asia (Southeast Asia and other Asia)

【Outline (in English)】
Aligned with the principles of the United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities (CRPD) and the Sustainable Development Goals (SDGs), this course provides a comprehensive overview of the theory and practice of disability and development in Asia.

HIS300LA（史学 / History 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

神谷　丹路

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
単位数：2単位
定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
在日コリアンの歴史を学び、グローバル時代の多文化共生を考える：日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々、また日本国籍を保持するがルーツは朝鮮半島にあるという人々も多数住んでいる。現代日本は、こうした人々とともに社会が構成されている。本授業では在日コリアンの歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。

【到達目標】
文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
本授業の基本的な流れは、以下の通りである。
　ゼミ形式で進める。春学期は、「在日コリアン」の歴史と現在について基本事項を学習することを柱とする。テキストの内容を毎回レポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。参加型授業である。理解を深めるために,随時,映像資料なども視聴しながら進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業計画の説明、映像
2	在日コリアン概説	世界のコリアン、日本のコリアン、映像
3	1）「口絵・プロローグ」	学生によるテキストの報告、討論.
4	2）映像①	関連映像視聴、討論.
5	3）「密航1946年 関釜の間の海～」	学生によるテキストの報告、討論.
6	4）映像②	関連映像視聴、討論.
7	5）「第1章植民地の子ども1朝鮮 1911-24　鯨の町長生浦～」	学生によるテキストの報告、討論.
8	6）映像③	関連映像視聴、討論.
9	7）「第1章植民地の子ども2日本 1924-44　関東大震災の横浜で～」	学生によるテキストの報告、討論.
10	8）映像④	関連映像視聴、討論.
11	9）「第1章植民地のこども3朝鮮 1944-46　朝鮮に逃げる～」	学生によるテキストの報告、討論.
12	10）「送還1946　失敗した密航～」	学生によるテキストの報告、討論.
13	資料館見学	資料館見学
14	まとめの討論	在日コリアンの現状と共生社会への課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナを張っておくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
宋恵媛・望月優大『密航のち洗濯ときどき作家』柏書房　1800円＋税。受講生は、全員、必ず購入すること。

【参考書】
水野直樹・文京洙『在日朝鮮人歴史と現在』岩波新書　990円。

【成績評価の方法と基準】
討論への積極的な参加など授業への貢献度50％、プレゼンテーション・期末レポート50％。理由のある場合を除き、原則的に全回出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】
共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【その他の重要事項】
秋学期に開講される教養ゼミⅡ「在日コリアンの歴史」とともに履修し、春学期秋学期通年で履修することを薦めます。春学期に学んだ基礎的事項が、秋学期の学習に活きてきて、理解が深く広がります。

【Outline (in English)】
< Course outline>
This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved.
< Learning Objectives>
The aim of this course is to learn the History and the Culture of Korean Japanese in Japan and understand their existences deeply.
< Learning activities outside of classroom>
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy>
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end report&Presentation : 50%,in-class contribution:50％.

HIS300LA（史学 / History 300）

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

神谷　丹路

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
単位数：2単位
定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
在日コリアンの歴史を学び、グローバル時代の多文化共生を考える：日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々、また日本国籍を保持するがルーツは朝鮮半島にあるという人々も多数住んでいる。現代日本は、こうした人々とともに社会が構成されている。本授業では在日コリアンの歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。

【到達目標】
文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
ゼミ形式で進める。秋学期は、「在日コリアン」の歴史と現在について基本事項を整理しつつ学習していく。テキストの内容を毎回レポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。参加型授業である。理解を深めるために,随時,映像資料なども視聴しながら進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・在日コリアン概説	自己紹介、授業計画の説明、在日コリアン概説、映像。
2	1）「第2章洗濯屋の家族1 尹紫遠（1）密航のち18年の人生～163Pまで）	戦後の在日コリアンの歴史。学生によるテキストの報告、映像、討論。
3	2）映像⑤	関連映像視聴、討論。
4	3）「第2章洗濯屋の家族1 尹紫遠（2）横浜の検閲生活～（164P～）」	学生によるテキストの報告、討論。
5	4）映像⑥	関連映像視聴、討論。
6	5）「第2章2大津登志子 満州から38度線へ～」	学生によるテキストの報告、映像、討論。
7	6）映像⑦	関連映像視聴、討論。
8	7）「第2章泰玄 money,money,money～」	学生によるテキストの報告、討論。
9	8）映像⑧	関連映像視聴、討論。
10	9）「第2章逸己　歴史を準備する人～」	学生によるテキストの報告、討論。
11	10）映像⑨	関連映像視聴、討論。
12	12）「エピローグ、補遺密航の時代」	学生によるテキストの報告、討論。
13	13）資料館見学	資料館見学
14	14）まとめの討論	在日コリアンの現状と共生社会への課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナを張っておくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
宋恵媛・望月優大『密航のち洗濯ときどき作家』柏書房　1800円＋税。受講生は、全員、必ず購入すること。

【参考書】
水野直樹・文京洙『在日朝鮮人歴史と現在』岩波新書　990円。

【成績評価の方法と基準】
討論への積極的な参加など授業への貢献度50％、プレゼンテーション・期末レポート50％。理由のある場合を除き、原則的に全回出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】
共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【その他の重要事項】
春学期に開講された教養ゼミⅡ「在日コリアンの歴史」とともに履修し、春学期秋学期通年で履修することを薦めます。春学期に学んだことが、秋学期の学習に活きてきて、理解が深く広がります。

【Outline (in English)】
< Course outline>
This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved.
< Learning Objectives>
The aim of this course is to learn the History and the Culture of Korean Japanese in Japan and understand their existences deeply.
< Learning activities outside of classroom>
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy>
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end report&Presentation : 50%,in-class contribution:50％.

GDR300LA（ジェンダー / Gender 300）

クィア・スタディーズA

2017年度以降入学者

ＬＥＴＩＺＩＡ　ＧＵＡＲＩＮＩ

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：水4/Wed.4
単位数：2単位
定員制(100)
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、フェミニズムやクィア・スタディーズの基礎的な知識について学びます。
私たちは、日々の生活の中で常にジェンダー化されます。それゆえに性やジェンダーと無関係に生きることはできません。この授業では、私たちの性、身体、欲望がどのように歴史的・社会的に作られているかについて考えます。ジェンダー・セクシュアリティの概念や歴史的背景を理解し、日本や世界各国におけるフェミニズム運動とLGBTQ＋運動の歴史について学びます。また、普段の生活の中で「当たり前」とされている様々な事象を批判的に分析する力を培います。

【到達目標】
1）クィア・スタディーズについての基礎的な知識を身につける。
2）ジェンダー・セクシュアリティの表象を批判的に分析する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式で進めます。グループディスカッションも行います。
フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業計画について説明を行う。ジェンダー、セクシュアリティという概念について考える。
第2回	クィア・スタディーズとは何か？	クィア・スタディーズの基本概念について講義する。
第3回	第一波フェミニズム、第二波フェミニズム	フェミニズム運動の歴史について講義する。
第4回	第三波フェミニズム、ポストフェミニズム、#MeToo運動	90年代から今日までのフェミニズム運動について考える。
第5回	同性愛の病理化からストーンウォールの暴動まで	欧米におけるLGBTQ運動の歴史を振り返る。
第6回	エイズ危機の時代	アメリカと日本における「エイズ禍」について講義する。
第7回	クィア・スタディーズの誕生	クィア・スタディーズの誕生について講義する。
第8回	中間試験	第7回授業までの内容をまとめ、知識の習得を確認する授業内試験を行う。
第9回	日本におけるLGBTQ運動	「府中青年の家」事件やトランスジェンダーの歴史について講義を行う。
第10回	ダイバーシティとインターセクショナリティ	ダイバーシティとインターセクショナリティについて考える。
第11回	カミングアウトとアウティング	具体的な例を挙げながらカミングアウトとアウティングについて考える。
第12回	クィア・ペダゴジー	ジェンダー・セクシュアリティの教育について考える。
第13回	児童文学におけるジェンダー・セクシュアリティ	絵本や児童文学におけるジェンダー・セクシュアリティの表象について考える。
第14回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献を事前に読む、授業内で示される課題（ラーニング・ジャーナル）対応など、準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】
浅井春夫、遠藤まめた、染矢明日香、田代美江子、松岡宗嗣（編）『Q&A多様な性・トランスジェンダー・包括的性教育：バッシングに立ちむかう74問』（大月書店、2023年）
岩渕功一（編）『多様性との対話―ダイバーシティ推進が見えなくするもの』（青弓社年、2021年）
菊池夏野、堀江有里、飯野由里子（編）『クィア・スタディーズをひらく 1』（晃洋書房、2019 年）
菊池夏野、堀江有里、飯野由里子（編）『クィア・スタディーズをひらく 2』（晃洋書房、2022 年）
菊池夏野、堀江有里、飯野由里子（編）『クィア・スタディーズをひらく 3』（晃洋書房、2023 年）
清水晶子『フェミニズムってなんですか?』（文春新書、2022 年）
周司あきら、高井ゆと里『トランスジェンダー入門』（集英社新書、2023年）
新ヶ江章友『クィア・アクティビズム はじめて学ぶ〈クィア・スタディーズ〉のために』（花伝社、2022 年）
トッド、マシュー『ヴィジュアル版　LGBTQ運動の歴史』（原書房、2022年）
森山至貴『LGBTを読みとく―クィア・スタディーズ入門―』（ちくま新書、2017年）

【成績評価の方法と基準】
ラーニング・ジャーナル（毎回Hoppiiを通じて提出すること）：20%
中間試験：30%
期末試験：30％
期末レポート：20%
毎回出欠を取ります。3回以上欠席があると失格になり、単位不認定になります。
15分以上遅れる場合、欠席扱いとなります。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションの論点をより具体的に示し、ファシリテーションする必要があることに気づいた。

【学生が準備すべき機器他】
レポート作成を行うためのパソコンなど。

【その他の重要事項】
基本的に教授言語は日本語ですが、英語の資料を使うこともあります。講義内容にセンシティブな内容が含まれている可能性があります。

【Outline (in English)】
This course is designed to enhance students' understanding of basic concepts in queer studies.
We cannot live unaffected by sex or gender. Every day we encounter and perform a wide range of social and cultural ideas and values that constitute the concept of gender.
In this class, students will study how our sexuality, bodies, and desires are historically and socially constructed. Students will understand the concept and historical background of gender and sexuality, and learn about the history of the feminist and LGBTQ+ movements in Japan and around the world.
Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the following:
a) Have basic knowledge of queer studies.
b) Develop the ability to critically analyze representations of gender and sexuality.
Learning activities outside of the classroom:
Students are required to read the reference material by the next session and submit their learning journal entries (four hours for every session).
Grading criteria/Policy:
The final grade will be decided based on the following:
Learning journal (Submit your journal entries via Hosei University Learning Management System at the end of each session): 20%
Midterm exam: 30%
Final exam: 30%
Final essay: 20%
Active participation in class is required.
Attendance will be taken every time. You will not receive credit for the course if you miss more than three classes.

LIN300LA（言語学 / Linguistics 300）

異文化コミュニケーション論Ｂ　2017年度以降入学者

鈴木　麻由

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：金2/Fri.2
単位数：2単位
定員制(30)
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
異文化コミュニケーションは「自分探しの旅」だと捉えることができる。それは、異文化理解が自他の文化の違いを通して自分と自文化を見つめ直す営みだからである。他者との出会いは文化同士の出会いでもあり、交流は潜在していた価値観を浮かびらせ、新たな視点に気づく契機となる。異文化接触は往々にして衝突を引き起こすが、同時に融和や創造を生む。この授業では、参加者の内省や意見交換を通して、異文化に対する柔軟な態度と思考を養うことを目的とします。
★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的参加を期待する。

【到達目標】
①自分が今まで意識していなかった文化を意識化、また相対化する。
②実際のコミュニケーションにおいて、知識や技能をどのように応用するかを考える。
③異文化コミュニケーションに関する基本的な学問的知識（用語・概念・理論などの知識）を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・第1回～第12回は講義形式で行う。
・第13回は履修者による発表を個人もしくはグループで行う。
・第14回は期末試験を行う。
・毎回の授業の最後に、リアクションペーパーを提出。
・課題へのフィードバックは適宜、授業内もしくはクラスのgoogle classroomで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 自己、アイデンティティ、文化「他を知り己を知る」	・授業運営に関する説明 ・自己の形成への文化のかかわりを整理する
第2回	コミュニケーションと文化	・既存のコミュニケーションモデルの限界 ・異文化接触による文化融合
第3回	コミュニケーションと意識構造	・意識/世界の衝突と異文化コミュニケーション
第4回	空間の認識	・空間の認識と様々な感覚 ・固定空間と半固定空間
第5回	時間の認識	・共同社会と利益社会におけるテンポの違いが人間関係に与える影響
第6回	言語の力	・サピア・ウォーフの仮説を日本語と英語とその言語世界を比べ、検証する
第7回	場の形成	・なわばりについて考える ・文化的コンセンサス
第8回	カルチャーショック	・U型曲線とW型曲線が示す適応のプロセス ・「適応」とはどのような状態か「カルチャーショック」とはどのような現象か
第9回	価値・規則と異文化接触	・規範および慣習の違いから起こりうる軋轢について考える
第10回	コミュニケーション能力と相互理解	・相互理解のプロセス ・「コミュニケーション能力が高い」とはどのようなことか
第11回	グローバル化	・文化の画一化 ・世界の画一化および二分化を回避するための議論
第12回	グローバル化とアイデンティティ	・「グローバル市民」「文化を越えたアイデンティティ」という考え方に含まれる矛盾
第13回	履修者発表	・個人もしくはグループによる発表
第14回	期末試験	・第1回～第13回までの内容についての筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は、1時間を標準とします。（ただし、発表担当の場合は例外。さらに多くの時間を要する）

【テキスト（教科書）】
適宜資料を配付する。

【参考書】
池田理知子/E.M. クレーマー『異文化コミュニケーション入門』有斐閣アルマ
古田暁/石井敏/岡部朗一/平井一弘/久米昭元『異文化コミュニケーションキーワード[新版]』有斐閣
その他、必要に応じて授業時間内あるいはポータルサイトで紹介する

【成績評価の方法と基準】
授業参加度（平常点）　25％
リアクションペーパー 15％
発表　　20%
期末試験　40％

【学生の意見等からの気づき】
・本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
・インターネット接続可能な機器：ＰＣ、タブレット端末、スマートフォン。
・期末試験時にはＰＣまたはタブレット端末
★授業の運営はグーグルクラスルームで行う。

【その他の重要事項】
・受講希望者数によっては、第1回目の授業時に行うアンケートで選抜を行うので、履修希望者は必ず初回授業に出席すること。
・法政のメールアカウントをこまめにチェックすること。

【Outline (in English)】
(Outline)
Intercultural communication can be seen as a "journey of self-discovery." This is because intercultural understanding is an endeavor to reexamine oneself and one's own culture through the cultural differences between oneself and others. Encounters with others are also encounters between cultures, and exchanges can bring to light hidden values and provide an opportunity to become aware of new perspectives. Intercultural contact often leads to conflict, but at the same time, it can also produce harmony and creativity. The purpose of this class is to foster flexible attitudes and thinking toward different cultures through participants' introspection and exchange of opinions.
(Learning Objectives)
1. Become aware of and put into perspective cultures that you may not have been aware of before.
2. Consider how to apply knowledge and skills in actual communication.

3. Acquire basic academic knowledge about intercultural communication (knowledge of terminology, concepts, theories, etc.).
(Learning activities outside of classroom)
Your study time is at least 1 hour for each class meeting.
(Grading Criteria/Policies)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination 40%
Presentation 20%
Reaction Paper Writing 15%
in class contribution 25%
*Students who have missed more than 3 class meetings will not be allowed to take the term-end exam, nor acquire credit.

ARSk300LA（地域研究（地域間比較）/ Area studies(Interregional comparison) 300）

比較文化Ａ

2017年度以降入学者

Ｄ．　ハイデンライヒ

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火4/Tue.4
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「食」は異文化を知るための最初の手がかりです。食を通して、私たちは個人または文化的アイデンティティ、社会的団結、価値観、感情などを伝えることができます。このクラスではさまざまなプリントメディアや映像資料を通して、主に日本とヨーロッパの共通点と相違点を浮き彫りにし異文化・自文化理解力を高めます。

【到達目標】
◦自分の目で見て、自分の頭で考え、自分の言葉で表現する能力を培うこと。
◦固定化されたイメージ（ステレオタイプ）を見直し、明晰な思考を身につけること。
◦海外のメディアを効果的に活用する力（メディア・リテラシー）を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
さまざまな形で教材化したテキストやメディアを用いて、数回の課題の提出とフィードバックによって授業を構成する。提出用課題を出す場合は、次の授業にて解説を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	授業の説明・選抜	シラバスを読み、授業内容を確認する。 ※ 定員を超える場合は選抜
②	TVの料理ドックメンタリー（1）	テレビの料理ドックメンタリーの比較から偏見を見直す。
③	TVの料理ドックメンタリー（2）	課題、ディスカッション
④	TVのCooking Show（1）	TVのCooking Showの比較から現代ヨーロッパの食の状況を理解する。
⑤	TVのCooking Show（2）	課題、ディスカッション
⑥	TVの食品調査番組（1）	日本には存在していない食品調査番組の紹介で文化の違いを学ぶ。
⑦	TVの食品調査番組（2）	課題、ディスカッション
⑧	Youtubeの料理チャネル（1）	テレビの料理番組の比較から偏見を見直す。
⑨	Youtubeの料理チャネル（2）	課題、ディスカッション
⑩	Webの料理検索・レシピサイト（1）	Webの料理検索・レシピサイトを比較する。
⑪	Webの料理検索・レシピサイト（2）	課題、ディスカッション
⑫	Foodfilm（1）	フードフィルムの分析を学ぶ。
⑬	Foodfilm（2）	課題、ディスカッション
⑭	試験・まとめ	春学期に学んだ内容を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業では、いわゆる外形的なアクティブラーニング手法ではなく、授業前後の資料読解や情報収集を通じて、自ら考え、
問いを持って授業に参加する学修形態を重視する。
授業前後の準備・復習を含め、週あたり約4時間程度の学修時間を想定する。

【テキスト（教科書）】
テキストは使わず、学習支援システムに事前に授業資料をアップします。各自プリントアウトして授業に持参してください。

【参考書】
教室で指定する。

【成績評価の方法と基準】
出席及び授業内の課題達成度：６０％
学期末試験：４０％
欠席が全体の３分の１を超えた場合は成績評価対象外となります。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
HOPPII学習支援システムを利用するので、情報機器（パソコン、プリンター）などを準備して下さい。

【Outline (in English)】
Food, Media and Contemporary Culture
Food is a powerful medium through which to enter another culture.　Through food we can communicate cultural and personal identity,　values and emotions. In this class we will compare mainly japanese and european representations of food in various visual and printed media.
—
◦ To deepen understanding of different cultures and own culture.
◦ Review fixed images (stereotype) and acquire clear thinking.
◦ Acquire the ability to effectively utilize overseas media (media literacy).
—
Preparation and review.
The standard for preparatory study and review time for this class is 4 hours in total.
—
Attendance and achievement of in-class assignments: 70%
Normal points such as participation attitude in class: 30%
If more than one-third of the class is absent, it will not be considered for grade evaluation.

ARSa300LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

大中　一彌

開講時期：サマーセッション/Summer Session　｜　曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この教養ゼミⅠを紹介する動画です　https://x.gd/LgDjY　（約7分8秒；学内者のみ視聴できます）
【履修登録にかかわる特記事項】
●あなたが所属している学部の履修登録期間の最終日までに、この科目「教養ゼミⅠ」（Q6605）の履修登録を済ませるとともに、学習支援システムにて仮登録をおこなってください。
●この科目「教養ゼミⅠ」（Q6605）は、他の教養ゼミと異なり、定員がないため、選抜や抽せん、およびそれらの結果通知はありません。履修登録の流れは、一般的な春学期科目と同じとお考え下さい。
●興味・関心のある方は、教養ゼミⅡ：ポピュリズム入門〜衆愚政治か、民主的な異議か〜（9月中旬）【授業コード：Q6606】もぜひ履修しましょう。社会人として知っておいたほうが良い、現代の政治・経済・文化のあり方について、初学者が学ぶコースになっています。
==========
【科目のかんたんな説明】
●この教養ゼミⅠは、**2026年8月3日（月）・8月4日（火）・8月5日（水）・8月6日（木）の４日間で開催**される集中講座です（２単位）。
●**短い日数で効率よく学べる**利点があります。
●いわゆるグローバル・サウスから、より政治的に安定し、社会福祉の制度が整った、いわゆる先進国に旅する移民や難民の動きがテーマです。
●移民や難民といったテーマにあまり詳しくない人でも、「人物」や「映像」が軸となる内容ですので理解がしやすく、視野が広がります。
●映像作品に興味がある人にとっては、見たことがない作品について知るきっかけになるでしょう。

【到達目標】
コースの終わりまでに、学生の皆さんは次のことができるようになります：
1）人口1700万人強のオランダが、非ヨーロッパ系の移民に対し、英語というよりは、オランダ語や市民的な自由について、基本的な知識をもつよう求めているのはなぜかという問いについて、過度な単純化を避けながら、ひとつの答えを思い描くことができる。
2）欧州各国における「移民社会」化が、人びとのアイデンティティにもたらした光と影について考えるさいに、宗教をめぐる公的な位置づけのあり方（政教分離）や、就労を促進するための雇用の流動化（福祉国家の変容）といった要素を、考慮に入れることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
（ア）この教養ゼミⅠの授業形態は、基本的に「対面」です。
（イ）**2026年8月3日（月）・8月4日（火）・8月5日（水）・8月6日（木）の４日間に開催**されます。
（ウ）希望者は一部の授業回について**Zoom**でも参加できます。下記の【授業計画 / Schedule】で「併用あり」と記されているのがZoomで参加できる授業回です。
（エ）４日間で行いますので、体調不良や他の理由による不参加が生じた場合、成績評価への影響が相対的に大きくなります。
（オ）そのため「まとめコメント」の早期提出を認めています。
（カ）とはいえ、４日間参加していれば、それだけできちんと点数はつきます。成績評価について、詳しくは Excel ファイル「進行予定表」URL https://x.gd/FK17p にあるシート見出しのタブ「成績評価基準」をご覧ください。
（キ）問い合わせは、Word ファイル「教養ゼミⅠ『移民社会』入門〜見える国境と見えない国境〜（８月上旬）」URL https://x.gd/SBUYw にある問い合わせ先からお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめまして！【8月3日（月）2限、Zoom併用あり】	シラバス（授業の概要と成績評価）や進行予定表の説明、自己紹介
2	クエスチョンを探そう【8月3日（月）3限、Zoom併用なし】	「群衆」が感じる「問題」としての移民流入
3	避難民 migrants の暮らしを疑似体験する【8月3日（月）4限、Zoom併用なし】	映像作品①について考える
4	考える・まとめる【8月3日（月）5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月3日分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
5	他の人の意見を知る【8月4日（火）2限、Zoom併用なし】	初日のまとめコメントへの学生投票
6	グローバル・サウス出身の避難民が「先進国」で住民の１人として溶け込むのに何が必要か【8月4日（火）3限、Zoom併用なし】	映像作品②について考える
7	あなたがもし、移民出自の生徒を公立中学校で担任する教師だったら？【8月4日（火）4限、Zoom併用なし】	映像作品③について考える
8	考える・まとめる【8月4日（火）5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月4日分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
9	他の人の意見を知る【8月5日（水）2限、Zoom併用なし】	２日めのまとめコメントへの学生投票／映像作品④について考える
10	クエスチョンを探そう【8月5日（水）3限、Zoom併用なし】	集団間の対立と他者の生の否定
11	考える・まとめる【8月5日（水）4限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月5日分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
12	他の人の意見を知る【8月6日（木）2限、Zoom併用なし】	３日めのまとめコメントへの学生投票／《ともに働き、生活すること》は、どのような場合なら、外国出身者への差別感情をなくすのに役立つか
13	受け入れ側社会の多数派が抱く恐怖感【8月6日（木）3限、Zoom併用なし】	映像作品⑤について考える

14	考える・まとめる【8月6日（木）4限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月6日分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本語の習熟度や、専門や関心の異なる多様な学生が、この教養ゼミⅡに参加します。そのため、一律の時間の長さは定めません。大学設置基準によれば、２単位の講義及び演習の準備・復習時間は１回につき４時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】
８月のサマー・セッションの時期を待つことなく、Google Classroomをつうじ、４月から資料を事前に配布します。

【参考書】
購入は必須ではありませんが、ゼミでお話をするさいにしばしば出てきますので、読むことができれば、授業内容の理解がいっそう進むでしょう。
水島治郎『反転する福祉国家　オランダモデルの光と影』岩波現代文庫、2019年。Cf. https://www.iwanami.co.jp/book/b431806.html

【成績評価の方法と基準】
１．平常点　=15%
２．まとめコメント =52%
３．まとめコメントの早期提出（教員への相談が必要です）
４．教室内活動への参加 =33%
５．その他
※成績評価について、詳しくはExcelファイル「進行予定表」URL https://x.gd/FK17p にあるシート見出しのタブ「成績評価基準」をご覧ください。
※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情によりグループ・ディスカッションに参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」をできるだけ早い時期に求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、グループ・ディスカッションに替わる課題に取り組んでいただきます。ただし、全ての授業回にZoomで参加するといった形での配慮はできないことを、あらかじめご了承ください。
※サマー・セッションと重なる時期に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部に連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。ただし、サマー・セッションは春セメスター（前期）科目であるため、８月上旬には法政大学に学生の成績を提出する必要があります。そのため出席停止になった学生側は、仮に感染症から健康状態が快復したとして、代替の課題を８月７日ぐらいまでに提出する手はずになります。感染症で出席停止となった学生のための配慮については、オータム・セッション科目である教養ゼミⅡ（Q6606）のほうが、配慮に使える時間的な余地が大きいことを、あらかじめご承知おきください。

【学生の意見等からの気づき】
・海外の文化や政治・経済についての学びは、必要そうではあるけれど、わかりづらいから敬遠したいという方もいるようです。
・この教養ゼミⅠは、人物や映像を軸とした組み立てとすることにより、参加のハードルを下げ、そうした方が、必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】
資料を共有したり、課題を提出したりするさいに、Google ClassroomやBOX、Office365等を使いますので、ノートパソコンやタブレットなどの情報端末が必要です。なお、市販されている映像作品の公衆送信は行いません。

【その他の重要事項】
・法政大学市ヶ谷キャンパスの各学部の学生だけでなく、社会学部・経済学部・現代福祉学部・スポーツ健康学部など多摩キャンパスの学生、情報科学部や生命科学部など小金井キャンパスの学生、外国人留学生や社会人学生の履修を歓迎します。千代田区キャンパスコンソの加盟校（大妻女子大学、大妻女子大学短期大学部、共立女子大学、共立女子短期大学、東京家政学院大学、二松学舎大学、専修大学）の学生の皆さんの履修を歓迎しています。
・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。
・留学や大学院進学、就職などの相談もOKです。
・問い合わせ先や、取り上げる予定の映像作品については、次のリンク先をご覧ください URL https://x.gd/pbONn

【Outline (in English)】
What does it mean to accept "cultural and religious differences" in today's society where there is a lot of migration of people across borders?　Does it mean that the majority must accept all cultures and religions of the minorities without exception ? On the other hand, does it mean that a minority group must completely assimilate into the culture and religion of the host country ? In this Liberal Arts Seminar II, which is scheduled for the fall semester, we will discuss the ideals and realities concerning such "cultural and religious differences", using as a case study the policy shift in the Netherlands, which has traditionally been known as a liberal and tolerant society. This course is a seminar designed around the topics, questions, and exchanges of opinions suggested by the students.
［Learning Objectives］
The goal of this seminar is not to become proficient in English, Japanese, or any other language.
By the end of the course, students should be able to do the following:
1) Conceptualizing, without oversimplification, an answer to the question of why the Netherlands, with a population of just over 17 million, requires non-European immigrants to have a basic knowledge of the Dutch language (rather than English) and civil liberties.
2) Having a basic insight into the different implications of "culture" and "religion" in different countries and historical periods.
3) Understanding how to relate contemporary social issues to current cultural topics in which students are highly interested.
4) Expressing thoughts and feelings appropriately through presentations using Google Slides, Google Docs, and Zoom screen sharing.
［Learning activities outside of classroom］
(a) Read the pages of the textbook listed in the "Schedule" in advance.
(b) Post the material for the topic (including links, etc.) in the designated LMS (Google Classroom) location in time before the course begins.
(c) The time required for preparation and revision for this seminor will be the time required to do (a) and (b) above. A diverse group of students with varying levels of proficiency in Japanese and other languages will participate in this seminar. Therefore, a uniform length of time is not specified. However, according to the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for each two-credit lecture and seminar should be at least four hours.
［Grading Criteria］
Your final grade in this seminar will be decided on the following:
1. Quantity and quality of "summary comments" =70%
2. In-class activity participation and various contributions to the class =30%

ARSa300LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 300）

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

大中　一彌

開講時期：オータムセッション/Autumn Session　｜　曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
単位数：2単位
※履修登録は学部事務にて行います。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この教養ゼミⅡを紹介する動画です　https://x.gd/tB16R　（約７分５３秒；学内者のみ視聴できます）
【履修登録にかかわる特記事項】
●この科目「教養ゼミⅡ　ポピュリズム入門 ～衆愚政治か、民主的な異議か～ 」（Q6606）は、ひとりひとりの学生ではなく、市ヶ谷リベラルアーツセンター（ＩＬＡＣ）が一括して履修登録を行います。
●履修を希望する方は**2026年4月10日（金）午前11時30分**までに学習支援システムにて仮登録を行ってください。
●仮登録された学生は全員、この「教養ゼミⅡ」に履修登録されますが、念のため、あなたが所属している学部の履修登録期間になったら、この科目「教養ゼミⅡ」の履修登録がきちんとなされているか、確認を行ってください。
==========
【科目のかんたんな説明】
●教養ゼミⅡ「ポピュリズム入門 ～衆愚政治か、民主的な異議か～」は**2026年9月11日（金）・9月12日（土）・9月14日（月）・9月15日（火）の４日間で開催される集中講座**です（２単位）。
●世界各国の政治・経済・文化を揺り動かしている、ポピュリズムがテーマです。
●こうしたテーマにあまり詳しくない人でも、「人物」や「映像」を軸に活動が組み立てられていますので理解がしやすく、視野が広がります。
●短い日数で効率よく学べる利点があります。
●映像作品に興味のある方にとっては、作品を知る機会になるでしょう。

【到達目標】
（1）さまざまな国と地域、歴史時代に存在した、ポピュリズムの構成要素とされる事象に幅広く触れることで、現代の政治・社会現象としてのポピュリズムにかんし、批判的な距離を保ちながら、意見を述べることができる。
（2）ポピュリストと反ポピュリスト、無関心層のような、ポピュリズムをめぐり異なる態度を産みだす感情的なバネについて、ひとつひとつの映像作品や人物の性格、ならびに制度的な背景（例　メリトクラシー）を掘り下げながら、研究上の問い（リサーチ・クエスチョン）を練ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
（ア）この教養ゼミⅡの授業形態は、基本的に「対面」です。
（イ）**2026年9月11日（金）・9月12日（土）・9月14日（月）・9月15日（火）の４日間に開催**されます。
（ウ）希望者は一部の授業回について**Zoom**でも参加できます。下記の【授業計画 / Schedule】で「併用あり」と記されているのがZoomで参加できる授業回です。
（エ）４日間で行いますので、体調不良や他の理由による不参加が生じた場合、成績評価への影響が相対的に大きくなります。
（オ）そのためセッション授業終了後の話題提供を認める予定です。
（カ）とはいえ、４日間参加していれば、それだけできちんと点数はつきます。成績評価について、詳しくは Excel ファイル「進行予定表」URL https://x.gd/ytbHb にあるシート見出しのタブ「成績評価基準」をご覧ください。
（キ）問い合わせは、Word ファイル「2026 年度：教養ゼミⅡ ポピュリズム入門～衆愚政治か、民主的な異議か～（９月中旬）」URL https://x.gd/q4xhC にある問い合わせ先からお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめまして！【9月11日（金）2限、Zoom併用あり】	シラバス（授業の概要と成績評価）や進行予定表の説明、自己紹介
2	クエスチョンを探そう【9月11日（金）3限、Zoom併用なし】	皆で資料からクエスチョンを掘り出す
3	メディアとポピュリズム【9月11日（金）4限、Zoom併用なし】	映像作品①について考える
4	考える・まとめる【9月11日（金）5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	9月11日（金）分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
5	他の人の意見を知る【9月12日（土）2限、Zoom併用なし】	初日のまとめコメントへの学生投票／人びとはどのようにして立ち上がるのか（政治的動員）
6	対立の構図を理解する【9月12日（土）3限、Zoom併用なし】	映像作品②と③について考える
7	考える・まとめる【9月12日（土）4限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	9月12日（土）分の「まとめレポート」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
8	他の人の意見を知る【9月14日（月）2限、Zoom併用なし】	２日めのまとめコメントへの学生投票／女性とポピュリズムの関係について、立ててみる価値がある問いを探す。
9	ポピュリズムと女性【9月14日（月）3限、Zoom併用なし】	映像作品④について考える
10	ファンタジーとポピュリズム【9月14日（月）4限、Zoom併用なし】	映像作品⑤について考える
11	考える・まとめる【9月14日（月）5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	9月14日（月）分の「まとめコメント」を作成・提出する。遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
12	他の人の意見を知る【9月15日（火）2限、Zoom併用なし】	３日めのまとめコメントへの学生投票／ポピュリズムに私（たち）はどう対応すべきなのか
13	ポピュリズムの《需要側》と《供給側》【9月15日（火）3限、Zoom併用なし】	映像作品⑥について考える
14	考える・まとめる【9月15日（火）4限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	9月15日（火）分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。※ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本語の習熟度や、専門や関心の異なる多様な学生が、この教養ゼミⅡに参加します。そのため、一律の時間の長さは定めません。大学設置基準によれば、２単位の講義及び演習の準備・復習時間は１回につき４時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】
９月のオータム・セッションの時期を待つことなく、Google ClassroomやBOX、WebClass等をつうじ、資料を事前に配布します。

【参考書】
購入は必須ではありませんが、ゼミでお話をするさいにしばしば出てきますので、読むことができれば、授業内容の理解がいっそう進むでしょう。
カス・ミュデ&クリストバル・ロビラ・カルトワッセル『ポピュリズム　デモクラシーの友と敵』永井大輔&髙山裕二訳、白水社、2018年。*Cf.* https://www.hakusuisha.co.jp/book/b352020.html

【成績評価の方法と基準】
１．平常点　=15%
２．まとめコメント =52%
３．教室内活動（授業時間内の個別の発言やグループディスカッション、各種の投票）への参加 =33%
４．セッション授業終了後の話題提供
５．その他
※成績評価について、詳しくはExcelファイル「進行予定表」URL https://x.gd/ytbHb にあるシート見出しのタブ「成績評価基準」をご覧ください。
※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情によりグループ・ディスカッションに参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」を求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、グループ・ディスカッションに替わる課題に取り組んでいただきます。ただし、全ての授業回にZoomで参加するといった形での配慮はできないことを、あらかじめご了承ください。
※オータム・セッションと重なる時期に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部に連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。

【学生の意見等からの気づき】
・海外の文化や政治・経済についての学びは、必要そうではあるけれど、わかりづらいから敬遠したいという方もいるようです。
・この教養ゼミⅡは、人物や映像を軸とした組み立てとすることにより、参加のハードルを下げ、そうした方が、必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】
資料の共有や課題の提出に、Google ClassroomやBOX、Office 365を使いますので、ノートパソコンやタブレットなどの情報端末が必要です。なお、市販されている映像作品の公衆送信は行いません。

【その他の重要事項】
・法政大学市ヶ谷キャンパスの各学部の学生だけでなく、社会学部・経済学部・現代福祉学部・スポーツ健康学部など多摩キャンパスの学生、情報科学部や生命科学部など小金井キャンパスの学生、外国人留学生や社会人学生の履修を歓迎します。千代田区キャンパスコンソの加盟校（大妻女子大学、大妻女子大学短期大学部、共立女子大学、共立女子短期大学、東京家政学院大学、二松学舎大学、専修大学）の学生の皆さんの履修を歓迎しています。
・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。
・留学や大学院進学、就職などの相談もOKです。
・問い合わせ先や、取り上げる予定の映像作品については、Wordファイル「2025年度：教養ゼミⅡポピュリズム入門〜衆愚政治か、民主的な異議か〜（９月中旬）」URL https://x.gd/q4xhC をご覧ください。

【Outline (in English)】
Populism, which includes opposition to globalization as one of its main components, is shaking the political foundations of countries around the world. In this spring semester course, Liberal Arts Seminar I, "Populism and the World: For Those Who Are Tired of Go Global," we will focus on xenophobia, the backlash against so-called identity politics, and the support for populism by the cultural "majority" voters. The class will be built around the students' opinions and questions concerning a central issue : "What kind of culture do we want in our society of the 21st century ?"
［Learning Objectives］
It is not a goal of this seminar to acquire proficiency in English, Japanese, or any other language.
By the end of the course, students should be able to do the followings :
1) taking the first step to acquire a notion of what kind of democratic culture is suitable for our society of the 21st century.
2) possessing a basic insight on the various ways in which the concept of populism has been used in different countries and at different periods.
3) understanding how to relate contemporary social issues to current cultural topics in which students are highly interested.
4) expressing thoughts and feelings appropriately through presentations using Google Slides, Google Docs, and Zoom screen sharing.
［Learning activities outside of classroom］
(a) Read the pages of the textbook listed in the "Schedule" in advance.
(b) Post the material for the topic (including links, etc.) in the designated LMS (Google Classroom) location in time before the course begins.
(c) The time required for preparation and revision for this seminor will be the time required to do (a) and (b) above. A diverse group of students with varying levels of proficiency in Japanese and other languages will participate in this seminar. Therefore, a uniform length of time is not specified. However, according to the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for each two-credit lecture and seminar should be at least four hours.
［Grading Criteria］
Your final grade in this seminar will be decided on the following:
1. Quantity and quality of "summary comments" =70%
2. In-class activity participation and various contributions to the class =30%

ARSa300LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

ル　ルー　清野　ブレンダン

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：金4/Fri.4
単位数：2単位
定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の主な目的は，「日欧交流の歴史」に関するいくつかの側面に沿って，グローバル化の歴史の中で「日本（文化）はどう伝わったのか？」というテーマについて学生とともに知識を共有し，考察することです。
もう一つの目的は，英語（もしくは日本語や他の言語）で史資料を読み，分析する方法について学び，活用することです。

【到達目標】
この授業では，学生達はグローバリゼーションの歴史という背景における日本の歴史，とりわけ「日欧交流の歴史」の多様な側面を探求したり，論じたりします。授業終了時には，それらのトピックに関する様々な概念や問題点を深く理解し，以下のことができるようになるでしょう。
1. 主要な概念や考え方を理解し，説明することができる。
2. グローバル化の歴史という文脈の中で，「日欧交流の歴史」についてニュアンスと情報に基づいた理解を示すことができる。
3. 「日欧交流の歴史」に関する自分の考えを他者と議論することができる。
4. 様々な史資料を批判的に検討するために，適切な分析手段を用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業では，学生達は様々な歴史的文章を読解し，語彙を調べたり，それについて議論したり，質問に答えたりします。教員は重要な事実や概念を説明するためにスライドを使用し，できるだけ双方向的かつ参加型にする予定です。学生達はグループワーク等を通じて生徒同士で協力して史資料を理解し，質問に答えることで，グローバル化の歴史の中で「日欧交流の歴史」そして「日本（文化）はどう伝わったのか？」というテーマに関する共通の知識を築いていくことを目指します。
履修者は史料を見つけ出し，それについて発表を行うことも授業の重要な側面です。履修者の個人的背景によって，日本語や英語の他に，様々な言語の史料の紹介も期待できます。
この授業では，　学生同士そして学生と教員とのやりとりは基本的に日本語で行われます。従って，履修者は大学レベルの日本語の基礎知識を持っていることが期待されます。しかしこの授業を受講するのに完璧な日本語力が必要ではありません。必要に応じて，難しい用語などを英語で補足説明をします。日本語を練習したいという意欲と，歴史や史料，特に「日欧交流の歴史」に興味があることはこの授業を履修する大きな動機付けと言えましょう。
この授業で成功する鍵は，毎週の予習と復習，そしてクラスでのディスカッションに積極的に参加することです。
宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが，Hoppiiを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業紹介	シラバスの確認 授業運営の紹介 アイスブレーカー
2	西洋への日本文化最初の紹介	西洋における，日本に関する最初の史料
3	第1次グローバル化における日本（1）	世界の分割と日本
4	第1次グローバル化における日本（2）	日本の「発見」
5	西洋人の来日(1)	マスケット伝来
6	西洋人の来日(2)	キリスト教伝来
7	日欧交流の発展（1）	日本における宣教師達①
8	日欧交流の発展（2）	日本における宣教師達②
9	日欧交流の発展（3）	南蛮屏風
10	日欧交流の発展（4）	日本語学習の曙
11	日欧交流の変容	来日西洋人の多様化
12	学生による発表①	史料の紹介と分析
13	学生による発表②	史料の紹介と分析
14	学生による発表③及びまとめ	史料の紹介と分析 前期に対する振り返りと話し合い・議論・総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習，予習，課題や発表の準備等が毎回求められます。
それらは，大学設置基準によれば2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされていますので，そのぐらいかかると予測されます。

【テキスト（教科書）】
ほぼ毎回授業中に配布しますので，教科書を購入する必要はありません。

【参考書】
必要に応じて授業中に指摘します。

【成績評価の方法と基準】
・グループワーク，小テスト，宿題，「予習シート」等：約40%
・発表（史料の紹介と説明）：約40%
・平常点（授業への参加状況）：約20%
※ 尚，平常点に関しては減点方式をとり，4 回目の欠席で不合格となります。正当な理由なく10分以上遅刻した場合は，欠席とみなします。10分までの遅刻は2回で欠席扱いとなり，遅延証明は2 回まで認めます。何らかの理由で欠席した場合は，直ちに教員にメール等で連絡して説明すること。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見等を読み，工夫する必要のある点は特にないように思いました。改善は全くしない，という意味ではないのですが！

【学生が準備すべき機器他】
資料の共有などに，Google ClassroomやHoppiiを使いますので，必要な機器や情報環境は備えておいた方が良いでしょう。

【その他の重要事項】
履修者の人数，個人背景（言語レベル等），希望等に応じて上記の【授業計画】が変更されることも考えられます。

【Outline (in English)】
The main purpose of this course is for students to acquire knowledge and think about "How Japan/Japanese culture was introduced to the West", mainly focusing on some aspects of the "history of Japan - European relations", setting them back in the context of the history of globalisation.
One other purpose is for the students to learn about and use methods to read and analyse historical documents, both in English and in Japanese (or in other languages).
It is not a goal of this seminar to acquire proficiency in English, Japanese, or any other language, therefore students are welcome whatever their language proficiency is.
Students will deal with reading various historical texts, study the vocabulary, and will discuss these and try to answer questions about them.

The format of the course will be as interactive and participatory as possible, with the help of screened slides in order to explain important facts and/or concepts. Classes will focus on group work, cooperation between students to understand the texts and answer questions, in order to build a common knowledge about the "history of Japan - European relations" in the context of the history of globalisation.
The key to success in this course is weekly preparation and review of the class content, and active participation during class discussion.
University guidelines suggest that preparation and review should take around four hours per week for a two-credit course.
The grading policy should be the following:
・Group work, quizzes, homework, preparatory sheets, etc.: approximately 40%
・Presentations (introduction and explanation of historical materials): approximately 40%
・Regular assessment (class participation): approx. 20%
※ Please note that regular assessment employs a deduction system, and a fourth absence will result in a fail grade. Arriving more than 10 minutes late without a valid reason will be counted as an absence. Two instances of lateness up to 10 minutes will be treated as one absence; proof of train delay will be accepted for a maximum of two instances. If absent for any reason, you must immediately contact the lecturer via email or other means to provide an explanation.

ARSa300LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 300）

教養ゼミII

2017年度以降入学者

ル　ルー　清野　ブレンダン

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：金4/Fri.4
単位数：2単位
定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の主な目的は，「日欧交流の歴史」に関するいくつかの側面に沿って，グローバル化の歴史の中で「日本（文化）はどう伝わったのか？」というテーマについて学生とともに知識を共有し，考察することです。
もう一つの目的は，英語（もしくは日本語や他の言語）で史資料を読み，分析する方法について学び，活用することです。

【到達目標】
この授業では，学生達はグローバリゼーションの歴史という背景における日本の歴史，とりわけ「日欧交流の歴史」の多様な側面を探求したり，論じたりします。授業終了時には，それらのトピックに関する様々な概念や問題点を深く理解し，以下のことができるようになるでしょう。
1. 主要な概念や考え方を理解し，説明することができる。
2. グローバル化の歴史という文脈の中で，「日欧交流の歴史」についてニュアンスと情報に基づいた理解を示すことができる。
3. 「日欧交流の歴史」に関する自分の考えを他者と議論することができる。
4. 様々な史資料を批判的に検討するために，適切な分析手段を用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業では，学生達は様々な歴史的文章を読解し，語彙を調べたり，それについて議論したり，質問に答えたりします。教員は重要な事実や概念を説明するためにスライドを使用し，できるだけ双方向的かつ参加型にする予定です。学生達はグループワーク等を通じて生徒同士で協力して史資料を理解し，質問に答えることで，グローバル化の歴史の中で「日欧交流の歴史」そして「日本（文化）はどう伝わったのか？」というテーマに関する共通の知識を築いていくことを目指します。
履修者は史料を見つけ出し，それについて発表を行うことも授業の重要な側面です。履修者の個人的背景によって，日本語や英語の他に，様々な言語の史料の紹介も期待できます。
この授業では，学生同士そして学生と教員とのやりとりは基本的に日本語で行われます。従って，履修者は大学レベルの日本語の基礎知識を持っていることが期待されます。しかしこの授業を受講するのに完璧な日本語力が必要ではありません。必要に応じて，難しい用語などを英語で補足説明をします。日本語を練習したいという意欲と，歴史や史料，特に「日欧交流の歴史」に興味があることはこの授業を履修する大きな動機付けと言えましょう。
この授業で成功する鍵は，毎週の予習と復習，そしてクラスでのディスカッションに積極的に参加することです。
宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが，Hoppii を通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業紹介	シラバスの確認 授業運営の紹介 西洋におけるジャポノロジーの現状
2	世界一周の寄港地としての日本	Francesco Carlettiの見た日本
3	西欧人のサムライ	William Adamsの見た日本
4	オランダ東インド会社の登場	François Caronの見た日本
5	ヨーロッパにおける日本史の定番	Engelbert Kaempferの見た日本
6	ヨーロッパにおける日本キリスト教史	Pierre François-Xavier de Charlevoixの語った日本
7	ヨーロッパにおける日本の植物学①	Peter Thunbergの見た日本
8	ヨーロッパにおける日本の植物学②	Philipp Franz Balthasar von Sieboldの見た日本
9	ヨーロッパ人による日本北方地域の探検	Vasilii Mikhailovich Golovninの見た日本
10	幕末期におけるジャポノロジー①	パリ外国宣教会宣教師の見た日本①
11	幕末期におけるジャポノロジー②	パリ外国宣教会宣教師の見た日本②
12	幕末期におけるジャポノロジー③	レオン「三兄弟」：Léon de Rosny, Léon Pagès, Léon Duryと日本
13	学生による発表①	史料の紹介と分析
14	学生による発表②及びまとめ	史料の紹介と分析 秋学期に対する振り返りと話し合い・議論・総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習，予習，課題や発表の準備等が毎回求められます。
それらは，大学設置基準によれば2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされていますので，そのぐらいかかると予測されます。

【テキスト（教科書）】
ほぼ毎回授業中に配布しますので，教科書を購入する必要はありません。

【参考書】
必要に応じて授業中に指摘します。

【成績評価の方法と基準】
・グループワーク，小テスト，宿題，「予習シート」等：約40%
・発表（史料の紹介と説明）：約40%
・平常点（授業への参加状況）：約20%
※尚，平常点に関しては減点方式をとり，4回目の欠席で不合格となります。正当な理由なく10分以上遅刻した場合は，欠席とみなします。10 分までの遅刻は2回で欠席扱いとなり，遅延証明は2 回まで認めます。何らかの理由で欠席した・する場合は，速やかに教員にメール等で連絡して説明すること。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見等を読み，工夫する必要のある点は特にないように思いました。改善は全くしない，という意味ではないのですが！

【学生が準備すべき機器他】
資料の共有などに，Google Classroom やHoppii を使いますので，必要な機器や情報環境は備えておいた方が良いでしょう。

【その他の重要事項】
履修者の人数，個人背景（言語レベル等），希望等に応じて上記の【授業計画】が変更されることも考えられます。

【Outline (in English)】
The main purpose of this course is for students to acquire knowledge and think about "How Japan/Japanese culture was introduced to the West", mainly focusing on some aspects of the "history of Japan - European relations", setting them back in the context of the history of globalisation.

One other purpose is for the students to learn about and use methods to read and analyse historical documents, both in English and in Japanese (or in other languages).
It is not a goal of this seminar to acquire proficiency in English, Japanese, or any other language, therefore students are welcome whatever their language proficiency is.
Students will deal with reading various historical texts, study the vocabulary, and will discuss these and try to answer questions about them.
The format of the course will be as interactive and participatory as possible, with the help of screened slides in order to explain important facts and/or concepts. Classes will focus on group work, cooperation between students to understand the texts and answer questions, in order to build a common knowledge about the "history of Japan - European relations" in the context of the history of globalisation.
The key to success in this course is weekly preparation and review of the class content, and active participation during class discussion.
University guidelines suggest that preparation and review should take around four hours per week for a two-credit course.
The grading policy should be the following:
・Group work, quizzes, homework, preparatory sheets, etc.: approximately 40%
・Presentations (introduction and explanation of historical materials): approximately 40%
・Regular assessment (class participation): approx. 20%
※ Please note that regular assessment employs a deduction system, and a fourth absence will result in a fail grade. Arriving more than 10 minutes late without a valid reason will be counted as an absence. Two instances of lateness up to 10 minutes will be treated as one absence; proof of train delay will be accepted for a maximum of two instances. If absent for any reason, you must immediately contact the lecturer via email or other means to provide an explanation.

LANf200LA（フランス語 / French language education 200）

時事フランス語Ⅰ

2017年度以降入学者

大中　一彌

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火3/Tue.3
単位数：1単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目「時事フランス語Ⅰ」を紹介するヴィジュアル資料です https://x.gd/JEXrY（ＰＤＦスライド、学内者のみ閲覧できます）
この科目「時事フランス語Ⅰ」の目的は、あなたのフランス語を、できる限り専門的な学びに近づけ、就職など実社会で役立てていくための、いわば基礎体力を作ることにあります。毎週、フランス語圏の公共放送のニュースサイト（ TV5Monde や Radio France Internationale ）で提供されている無料の教材に、皆で取り組みます。やさしい内容から始まりますので、１年生でも心配はいりません。この授業のテーマを紹介するショート動画をご覧ください https://youtube.com/shorts/0NmZ4iyyvSQ?feature=shared

【到達目標】
リスニング力や語彙（ごい）力を増すことが「時事フランス語」科目の全体としての目標です。ただし、スタート地点が、人により異なりますので、ゴールとして目指すべき到達目標も人により異なります。次のＡ～Ｄのカテゴリー分けを参考に、あなた自身の到達目標を設定しましょう。
・カテゴリーＡ（大学で初めてフランス語を学び始めた１年生や、第３外国語としてフランス語を勉強し始めた学生、千代田コンソからの履修者を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の２科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルＡ１．１、「実用フランス語技能検定試験」５級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第１言語（日本で主に学校教育を受けた人なら日本語）であれば、内容に関する前提知識をあまり持たない人として、簡単な質問や意見を述べることができる。
・カテゴリーＢ（大学入学後フランス語を学び始め、１年以上が経過した２年生を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の２科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルＡ１、「実用フランス語技能検定試験」４級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第１言語（日本で主に学校教育を受けた人なら日本語）であれば、ある程度関心をもって質問や意見を述べることができる
・カテゴリーＣ（フランス語を２年以上、ある程度は続けて勉強してきた学生を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の２科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルＡ２～Ｂ１、「実用フランス語技能検定試験」３級～準２級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、フランス語で、キーワードを使った簡単な質問や意見を述べることができる。
・カテゴリーＤ（日本語が第１言語＝いわゆる「母語」＝ではない人。外国人留学生を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の２科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルＡ１．１、「実用フランス語技能検定試験」５級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第１言語（日本語を除く）の情報源も使い、日本語または英語で、簡単な質問や意見を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】で示した２つのニュースサイトに掲載されている教材に、皆で取り組みます。外国人向けに「やさしいフランス語 français facile」で制作された番組にもとづく、実践的な教材が多いです。聞き取り（リスニング）やシャドーイング、内容面の理解（時事問題に関する知識）を確認しながら、授業は進みます。この授業では、わからない、知らないからという理由で怒られたり、馬鹿にされたりすることはありません。質問するのが恥ずかしいという受け身の学校文化から、フランス語で分からないこと、できないことを１つずつ減らしていこうという積極的な方向に意識を変えるのが、この授業の狙いです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Séance 1	世界を知るためのもう１つの視点	パリ18区に住む小学３年（CE2）生たちのなぞなぞから見える世界
Séance 2	現代フランスの生活風景	結婚のプロポーズ（同性婚）やスクワット（空き住居の不法占拠）など
Séance 3	フランスという国のかたち	国歌ラ・マルセイエーズが歌えるのは、フランスではポイント高いです。
Séance 4	グローバル化（mondialisation）に対するフランス的見方 =ものづくりの大切さ	フランスの伝統的な産品をあなたはなにか知っていますか。
Séance 5	グアドループ：中南米のカリブ海に浮かぶフランスの海外県	クレオール語に代表される文化の混淆で有名。1980年代には「ワールド・ミュージック」としてグアドループ発信のズークが流行
Séance 6	デモやストライキ	ストライキになると色々不便だと怒る人もいる一方、ストライキは労働者の重要な権利とみなされてもいます。
Séance 7	フランス語で炎暑は canicule といいます	毎夏、山火事や40度を超える高温が南ヨーロッパを中心に伝えられるようになりました。
Séance 8	カンヌ映画祭	この季節に毎年開かれる有名文化イベント。娯楽作よりも芸術性の高い作品が受賞する傾向があり、日本人の活躍が目立ちます。
Séance 9	ラップとユーチューバー	さまざまな国や地域の出身者が、フランス語ラップのYouTube動画を制作
Séance 10	男女平等の理想と現実	女性の就業率が比較的高いフランスだが、男女の賃金格差など課題も残る。女性の権利への関心は高い。
Séance 11	ツール・ド・フランス	この季節に毎年開かれる有名スポーツイベント。７月の３週間、フランスや隣接国の路上を自転車レースが駆け抜ける。
Séance 12	格差社会アメリカの批判	大企業の経営者たちとその従業員の給与格差が大きすぎるというのも、フランス語圏のメディアではありがちな話題
Séance 13	環境問題の語彙（ごい）・表現①	絶滅危惧種を守ることをめぐる外交。「フカヒレ」や「象牙」が登場します。

Séance 14	環境問題の語彙（ごい）・表現②	コンゴ民主共和国（RDC）はフランス語圏ニュースではよく登場する国です。内戦などの要因で安全を脅かされる国立公園職員たちの話題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・「時事フランス語Ⅰ」のような科目では、１回の授業につき、１時間以上、授業時間外に学習をおこなうことが、法政大学では標準になっています。
・「毎回授業内容表 Tableau de bord / Dashboard」等に教材へのリンクが置いてあります。
・（ア）音声ファイルの内容でシャドーイングできる範囲を、１単語→１文→複数の文、のように広げていくことや、（イ）番組内でひんぱんに使われる語彙（ごい）を分野ごとに整理して覚えるといったことに取り組むと、実践的な語学力が向上します。
・「毎回授業内容表」は次のリンクから閲覧してください　https://x.gd/RkJnE

【テキスト（教科書）】
1. Radio France Internationale - RFI Savoirs https://savoirs.rfi.fr/fr
2. TV5Monde - Apprendre le français https://apprendre.tv5monde.com/fr
※フランス語圏の公共放送が提供し、無料、かつ全世界のフランス語学習者が用いている教材です。

【参考書】
仏和辞典。小学館ロベール仏和大辞典が法政大学図書館のオンラインデータベースに入っています。« JapanKnowledge »　からご覧になってください。ただし、学外からの閲覧にはVPN接続が必要です。

【成績評価の方法と基準】
●１．期末試験、期末レポートはありません（0%）
●２．授業への毎週の参加（①）
●３．授業時間内の活動の積極性（②）※フランス語の学習歴に応じて、カテゴリーA、B、C、Dの３つに学生を分けており、カテゴリーごとに努力していただきたい方向性を下↓の数字（%）に示しています。
●４．到達目標の達成に向けた取り組み（③）時事フランス語関連の話題を提供したり、授業の内容を復習するための、かんたんな理解度チェックに解答したりした場合、加点されます。こうした取り組みをつうじて、少しずつ実力がついていきます。
●５．その他（100%の枠外で5〜20%程度の加点をします）
（ア）授業運営への協力（教員の説明の不備や設定ミスなどを指摘してくれた学生に加点しています）
（イ）実用フランス語技能検定試験（仏検）やDELFやTCFを受検したか、また合格したか（これらの検定試験を受検したり合格したりスコアを取得したりした場合、ぜひ教員まで申し出てください）
カテゴリーA ①50%,②30%,③20%
カテゴリーB ①40%,②30%,③30%
カテゴリーC ①33%,②33%,③34%
カテゴリーD ①50%,②30%,③20%
—-
※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情により対面授業に参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」をできるだけ早い時期に求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、代わりとなる課題に取り組んでいただきます。
※この科目が開講されている期間中に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部に連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。学生側の都合による欠席とは異なる、感染拡大防止のための出席停止として扱います。

【学生の意見等からの気づき】
・フランスに留学して、リスニング力や語彙（ごい）の不足を痛感したという声をよく耳にします。その一方で、リスニング力や語彙力を伸ばす目的で、TV5Monde や Radio France Internationale (RFI)を留学先で自習したという経験談も聞きます。TV5Monde や RFI は、日本でも視聴できますが、フランス語圏に詳しくない人が独りで学ぼうとしても、ニュースの内容がよく理解できない場合があります。この「時事フランス語Ⅰ」を履修すれば、ニュースや表現の解説を、あなたのフランス語発音に対する指導とともに、日本の環境で学ぶことができます。
・努力を続けるにはモチベーションが必要です。モチベーションを高めるには、じっさいに手の届きそうな目標をもつとよいでしょう。下記のリンク先にある資料が、目標やモチベーションについて考えるための、参考となればさいわいです　https://x.gd/4WEFD

【学生が準備すべき機器他】
資料の共有や課題の提出などに、Google ClassroomやWebClass、Boxを使いますので、タブレットやノートパソコンのような情報端末が必要です。

【その他の重要事項】
「時事フランス語」って怖いのかな、自分に向いているのかどうか…と迷っている方は、次のリンク先にあるプレイスメント・テストをお試し受験してみてください。問題文は英語とフランス語で書かれています。« Commencer » と書かれたボタンをクリックすると問題が表示されます。https://savoirs.rfi.fr/fr/apprendre-enseigner/langue-francaise/test-de-placement-a1/1
もし半分ぐらい正答できるようなら、この授業を履修するのにちょうど良いレベルではないかと思います。

【Outline (in English)】
[Outline and objectives]
This course aims to promote students' understanding of French society, politics, and news media. An emphasis is placed on oral communication and using specialized vocabulary. By participating in proposed activities, students will become familiar with French-speaking news websites.
[Goal]
The goals to be achieved differ according to the starting level of the student.
* Learning objective for false beginners and intermediate learners: the student will be able to acquire, at the end of the two semesters of "Jiji-Furansugo", a linguistic ability equivalent to level A2 of the European Framework of Reference for Languages or to Futsuken jun 2 kyû.
** Pedagogical goal for those who already have a more or less good command of the French language (learners at the higher level as well as French-speaking international students): the student will be able to formulate relevant comments that demonstrate a solid understanding of local and global issues covered by the French-speaking media.
[Method(s)]
In each class session, the teacher will suggest materials available on the Internet. Learners will be asked to identify the essential elements. To do so, they are allowed to consult books and dictionaries written in their respective first language (the "mother tongue"). However, all participants are expected to express themselves in French, and to contribute to the discussion on what is said in the material.
The language of instruction in the classroom is primarily French, while administrative information will be provided in Japanese via LMS and e-mail.
[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]
1) Try to make use of the learning materials yourself. The URLs for these materials are already listed in the Dashboard for Jiji-Furansugo.
2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the minimum time of preparation and review required to earn two credits for a lecture or seminar is four hours per session.
[References]
1. Nexis Unis (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)

2. PressReader (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
3. Cairn.info (Hosei University Library - E Database : Overseas articles)
4. Encyclopædia Universalis (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias)
5. Shogakukan Robert Grand Dictionnaire Français-Japonais (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/ Encyclopedias - « JapanKnowledge »)
Note: Off-campus access to these databases requires a connection through a Virtual Private Network ("VPN"). See the Hosei Network System Service website for information on how to connect to the university VPN. URL https://netsys.hosei.ac.jp/
[Grading criteria]
Your final grade in this seminar will be decided on the following:
1. Quantity and quality of "summary comments" =50%
2. In-class activity participation and various contributions to the class =50%
[Equipment student needs to prepare]
A stable and unlimited internet connection as well as a personalized IT device such as a computer, tablet or smartphone are required. Two LMS platforms are used, of which (1) Google Classroom is mainly used to share documents and (2) learners can consult some notes on the Hoppii website. In case of remote courses, video conferencing systems such as Zoom or Google Meet will be used to ensure the educational continuity.
[Others]
1) If you are uncertain of your language level, try taking a "placement test" at the A1 level on the RFI website https://savoirs.rfi.fr/en/apprendre-enseigner/langue-fran%C3%A7aise/test-de-placement-a1/1 Enroll in this course if you can answer more than half of the questions correctly.
2) The above schedule is still subject to change.

LANf200LA（フランス語 / French language education 200）

時事フランス語Ⅱ

2017年度以降入学者

大中　一彌

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：火3/Tue.3
単位数：1単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目「時事フランス語Ⅱ」を紹介する動画です　https://x.gd/KrAUW　（約７分１２秒）
この科目「時事フランス語Ⅱ」の目的は、あなたのフランス語を、できる限り専門的な学びに近づけ、就職など実社会で役立てていくための、いわば基礎体力を作ることにあります。毎週、フランス語圏の公共放送のニュースサイト（ TV5Monde や Radio France Internationale ）で提供されている無料の教材に、皆で取り組みます。やさしい内容から始まりますので、１年生でも心配はいりません。この授業のテーマを紹介するショート動画をご覧ください
https://youtube.com/shorts/RQtay4cmhW8?feature=shared

【到達目標】
リスニング力や語彙（ごい）力を増すことが「時事フランス語」科目の全体としての目標です。ただし、スタート地点が、人により異なりますので、ゴールとして目指すべき到達目標も人により異なります。次のＡ～Ｄのカテゴリー分けを参考に、あなた自身の到達目標を設定しましょう。
・カテゴリーＡ（大学で初めてフランス語を学び始めた１年生や、第３外国語としてフランス語を勉強し始めた学生、千代田コンソからの履修者を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の２科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルＡ１．１、「実用フランス語技能検定試験」５級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第１言語（日本で主に学校教育を受けた人なら日本語）であれば、内容に関する前提知識をあまり持たない人として、簡単な質問や意見を述べることができる。
・カテゴリーＢ（大学入学後フランス語を学び始め、１年以上が経過した２年生を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の２科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルＡ１、「実用フランス語技能検定試験」４級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第１言語（日本で主に学校教育を受けた人なら日本語）であれば、ある程度関心をもって質問や意見を述べることができる
・カテゴリーＣ（フランス語を２年以上、ある程度は続けて勉強してきた学生を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の２科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルＡ２～Ｂ１、「実用フランス語技能検定試験」３級～準２級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、フランス語で、キーワードを使った簡単な質問や意見を述べることができる。
・カテゴリーＤ（日本語が第１言語＝いわゆる「母語」＝ではない人。外国人留学生を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の２科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルＡ１．１、「実用フランス語技能検定試験」５級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第１言語（日本語を除く）の情報源も使い、日本語または英語で、簡単な質問や意見を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】で示した２つのニュースサイトに掲載されている教材に、皆で取り組みます。外国人向けに「やさしいフランス語 français facile」で制作された番組にもとづく、実践的な教材が多いです。聞き取り（リスニング）やシャドーイング、内容面の理解（時事問題に関する知識）を確認しながら、授業は進みます。この授業では、わからない、知らないからという理由で怒られたり、馬鹿にされたりすることはありません。質問するのが恥ずかしいという受け身の学校文化から、フランス語で分からないこと、できないことを１つずつ減らしていこうという積極的な方向に意識を変えるのが、この授業の狙いです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Séance 1	多様性と出会うためのもう１つの入り口	フレキシタリアン・ダイエットとフランスの駄菓子（食文化から近づいてみる）
Séance 2	気が早いですがクリスマスの話題	宗教を信じる・信じない、家族のあり方、消費社会について考えます。
Séance 3	移民の気持ちを（教員の補助付きで）疑似体験してみる。	移民を念頭においたフランス語検定試験の例題に取り組む。
Séance 4	職業と平等	職業名の女性形を認めさせるというフェミニズムのかたち
Séance 5	第４回の続き	仕事探しのフランス語→履歴書につながるライティング（Production écrite）
Séance 6	フランスの「サラメシ」	フランスの会社員たちは昼食に何をどんな風に食べているのか？
Séance 7	第６回の続き	昼食を権利として考えたことがありますか？
Séance 8	ある日のニュースのヘッドライン	フランス語によるニュースのヘッドライン（実物）にいよいよ挑戦です。
Séance 9	少子化問題	2010年を越えたあたりから出生率が低下傾向のフランス。その原因は？
Séance 10	コートジボワールから見た世界	起業家の女性が訪れたいと夢見る国は？
Séance 11	ブルキナファソから見た世界	外からの支援ではなく、地元に根差した住宅の改善とは？
Séance 12	アフリカやアジアからヨーロッパを目指す多くの避難民を渡航させる業者たち	どんな国にでも行けるパスポートは、世界の一握りの人しかもっていない。
Séance 13	ボーヴォワール	« On ne naît pas femme, on le devient. » という文を知っておきましょう。
Séance 14	エメ・セゼール	ネグリチュードとは？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・「時事フランス語Ⅱ」のような科目では、１回の授業につき、１時間以上、授業時間外に学習をおこなうことが、法政大学では標準になっています。
・「毎回授業内容表 Tableau de bord / Dashboard」等に教材へのリンクが置いてあります。
・（ア）音声ファイルの内容でシャドーイングできる範囲を、１単語→１文→複数の文、のように広げていくことや、（イ）番組内でひんぱんに使われる語彙（ごい）を分野ごとに整理して覚えるといったことに取り組むと、実践的な語学力が向上します。
・「毎回授業内容表」は次のリンクから閲覧してください　https://x.gd/ROO6q

【テキスト（教科書）】
1. Radio France Internationale - RFI Savoirs https://savoirs.rfi.fr/fr
2. TV5Monde - Apprendre le français https://apprendre.tv5monde.com/fr
※フランス語圏の公共放送が提供し、無料、かつ全世界のフランス語学習者が用いている教材です。

【参考書】
仏和辞典。小学館ロベール仏和大辞典が法政大学図書館のオンラインデータベースに入っています。« JapanKnowledge » からご覧になってください。ただし、学外からの閲覧にはVPN接続が必要です。

【成績評価の方法と基準】
●1．期末試験、期末レポートはありません（0%）
●2．授業への毎週の参加（①）
●3．授業時間内の活動の積極性（②）※フランス語の学習歴に応じて、カテゴリーA、B、C、Dの３つに学生を分けており、カテゴリーごとに努力していただきたい方向性を下↓の数字（%）に示しています。
●4．到達目標の達成に向けた取り組み（③）時事フランス語関連の話題を提供したり、授業の内容を復習するための、かんたんな理解度チェックに解答したりした場合、加点されます。こうした取り組みをつうじて、少しずつ実力がついていきます。
●5．その他（100%の枠外で5〜20%程度の加点をします）
（ア）授業運営への協力（教員の説明の不備や設定ミスなどを指摘してくれた学生に加点しています）
（イ）実用フランス語技能検定試験（仏検）やDELFやTCFを受検したか、また合格したか（これらの検定試験を受検したり合格したりスコアを取得したりした場合、ぜひ教員まで申し出てください）
カテゴリーA ①50%,②30%,③20%
カテゴリーB ①40%,②30%,③30%
カテゴリーC ①33%,②33%,③34%
カテゴリーD ①50%,②30%,③20%
—-
※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情により対面授業に参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」をできるだけ早い時期に求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、代わりとなる課題に取り組んでいただきます。
※この科目が開講されている期間中に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部に連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。学生側の都合による欠席とは異なる、感染拡大防止のための出席停止として扱います。

【学生の意見等からの気づき】
・フランスに留学して、リスニング力や語彙（ごい）の不足を痛感したという声をよく耳にします。その一方で、リスニング力や語彙力を伸ばす目的で、TV5Monde や Radio France Internationale (RFI)を留学先で自習したという経験談も聞きます。TV5Monde や RFI は、日本でも視聴できますが、フランス語圏に詳しくない人が独りで学ぼうとしても、ニュースの内容がよく理解できない場合があります。この「時事フランス語Ⅱ」を履修すれば、ニュースや表現の解説を、あなたのフランス語発音に対する指導とともに、日本の環境で学ぶことができます。
・努力を続けるにはモチベーションが必要です。モチベーションを高めるには、じっさいに手の届きそうな目標をもつとよいでしょう。下記のリンク先にある資料が、目標やモチベーションについて考えるための、参考となればさいわいです　https://x.gd/kTKoR

【学生が準備すべき機器他】
音声ファイルやストリーミング動画をWifiのある環境で視聴したり、学習支援システム-HoppiiやGoogle Classroomを閲覧するために、タブレットやノートパソコン等の情報端末が必要です。

【その他の重要事項】
「時事フランス語」って怖いのかな、自分に向いているのかどうか…と迷っている方は、次のリンク先にあるプレイスメント・テストをお試し受験してみてください。問題文は英語とフランス語で書かれています。« Commencer » と書かれたボタンをクリックすると問題が表示されます。https://savoirs.rfi.fr/fr/apprendre-enseigner/langue-francaise/test-de-placement-a1/1
もし半分ぐらい正答できるようなら、この授業を履修するのにちょうど良いレベルではないかと思います。

【Outline (in English)】
[Outline and objectives]
This course aims to promote students' understanding of French society, politics, and news media. An emphasis is placed on oral communication and using specialized vocabulary. By participating in proposed activities, students will become familiar with French-speaking news websites.
[Goal]
The goals to be achieved differ according to the starting level of the student.
* Learning objective for false beginners and intermediate learners: the student will be able to acquire, at the end of the two semesters of "Jiji-Furansugo", a linguistic ability equivalent to level A2 of the European Framework of Reference for Languages or to Futsuken jun 2 kyû.
** Pedagogical goal for those who already have a more or less good command of the French language (learners at the higher level as well as French-speaking international students): the student will be able to formulate relevant comments that demonstrate a solid understanding of local and global issues covered by the French-speaking media.
[Method(s)]
In each class session, the teacher will suggest materials available on the Internet. Learners will be asked to identify the essential elements. To do so, they are allowed to consult books and dictionaries written in their respective first language (the "mother tongue"). However, all participants are expected to express themselves in French, and to contribute to the discussion on what is said in the material.
The language of instruction in the classroom is primarily French, while administrative information will be provided in Japanese via LMS and e-mail.
[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]
1) Try to make use of the learning materials yourself. The URLs for these materials are already listed in the Dashboard for Jiji-Furansugo.
2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the minimum time of preparation and review required to earn two credits for a lecture or seminar is four hours per session.
[References]
1. Nexis Unis (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
2. PressReader (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
3. Cairn.info (Hosei University Library - E Database : Overseas articles)
4. Encyclopædia Universalis (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias)
5. Shogakukan Robert Grand Dictionnaire Français-Japonais (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias - « JapanKnowledge »)
Note: Off-campus access to these databases requires a connection through a Virtual Private Network ("VPN"). See the Hosei Network System Service website for information on how to connect to the university VPN. URL https://netsys.hosei.ac.jp/
[Grading criteria]
Your final grade in this seminar will be decided on the following:
1. Quantity and quality of "summary comments" =50%

2. In-class activity participation and various contributions to the class =50%
[Equipment student needs to prepare]
A stable and unlimited internet connection as well as a personalized IT device such as a computer, tablet or smartphone are required. Two LMS platforms are used, of which (1) Google Classroom is mainly used to share documents and (2) learners can consult some notes on the Hoppii website. In case of remote courses, video conferencing systems such as Zoom or Google Meet will be used to ensure the educational continuity.
[Others]
1) If you are uncertain of your language level, try taking a "placement test" at the A1 level on the RFI website https://savoirs.rfi.fr/en/apprendre-enseigner/langue-fran%C3%A7aise/test-de-placement-a1/1 Enroll in this course if you can answer more than half of the questions correctly.
2) The above schedule is still subject to change.

法政大学
HOSEI University